SD 8508

THE NETHERLANDS

特集

モダニズム建築の王国オランダ

The Netherlands : Paradise of Modern Architecture

レム・コールハースの出現によって，いま急激に浮上する
オランダ建築の源泉とファンクショナリズムの流れを探る．

●

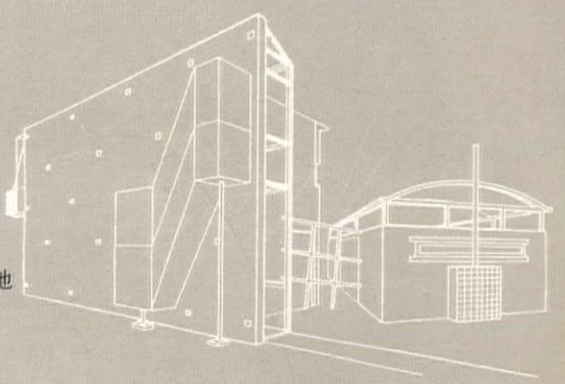
対談：
山口廣×槇文彦

作品：
ブリンクマン&ファン・デル・フルフト，J.ダウカー，
W.ファン・タイエン，デ・ステイル，A.ファン・アイク，
H.ヘルツベルハー，R.コールハース，K.ファン・フェルゼン，他

●

NICE SPACE：
海運ビル　宮木隆＋谷内田章夫

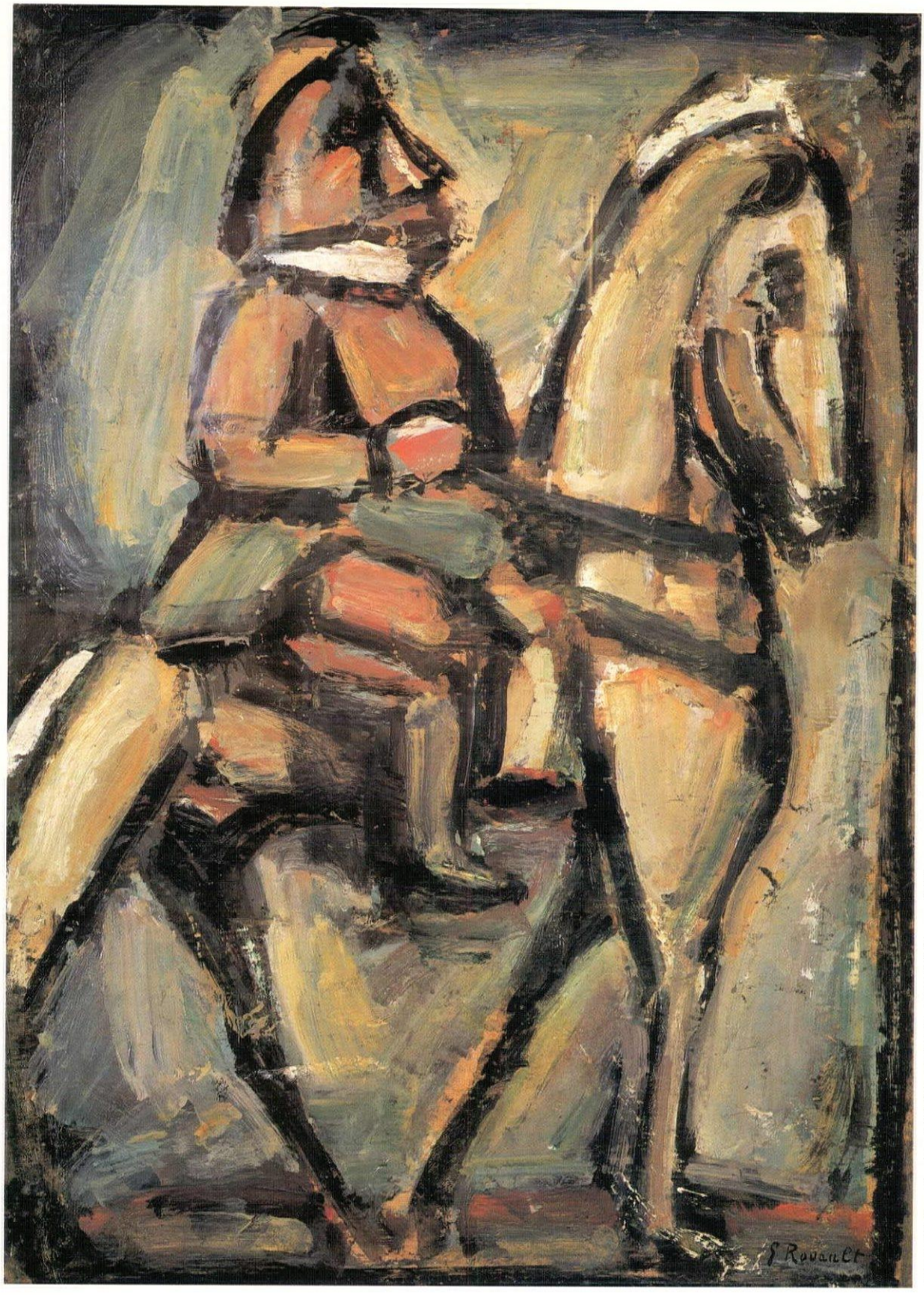
連載―フランク・ロイド・ライトの呪術の空間⑫



ISSN 0563-0991

スペースデザイン都市・建築・芸術の総合誌
第251号昭和60年8月1日発行毎月1回1日発行
昭和40年2月5日第3種郵便物認可
昭和59年10月9日国鉄首都特別扱承認雑誌第7825号





ルオー　馬に乗ったユビュ親父　74・5×55

名品展

8/1—24　TOKYO　9/2—14　OSAKA

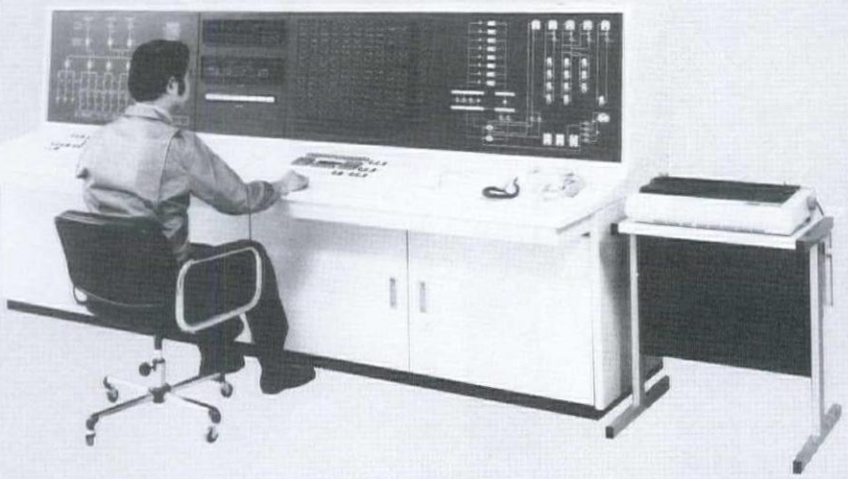
A.M.10：00～P.M.7：00　日曜休廊　　A.M.10：00～P.M.7：00　日曜休廊

ギャルリー ためなが

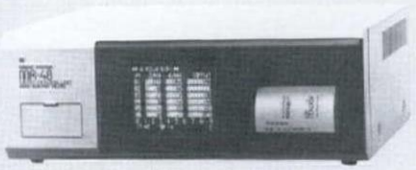
東京　東京都中央区銀座7—5—4　TEL(03)573-5368
大阪　大阪市東区道修町4—7　TEL(06)202-3434
パリ　18Av MATIGNON 8e PARIS FRANCE TEL.266-61・94

OSAKI

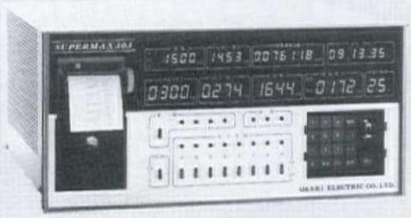
使い易さは能率を
デザインの良さは安らぎを与えます



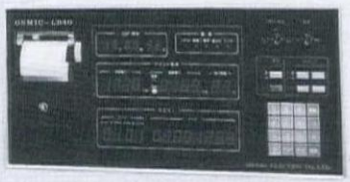
監視制御盤



・SC—16
・MR—48
・オスレック4800



・スーパーマックス303



・LD40

ユーザーのニーズに応え、SC—16(スケジュールコントローラ)、MR—48(集中検針ユニット)、オスレック4800(多回路記録装置)、スーパーマックス303(デマンドコントロール装置)、LD40(データロガ)とシステムを指向し、操作性、機能性を重視した〝監視制御〟の充実に明日も努力しております。

エネルギーの計測・制御

大崎電氣工業株式會社

本　社　〒141　東京都品川区東五反田2—2—7　☎03(443)7171
営業所　札　幌　〒060　札幌市中央区南三条西3—10　三信ビル　☎011(251)6622
　　仙　台　〒980　仙台市本町2—5—1　オーク仙台ビル　☎0222(23)3747
　　大　阪　〒531　大阪市大淀区豊崎3—20—9　三栄ビル　☎06(373)2556
　　広　島　〒730　広島市中区小町2—26　はなおかビル　☎082(243)1611

技術にこころをこめて75年

HITACHI



知能は鋭敏
動きは柔軟

先進16ビットマイコン搭載。
知能群管理エレベーター
(CIP-52000)新登場。

待ち時間の少ない経済性・信頼性にすぐれた効率のよいエレベーター……このテーマにチャレンジしつづける日立が自信をもっておすすめする知能群管理エレベーター(CIP-52000)。この知能群管理エレベーターは、従来の群管理制御系に加えて、新たに「学習機能系」と「知能系」として、それぞれ16ビットマイコンを搭載。群管理プログラムの自動修正を可能としたものです。すなわち、ビルの個性(用途・立地条件など)、季節、曜日などによって変わるあらゆる利用状況の変化に、自ら適応していく能力を持っています。いわば、自ら「考え、そして成長する」能力を備えたオフィス、ホテルの機能をグンとアップします。

知能群管理(CIP-52000)の特長

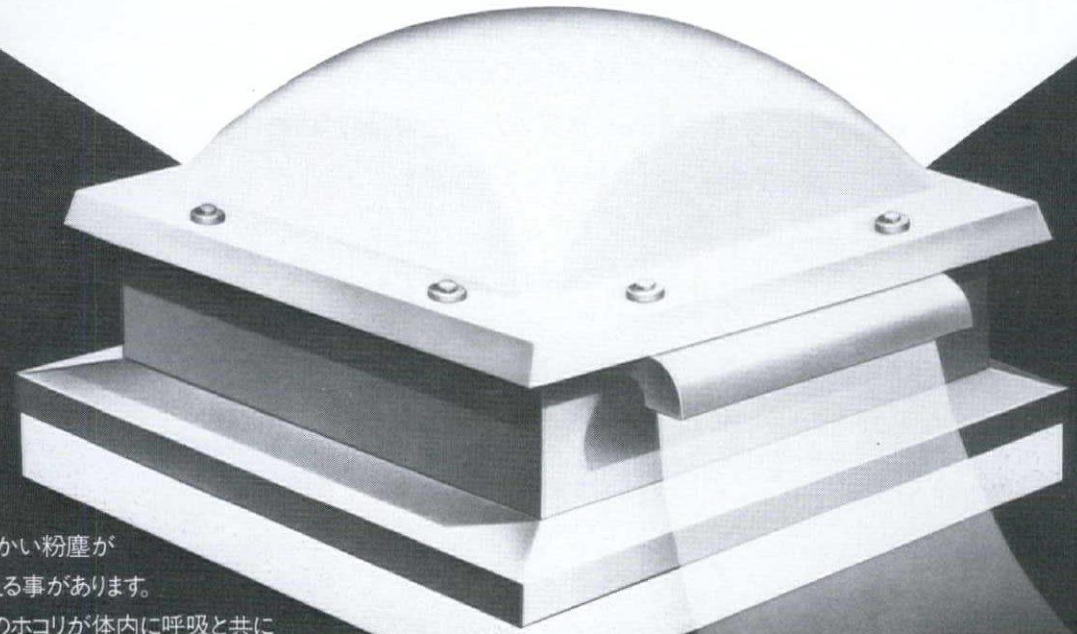
- 変化する利用状況に的確に対応します。
- 混雑も未然に防止できます。
- 特別行事に対してもあらかじめ行事予約ができます。
- 知らず知らずのうちに効率的に節電できます。
- 予約精度を99%以上に高めました。
- 戸の開閉時間を状況に合せ自動調整し無駄をなくします。
- 稼動状況のモニターも可能です。

日立知能群管理エレベーター(CIP-52000)

株式會社 日立製作所

お問い合わせは機電事業本部/営業本部 〒101 東京都千代田区神田駿河台4-6 電話 東京(03)258-1111〈大代〉または最寄りの支店へ 大阪(06)261-1111・福岡(092)741-5831・名古屋(052)251-3111・札幌(011)261-3131・仙台(0222)23-0121・富山(0764)33-8511・広島(082)223-4111・高松(0878)31-2111

朝日を通すと空中のホコリが良くみえる



電燈光では
見えない空中の細かい粉塵が
自然光では良く見える事があります。
目に見えない微粒のホコリが体内に呼吸と共に
入るのは恐ろしい事です。生活や仕事の場から
少しでもホコリを追放、しかも自然光をふんだんに取りいれられる
〔カマクラ・ライトファン〕 設計プランにぜひお加えください。

特徴

採光設計がグンと楽

都市における住宅では、周囲が立て込んでくると採光が困難。こんな時、天井採光なら日照は永遠、しかも窓採光の3倍も効率がアップ。

照明電力が節約

ライトファンなら朝から夜迄電燈いらず。明るさに加えて熱伝導率はガラスの1/5で冷暖房代の大幅な節約をお約束。

施工も簡単、コストもダウン

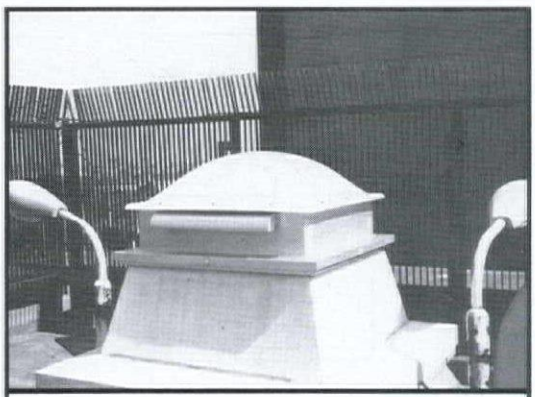
ライトファンは、屋根の形態を選びません。本体、フレーム、取付用部品がセットになっているので、施工も簡単、工事費も安上がりです。

軽さに自信

ライトファンはアルミニウム枠とアクリル樹脂で構成、軽さを要求される屋根にまったく負担をかけません。

強靱さ抜群、危険度ゼロ

ドーム本体はアクリル製、普通ガラスの15倍の対衝撃性。風速60m/secの台風や3m以上の積雪にも充分に耐えられます。





雨じまいは完璧

ドーム本体とフレームのジョイント設計で雨じまいは完璧。内部結露の滴下を防ぐ構造設計です。

取りつけフレームの材質

外枠は、すべてアルミニウム製、対候性に優れ、長期使用に耐える堅牢タイプです。

熱遮断に効果的

アクリルドーム本体のアクリル樹脂は、可視光線を良く通す反面、赤外線のカット性能があり、家具を傷めたりする事がありません。

対候性にご注目

アクリル性のドームは、他のプラスチック材料に比較しても、対候性に優れ長期使用に対し褪色、黄変、劣化が無く酷暑や厳寒に充分耐えます。

紫外線カットも可能

紫外線を大幅にカット出来るグレードを用意しました。繊維品や食品、美術館などに特注品としてご用命ください。

ライトファンの特長

明るさに加えて強制換気をプラス。煙草の煙や目に見えないホコリを屋外に排気します。換気量は2段調節。結露防止の2重構造も用意しました。

ライトファン姉妹品

ファン型(LF) 採光と健康排気の普及型
標準型(LS) 採光のみの一般型
ペア型(LS-W) 熱損失、結露防止型
ベンチレーター型(LV) 自然換気型
連続型(LC) 大型建築物用採光型
排煙型(LH) 非常時排煙開閉型
ホーム型/一般住宅用採光型
5WAYハッチ(GF) 採光、自然換気、強制換気、排煙、遮光の5大機能型
採光型スモークハッチ(SH-G)多目的屋上排煙型

カマクラ
ライトドーム
株式会社 鎌倉製作所

本社：東京都港区北青山2-7-11〒107 ☎03(403)4311
●大阪支店：06(768)0345 ●名古屋支店：052(733)2811
●広島支店：082(291)4771 ●福岡支店：092(441)6460
●仙台支店：0222(57)0319 ●富山支店：0764(91)2231
●小山支店：0285(23)7847 ●電話はすべて代表番号です。

ソルエア ヒートポンプ システム

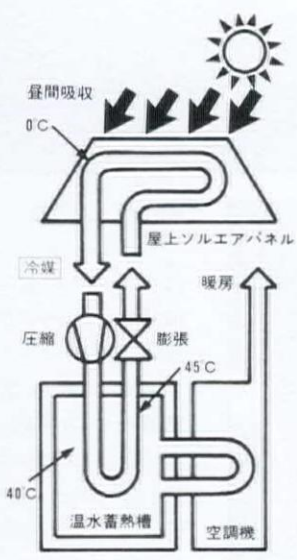
さらに太陽熱利用が一歩進みました

'82省エネルギー優秀製品賞受賞

ソルエアヒートポンプは、太陽熱の得られない日(雨、曇、雪)でも外気から集熱することができるソルエアパネルと、夜間放熱で氷を造る氷蓄熱システムなど有機的に結びつけた、太陽・空気熱源ヒートポンプ方式の画期的な省エネルギー型冷暖房システムです。

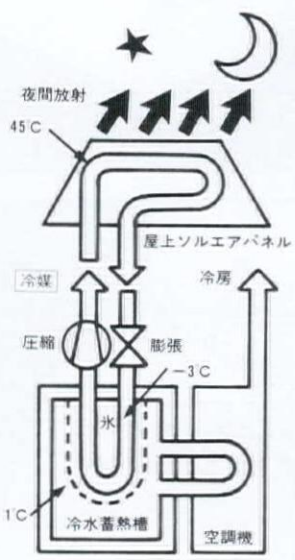
暖房時〔冬〕

暖房時のソルエア ヒートポンプシステムは太陽熱と空気熱を吸収して、自然エネルギーを建物内へ導き入れます。

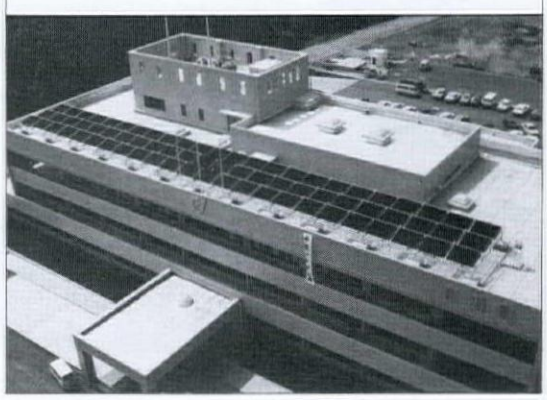


冷房時〔夏〕

冷房時のソルエア ヒートポンプシステムは、昼間の電力消費のピークを避けて、夜間に放射冷却を利用して屋外へ放熱します。

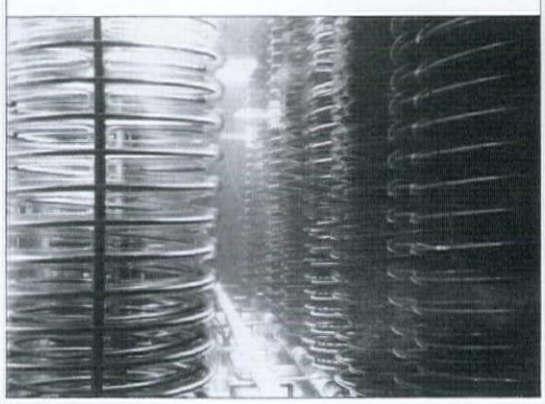


建物屋上　ソルエアパネル(太陽熱集熱器)



アイスバンク(氷蓄熱槽)

夏期に蓄熱槽内氷を生成して冷熱を貯えます。
これにより蓄熱槽スペースを大巾に小さくすることができます。
また電力のピークシフトによって、夜間電力の利用が図れます。



■ソルエア ヒートポンプシステムの特徴

- ●省エネルギー　太陽熱空気熱を有効に利用し、大巾に化石燃料を節約します。
- ●環境保全　全電気方式ですから環境を汚すことなく屋外騒音もありません。
- ●経済的　従来のソーラーシステムより設備費がかからず、高効率の運転が可能です。
- ●広い適用性　太陽燃の得られない気象条件下や夜間でも集放熱することができ、寒冷地での使用も実証されました。
(補助熱源は不要です)

■実績

- ●鹿島建設四国支店ビル 高松市(1981)
- ●有明町庁舎 鹿児島県(1983)
- ●葉山村庁舎 高知県(1984)
- ●志木ニュータウン駅前総合ビル 埼玉県(1983)
- ●鳴戸警察署庁舎 徳島県(1983)
- ●ひまわりビル 東京都港区(1983)



デミング賞
<実施賞>受賞企業

鹿島建設
KAJIMA CORPORATION

本社:〒107 東京都港区元赤坂1-2-7 お問合せ先 建築技術部(03)404-3311

伝統を踏む

暗闇の静寂に一転白が躍る
その足が 伝統の床材ロンリウムを力強く踏み締めます
鍛え抜かれた芸 それが伝統を支えています
長尺塩ビシートの宗家としての伝統と技術が
千変万化の空間を造り出します



ロンリウム®
ロンリウムマーブルNo. 3

住みやすい空間づくりが私たちの仕事です
ロンシール

東京営業所—東京都千代田区神田松永町13川口ビル ☎03(253)4941代／支店—大阪☎06(304)2700 ／出張所—札幌☎011(531)2602・青森☎0177(77)1155・仙台☎0222(88)8501・新潟☎0252(43)3791・大宮☎0486(45)1511・横浜☎045(662)7370・金沢☎0762(44)5871・名古屋☎052(935)7063・岡山☎0869(26)4321・広島☎082(249)3600・高松☎0878(31)4177・福岡☎092(472)5857 事務所—静岡☎0542(51)3712・鹿児島☎0992(58)6571★詳しい資料はご記載ご連絡下さい。



石の心と樹々の精に，

新たなる生命を語らう，自然の造形

岩城造園株式会社

取締役会長　岩城亘太郎

取締役社長　岩城庄次郎

東京都世田谷区深沢8丁目9番12号 TEL(03)703-1311

kembo meubelfabrieken;holland







軽さと機能の調和――ドルマス・チェア

ケンボー／ドルマスチェア

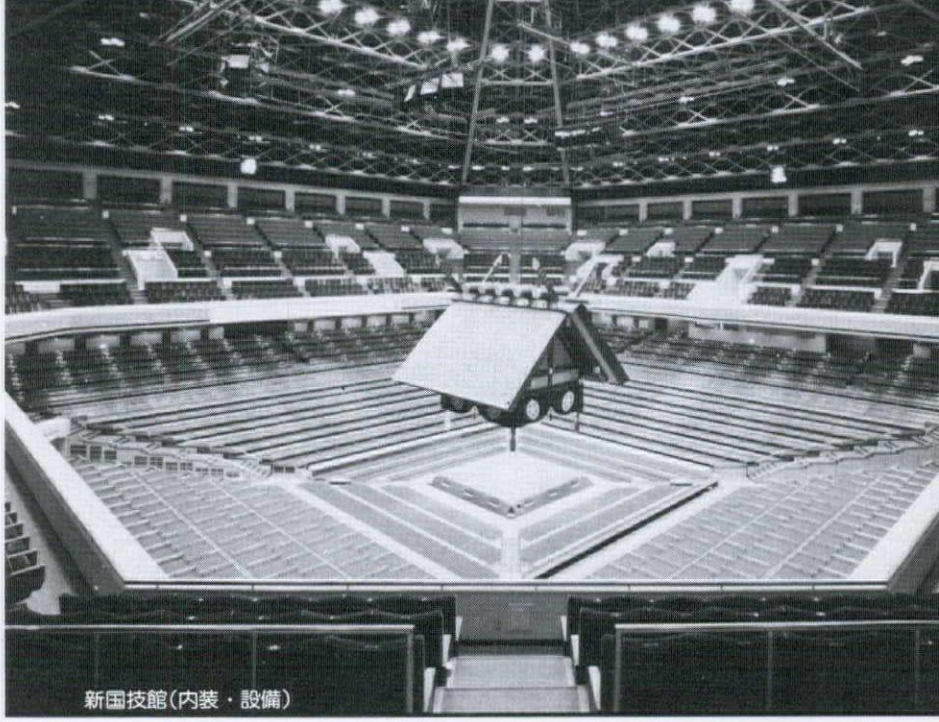
フレーム：ブナ材ラミネートウレタン塗装
シェル　：ポリプロピレン成形仕上

フレーム・ナチュラル　アームレス￥18,000　アーム付￥21,000
フレーム・グレー　　アームレス￥19,000　アーム付￥23,000

mobilia

モビリア　株式会社
東京都港区麻布台2-3-5 〒106　☎03-582-3341
大阪市東区安土町2-30 大阪国際ビル 〒541　☎06-261-9951
名古屋市中区丸ノ内2-20-19 名古屋東京海上ビル 〒460　☎052-221-6393





新国技館(内装・設備)



赤坂プリンスホテル レストランブルーガーデニア(内装)

営業種目

○建設資材

鉄鋼及び加工製品・鉄鋼仮設材・一般仮設材・セメント・生コン・コンクリート二次製品・防水養生剤・内外装材etcの販売及び賃貸

○建設工事

鋼管杭・H形鋼・シートパイル・PCパイル各種打込工事・現場造成杭工事・ウェルポイント薬液注入工事・内外装仕上工事・サッシ・シャッター工事・パーティション工事・耐火被覆工事・断熱吸音工事・ALC材工事・スパンクリート工事・インターロッキングブロック工事・外壁調査及び改修工事etcの施工

○建設機械・工具

測量機器・ブルドーザー・掘削機械・積込機器・基礎工事用機械・クレーン・リフト・せん孔機械及びトンネル掘進機・締固め機械・骨材生産機械・コンクリート機械・空気圧縮機・送風機・ポンプ・原動機・完成部品及び特殊機械器具etcの販売及び賃貸
スリップ・トルクコンベヤ及びスィンガー(米国シャトルワース社提携)の販売

○設備機器・工事

空調設備機器・給排設備機器・電気設備機器・昇降機エスカレーター工事・駐車設備工事・ゴンドラ設備工事・厨房設備工事・ユニットバス、キッチンユニット、洗面化粧台工事・防災設備工事・水処理設備工事etcの販売及び施工

○輸出入業務

大理石・御影石・磁器タイル・合板型枠・機械工具類その他各種建設資機材の輸出入業務の取扱い及び施工

○インテリア

家具・応接セット・スチール棚・保管庫・移動書庫・ロッカー・各種施設用品etc

○一級建築士事務所

計画・基本設計・実施設計・工事管理・構造物のチェックと対策etc

あらゆるニーズにお応えできる建設の総合商社

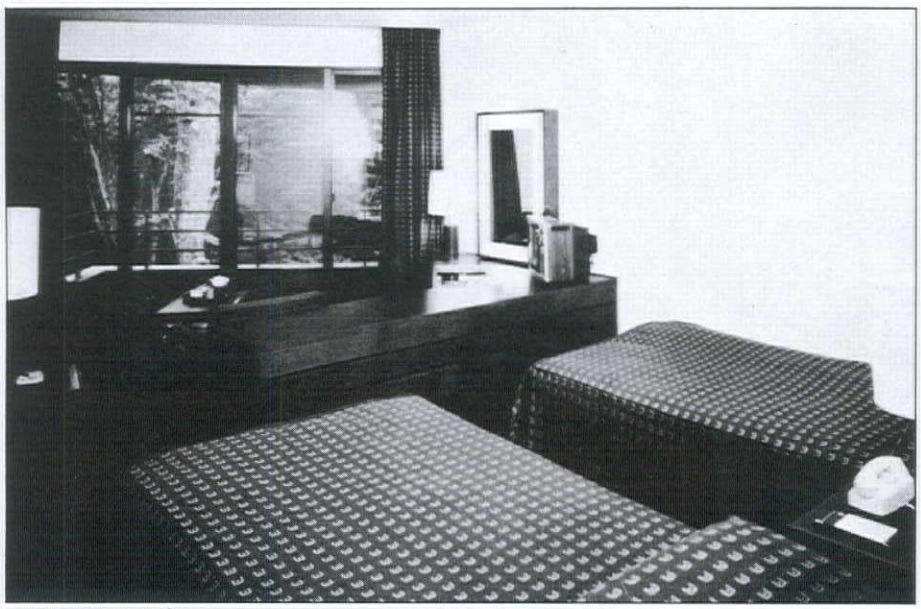
大興物産株式会社

会長　渥美健夫　　社長　柴田銀造

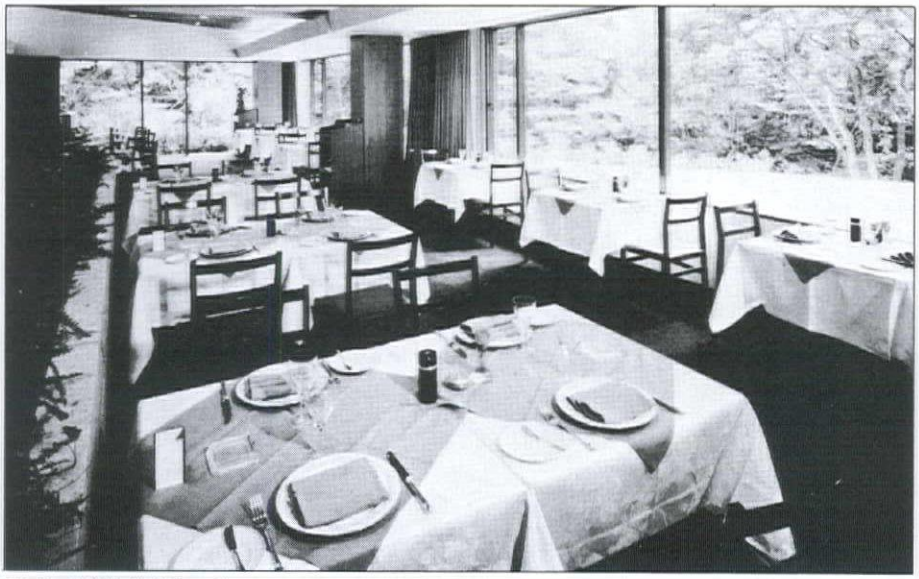
本　社　〒107 東京都港区元赤坂1―6―4　安全ビル7・8F ☎(03) 423―2511
札　幌　〒060 札幌市中央区北三条西3-1-4　北三条三井ビル ☎(011)231-6481～2
仙　台　〒980 仙台市二日町1―27　鹿島建設ビル ☎(0222)61-4141～4
東　京　〒107 東京都港区元赤坂1―6―4　安全ビル7F ☎(03) 423―2511
横　浜　〒231 横浜市中区弁天通り6―79　ハリマヤビル ☎(045) 212―3925
北　陸　〒950 新潟市万代1―3―4　鹿島建設ビル ☎(0252)47-2286～7
名古屋　〒450 名古屋市中村区名駅南1-24-21 名古屋三井ビル別館 ☎(052) 551―2131
大　阪　〒540 大阪市東区谷町5―27上町ビル ☎(06) 762―5661
広　島　〒730 広島市中区中町6―13鹿島建設ビル ☎(082)249―9221
高　松　〒760 高松市亀井町1―3鹿島建設ビル ☎(0878) 39―3191
福　岡　〒812 福岡市博多区博多駅前3-12-10 鹿島建設ビル ☎(092)441-2624～5

軽井沢

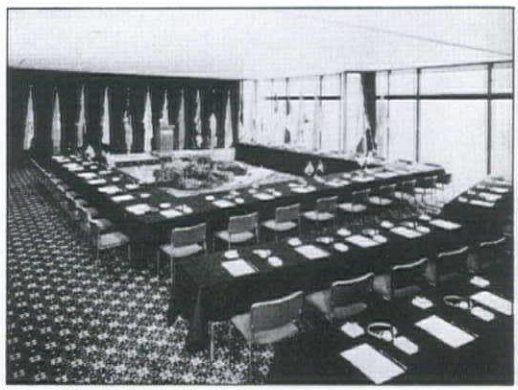
HOTEL KAJIMA NO MORI



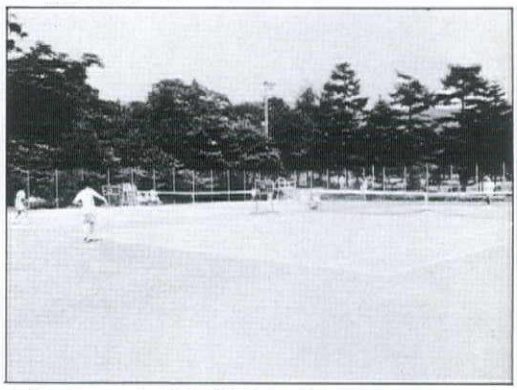
▲デラックスツイン



▲コンチネンタルルーム



▲ 鹿島ノ森ホール



▲テニスコート（全天候型コート）



▲ゴルフクラブ（60年の伝統を誇る旧軽井沢ゴルフクラブ）

Seminar & Golf・Tennis

〈鹿島ノ森ホール〉 ■セミナー：108人、16㎜映画映写装置、2ヶ国語同時通訳 ■結婚式：教会・神式、ご披露宴 ■展示会場 ■パーティー会場

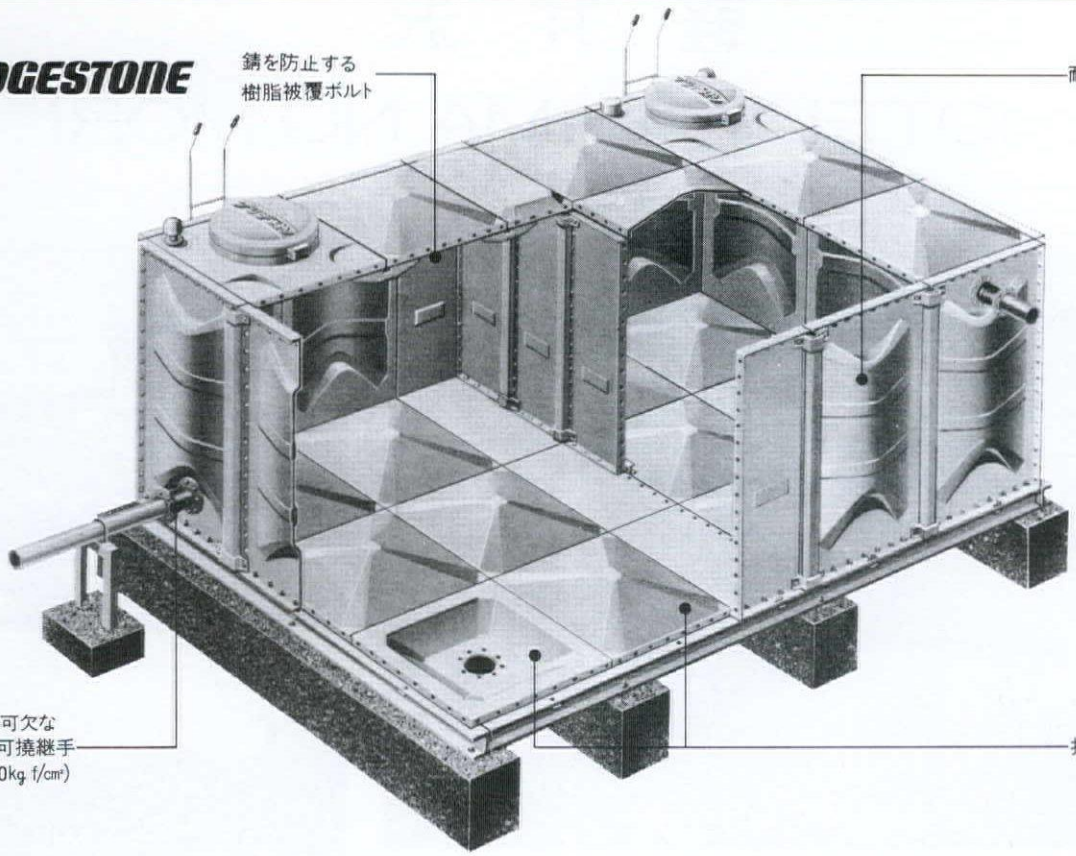
《鹿島建設グループ》

株式会社 ホテル 鹿島ノ森

ホテル オークラ チェーン

● ご予約・お問い合せ：**ホテル鹿島ノ森予約係** ☎03-478-6220 現地 ☎02674-2-3535㈹ TELEX 3328676

BRIDGESTONE



内部補強を不要にした耐震型FRPパネル水槽"スーパーウォータータンクE型"誕生。最新のコンピューター技術から生まれた大型パネル(1㍍×2㍍)の採用で、耐震性を確保し、清掃・保守点検が一段とラクな構造になりました。

■飲料水槽にかかわる法規制をすべてクリアー。

毎日の生活に欠かすことのできない水。この水をきれいなまま定安してお届けしているのが、ビルやマンションの飲料水槽です。この重要な役割を担っている水槽には、さまざまな法規制が課せられています。なかでも最も重要なことは、貯めた水を衛生的に皆様にお届けすること。1983年4月1日から施行された厚生省告示194号(定期的に貯水槽を点検し維持管理に努めなければならない)は、まさにこの衛生性の向上を目的としたものです。また、すでに施行されている建築基準法129条(地震に対し安全上支障のない構造とすること)や建設省告示1674号(給水タンク内部の保守点検を容易に行うことができる構造とすること)も水槽の安全性を重視した構造面からの規制となっています。

"スーパーウォータータンクE型"は、これらの法規制をすべてクリアー。ブリヂストンがまたひとつ、パネル水槽を理想のカタチに近づけました。

■水槽の衛生性を徹底的に追求。内部補強を不要にすると共に、水槽内部の防錆処理にも十分に配慮しました。

従来のパネル水槽は、内部補強により強度を確保していたため、衛生性の維持管理に必要な保守点検がしにくい構造となっていました。このため、衛生性をより容易に確保するためには、内部補強を取り除くと同時に水槽としての強度も保持するという相反する命題を克服しなければなりません。ブリヂストンは、有限要素法によるコンピューター技術を駆使して大型パネルを開発し、この問題を解決しました。また同時に、水質確保のため気相部には樹脂被覆ボルトを全面的に採用。水槽内部の他の金属部品もすべてコーティングするなど、金属の錆からくる水の汚れを防止し、いっそう衛生性を向上させました。従来の耐震型パネル水槽"スーパーウォータータンク"にも備わっている排水性の良い底壁構造に加え、さらに揺るぎない衛生性を実現した"スーパーウォータータンクE型"。"ブリヂストンだから"可能になったパネル水槽です。

"スーパーウォータータンクE型"製品仕様		
標準サイズ	高さ	1m、1.5m、2m
	縦×横	1m×1m～5m×5m
耐震仕様	水平震度	2/3G、1.0G、1.5G
保温仕様	単板型、保温型	
用途	飲料水槽、海水槽	

耐震タンクは、衛生性で選ぶ時代。

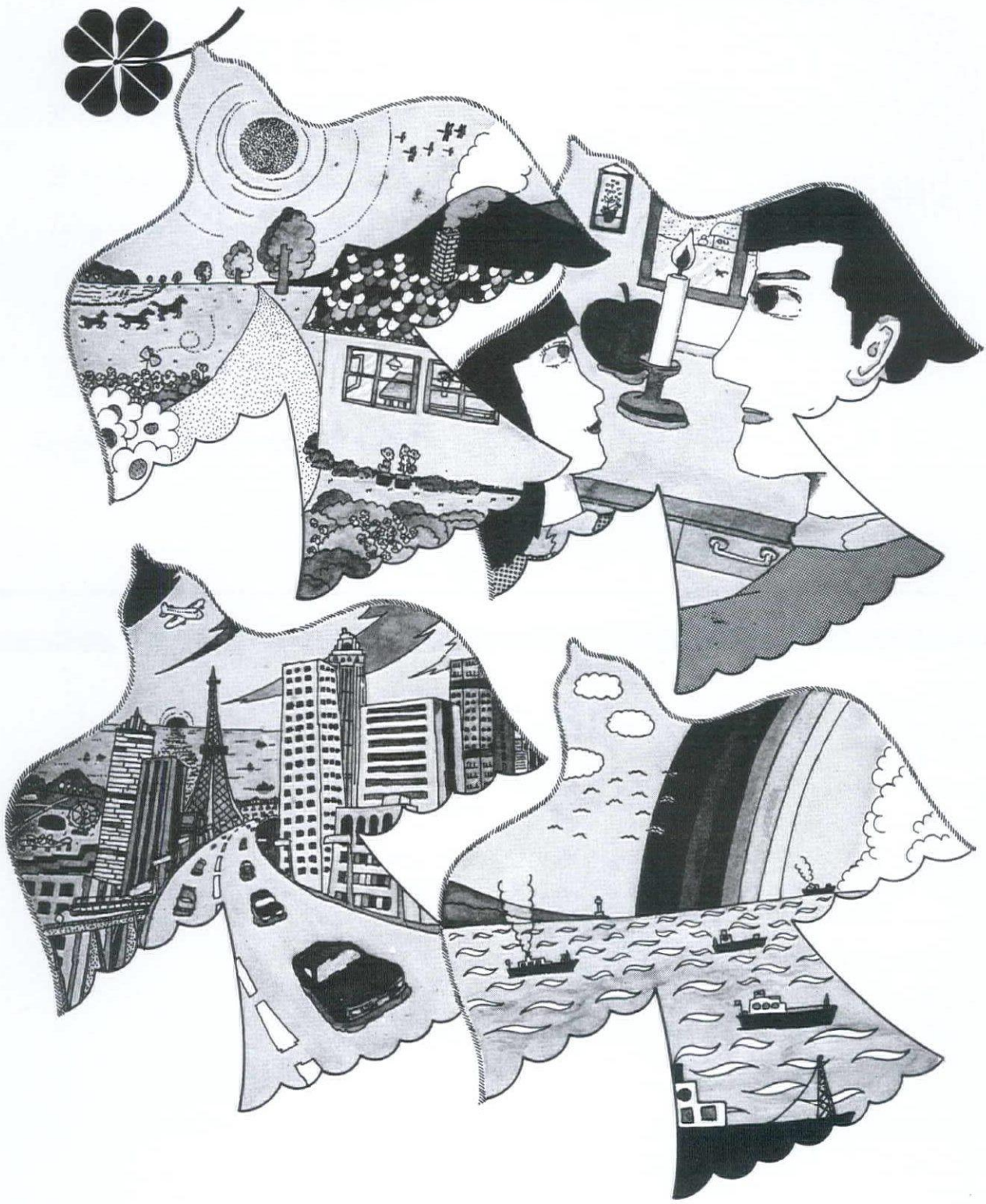
ブリヂストンは、皆様の健康保持や地震時の飲料水を確保するためにも、古い貯水槽を**"スーパーウォータータンクE型"**にお取替えすることをおすすめします。

FRP CON-EX'84
建設大臣賞受賞
(社)強化プラスチック協会 1984年10月

スーパーウォータータンクE型

お問い合わせは――株式会社 ブリヂストン 建築用品販売第2課 東京都中央区京橋1-10-1 〒104 TEL.03-567-0111(大代)

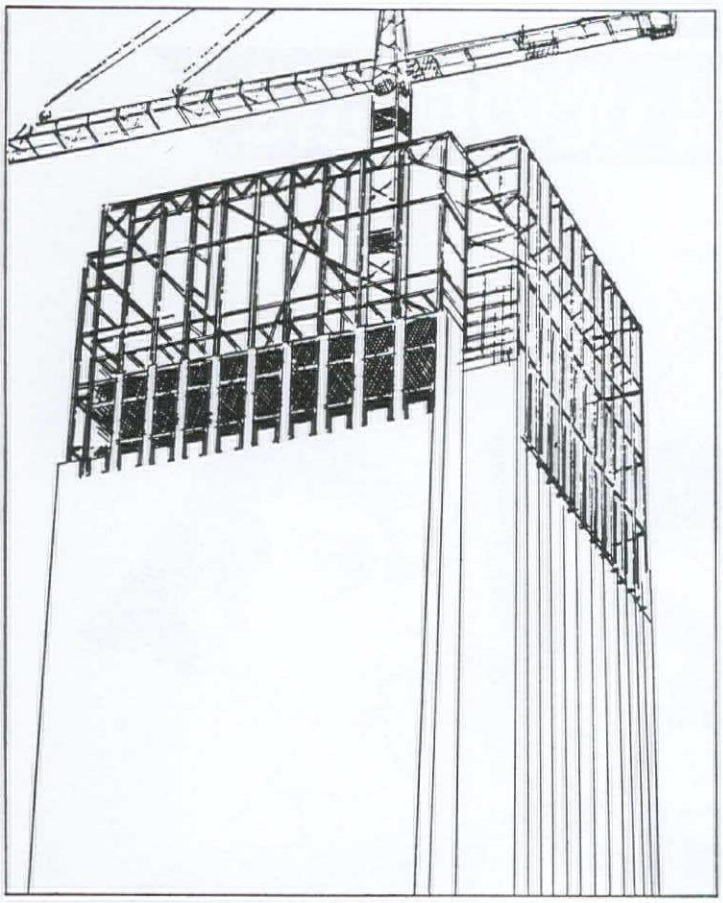
豊かな人間生活と
明かるい光の創造に



中立電気株式会社

取締役社長　斎　藤　　勲

本　　社　〒160 東京都新宿区新宿1丁目13番12号　☎東京(356)2511㈹
山梨支店　〒403 富士吉田市下吉田町2005番地　☎吉田(0555)(2)3258㈹
大月出張所　〒401 大月市大月町2丁目10番地14号　☎大月(05542)(2)1013
笛吹川事務所　〒405 山梨市小原西1118番　☎山梨(05532)(2)6651



耐火・断熱・防音

リンペット 石綿吹付
リフライト 石綿板
リフボード ケイカル板
バルカロック 岩綿吹付
バルカウエット 湿式吹付

VALQUA

日本バルカー工業株式會社

工事部　東京都千代田区神田錦町3-13-7(名古路ビル本館)　03-294-1991㈹
大阪営業部　大阪市西区江戸堀3－88(旭ケミカルスビル)　06-448-3861㈹
九州出張所　北九州市小倉区米町2－2－1(新小倉ビル別館)　093-531-6088㈹
本社　東京都千代田区丸ノ内3－3－1(新東京ビル)　03-212-8571㈹

中電工

技術と真心で明るい社会を築く

●**電気工事**
電灯・動力工事，有線テレビ・無線通信・構内交換電話工事，
火災報知・消防設備工事，プラント工事，発変電・送配電工事

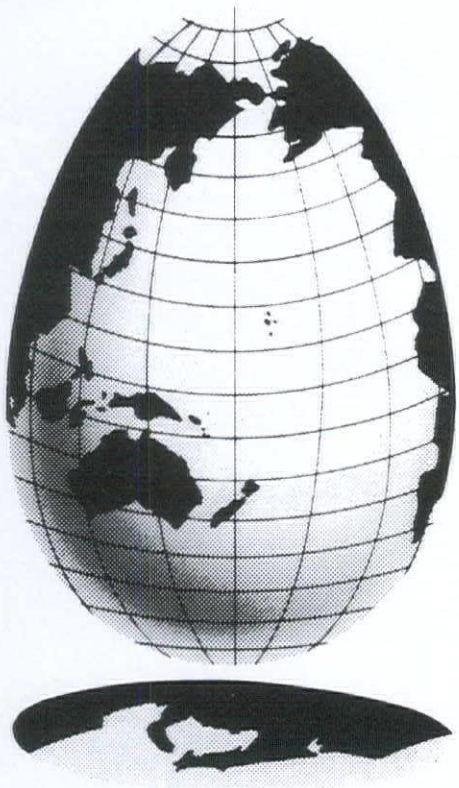
●**管工事**
給排水・衛生設備工事，上水道・流域下水道・公害防止装置工事

●**空調工事**
空気調和・冷暖房工事

中国電気工事株式会社

本店　広島市西区上天満町1番15号　TEL(082)291－7411

明日を生み出す東海電工。



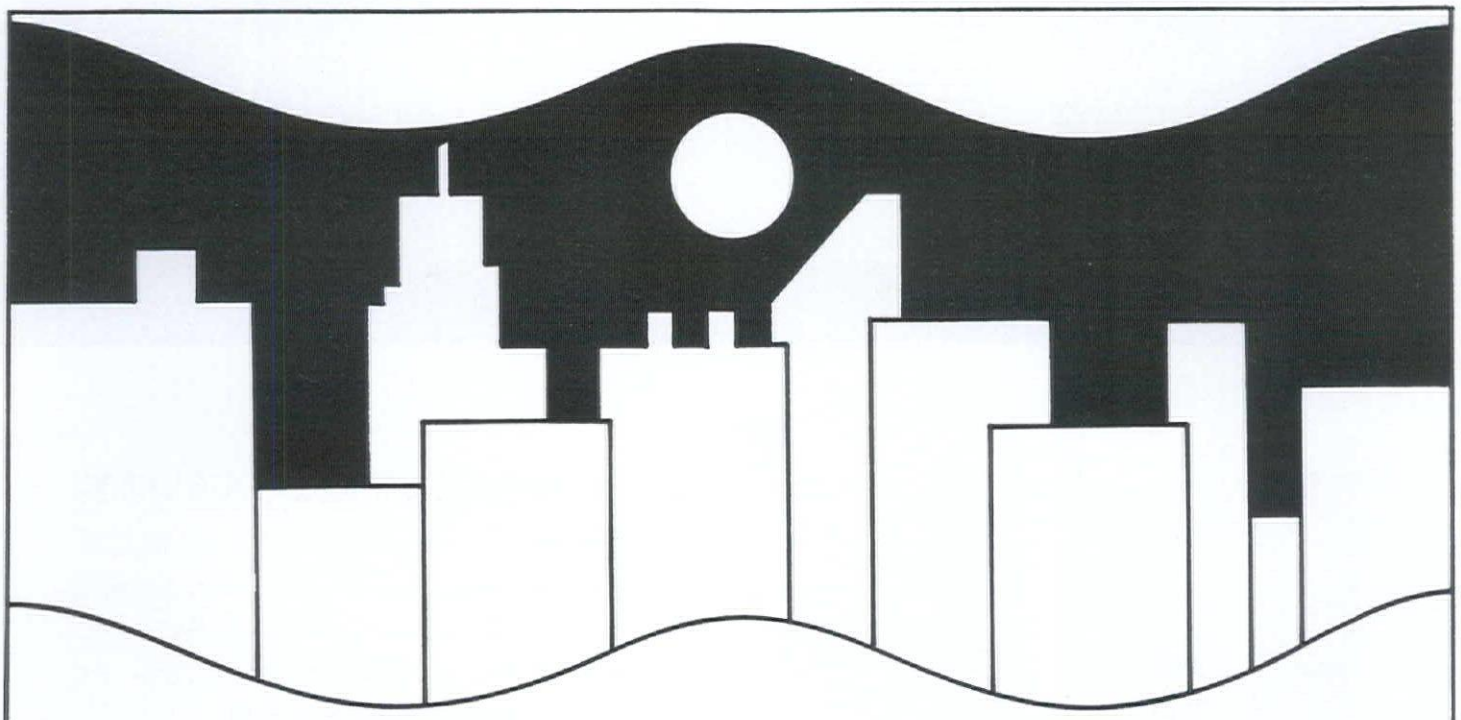
東海電気工事は「安全と責任ある工事」を信条として豊富な経験と高度な技術をもって電気設備工事全般から冷暖房工事、計装防災工事に至るまで総合設備工事業者として社会発展のため貢献いたしております。

東海電気工事株式会社

取締役社長　井上丈太郎

本社／名古屋市中区栄1-20-31 〒460 ☎〈052〉221-1111

支社／名古屋・岡崎・静岡・津・岐阜・長野・飯田・東京・大阪



HEATING
REFRIGERATING
VENTILATING &
AIR CONDITIONING

未来をひらく技と心

五建工業

東京都千代田区内神田一丁目16－3

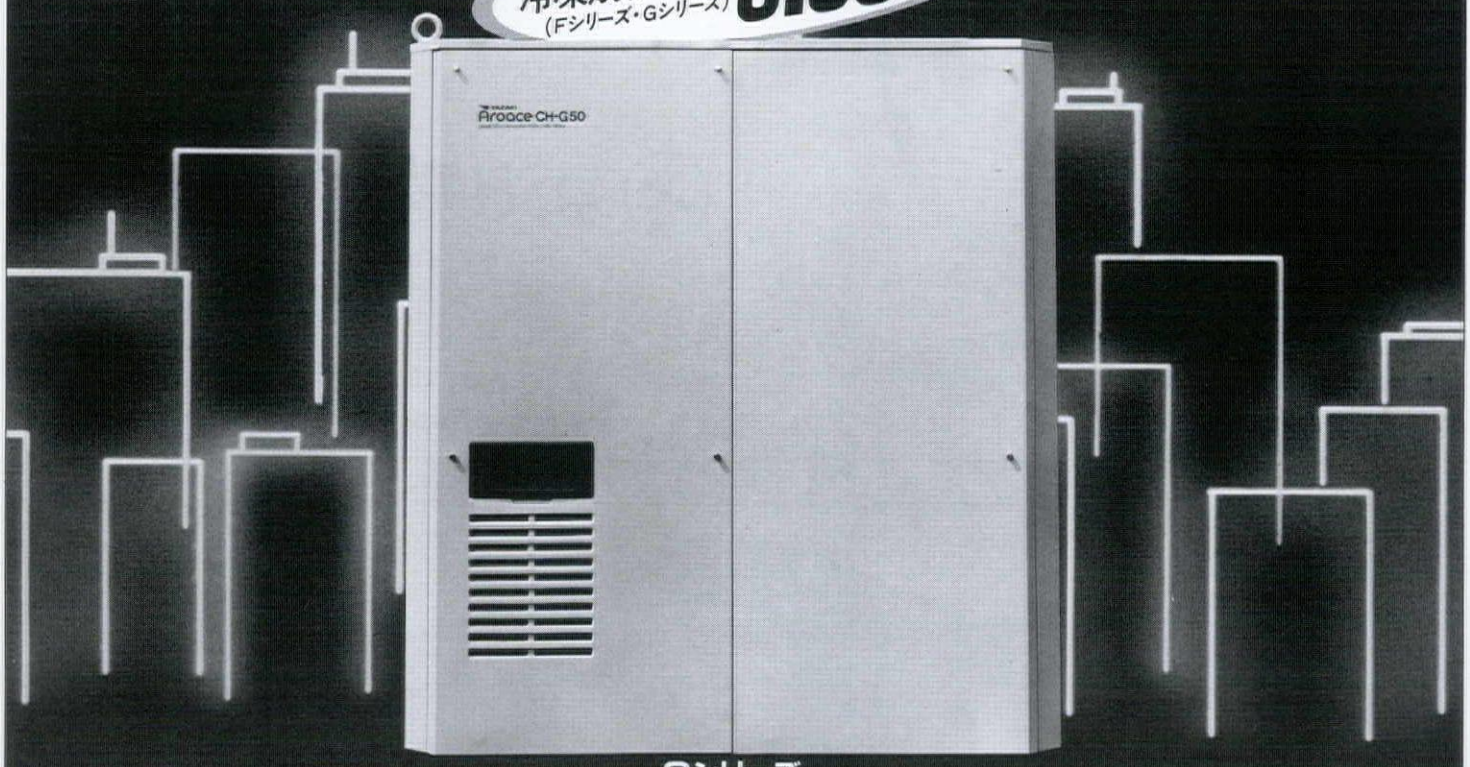
電話　東京03(292)3201(代表)

東京・札幌・大阪・仙台・茨城・埼玉・四国・釧路・旭川・帯広・広島・福岡

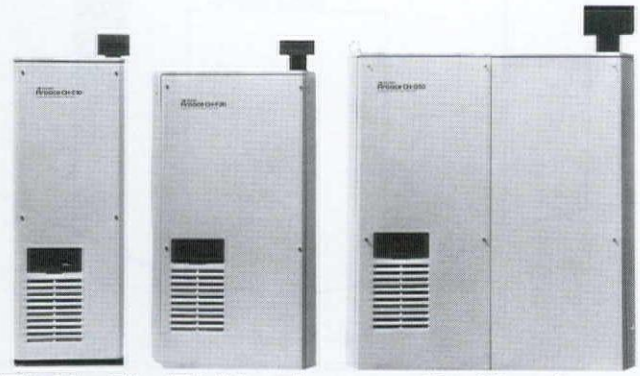
創エネルギー
YAZAKI

ビルの冷暖房は
マイコン空調へ、NEWアロエース。

冷凍成績係数 0.95
(Fシリーズ・Gシリーズ)



Gシリーズ



Eシリーズ (7.5～20RT)　Fシリーズ (15～40RT)　Gシリーズ (30～150RT)

この4つの特長が、話題を呼んでいます。

①吸収冷温水機として、世界で初めてマイコンを採用。②重量で35%、設置面積で35%もスリムに(Fシリーズ)。③矢崎独自の自動冷媒比例制御方式で、さらに省エネ(F・Gシリーズ)。④消費電力を大巾に減少。アロエースは常に先んじています。

二重効用形吸収冷温水機

NEW アロエース

矢崎総業株式会社

本　社：〒108東京都港区三田1-4-28三田国際ビル17F☎03(455)8812
エネルギー機器事業部：〒435静岡県浜松市子安町1370☎0534(61)5111

「NEWアロエース」のお問合わせは

札幌支社 ☎011(852)2914
仙台支社 ☎0222(84)9115
東京支社 ☎03(767)4782
名古屋支社 ☎052(833)8415
大阪支社 ☎06(458)4825
北越支社 ☎0764(41)6516
中国支社 ☎0829(23)2115
四国支社 ☎0878(33)3336
九州支社 ☎092(411)4835

SD (Space Design)
Back Issues and Price Lists
Price includes seamail postage fee.

SD Space Design

Kajima Institute Publishing, Co., Ltd.
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107 JAPAN

"SD" (Space Design) made its debut in 1965 as a comprehensive monthly magazine on architecture, urban problems and fine arts which was unique in the world and led the modern design. Since then "SD" has been highly praised by many people in every quarter of society and now established an unshakable standing in the fields of architecture and design.
It seems to be attributed to overwhelming support of the wide-ranged readers who strongly sympathize with the magazine's original policy and novel editing — a posture to pursue untiringly and comprehensively the design problems of now-a-days demanded by the age of dynamic urbanization.
"SD" tries to advance further by making its articles richer in contents which focus their attention on the methodological, technological and aesthetic themes of modern architecture, city and fine arts.
The text of "SD" is in Japanese but carries summary in English of some feature articles, too.

Overseas Subscription

○ Selected back issue

8401 Arata Isozaki 1976-1984 Sold out
23 works including Tsukuba Center Bldg. by Isozaki, with notes by the architect. Full English texts.

8402 The Arts and Crafts Movement and Late Nineteenth Century British Architecture ¥2500

8403 Two Pillars of German Industrial Design : D. Rams and F.A. Porsche ¥2500

8404 Gardens : Wonderland of Contrivance and Illusion ¥4300
All the major gardens in Europe and U.S.A. English texts.

8405 L.A. Modernism ¥2500
Including the interview with E. McCoy. English text.

8406 The Artist Le Corbusier : Lithographs and Etchings ; Columbus, Indiana : Museum of Modern American Architecture ¥2500

8407 Art Nouveau : Capturing the Magic in Dim Space Sold out
All the major Art Nouveau architectures in Europe. Photographs by Keiichi Tahara, 116 pages including 48 color pages.

8408 Mario Botta ¥2500

8409 Hisao Kōyama : The Three Books of Architecture ¥2500
Hisao Kōyama's Composition Book introducing his works. English text.

8410 James Stirling : New State Gallery Stuttgart ; Robert Venturi : Venturi Collection of Knoll International ¥2800
English texts by James Stirling and Robert Venturi.

8411 Achille Castiglioni ¥2500
Recent Projects by Kohn Pederson Fox Associates.

8412 "SD Review, 1984" ¥2500
18 regular entries, 1 special entry.



8504 Itsuko Hasegawa



8507 Edward Larrbee Barnes

8501 HIGH-TECH ¥4300
Introducing the prominent persons and works in HIGH-TECH architecture, including C. Eames, J. Prouve, F. Otto, B. Fuller, R. Piano, N. Grimshaw, T. Farrell, R. Erskines, etc. English texts. ¥2500

8502 FRANCE : A New Generation of French Architects 23 architects and designers of Post-Modernism. English texts.

8503 Global Art Deco in the Twenties and Thirties : Art Deco in L.A., Miami, Nice Shanghai, Paris, Moscow, London, Tokyo. ¥3000

8504 Itsuko Hasegawa ¥4300
Selected works of I. Hasegawa, a young popular Japanese female architect. Full English texts.

8505 Adolfo Natalini 1979-1983 ¥2500
The Furniture of Teruaki Ohashi English Texts.

8507 Edward Larrabee Barnes ¥3300
All the major works of E.L. Barnes. Full English texts.

Name

Profession

Address

Signature

The amount is being sent in advance by :

☐international money order

☐enclosed check

☐bank transfer

Please enter my subscription to
Space Design (SD)
Starting in_____, 1985

☐new subscription

☐12 issues ¥30,000 (seamail postage included)

☐24 issues ¥50,000 (seamail postage included)

Please register my order for the following back issues of SD :

Overseas Subscription

SD Space Design

● Hardcover edition

Seiichi Shirai ¥4500
7 great works of Seiichi Shirai, a great master architect of Japan.

Arata Isozaki ¥4500
28 great works of Arata Isozaki with notes by himself. Chronological review. Writings by H. Hollein.

Arata Isozaki 1976-1984 ¥5300
23 works including Tsukuba Center Bldg. by Isozaki, with notes by the architect. Full English texts.

Kisho Kurokawa ¥4500
Extensive works of Japanese metabolist, with writings by C. Levi-Strauss, etc. Full English texts.

Fumihiko Maki ¥4500
Selected works—architecture and urban design—of Fumihiko Maki, with writings by Philip Drew, Maki, etc. Full English texts.

Kenzo Tange ¥5000
58 architecture and urban designs of Tange, selected by himself. 202 pages. Full English texts.

Kenzo Tange 1977-1983 ¥5300
1977-83, 21 architecture and urban designs of Tange.
218 pages. Full English texts.

Masako Hayashi ¥4500
All works of Japanese female architect. Full English texts.

Kiyonori Kikutake ¥4500
All the major works of Japanese metabolist Kikutake and his writing. Full English texts.

Tadao Ando ¥4500
Selected works and drawings of popular Japanese young architect. Writings by Y. Futagawa, T. Ando, etc. Full English texts.

Shin'ichi Okada ¥4500
The Supreme Court, Metropolitan Police Department, etc.

Sutemi Horiguchi ¥4500
Organization of architecture and garden. Major works of Japanese pioneer of modern architecture. English texts.

● Hardcover edition
This is a *de luxe* edition for keeping of the feature part reproduced from the regular edition of "SD" magazine.



●Arata Isozaki 1976-1984



●Kenzo Tange 1977-1983

■Extra edition
This is a *de luxe* edition for keeping of the feature part reproduced from the extra issue (with a summary and explanatory comments in English) of "SD" magazine.



■Space Design for Commercial Facilities



■Space Desigh for Commercial Facilities ❷

Alvar Aalto ¥4500
All the major works including Finlandia Hall, Villa Carre etc. Writings by Juhani Pallasmaa, Michele Merckling. With English summary.

Carlo Scarpa ¥4500
Great work of Italian maestro covering architecture, furniture, and industrial design. With English summary. 162 pages.

Kim Swoo Geun ¥4500
All the major works of distinguished Korean architect. English texts.

Andrea Palladio ¥4500
31 works of Palladio by color photos and drawings. I Quattro Libri dell' Architettura. 170 pages. English summary.

Gio Ponti ¥3500
Special issue edited by Lisa Ponti in memory of her father. Writings by L. Ponti, Allessandro Mendini, etc. Full English texts.

I.M. Pei & Partners ¥4500
28 great works of I.M. Pei & Partners including the Design Process of National Gallery of Art. Full English texts.

The Whirlpool : ¥4500
Post-Modernism-Young American Architects.
Works and projects of 50 young American architects.

Erik Gunnar Asplund ¥5000
All the major works including Woodland Crematorium. Cinema《Skandia》, Gothenburg Law Courts, etc. With English summary.

Art Deco in New York ¥5000
About 80 Art Deco architecture. The Art Deco architectural map and list of New York City.

Gardens : Wonderland of Contrivance and Illusion ¥4700
All the major gardens in Europe and U.S.A. including Villa d'Este, Versailles, Schloβ Schonbrun, Alhambra, Stourhead, etc. English texts.

Please register my order for the following hardcover/extra edition of **SD** :

The amount is being sent in advance by :

☐international money order

☐enclosed check

☐bank transfer

U.S. dollars, Sterling pounds, West German marks, Swiss francs and French francs equivalent to the above Japanese yen prices are acceptable.

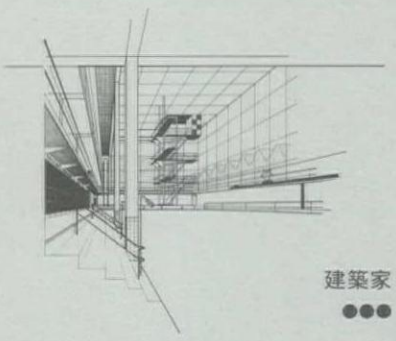
Payment should be made in abvance by mail transfer to our bank :
The Shinbashi Branch of the Kyowa Bank, Co., Ltd.,
account number 514836 in the name of Kajima Institute Publishing Co., Ltd.

Send your payment made payable to :
Subscription Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107, JAPAN

SD 8508
スペースデザイン
第251号
昭和60年8月号

5 特集—
モダニズム建築の王国オランダ

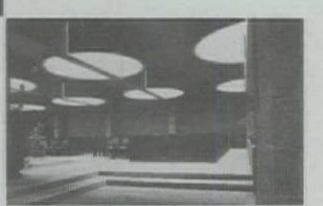
6 [対談]山口廣×槇文彦
ダッチ・モダニズムの今日性



20 論文
●

20 機能的な有機体を追求する建築家ダウカー
ヤン・モレマ+ヴェッセル・デ・ヨンゲ

33 F.P.J.PEUTZ 1896—1974
古典主義および近代主義の本質を追求した建築家ペウツ
ヴィール・アレッツ+ヴィム・ファン・デン・ベルフ



建築家 12
●●●
ブリンクマン+ファン・デル・フルフト 12
ダウカー
ファン・タイエン
バウス
ヴィルス
リートフェルト
ファン・ドゥースブルフ
アウト
ファン・アイク 44
ヘルツベルハー
ヴェーバー 50
ベンテム+クラウウェル
ユールハース
ファン・ドンゲン+オーステルハウス
ファン・フェルゼン
メカノ
テンゲ
スーテルス
オランダ:モダニズム建築ガイド・マップ 62
●●●●
主要作品年表 63
●●●●●

65 NICE SPACE
海運協会本部ビル,アムステルダム,オランダ
宮本 隆+谷内田章夫

69 連載—建築としての家具❶
ラショナリスモの椅子:
カサ・デル・ファッショのためのテラーニのデザイン
横山 正

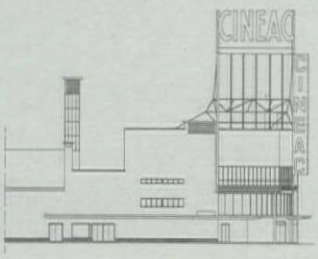
73 連載—フランク・ロイド・ライトの呪術の空間⑫
ロマンチシズムの洞窟
草森紳一+大倉舜二

86 ニュース
想像力の射程〈シド・ミード〉:IDからブレードランナーまで
関研吾

85 記事・書評

95 海外建築情報
インテリジェントが止まらない
DUCTSPACE—編

103 国内建築ノート 聖吾評
新人に贈る言葉



論文 36
●●
36 [オランダ建築の近代前夜]
ベルラーヘの築いた財産,
とその相続人たち
堀川幹夫

38 [オランダ建築の近代]
モダニスト百花繚乱
石上申八郎

48 [オランダ建築の現代]
孵化せよ,モダニストの末裔たち
伊藤公文

発行人●河相全次郎
編集人●長谷川愛子
発行所●鹿島出版会
〒107 東京都港区赤坂六丁目5番13号
電話(03)582—2251(代)
振替 東京6—180883番
編集長●伊藤公文
編集スタッフ●吉田雅彦
相川幸二
水越 裕
浜地三千世
伏見佳子
アート・ディレクター●工藤強勝
デザイン・レイアウト●上田宏志
釣巻敏康
デザイン実験室
印刷・製本●凸版印刷株式会社
〒174 東京都板橋区志村1—11—1
電話(03)968—5111(案内)
取次店●東販・日販・大阪屋
栗田出版販売・誠光堂
鈴木書店・西村書店・中央社
定価●1,500円
年間直接購読料●20,000円
(特別定価号+送料込み)

表紙写真●
ファイエノールト・サッカー・スタジアム



5 **SPECIAL FEATURE**
The Netherlands: Paradise of Modern Architecture

6 **Dialogue:** The Up-to-dateness of Dutch Modernism
by Hiroshi Yamaguchi×Fumihiko Maki

20 **Articles**
●

20 Johannes Duiker:
Architect in Pursuit of Functional Architecture
by Jan Molema+Wessel de Jonge

33 Frederikus P.J. Peutz:
Architect in Pursuit of the Essence of Classicism and Modernism
by Wiel Arets+Wim van den Bergh

Architects 12
●●●

Brinkman & Van der Vlugt 12
Duiker
Van Tijen
Buijs
Wils
Van Doesburg
Rietveld
Oud

Van Eyck 44
Hertzberger

65 **NICE SPACE**
Shipping Building, Amsterdam, the Netherlands
by Takashi Miyaki+Akio Yachida

Weeber 50
Benthem & Crouwel
Rem Koolhaas
Van Dongen & Oosterhuis
Van Velsen
Mecanoo
Tenge
Soeters

69 **SERIAL PRESENTATION**
〈Furniture as Architecture〉❶
The Rationalistic Chair:
Terragni's Designs for the Casa del Fascio
by Tadashi Yokoyama

73 **SERIAL PRESENTATION**
〈Frank Lloyd Wright's Enchanted Space〉⓬
The Romantic Grotto
by Shin'ichi Kusamori+Shunji Okura

Architectural Map of Modern Dutch Architecture 62
●●●●

Chronological List of Modern Dutch Architecture 63
●●●●●

86 **News**
The Versatile Design Talents of Syd Mead
by Kengo Kuma

85 **Informations**

95 **Eminent Works Abroad**
Intelligent Building
by DUCTSPACE

103 **Domestic Architectural Notes**
Sei-Go-Hyoh
A Message for Newcomers to the World of Architecture

Articles 36
●●

The Beginnings of Modern Architecture in the Netherlands:
The Legacy of Berlage and Its Heirs 36
by Mikio Horikawa

Modern Dutch Architecture:
Modern Dutch Architects at Their Heights 38
by Shinpachiro Ishigami

Contemporary Dutch Architecture:
Come Forth, Ye Children of Modernism 48
by Kobun Ito

SD 85 08

Space Design
No.251
August 1985

A Monthly Journal of Art and Architecture

Publisher●
Zenjiro Kawai
Executive Director●
Aiko Hasegawa
Editor●
Kobun Ito
Associate Editors●
Masahiko Yoshida
Koji Aikawa
Yutaka Mizukoshi
Michiyo Hamaji
Yoshiko Fushimi
Art Director●
Tsuyokatsu Kudo
Design, Composition●
Hiroshi Ueda
Toshiyasu Tsurimaki
Design Laboratory
Published by
Kajima Institute Publishing, Co. Ltd.©
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107 Japan
Telephone: (03) 582—2251
Printed in Japan
Overseas●
This copy: ¥2,500
(including seamail postage)
Subscription Price
¥30,000 a year
¥50,000 two year
(including seamail postage)
Order form: pp. 1-2

Cover Photo●
Feyenoord Stadium
by Brinkman & Van der Vlugt

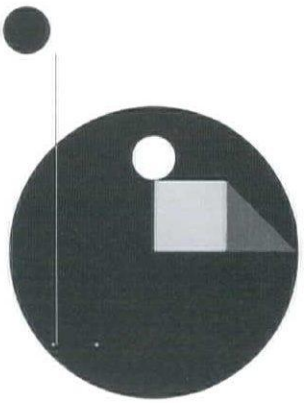
THE NETHERLANDS

特集

モダニズム建築の王国オランダ

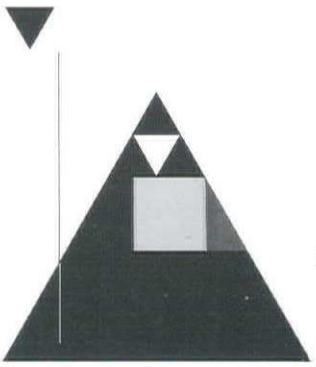
The Netherlands: Paradise of Modern Architecture

撮影—輿水進



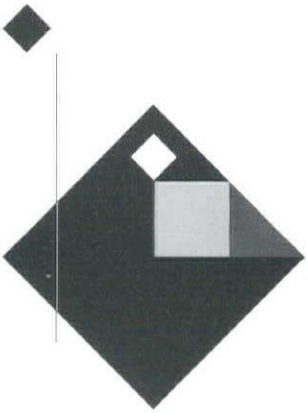
BRINKMAN & VAN DER VLUGT
JOHANNES DUIKER
WILLEM VAN TIJEN
JAN BUIJS

JAN WILS
GERRIT RIETVELD
THEO VAN DOESBURG
J.J.P. OUD



ALDO VAN EYCK

HERMAN HERTZBERGER



CAREL WEEBER
BENTHEM & CROUWEL
REM KOOLHAAS
VAN DONGEN & OOSTERHUIS

KOEN VAN VELSEN
MECANOO
BEN TENGE
SJOERD SOETERS



●ロッテルダム中央駅
プラットフォーム.
鳥が翼を広げたような
RCシェルが美しい.
電車は左が犬，右が兜を
モチーフとしてデザインされた
ユーモラスで端麗なもの.

対談

山口 廣×槇 文彦

ダッチ・モダニズムの今日性

昨年9月，ロッテルダムで開かれた日本の
建築家の展覧会と同時期に，
オランダの現代建築を見てまわり，
多くの建築家と話す機会がありました.
その時強く感じたのは，
若い世代がデザインの力に対して
再び自信を持ち始め，
活発に活動しようとしていることでした.
レム・コールハースの登場が
一つの契機となっているとは思いますが.
そして彼ら若い世代の多くは，
初期モダニズムというのですか，
デ・ステイルの人々とか，
ファン・デル・フルフトやダウカー等々の
作品を，オランダ固有の
デザインとして誇りに思い，
自らのデザインの参照の対象ともしている
ように思えました.
今日は，そのあたりのことを御二人に
話し合っていただきたいと思います.

オランダ近代建築のはじまり

山口　日本では，堀口捨己先生の《現代オランダ建築》が大正13年に岩波から出版されましたね.　堀口先生がヨーロッパへいらっしゃって，オランダでデ・ステイル派のJ.J.P.アウトとかアムステルダム派のウェイトフェルト(H.T.Wijdeveld)やクラメルなど多くの建築家に会われた.　第一次大戦中も彼らはどんどん作品を発表していました.　先生が彼らから資料をもらって帰国され，分離派の講演会で話をし，それを本にまとめられたものです.　それ以来，戦前に建築家がヨーロッパに出かけると，たいていオランダにお寄りになっています.　この本が日本でのアムステルダム派の評価を高めたという気がします.　しかし，オランダに住んでみますと，アムステルダム派というのは特殊な存在という感じがするんですね.　オランダの建築家は，もともとリアリストじゃないかと思います.　アムステルダム派の人たちは幻想的でロマンティックなところがあり，影響は強かったかもしれませんけれど，オランダ近代建築の主流を占めることはなかったという気がします.

槇　リアリズムというのは，伝統的な絵画の歴史などを見ても，文化の性格として根強いものなのではないですか.

山口　リアリストと申し上げたのですが，いつも現実を忘れないでデザインしているという程度の意味です.

　ベルラーヘがそうです.　ベルラーヘには〈マルクスの孫の孫〉というあだ名があるんです.　いつも新しい社会を夢見ながら仕事をしていたのですね.　株式取引所というのは，資本主義のシンボルみたいなものですが，それが，もし社会主義の世の中になったら，市民ホールに使えるようにということまで考えているのです.　だから単に取引所の機能だけでなくて，もし市民が親しんで自由に使えるようになった時のことまで含めてデザインしているんです.　普通に言う構造や材料の意味での合理主義だけではなく，新しい社会の新しい用途についても一生懸命考えてデザインしているあたりが，それまでの建築家とベルラーヘの違うところです.

　デ・ステイル派の建築は，モンドリアーンや，ファン・ドゥー

スブルフの芸術理論と作品と同じ宇宙観，自然観，人生観を表明するものです．　その思想はとても抽象的，普遍的に思えますけれど，オランダの風土，自然，人間を踏まえて導き出した高度にリアルな真理を含んでいると彼らはいいます．

ベルラーヘとデ・ステイル派の人々による思想の上の闘いで，それまでのオランダ建築の流れと切れて，やっと近代建築が始まったと考えます．　それを実際の作品を通してもっと身近な理論と方法として定義させたのが，ダウカーからファン・アイクあたりまでの建築家の仕事となるのではないかと思います．

槇　その辺がオランダの伝統だという気がしますね．　ベルラーヘなどはライトと相互に影響があったということも聞いていますし，確かに合理主義であろうけれども，表現そのものはアムステルダム派が近いように思っていましたが．

山口　いや，むしろアムステルダム派の方が影響を受けているというより，反発していますね．

株式取引所は，入選案では非常にデコラティヴな，彼の先輩のカウパース (P.J.H.Cuijpers) のアムステルダム中央駅に近いデザインです．　ところが実際にできたのは，最小限の装飾にし，荷重を減らすために，中央ホールに鉄骨の屋根をかけたりします．　安くて丈夫というところまで含めて，合理的デザインを貫きます．　このような姿勢をオーソドックスに受け継いだのが，ロッテルダムのグループやダウカー，ファン・デル・フルフトたちで，彼らこそベルラーヘの正統な嫡子だと私には思えます．

アムステルダムとロッテルダム

槇　アムステルダムとロッテルダムは，昔から，いい意味での二極的なところがあったんですか．

山口　あるように思いますね．　しかし，アムステルダム派と言われている人たちは，ほぼ30年代で活動を停止します．　その少し前ですが，ベルラーヘがマスタープランを作った，アムステルダムの南部地区で，外装にはレンガを用い，コンクリートの肌を出してはいけないという規則がありましたのが，1931年に廃止されます．　そのころからアムステルダムの中にモダニズムの建物がやっと建ち始めます．　そしてロッテルダムとアムステルダムの若い建築家は共同で雑誌を出し始めます．

槇　アムステルダムやデルフトは，町の歴史的なコンテクストがあって，新しい実験がやりにくいのに対して，ロッテルダムは比較的新しい町なので，そういう規範がないという，その辺の影響は認められますか．

山口　ええ．　都市の歴史を詳しく調べてはおりませんけれど，そう思います．　特にロッテルダムは，第一次大戦後の都市の膨張が激しかったので建築家が自由に腕をふるえたのではないでしょうか．アムステルダムは東京，つまり政治・文化の中心という意識があり，ロッテルダムは大阪，つまり実利優先といった気風が感じられます．

槇　そういうところが大きいようですね．　アムステルダムでは美観規制が非常に強くて，建築家が独立住居を作ろうとすると許可を貰うのに時間がかかるとか，いろんなことを言われるということです．　そういう意味でも，モダニズムのようなものをそのまま受け入れやすい体質がロッテルダムにあったのではないか．

ブリンクマンの有名なスパンゲンのハンジングを見ても，あの時代としては革新的なハウジングであって同時に古い伝統的な町のスケールと合わせていると思うんです．　つまり街区構造というレベルで見ると革新的なものなのであって，アムステルダムのようなところでは，ちょっと発想しにくいものだと思うんです．　戦後，ファン・デン・ブルークとヤコブ・バケマがやったラインバーンのプロジェクトにしても，伝統的な町のコンテクストから出て来たものではなくて，ある意味では教条的というか，CIAMあたりのセオリーが率直に出て来たような町づくりだと思います．　そういうことをいろいろ考えてみると，アムステルダムでは，そのような自由なことができにくかったし，またしなかったと言えるのではないでしょうか．

山口　アムステルダムでは，美観委員会が正式に市のコミッティーとして19世紀末に作られて，その実権をアムステルダム派の建築家

●ロッテルダム市内．船影の向こうにピート・ブロム設計の樹状集合住居．



が握ります．　ここが，すべての建物の外観デザインのチェックをするんですね．　そのためにベルラーヘがマスタープランを作った南部地区の建設のときに，自信のない建築家とかディベロッパーが委員会を通すために，わざわざファサードのデザインをタレントに頼んでいるのです．　そういうのが沢山あるんです．　そのためこうした集合住宅に対してエプロン建築というあだ名がついているんです．　デザインは面白いんですが，プランを見ますと，ロッテルダムのスパンゲン集合住宅のような，平面プランやブロック・プランでユニークなものが全くないんです．　もっとも，今までの話では，アムステルダムとロッテルダムが対比して出てきましたけれど，デュドックはヒルヴァサム市（Hilversum）でずっと仕事を続けて，最初は伝統的な民家風の小学校を作ったりしますが，後には市庁舎のような独特なモダンな作品を発表しています．　もう少しオランダの建築を見てゆきますと，それぞれのところでそれぞれの試みをやっていると思います．

人間中心主義のセカンド・ジェネレーションたち

槇　いま言われたように，いくつかの段階があったにしても，オランダの建築は基本的にリアリズムというか，モダニズムの伝統が少なくとも近代以後は非常に強いといっていいのかもしれませんね．それとともにオランダの持つ近代建築思想の中でもう一つ特筆すべきことは，アンソロポセンティック，人間中心主義が強いということだと思います．　特にそれはセカンド・ジェネレーションを代表するファン・アイクとヘルツベルハーに極めて強く見る事ができる．

アルド・ファン・アイクを私は個人的に長年知っていまして，私の知っているオランダは，彼を通じたオランダという様相が強いので特にそう感ずるのかもしれませんが．　それが，ドイツにもフランスにもイギリスにも出て来なかったモダニズムの一つの面ですね．　もう一つの言い方をすると，CIAMでなくてTEAM Xの主張を強く受け継いだのではないか．　TEAM Xのメンバーには，もう亡くなったヤコブ・バケマとアルド・ファン・アイクの二人がオランダから代表選手として登場していましたが，彼等が極めて強く人間中心主義的な考え方を表に出していた．　バケマはファン・デン・ブルークとパートナーを組んでいたわけですけれど，人間中心主義の解釈の仕方が，彼はオーソドックスな，どちらかというと先に述べたCIAMに近いものだったのに対して，アルド・ファン・アイクはマーティン・ブーバーの哲学を持っていて，古い原始部落の持っている基本的な人間と空間の関係へ戻していって，それを翻訳し直して表現するというような違いがあった．　そういう意味で，アルド・ファン・アイクの物の考え方は若いジェネレーションに対して，よりアピールするところがあって，ブロムとかヘルツベルハーなどがその影響を受け継いでさらに独自の表現を作り出していったということが言えると思うのです．

山口　アムステルダムの郊外にあるファン・アイクの孤児院の中は見学できなかったんですが，中を歩いてごらんになっていかがですか．

槇　部分に対するさまざまな試み，ことにAとBとの空間の間に

●ロッテルダムのマース川．
右手に下って行くと
世界一の港湾施設
ユーロポート．
遠くにユーロマストが
見える．





●飽くまでも平坦な埋立地，
直線が支配する
ランドスケープ．

必ずAでもBでもない，あるいはAでもBでもあるという空間を作っていくやり方に，さすがだと思うところがありましたが，あの場合は，ファン・アイクの幾何学に対する思い入れとか，システムに対する思い入れ方が強くて，ヘルツベルハーの建物の方がよりヒューマンじゃないかと思えました．　材料の使い方も理智的に限定されていますので，彼が説明していたほど，子供の環境として魅力的なものかどうかという気はありましたね．　ただ，建築哲学においては，明らかにヘルツベルハーに影響を与えた60年代の重要な作品だと思いました．

オランダにはもう一人，システマティックな建築を作るので有名なハブラーケンがいますが，あのスクールと彼らは，オランダという公約数を通じて一脈通ずるところがあるんですね．

セカンド・ジェネレーションのデザインの源泉ダウカー

槇　そこまでの流れは，いま述べた何人かの作品を追っていくと強く出ているし，セカンド・ジェネレーションというものが鮮明に浮かび出てくるんですが，さて，その次のジェネレーションですね．彼らが師匠達のやったことをそのまま踏襲するのではなくて，もう少し広く自分の作品のよりどころを捜そうとして，もう一度ダウカーなどに行くんでしょうか．　しかしオランダもそんなに広い国ではないし，非常に長い伝統があるわけでもないので，バケマにしてもファン・アイクにしても，ダウカーあたりを強く意識していたし，評価していたことも確かだと思いますが．

僕はダウカーの作品 (→p.20—29)，アムステルダムのシネアックやヒルヴァサムのサナトリウムにファン・アイクに連れていってもらって，解説してもらったんです．　ヒルヴァサムにはもう一つホーイラント・ホテルがありますね．　あのホテルの1階のカフェの扱いを見ますと屈折していく街路に沿ってカーブしていて，ダウカーが町のコンテクストを強く意識していることが分かる．　そしてその背後にあるロビーなどの取り扱いはスケール的にいうと非常にヒューマンで，ヨーロッパの古い小さい宿にあるようなスケールを保ちながら，表現としては近代建築のヴォキャブラリーを使っている．コルビュジエとダウカーを比較してみると，コンテクスチュアルといえるのは，ダウカーではないかという気がします．　そういうところがオランダのファンクショナリズムの強い特徴で，ファン・アイクもダウカーの影響を受けているわけです．　ファン・アイクが最近やった〈母の家〉(→p.44—45) を見ると，入口の取り扱いなどは同じ伝統に立っていますが，アムステルダムという別な都市のコンテクストはそれなりに解釈しながらやっている．　ダウカーのホーイラント・ホテルとファン・アイクの母の家を比較すると，セカンド・ジェネレーションが持っていた伝統の源泉みたいなものがわかってくるという気がしますね．

ダウカーに見る今日性

——　純粋に形の問題からご覧になった時にダウカーのサナトリウムとかファン・ネレ工場 (→p.12.14—19) の梁とか柱とか庇とか，デザインの特色をどう捉えられるでしょうか．

槇　例えば，バウハウスとダウカーのサナトリウムのデッサンを比べてみると，ダウカーの建築の表層における線材の取扱いは遙かに軽く洗練されている．　もしもどちらの作品に近代建築のふるさとを感じるかと言えば，私はダウカーに感じるという気がしますね．僕が子供の頃，つまり昭和10年ごろに堀口先生とかレイモンドなどがやられた住宅に代表される日本で初めての近代住宅から受けた感じが，自分のモダニズムの初めての経験としてあった．　そういう原風景があって，サナトリウムを見た時に，やはりそれを非常に強く感じたわけです．　そういう意味で〈ふるさと〉と言ったんだけど，原形を見たという感じがしたのは，一つは，ダウカーの作品は庇の線の薄さとか，マスの取扱いに独特なものがあるのですね．

デッサウのバウハウスの軒を見ると，こういう薄い線は出てこないで，ある程度幅がありますよね．　一方，サナトリウムの方の軒の感覚なんていうのは，われわれが日本人であるがゆえに，ある種のなつかしさを持ったのかもしれませんが，その構成は今でも新鮮じゃないかという気がします．　ファン・ネレ工場を見てもそうだったんですけど，手前の管理部門棟の曲線の部分にしても，コンベアーにしてもそこにシンボリズムの表現がある．　また，ダウカーのサナトリウムの煙突とラセン階段の組合わせにも，単に機能主義と言えない，機能を一種のシンボルとしてとらえようという態度があるわけですね．　たしかに使っているヴォキャブラリーは基本的にはモダニズムだけど，そうしたシンボリズムの存在が今日でも相変わらず新鮮な感じを与えているのではないでしょうか．　割合と疲弊したモダニズムに対して，今日，いろんな意味でシンボリズムが言われてるんですが，ダウカーやファン・デル・フルフトの建物が，単にガラスとコンクリートというふうに解釈しきれない，あるいはしてはいけないプラス・アルファーがあるが故に，強さを維持しえているということが言えるように思うんです．　それとダウカーの場合，細いサッシの構成が印象的でした．

山口　日本の障子的な感覚がありますね．

槇　堀口先生の作品と比べてみたいと思ったんです．

山口　堀口的ですね．　例えばバウハウスの校舎は，あまりにも型にはまりすぎて，かたくて，一生懸命つくってるんですけど，「あっ，いいな」と思って足を止めさせるようなところが少ない．

しばらく私はアムステルダムにおりまして，ある日突然，建物だけじゃなくて，広告にしても，町を走っている電車にしても，デザインが，コンパスと定規で全部キチッとえがかれているのに気がついたら息苦しくなりましてね．　日本の場合には，筆で書いた字など，よく広告に見られるでしょう．　それが全くないのです．　そういう時にダウカーのオープン・エア・スクール（外気学校）を見に行きましてね．　あれも直線ばかりですが，固さがないんです．しばらくその前で立ちつくしました．　手前に低層棟があって，それをくぐって中庭に出ると校舎があるんですけど，久しぶりで新鮮な感じを受けました．　周囲がレンガの壁の建物なので一層際立っているんです．

槇　あれはすばらしい建築ですね．　僕が戦後，日本の建物であれ的なのを感じたのは，坂倉準三さんが飯田橋にお作りになった日仏学院です．

山口　佐々木宏さんが言っておられたんですが，あの学校の外套掛けのパイプの中にお湯が通してあるんだそうですね．　佐々木さんがすごく感激して語ってくれたことがありました．　これがダウカーのデザイン全般に通じるヒューマンさですね．

厳密なディテールの追求

山口　アムステルダムで気がついたのですが，扉や家のデザインが一つ一つに個性があり，どれをみても楽しいのです．　しかも，こうした木の扉などは今も造っていますね．

槇　古くから海洋国であるということで，船を作る伝統がありましたから，これがさまざまなかたちで建築のカーペントリーの中にも生きている．　建築の場合は，船づくりなどが支えてきたクラフトの伝統によるところが非常に強い．

ダウカーにしてもファン・アイク，ヘルツベルハーにしてもディテールに対して非常に厳密に追求する．　それはオランダのもう一つの伝統ではないかと思うんです．　たとえばドイツでは機械に信頼を置いた正確性という点ではうまいんですが，クラフト的なものを持っていないんですね．　イタリアのクラフト性というのは，素材が要求する感性の具現としてのクラフト性なんですが，彼らのディテールはもっと理智的なクラフトマンシップであり，つまり手仕事的な構成に信頼性を置いたところがあって，それが高いレベルの建築を作ってきた人たちの一つの伝統だったと思います．

空間の解放性と流動性

――　私がこの前行って一番面白いと思ったのは若手のファン・フェルゼンという人の作品でした．　彼の自邸は，細長い町家なんですが，その中に丸や三角のエレメントがバラバラに入っていて，すごくおもしろい．　扉が全然なくて，大きな引戸ですから日本的なんですね．　部屋というより，スペースを分割するという形になっ

●ロッテルダムの鉄道橋．
船舶の通行の際には
橋げたが持ち上げられる．
オランダではすべからく
水路は陸路に優先する．



対談

山口 廣×槇 文彦

ダッチ・モダニズムの今日性



●港湾用大型クレーンの操作室．
こうした港湾施設の
圧倒的迫力と機能美は
建築に影響を
及ぼさないはずがない．

ている．

山口　私がアムステルダムで借りていた部屋もそうだったんですが，伝統的にあるらしいですよ．　どこまで遡れるか調べておりませんが，19世紀の終わりぐらいからは，部屋の区切りに日本の襖みたいなものが使われてますね．

——　ファン・アイクの建物を見ても，カチッとした部屋を作ることは絶対しないんですね．　必ず流れていく．

槇　ヘルツベルハーもそうで，保険会社セントラル・ベヒーアの建物でもそれが象徴的に出ていると思います．

山口　それはオランダの一つの特色と考えていいんでしょうか．

槇　どうなんですかね．　古いタウン・ハウスなどはもっと伝統的な部屋方式をとってますね．　ホールがあって，階段室があって．開放性，流動性が近代の一つの表現だし，それが一つのドクトリンとして，さらにそこから展開していったというふうに見るべきじゃないかと思います．

山口　アムステルダム派の作品は，空間の連続性とか流動性というのは全くないですね．

槇　17世紀のタウン・ハウスなどもみんなそうですから，アムステルダム派はそういう伝統を受けついでいるんだと思います．　デ・ステイルでは，そういうものの分解と言いますか，自由な壁という考え方になった．

山口　デ・ステイルの影響は大きかったかもしれませんね．　デ・ステイルの場合は，基本的に箱でとらえないで，自由な平面の組み合せでとらえてますから．

槇　リートフェルトのミセス・シュレーダー邸 (p.40-41) などはそれの完成したものですね．

こういう模型があるんですよ．　シュレーダー邸です．　リートフェルトの数少ない建築作品の中で，これが唯一の傑作ではないでしょうか．　僕はこれを実際に見に行きました．　ミセス・シュレーダーが中を案内してくれました．　2階の東のコーナーなど，日本的な感じがありますね．

山口　そこが，この建物のポイントらしいですね．　この角が眺めが一番いいというので居室になってますね．　2階は移動間仕切で七つに仕切れるということですが，あれはシュレーダー夫人のアイディアなんですか．

槇　そうだったんじゃないですかね．　そういう開放性が日本の障子を思わせるところがあります．　しかし，一方，ラセン階段が，船のデッキに上がっていくような感じがあったのを覚えてますが．

山口　シュレーダー邸はあらゆる意味で，後に与えた影響が大きかったんじゃないでしょうか．

槇　これは，単に一つの建物というだけではなくて，まさにヴェンチューリの〈マザース・ハウス〉的なところがありますね．

オランダ建築界の現状

山口　ところで去年，オランダに寄った時に，《実現しなかった計画案》という本を買い求めてきました．　オランダの建築だけを扱ったものなのですが，規模が大きくてとても無理だと思われるような壮大な計画案もいくつかありますけれど，どうしてこの程度の規模の，しかもすばらしい計画が実現できなかったのだろうという，現代の建築家の作品が沢山入っていました．　この本をみて，いいアイディアがあっても，実現が困難な国だなという感じがしました．

槇　そうだと思いますよ．　今の若い建築家たちも非常に苦労しているし，苦労してきたんじゃないかと思いますね．

ヒューマニズムの建築を受け入れやすい素質が社会にあって，それを要求していたかというと，そうではないんですね．　ファン・アイクが言っていました．　オランダというのは，こと建築的な趣味に関しては決して新しいものに対して許容性の高いところではない，一般社会には俗物が多いから，自分の建築は，常に迫害されてきたし，未だに自分の主張を通すことは非常に困難な国であると．確かに時々すばらしい芸術家は現れるのですが，だからといって一般的な理解力とか素養が高いところだと考えてはいけないという感じがありますね．　バケマみたいな常識的な建築は受け入れられやすいんですが．　ヘルツベルハーでもそうだと思います．　彼のところに殺到してコミッションがあるかというと，そういうところでもないんですね．

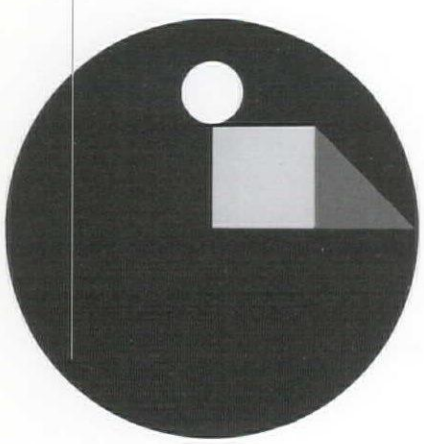
山口　ことに旧市内で作品を実現するのは非常に厳しいようですね．アムステルダムの日航の支店が入っている建物が歴史的な登録文化財なので，中の改装だけでも大変だったと支店の方が話しておられました．

そういう意味では，若い人たちが作品を実際に作りあげていくためにクリアーしなければならない条件は，日本で考える以上の問題があるという気がします．

(1985年6月21日)

●やまぐち・ひろし／日本大学教授，建築史
●まき・ふみひこ／建築家，東京大学教授

BRINKMAN VAN DER VLUGT



■ヨハネス・アンドレアス・ブリンクマン
Johannes Andreas Brinkman, 1902—1949
■レーンデルト・コルネーリス・ファン・デル・フルフト
Leendert Cornelis van der Vlugt, 1894—1936
左手前に大きく湾曲する事務棟，それに続いて全面ガラスのファサードをみせる工場棟，さらに右手の倉庫棟へと斜行する何本もの長大なガラスの筒——コンベア・ブリッジ．

1910年代のヨーロッパで開始された近代建築の試みは，わずか10数年ののち，ロッテルダム郊外に完成したファン・ネレ工場によって，一つの理想型を実現させるわけだが，このモダニズム感覚に透徹された工場を実現させたのが，ブリンクマン，ファン・デル・フルフトの設計チームであった．　M.ブリンクマン（J.A.ブリンクマンの父）が全体計画の進行中に急逝し，ファン・デル・フルフトが代って招かれたが，重要なのは1925年から28年までマルト・スタムが協働したことである．

ファン・デル・フルフトはファン・ネレ以前の1922年に，ウィーベンハーと協同でフローニンゲンに工業学校を設計し，すでにこで水平な連続窓とスパンドレルのみからなるシンプルで明快なデザインに達していた．　だが玄関まわりやインテリアは，ライト-ベルラーへの伝統をほとんど脱していない．　一方ファン・ネレ以後の代表作をみると，ファン・デル・レーウ邸（1929），ソンネフェルト邸（1933）共に，この時代に多くみられるル・コルビュジエ風なデザインにとどまっている．　ただ例外的なのは，レオニドフを思わせる繊細な鉄骨構成によるロッテルダムのファイエノールト・スタジアム（1936，数年前に天才ヨハン・クライフを擁してオランダ・リーグを制したロッテルダム・サッカーチームの本拠地）である．

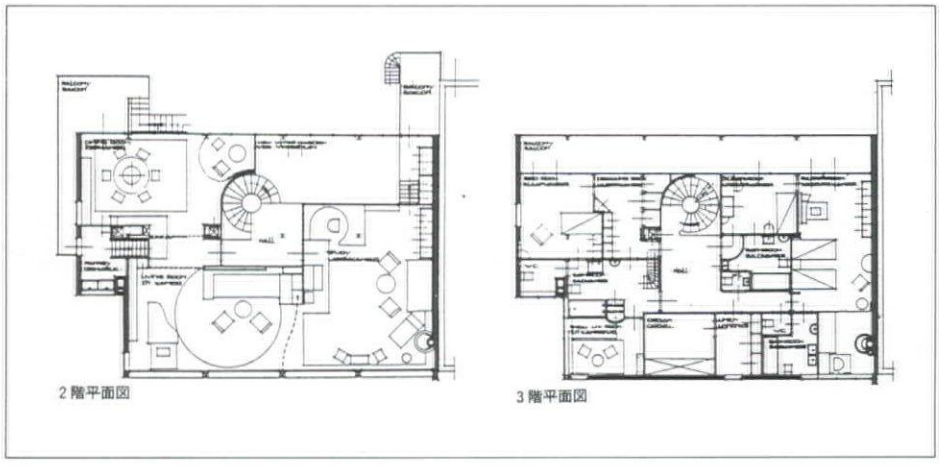
そしてもう一人の協働者，ブロイヤー，ミース以前にカンチレバー型のスチール・パイプ椅子をデザインしたことで知られるマルト・スタム．　理想主義者スタムは，屋上の円型ラウンジの付加をめぐっての争いなどによって，ファン・ネレ設計チームを離れ，その後はドイツでモーザーと協働してフランクフルトに老人施設（1928—30）を設計したりしている．　施設のデザインはリートフェルトがユトレヒトに建てた二つの〈線型〉共同住宅（1931年，34年）の先駆となっているほか，1926年のローキン計画（アムステルダム）に現れているのは，ほとんどファン・ネレ工場の美学そのものである．　水平につづくオフィス・ブロック，運搬用エスカレーター，懸垂型のモノレール，そして車輛と歩行者に開放された地上．

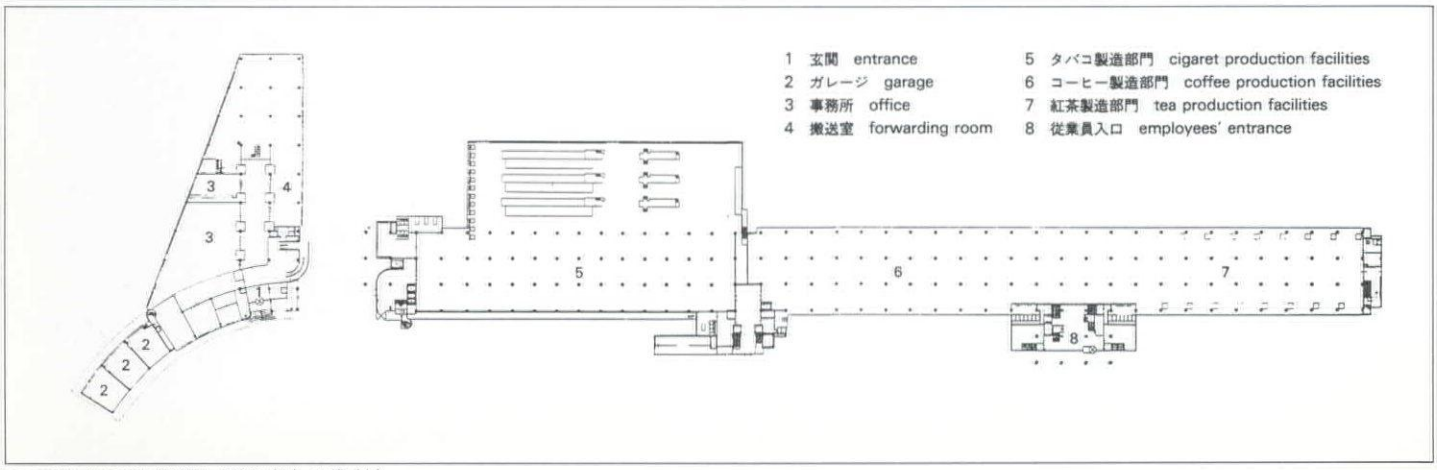
ファン・ネレは背面から見ると，おそらくは最もマルト・スタム的な美学が貫徹している．　これに対して，正面の絵画的な部分（湾曲した事務棟や屋上のラウンジ——実にこれらも重要な視覚要素なのだが），そして中央入口や室内の一部にみられる折衷的細部（……突然あちこちにタイルが用いられ，階段室まわりのプロポーションはファサードやガラスのシャフトとは違って比較的大あじなものになっている）は，ファン・デル・フルフト側のものではないかと想像される．

いずれにせよ，ブリンクマン，スタム，ファン・デル・フルフトという建築家の中継によってファン・ネレは完成した．　近代工法と素材（マッシュルーム柱，片持梁による全面ガラス張り，ガラス枠ばかりでなくすべての家具や造作へのスチールの使用etc.）によって，暗い職場空間をほとんど外光の明るさに開放するという，社会主義的理想に支えられたモダニズム建築は，半世紀以上を経過した現在もほとんど変更を加えられず充分な機能をはたし続けている．
（石上申八郎）



●ファン・デル・レーウ邸





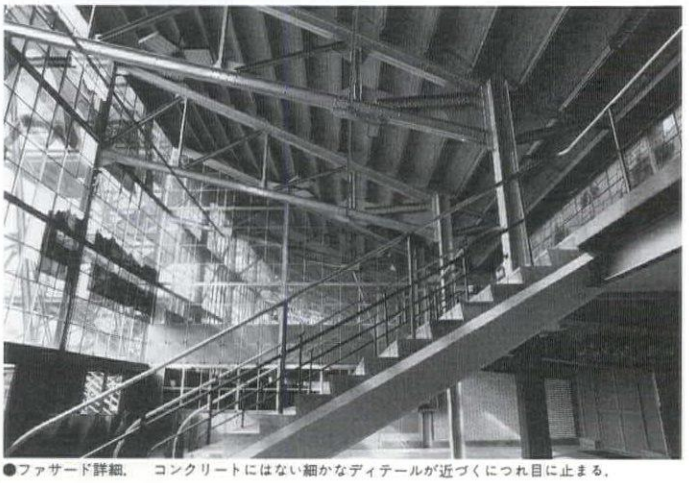
●ファン・ネレ工場　平面図，事務棟（左），工場（右）



●ファイエノールト・サッカー・スタジアム。　全景。　黒く塗られた鉄骨細工は巨大構造物の単調な圧迫感を感じさせない。

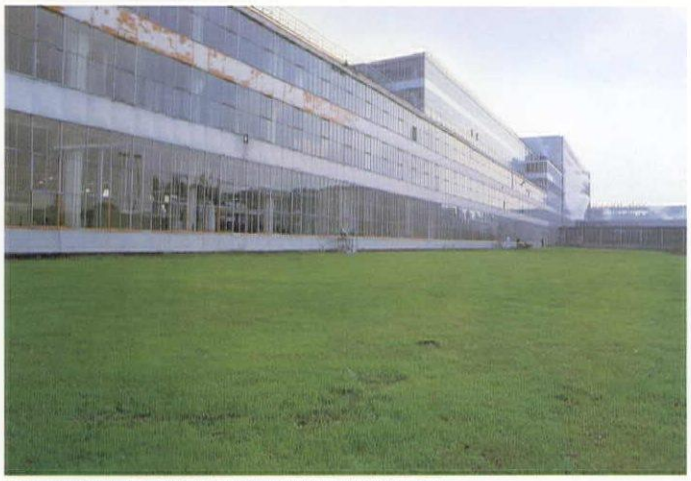


●観客席下部。　飽くまで細い鉄骨部材。



●ファサード詳細。　コンクリートにはない細かなディテールが近づくにつれ目に止まる。

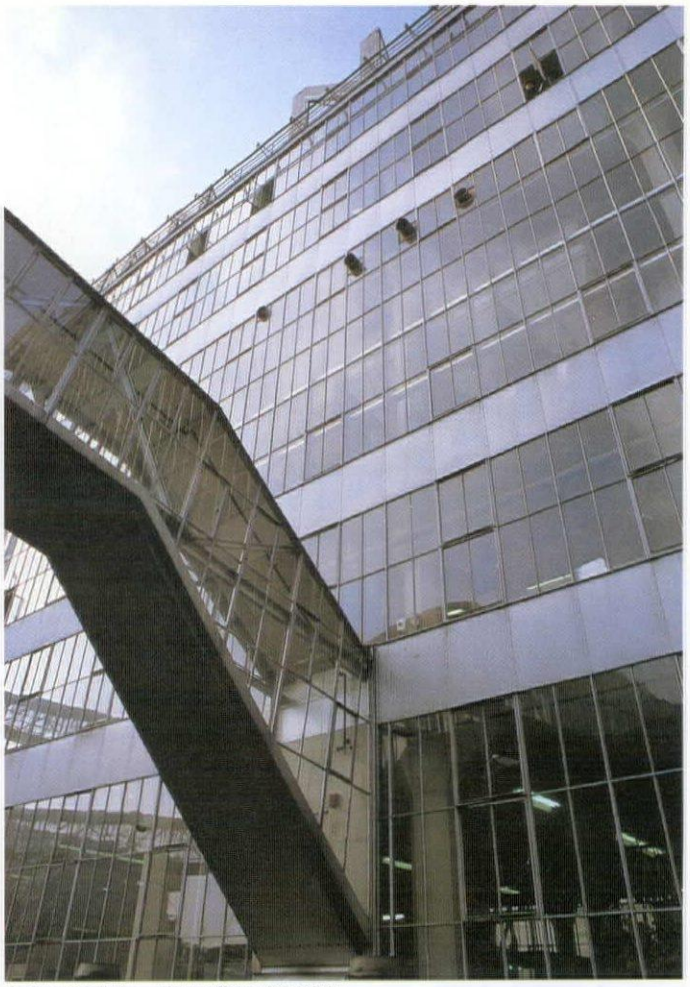




●ファン・ネレ工場　最小限の腰パネルと最大限の連続ガラス面.



●上から下へ続くタバコ製造工程はすべて透視できる.



●ブリッジの端部.　ガラスの箱との唐突な出会い.

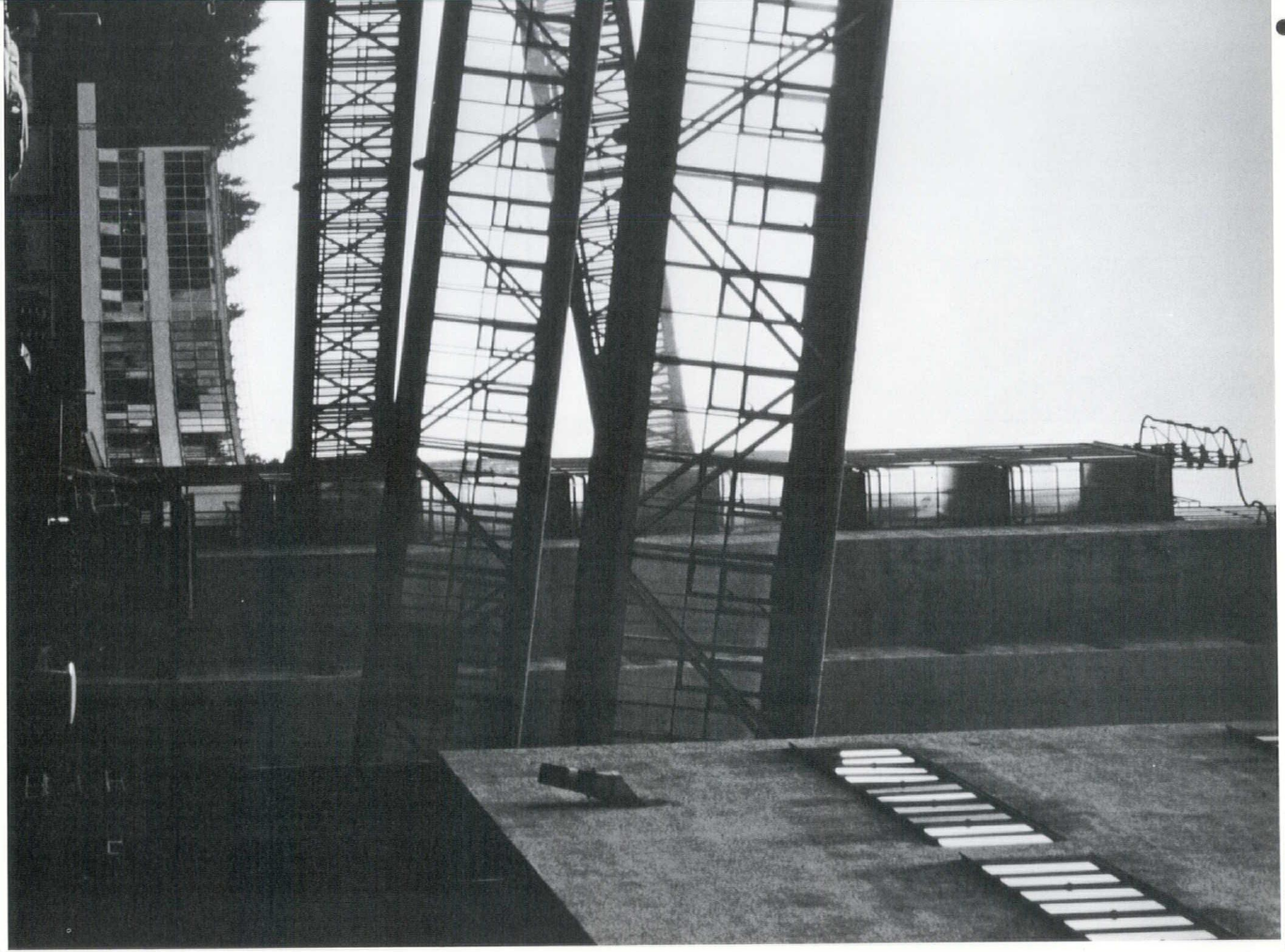


●ブリッジの交錯.　ファンクショナリズムの過激.





●ファンネレ工場。　空中を飛び交うブリッジ群。　機械時代の修辞学。　現在は一部を除き使用停止なので行き交う人々の姿がないのが惜しい。





●ファン・ネレ工場　屋上の展望室。　パノラミック・ビュー。



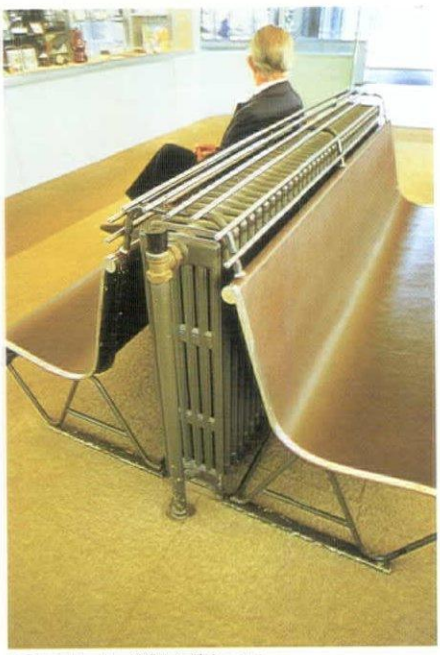
●ノンスリップ付タイル，パイプの取付金具。



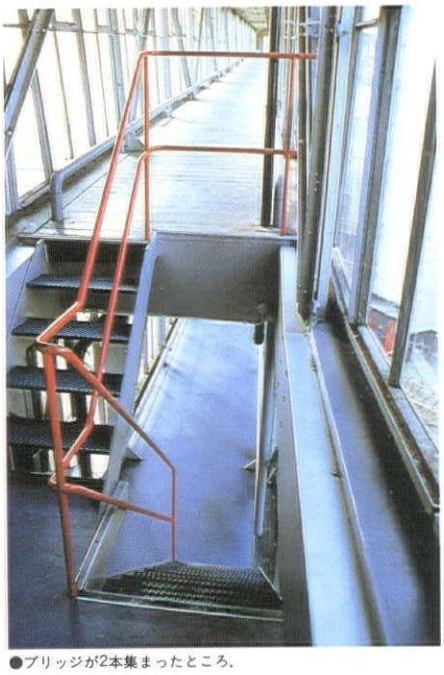
●タフで直截なディテール。



●階段室。　アーリー・モダン特有の色調がイマ風で新鮮。



●ラジエターと一体化した待合ベンチ.



●ブリッジが2本集まったところ.



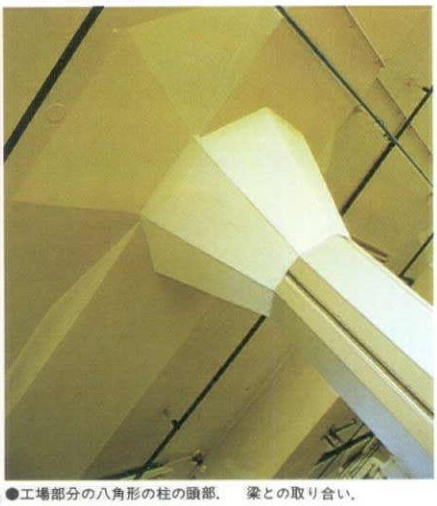
●メンテナンス用のレール.



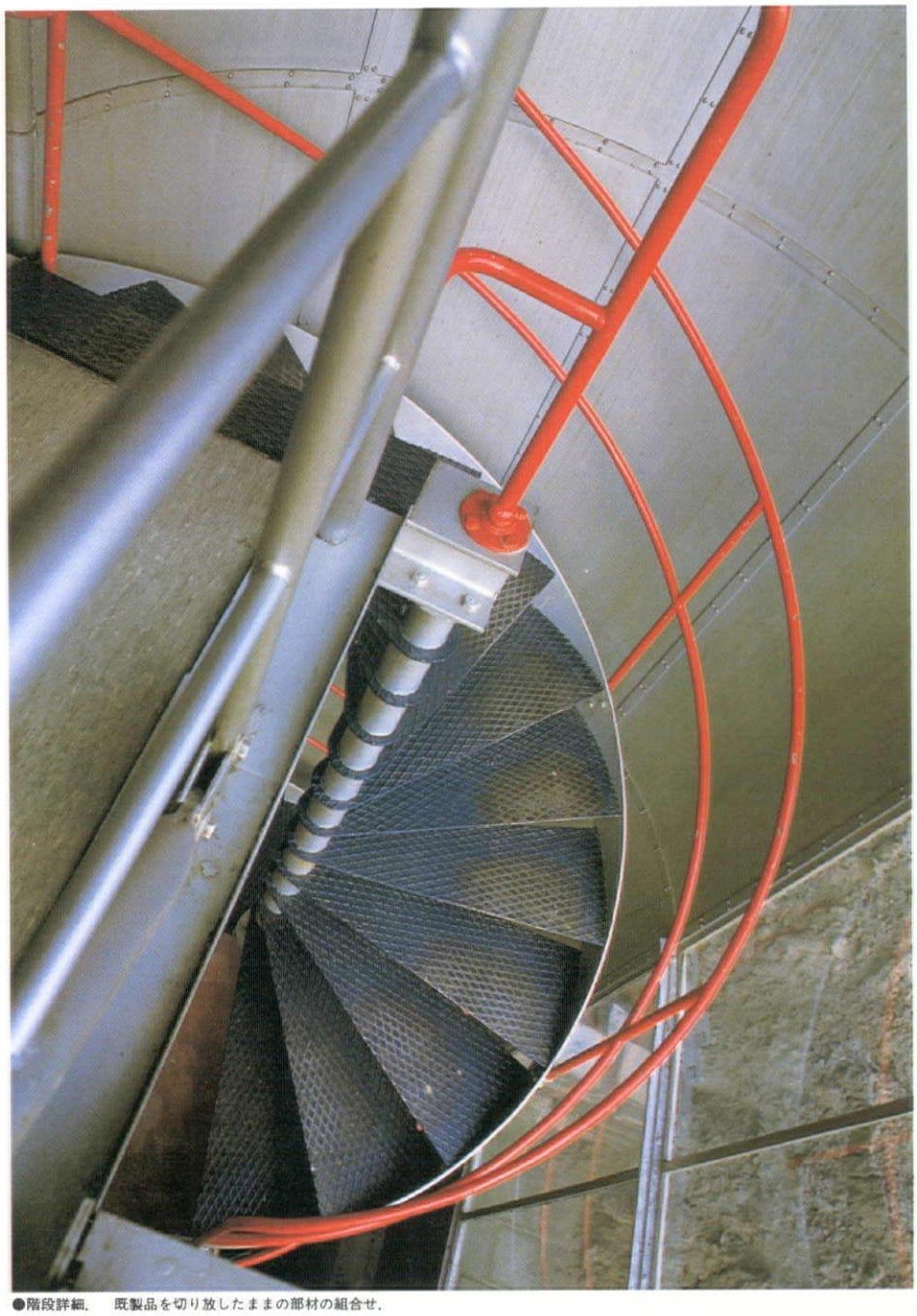
●椅子もテーブルも手摺も，何もかもパイプ.



●洗面室.　清潔で簡明なディテール.



●工場部分の八角形の柱の頭部.　梁との取り合い.

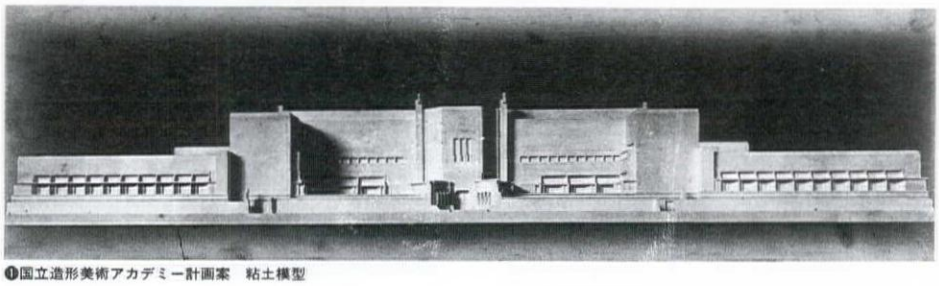


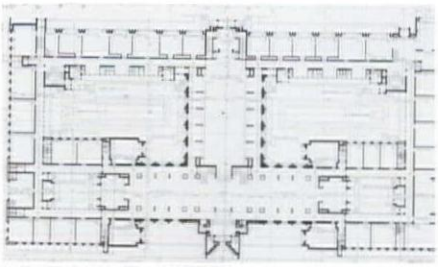
●階段詳細.　既製品を切り放したままの部材の組合せ.

DUIKER

■ヨハネス・ダウカー
Johannes Duiker, 1890-1935
現在，オランダでは初期近代建築の見直しが盛んだが，その時いつも第一に挙げられる名がヨハネス・ダウカーである．　構造の比類なき合理性と空間の全き透明性の両方を兼ね備えた彼の建築こそが，オランダ固有のものだということに皆気づき始めたのだ．　著者の２人はデルフトエ科大学の研究者で，この論文では主として構造体の分析を通してダウカーの建築の本質にせまっている．

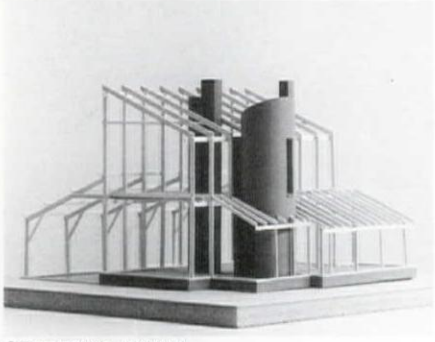

●ヨハネス・ダウカー

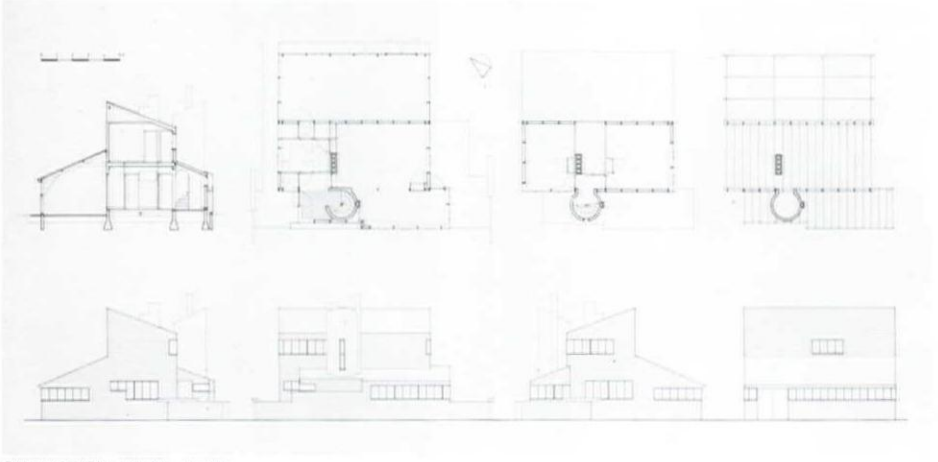

❶国立造形美術アカデミー計画案　粘土模型


❷アカデミー計画案　１階平面図


❸アルクマール〈カーレンハウゼン〉集合住宅


❹アールスメールの園芸家の住宅　完成当時のファサード


❺園芸家の住宅　構造模型


❻園芸家の住宅　平面図，立面図

機能的な
有機体を追求する
建築家ダウカー

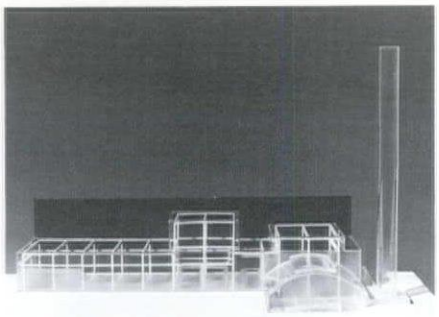
ヤン・モレマ
&
ヴェッセル・デ・ヨンゲ

ダウカー及び彼のパートナーであるバイフート，ウィーベンハーを含む20年代のアバンギャルド達の仕事が，近年再評価を受けつつある．　ペヴスナー，ギィーディオン，ジョンソン，ヒッチコックといった当時の建築評論家に向けられたゆるぎない賞賛は，より修正された批評にとって代わられつつある．この絶対的賞賛は今日，拒絶されつつあるのかもしれない．　最も不当に扱われているのは，ダウカー，バイフート及びウィーベンハーの建築の発展における貢献についてである．　彼等は建築から意味のない装飾，並びに非建築的，非合理的とみなされる総ての要素を剝ぎ取ろうと努力した．　すなわち，装飾的要素が建築の問題を解決しうるとする考えを否定したのである．　そこで，彼等の初期の段階における，妥協を許さぬ抑制は，建築を純化し新生させる上で大変重要なのであった．

非建築的，装飾的なものを放棄した建築の手法を探求してゆくと，非建築的なものの内に本質を求めている建築家とは，極めて対照的となる．　ウィーベンハー，バイフート，ダウカー等は，デ・ステイルのメンバー達と同時代に仕事をし，かつ同じ環境にありながら，実際には殆んど，いや全く接触をしていない．　両者とも建築の本質に立ち返るという欲求を共有しながら，如何にこれを成し遂げるか，すなわち，どの要素が役割を果たし，またその役割とは如何なるものか，という点において異なっていたのである．

彼等の仕事は，建築作品の構造に従ってはっきりと三つの時期に分けられる．

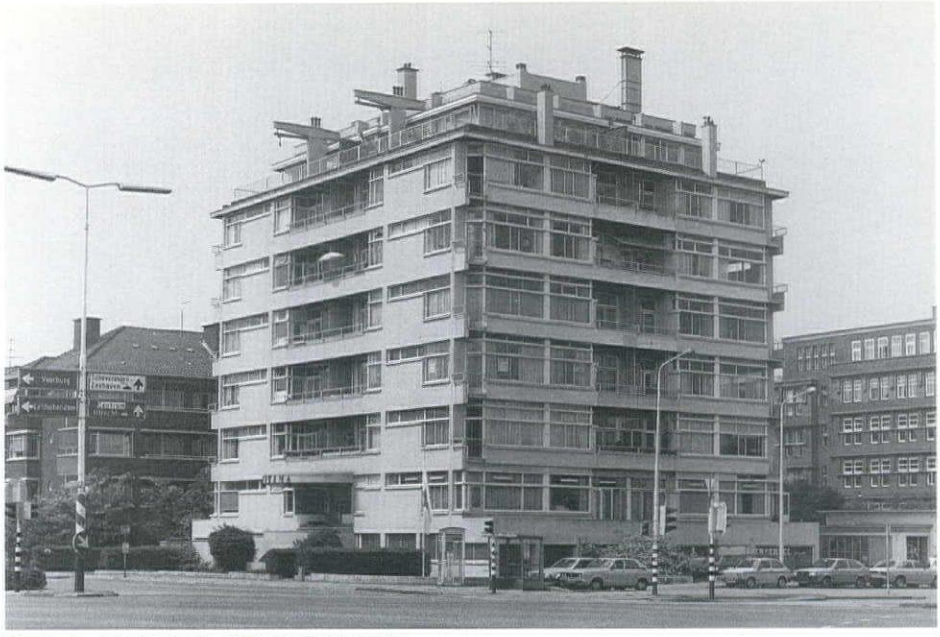
第一期（1913—1922）においては，壁が荷重を支える，という伝統的な原理に従い，床の梁は煉瓦の仕切り壁によって支えられている．（カーレンハウ



❼ディーメンの洗濯屋　構造模型.



❽スヘーヴェニンゲンの技術訓練学校　バルコニー.



❾デン・ハーグの〈ニルワナ〉　オランダで最初の高層住宅.



❿オープン・エア・スクール　外壁は鉄筋コンクリートおよびスティール.

ゼン，アルクマール，1917）

第二期になると，主にコンクリート構造が見られ，時に部分的に木造の床を併用することもあった．この時期の作品は，ディーメンの洗濯屋（1924）に始まり，スヘーヴェニンゲンの技術訓練学校（1929）に終っている．　アールスメールの住宅（1924）などの，いくつかの木造の建物は，この時期にあっては例外的なものである．

最後の期間では，たった三つの鉄骨造の建物が建設された．　それはアムステルダムに建つ，ニュース映画館シネアック（1933），衣料品店ヴィンテル（1934）及びダウカーの死後，バイフートによって完成されたヒルヴァサムのホーイラント・ホテルである．

◉初期

ダウカーとバイフートはデルフト工科大学を卒業後，工科大学のヘンリ・エーフェルス教授の設計事務所で実務についた．　この若い2人組は，いくつかの競技設計に参加し，何度か3位以内に入賞した．アルクマールの集合住宅カーレンハウゼン❽は1917年に建設された．　より高い評価を得たのはアムステルダムの国立造形美術アカデミー❶❷（1917）であり，彼等はこれで1等を獲得している．

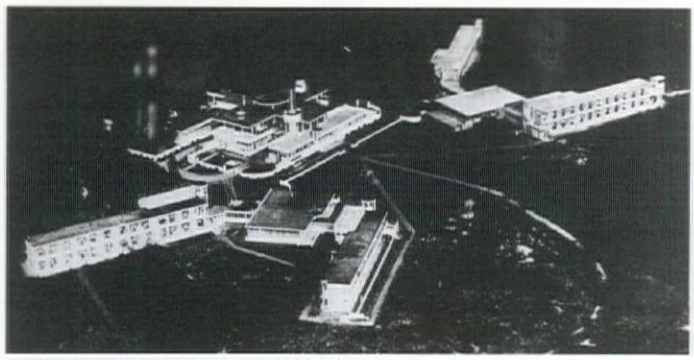
その賞金をもって，ダウカーとバイフートはアムステルダム近郊の海辺の行楽地，ザンドフォールトに事務所を開設した．　ここで彼等は，1925年まで共同で仕事を続けた．　1925年，バイフートはパリへ向かい，その後シャローと共に〈ガラスの家〉の設計に携わった．　1925年以降も，2人は連絡をとりあってはいたが，共同で仕事をすることはなかった．　この第一期になされた建築作品は，総て2人の共同設計であり，どの部分が，どちらの手による部分かを明確にすることは難しい．

ライトの影響，及びベルラーヘ，ロースの影響は，1925年までは顕著であった．　彼等はまた，ファン・ドゥースブルフ，アウト，ファン・エースティレンのキュビズムの影響をも受けたが，しかしすぐに，デ・ステイルのわざとらしさから遠ざかってしまった．

〈近代化〉の影響を受けながらも，1924年のアールスメールの住宅に致るまでは，極めて伝統的な特徴を有しており，動的な機能性に欠け，かつかなりモニュメンタルであった．　特に鏡に映したような対称性，煉瓦壁による立面，木製の窓枠と床，そして時に瓦を挙げることができる．

◉第二期

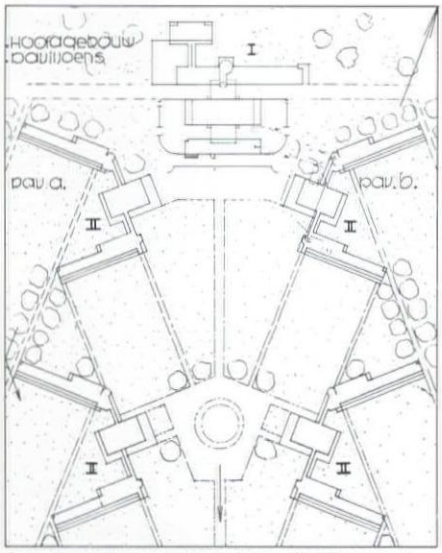
1924年，ダウカーとバイフートは，ライト，ベルラーヘ，ロースの例に見られた伝統的な材料と形態の



❶サナトリウム〈ゾンネストラール〉 1930年全景.



❷〈ゾンネストラール〉のオープニング，1928年6月2日．一番左端がダウカー夫妻.



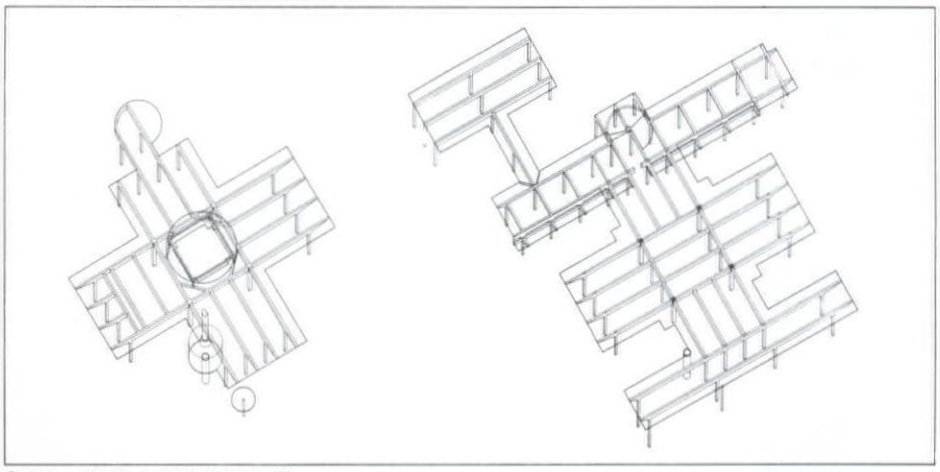
❸配置図　十分な日差しと眺望が得られる様配置されている.



❹〈ゾンネストラール〉の1940年代におけるメイン・ビルディングのファサード.



❺メイン・ビルディングの階段室.



❻メイン・ビルディング構造体アイソメ図.

使用から抜け出た．　この年，二つの興味深い建物が見られる，一つはアールスメールの市場向けの花の栽培主の住宅で，他の一つは，ディーメンの洗濯屋である．　ここで初めて完全な，独立するフレーム構造が実現されたのであり，前者は木造，後者は鉄筋コンクリート造のフレームであった．

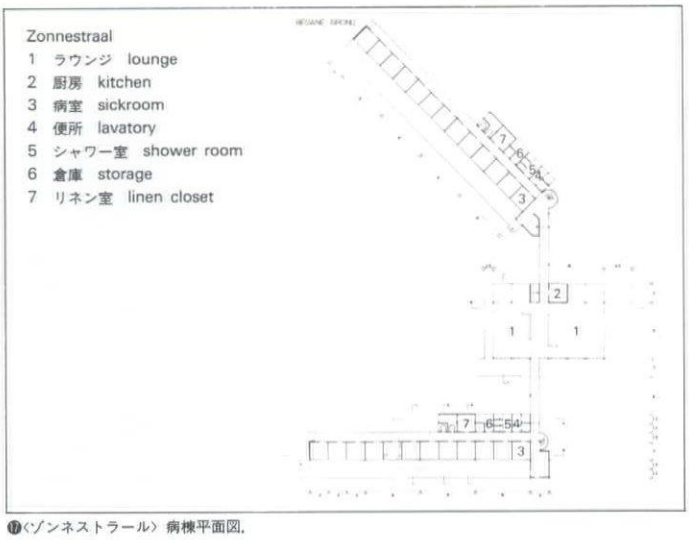
アールスメールの住宅の木造の骨組は，当時の園芸地域で見られた，温室と納屋の木造の骨組と酷似していた．　注目すべきことに，この住宅は周辺の住宅と同様，傾斜のついた屋根を持ち，またどちらの場合も間柱は50cm間隔であった．　温室の煉瓦の煙突は，この住宅の円筒形の階段室の吹き抜けにうつされている．　ダウカーとバイフートが，この住宅の基本的な構造として，温室の軽い構造を採用したことは明白である．　この構造は単純であるが故に安価であった．　この住宅こそが，単純で，軽量で，安価な建物，という彼等の建築哲学を示威してみせた最も早いものであった．　このアールスメールの住宅の後，同じ年に最初のコンクリート造のフレームが，ディーメンの洗濯屋の建物で実現した．1926年には，ヒルヴァサムの有名なサナトリウム〈ゾンネストラール〉があり，その後，アメリカの賄い付きのアパートに影響された，デン・ハーグの〈ニルワナ〉，アムステルダムのオープン・エア・スクールが続く．　この一連の建築は，1929年のスヘーヴェニンゲンにある技術訓練学校で絡結する．

コンクリートを使用した時期のフレームは，〈材料の節約〉という点に特徴がある．　この事は，一方では出来るだけ多くの光と空気を建物の内側へ取り込むことを可能にし，細身の構造体は，荷重を受けない大きな開口部をガラスで覆うことを可能にした．　また他方，材料費の方が，労働者の賃金よりも高かった時代にあっても，安価な建物を実現することを可能にしたのである．

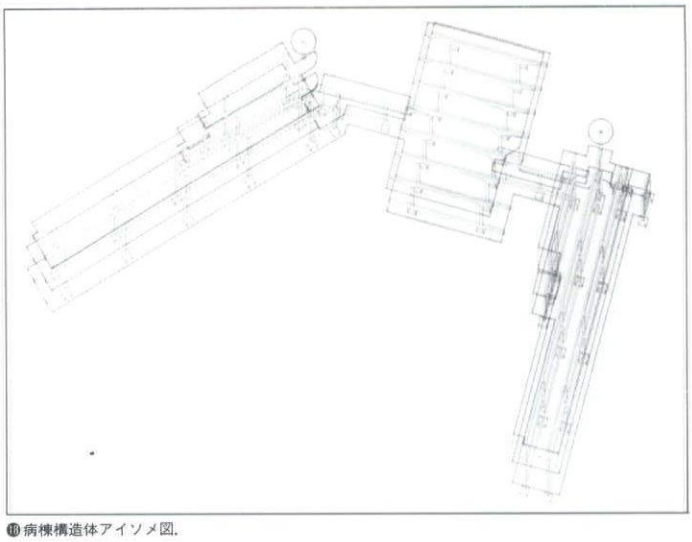
この〈材料の節約〉は，梁や床からの先細の片持ち梁を自由に使用させるに致った．　柱は，時として上の階にゆく程，細くなった．　この様にして造られたフレームは，通常，鉄製の枠付の軽いおおいによって閉じられる．　床から立ち上がる壁の高さ，プラスターメッシュ又は軽石による中空の構造，などは内側の機能によって変化する．　この建物が耐久性に乏しいのは，軽量で，かつ立面が独立していないことによるのである．　これは実験を追求する欲求と，安価で粗末な材料の使用を押し通したことによるのである．

［サナトリウム〈ゾンネストラール〉］

ヒルヴァサムのサナトリウム〈ゾンネストラール〉(1925／26) の計画では，先の様な配慮がデザイン



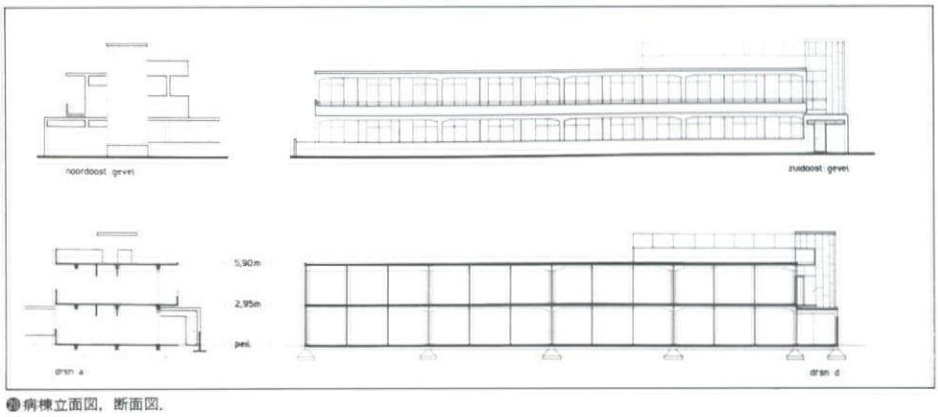
⑰〈ゾンネストラール〉病棟平面図.



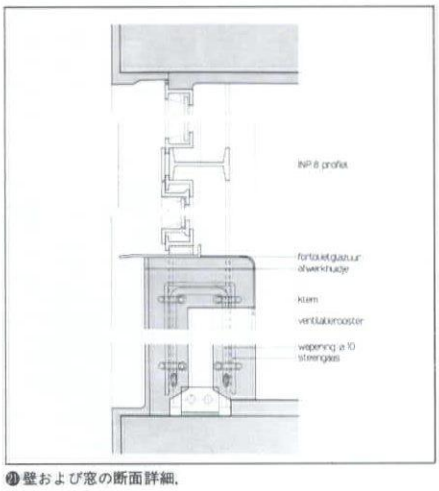
⑱病棟構造体アイソメ図.



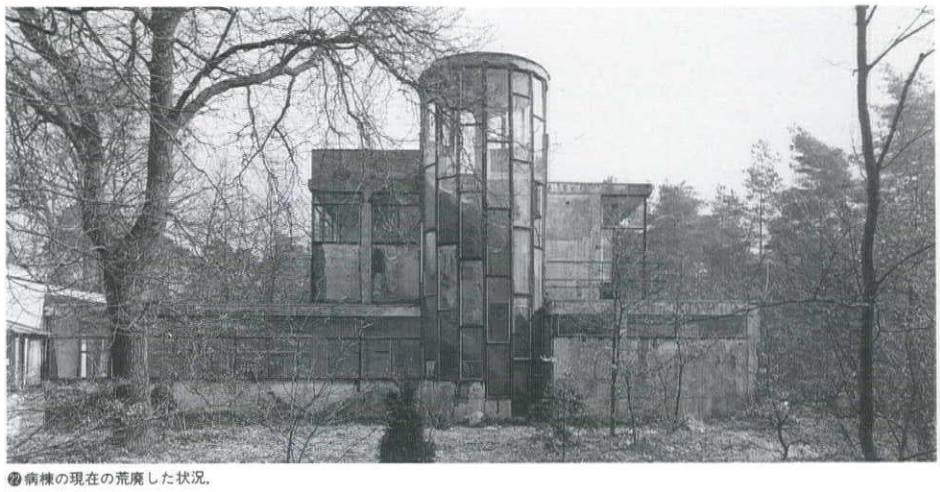
⑲病棟コンクリート躯体.



⑳病棟立面図，断面図.



㉑壁および窓の断面詳細.



㉒病棟の現在の荒廃した状況.

を決定していった．　この施設はアムステルダムのダイヤモンド労働組合が設立し，資金を供給した．その予算は非常に少なかったので，安価な建築工法を必要としたのである．　サナトリウムには大変適している木造骨組を，何故使用しなかったについては未だに不明であるが，サナトリウム内の機能が細身の開放的な構造から多大な恩恵を受けることは明白である．

患者の生活する病棟においては，ダウカー，バイフート，ウィーベンハー等が，コンクリートのフレームを如何にして建築の中へ取り入れようとしたかが窺える．　各病棟は二つの棟から成り，ラウンジによって結ばれている．　それぞれ二層の建物で，お互いに45°の角度にふれている．　このふれが，各室に，眺望と陽射を与えている．　陽のあたる側の部屋には，患者のためのバルコニー又はテラスがついており，また各部屋は北側の長い廊下によってつながっている．　頂点の部分は，螺旋階段があり，上の階及び屋上テラスへと通じている．　北側の廊下の一部は，倉庫，洗面所といったサービス部門にあてられており，その部分の屋根は上の階のテラスの床となり，テラスにはガラスのスクリーンが設けられている．

病棟は厳格に規格化されたシステムによって設計されており，施設全体は1.5mのモデュールをその基本としている．　しかしシャワー室とか，車輪付ベットの出入りのため，スウィングドアを必要とする南立面など，必要な場合には規格を逸脱している．

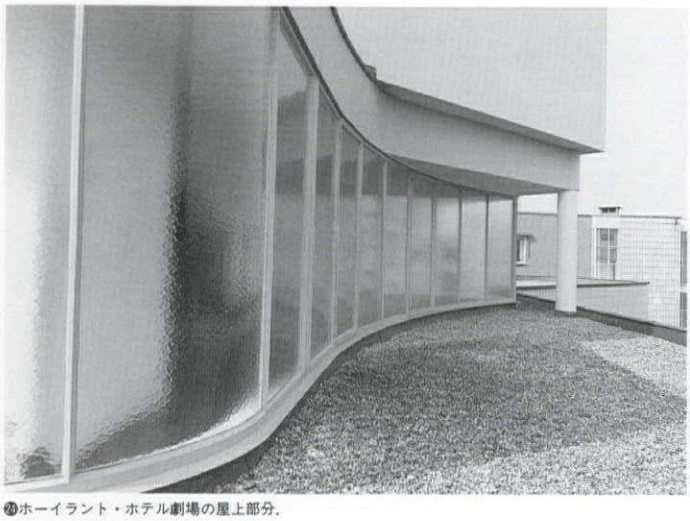
床は，縦に平行な２列のフレームによって支えられ，スパンは四つあり，それぞれ９mである．　梁は，柱の部分で剪断力を吸収するようハンチが付いている．　全体の構成原理に合わせ，北棟の片持ち梁は３mであるが，鉄製の窓枠に適合するよう，先細ではない．　南棟では，理由は不明であるが，北棟より一部屋少なく，よって建物端部での片持ち梁が無い．　北棟では，この片持ち梁がモーメントの釣合を保っている．　しかし，両棟の梁の寸法には違いがないので，この点について材料が極めて節約されているとは言えない．　しかし，そういったイメージが，ある役割を果しているのだろう．

床スラブの片持ち梁は1.5mであり，病棟を三つの部分に分けている．　梁間は病室であり，片持ち梁の部分の一方が廊下で，他方がバルコニーである．サービス部分は，第三の独自のフレームを持っている．　廊下は，片持ち梁の部分であるが，サービス部分では，第二と第三のフレームの間の空間となっている．

壁から立ち上がる壁は，垂直のＩ型鋼に取りつ



㉓ホーイラント・ホテル　現状，左手裏側が劇場．



㉔ホーイラント・ホテル劇場の屋上部分．



㉕ニュース映画館〈シネアック〉完成当時の状況．

けられた金網にプラスターを塗り込んだものであるが，その壁の上に鉄製の窓枠がのり，一部の例外を除いて上の階の床まで届いている．

◉第三期

最後の期間に現われるのは，三つの鉄骨造の建物である．　それはアムステルダムのニュース映画館シネアック，衣料品店ヴィンテル，ヒルヴァサムのホーイラント・ホテル㉓㉔㉕で(1934／36)，これはホテルであると同時に劇場でもある．　この最後の建物の全体計画はダウカーのものであり，構造についてもおそらくダウカーの設計と思われるが，完成したのは彼の死後，1935年，バイフートの手によってであった．

鉄骨造を採用した機能的な理由は，鉄骨が軽量だからであり，他の理由は，30年代には造船業が不振で，鉄鋼の値段が自由競争によって，安価であったことである．

ダウカーは軽量の構造材料を使用することによって，建物の基礎を，既存のものに新しい杭を加えるだけで済ませたのである．　この方法は，ダウカーとバイフートが，シネアック，ヴィンテル，その他で時折用いたものであった．　鉄鋼の価格が低い分だけ，シネアックの構造が複雑になったとも説明できるが，その分は基礎工事を節約したことで帳消しになっている．

［ニュース映画館〈シネアック〉］

シネアックとはニュースの新しい伝達方式であるニュース映画のことであり，迅速な情報，短時間の滞在，すばやい循環と嚙みあった極めて機能的な建物㉖㉗である．　ダウカーは，この建物を〈機能的な有機体〉と呼び飛行機と比較している．　ダウカーによれば，設計は空気や温度に関する快適な条件，又は好適な音響設備のシミュレーションに基づいているのであり，そのいずれも小さめの空間を要求していたのであった．

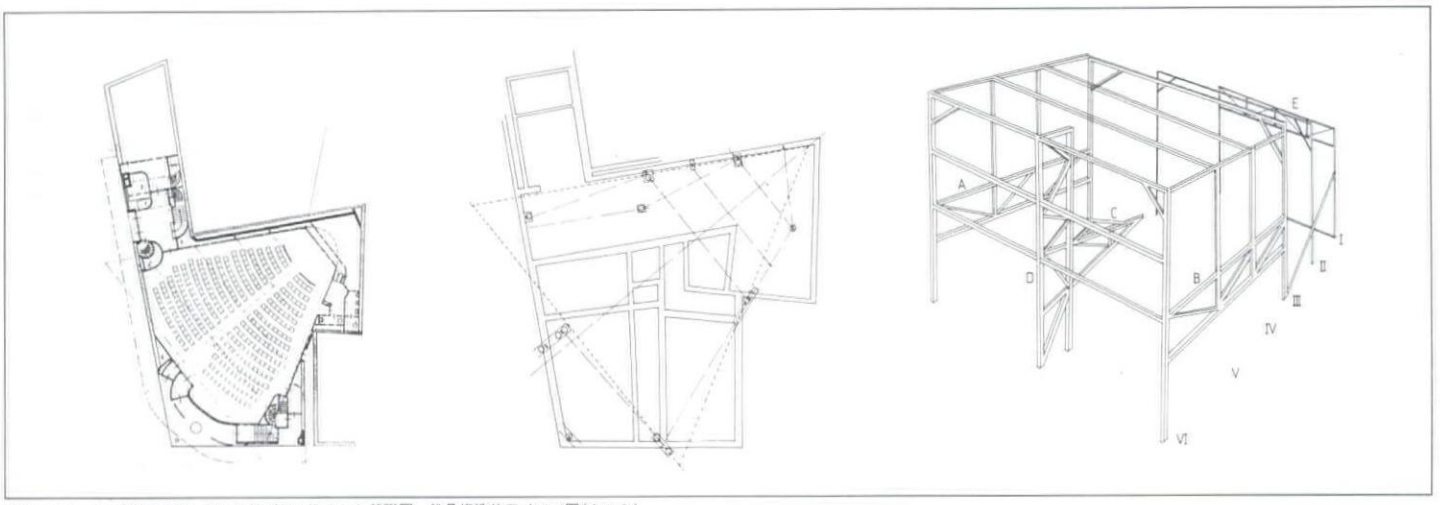
このダウカーの考えが進んでシネアックの構造を選択する際，鉄骨造を正当なものとしたのである．

鉄骨造というのは，一見するとその場その場の解決をただ寄せ集めたかの様に見える．　これは，求められている一定不変の均整が，基礎の問題によって混乱させられるからである．　求めるオーディトリアムの形態を得ようとすると，構造体の主な要素は既存の基礎と交差はするが，一致はしなかった．そこで荷重を支えるために，新たな杭を打ち込む必要があったのである．

オーディトリアムは，先にゆく程細くなり殆ど一つの点になってしまう程であるが，そこには一連の門型のトラスがかけられており，スパンが大きく



㉖ホーイラント・ホテル劇場　入口.



㉗〈シネアック〉1階平面図，新たな抗が打ち込まれた基礎図，鉄骨構造体アイソメ図(左から).

なるにつれて，その間隔があいてくる．　地下室が必要なことから，門型トラスⅣとⅤは，足元を短く切られ，ラチス梁A，Bに支えられている，バルコニーを支えているラチス梁Cは，総ての床を支えている繋梁Dに取付いている．

この建物の立面は，要求された性質をよく表わしている．　この要求とは，出来る限り軽量であること，そして敷地，音響上の，室内温度の，各条件を満たし，ダウカーの建築理念を反映することである．　しかしながら，鉄骨及びパネル仕上げの裏側には〈重い〉煉瓦壁が存在しているのである．　つまり彼の欲求は，「誰もが，煉瓦造の飛行機は飛べないという事を知っている」ということを考慮すれば，矛盾したものとなってしまうのである．

ダウカーの為した仕事は，全般にわたって，工法的にも，機能，空間の組織構成においても明快に理解しうる構造を創造したいという欲求を反映している．　装飾的な要求を廃し，新しい材料と工法を純真な手法で取り込もうとする．　このことがダウカーの建築の特殊なイメージを形成しているのである．　彼の場合構造が建築を支配することは決してなく，ただデザイン，施工のプロセス，最終的な結果の進展のために利用されただけなのである．

彼の建築の多くは単純な幾何学的形態を有しているが，これは軸線を操作することによって組織されたものである．

彼の建築を子細に見てみると，材料の用い方に関して，果して彼を純粋主義者と呼んでよいかという疑問が生じてくる．　ダウカーの工法は，建物の細部にいたるまで適切であるかという点において，あまり優れているとはいえないからである．

彼は外壁の工法として，十分考慮したうえで金網にプラスターを塗り込める方法を採ったのであるが，これは単に，習慣として，又は時代を無視して，又は経済的理由とかによるものではないのである．

彼は彼の建築を良いものにするために，進歩という観念をあまりにも信頼し過ぎたのであった．しかしながら我々は，彼が新しい技術と生産品，例えば，温風暖房，音響効果を高める空間の形態，鉄製の窓枠，鉄筋コンクリート，等を積極的に応用していく勇気をふるい起こさせてくれたこと，又プレハブ方法式のコンクリートフレーム，合理的な住宅，の開発に対して感謝しなければならない．

こういった活動を通して，ダウカーは20世紀中葉の建築の発達に大いに貢献したのであった．

（訳＝堀川幹夫）

●Jan Molema & Wessel de Jonge／建築家



●サナトリウム〈ゾンネストラール〉



●屋外作業所．　昔は妻面のガラスはなかった．



●白い壁と薄いパラペット，それに大きなガラス面による面のコンポジション．



●オープン・エア・スクール，アムステルダム． 四隅の解放によって得られた全き解放性．



●オープン・エア・スクールのバルコニー．



●教室風景．



●教室前のホール．



●デン・ハーグの集合住宅〈ニルワナ〉．ここでも再び隅の消失．貨客船を思わせるデザイン．



●スヘーヴェニンゲンの技術訓練学校．ヴォリュームの重なり，窓割りの変化．

VAN TIJEN

■ヴィレム・ファン・タイエン
Willem van Tijen,1894-1974

リートフェルト，ダウカー，ファン・デル・フルフトらオランダを代表する，いわば花形役者に対して，ファン・タイエンはいかにも脇役的であり，ファン・ドゥースブルフやアウトのような論客でもなかったが，あえてファン・タイエンをとりあげるのは，〈エコール・ド・パリ〉やイタリア・ラショナリストの〈二流役者〉が，総じて言えばいかにも亜流らしい作品しか残さなかったのに対して，モダニズムの建築王国オランダの脇役は，つつましく控え目だが忘れがたい独特の感性を感じさせる作品をロッテルダムの町のそこここに残してくれているからだ．

M．ブリンクマンから引き継がれたファン・ネレ建設を契機として，ファン・デル・フルフトを中心としてJ．A．ブリンクマン，ファン・デル・フルフトの死後ファン・デン・ブルーク，ブリンクマンの死後バケマと，オランダ建築の一主流をこの事務所が占めるわけだが，ファン・タイエンもファン・デル・フルフトの死までこのチームとしばしば協働し，その後はマースカントと共同で仕事をしている．　ファン・デル・フルフトとの協同設計で，最初の高層住宅ベルフポルダー（1934，ロッテルダム）は，すでに建てこんだ庶民住宅街の中に建てられた．　2ＤＫの平面１パターンで，鉄骨造だが窓枠は木製，連続バルコニーと端部の全面ガラス張り階段室が特徴的で美しい．　住戸内はほとんど廊下のない厳しいコスト条件の感じられるものである．　二つ目の共同住宅（1938，ロッテルダム，プラスラーン）はこれに反して郊外の高級住宅街にあり，ベルフポル



●R.Z.V.ヨットクラブ







●R.Z.V.ヨットクラブ

ダーから一歩を進め，ＲＣ造で，様々な平面の住戸，開口部の半分だが奥行の深いバルコニーが目立つ．そのほか，この共同住宅の付近にゴルフのクラブハウスとヨットのクラブハウス（1936）があって，いずれもガラスと白い壁面で構成される，オランダの国民性を映しだすような，つつましい建物である．ファン・タイエンのデザインは，ダウカーと共に最も折衷性から遠ざかり，ザハリッヒに徹していて，てらいのない完成度の高いものである．　レジャー建築にしては無駄のない平面計画に支えられ，透明感と軽さがどの建築からも感じられる．　その特色は，ヨット・クラブのインテリアとテラス，そしてプラスラーンのテラスや階段室，また特に玄関まわりのデザインにもっともよく現われている．（SI）



photo : S. Ishigami

●ベルフボルダーの集合住宅



●クラーリングセ・プラスラーン通りの集合住宅



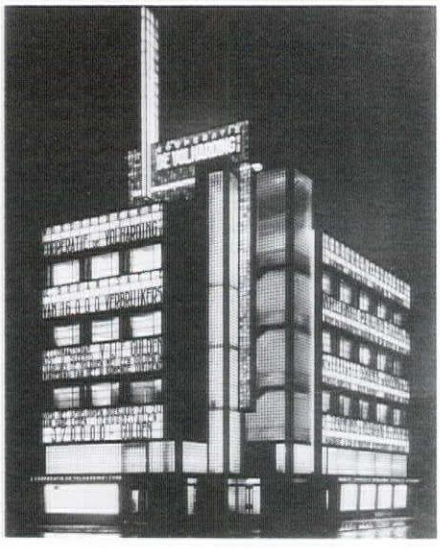
BUIJS WILS

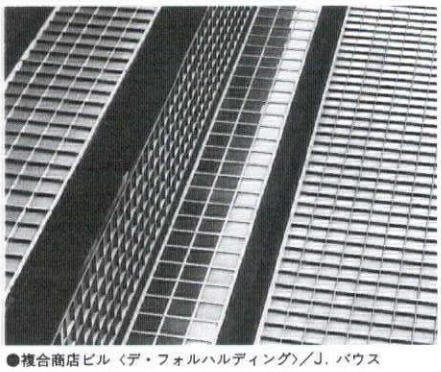
■ヤン・ヴィレム・エドゥアルト・バウス
Jan Willem Eduard Buijs, 1889—1961
■ヤン・ヴィルス
Jan Wils, 1891—1972

ヤン・ヴィルスは1917年以降のウェンディンヘン／デ・ステイル両派の対立時代にも双方の陣営にまたがって活動し，ロマンティスト／ラショナリスト双方のデザインの傾向がみられる．　その点で，この特集では除外されている当時の大スター，デュドックと類似した道をたどっており，アムステルダムのオリンピック・スタジアム（1926—28）のような大プロジェクトをも手がけている．　このスタジアムにはライト的エレメンタリズムの影響が色濃くみうけられるが，デン・ハーグのオルヴェ保険会社ビル（1932）は，より構成主義的，デ・ステイル的色彩が強い．　デ・ステイル絵画そのものの丸窓のステンドグラスのほか，壁面や手摺の色使いもいささか中和されてはいるがデ・ステイル的といえる．　これらの建築は戦前の石本喜久治，堀口捨己をはじめとする数多くの商業ビルの手本になっているのではないかと想像される．

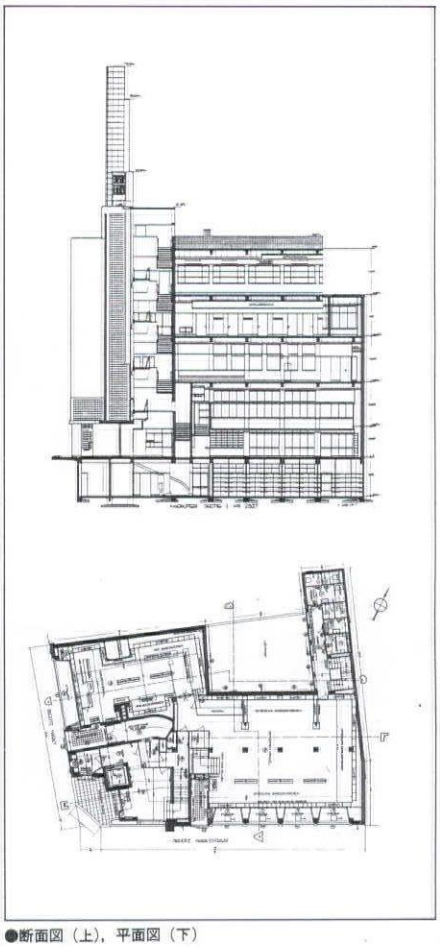
バウスもヴィルスと同様に，ロマンティスト／ラショナリスト両派のデザイン傾向を共有している．　だがバウスの驚くべき点は，ヴィルス，デュドックらとは違って，それぞれの方向に突出した作品を全く同時期に残していることである．　ヴィルスよりずっと評価は低かったが，個々の作品はきわめて表現的で，今日でも新鮮だ．　なかでもバウスの名以上によく知られているデン・ハーグの複合商店ビル，デ・フォルハルディング（1927—28）は，ごく細かな格子をかけたガラス，しかも多くは不透明ガラスで全面をおおい，垂直・水平の枠どりを強調した，明らかにロシア構成主義的なデザインでできあがっている．そして夜間は内部の照明によって，この全面ガラスの建物は巨大なイリュミネーション広告塔となる．　現在では，夜間照明は実施されていないが，当時の写真で見ても，そのモダニズム的美しさは同様の手法による多くのアール・デコ建築を遙かに凌駕している．

ところが，バウスの他の作品，例えばルドルフ・シュタイナー病院（デン・ハーグ，1926—29）を知ることによって，この建築家に対する驚きは倍加してしまう．　チェコ・キュビスムを想わせる彫刻的形態，デ・クレルクにも通じるレンガ，木，シングル葺きといった素材の混合，ミステリアスな内部空間．しかもこれが，あの超近代的なデ・フォルハルディングと全く同年代につくられたことを考えれば，バウスこそ分裂症的天才デザイナーと呼んでもいいだろう．(SI)





●複合商店ビル〈デ・フォルハルディング〉／J. バウス



●断面図（上），平面図（下）



photo : S. Ishigami

●ルドルフ・シュタイナー病院／J. バウス



photo : S. Ishigami



photo : K. Ito

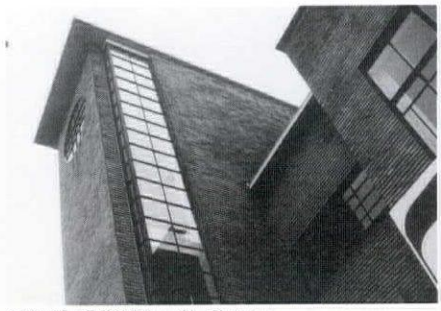
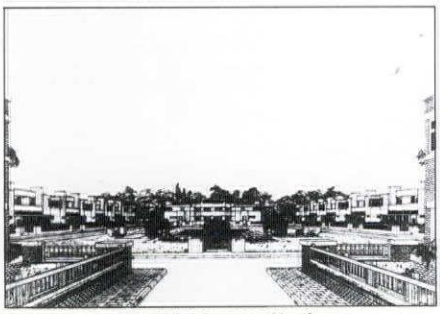


photo : K. Ito

●オルヴェ保険会社ビル／J. ヴィルス



●パパーフェルホフの集合住宅，1922／J. ヴィルス

F.P.J.PEUTZ 1896—1974

古典主義および近代主義の本質を追求した建築家ペウツ

ヴィール・アレッツ＆ヴィム・ファン・デン・ベルフ

F.P.J.ペウツの作品には，反抗としてのではなく，
古典主義からのスムースな移行としての
モダニズムを見ることができる．
1920，30年代に辺境の町ヘールレンで活躍した
ペウツにみる，〈もうひとつのモダニズム〉．
著者のアレッツとファン・デン・ベルフの２人は，
同じくヘールレンに生まれ育ち，
ペウツの作品を愛し，
先年彼の完璧な作品集を編んだ若い建築家である．



●F.P.J.Peutz,1932

F.P.J.ペウツの建築はオランダ建築史上でもユニークな存在である．　彼はロースが言及した意味での近代建築家でありながら，建築史家がオランダの近代建築史を説明するにあたって用意したいかなる枠組みにも属さないのである．　ベルラーへの思想は，合理的なもの，と神秘的なものとの混在であったが由に，〈デ・ステイル〉と〈アムステルダム派〉のあれ程異なった活動ばかりでなく，ペウツ等，個人の建築家の活動の出発点ともなったのである．　ベルラーへの提案した議論の主題は，建築家の職能の位置づけに関するものであった．　ベルラーへは当時の状況が，工芸と芸術の分離によって窮地に陥っているとし，この事が最も大きな問題であると言明したのであり，かつ両者を再び統合する道を提唱したのであった．　この捜索は，やがて倫理上の，そして様式の本質に関する議論へと転化していった．ペウツはこの議論からは遠ざかり，芸術に関する多くの試論をよそに，彼の建築作品を通してのみ語ったのである．

こういった論争は，リートフェルト，アウト，ダウカー，ファン・デル・フルフトといった建築家を〈英雄〉にしたてあげた．　彼らは，大抵一つの作品，例えばシュレーダー邸，キーフフーク，オープン・エア・スクール，ファン・ネレなどによって知られている．　我々がオランダの近代建築について語る際に，何度もこれら数少ない建物に直面するのは，それぞれの建物が個々の建築家のマニフェストであるだけでなくある集団を代表しているからなのである．

ペウツは，自由であり，自分の職能についての責任を感じ，論争はすべて建設の仕事へと向けさせたのである．　彼は建設者であり，建築家でありそれ以上でもそれ以下でもなく，彼の個人的な意見は常に建築作品を通して表明され，それは彼が直面する問題に対する現実的な答えなのであった．

そこで我々はペウツの立場を，20年代，30年代の建築運動に起こりつつあった倫理主義及び，如何に住まうかということについて，建築家がどの様に社会を啓蒙し得るかを論ずる楽観主義，に対し最も批判的であった１人として解釈することができる．

彼は同世代の人達の中に絶対者を求めることに対抗し，彼の啓発された思考は，当時彼が現実性を全く見い出すことのできなかった建築上の問題に対し，より広範な基盤を形成したのであろう．　この点について，アドルフ・ベーネが1920年に出版した本《現代実用建築》(Der Moderne Zweckbau) を対比させると興味深いかもしれない．　ペウツとベーネの批評見解を描写してみると，現代のモダニスト，ポスト・モダニスト達から洩れてしまった建築へのアプローチ，並びに建築固有の原理から派生する価値と質をくっきりと描き出す建築へと到達するのである．　逆説的になるが，建造物が個性を有し，その意味を獲得するために外部への照会を必要としない時，建造物は建築となるのである．

ペウツは作品の中で，記念主義，地域主義を提示するが，これは通常のこの言葉の意味するところよりはずっと深くまで進行しているのである．　彼の建築は決してマニフェストではないが，常に不安定な状況に対する具体的な解答であり，形而上学的特質をそなえている．　それは恒久的な建築ではないにせよ，建築の存在の重要性に，より高い次元を与えることのできる質の中にその活力を秘めている，真に建築の過去と未来の存在を信じている建築なのである．

近代主義における機能に関する議論は，形態を，さらにその学習と探求を放棄することで終った．ペウツや後のJ.J.P.アウトの試みは，様式と建築本体の問題に直面しており，それは，復古主義的な障害物であるとみなされた．　そこで一方では仕事と職業，他方で芸術と様式，これがF.P.J.ペウツの思想，及び建築における独自の主題なのであった．

彼を同世代の建築家と比較した場合，最も注目すべきことは，様式に対する全く無関心な態度である．　彼は様式を蓄えることの可能性の総てを把握しており，彼の仕事に対する形態に捕われた批評は，初めから拒絶した．　彼は，技術と材料を使用するのと同様，建築の様式を用い，材料と様式，又は技術と歴史の重ねあわせを楽しんだ．

彼の描いた図面は，ちょうど彼の好んだ画家，ヴィレム・ファン・コナイネルブルフの作品同様に，秩序の内面的な本質，及び感情を喚起させる原理を探求する研究のごとく見えるのである．　ペウツは，この画家に関しいくつかの評論を書いており，ベルラーへもまたこの画家の作品を，建築的性格を有するとして賞賛している．　ペウツとファン・コナイネルブルフに共通の特徴は，オランダの南端部，彼らが〈イタリア的〉と評した丘陵地帯への深い愛着の念である．　この擬似風景の中で，彼の建築は都市とその周辺の物質的及び文化的な風景をくっきりと描き出そうとする試みであると見ることができる．彼の活躍した町，ヘールレンはドイツ及びベルギーの国境に近い，ローマ時代に建設された町で，その頃オランダ鉱業の中心地であった．　彼はこの地にいくつかの際立った作品を残しているが，その記念性と地域性によって，都市における，記念物の不可欠な要素となっている．　我々がペウツの作品の中に見るような，秩序の概念の本質を探求することは，古典主義が歴史上の発展の中で到達した結果であった．　それは都市の，又建築の意味を再び獲得することであるが，その探求は自然や機械の隠喩に基づくものではない．

彼の広範囲な仕事にわたって，個々のデザインが一つの特異な建築となっている．　例えば，ヘールレンの市庁舎，シュンク・デパート（ガラスの宮殿と呼ばれる），ロイヤル映画館，静養所，そして彼の自邸などである．　いずれの建物も，自律的に，実体のある建築的重要物なのである．

彼は1896年，オランダ北部に生まれ，デルフト工科大学に学び，その後ヘールレンに建築事務所を開設し，1974年この町で死去した．

建築史上あまり知られていないことではあるが，炭坑の工業建築と，田舎風の建築が彼の建築のイメージの支配的な部分を形成しているのである．

彼の態度は，様式と倫理を同じものとみなすものでもなければ，技術を，制限を加える条件とみなすものでもなく，彼は様々な状況を生み出すことのできるすべてのヴァリエーションを自由に用いた．それは，彼が建築について，そして職業について唯一の考えを持っているからである．　すなわち彼は，建築家は論理と感性をもって，自分が入手可能な建築の道具，材料を使用すべきであると考えていたのである．　おそらくこの態度は，ペウツのモダニズムの最も本質的な面と考えられ，この点において我々は彼を，オランダの特殊な集団，又は活動に属する現代的古典主義者と呼ぶことができるし，彼の仕事をアスプルンドの建築と比較するのが最も良いであろう．

ペウツの作品の中には，我々がマニフェストとみなすものは一つとしてないが，彼はオランダにおいて，合理主義，現実主義，経験主義を複合した結果としての建築を生み出した熟達者なのであった．彼の建築は，建築の歴史と，彼自身の発明に基づく基本的な人間の条件を探求することなのである．

●Wiel Arets, Wim van den Bergh／建築家

F.P.J.PEUTZ 1896—1974

■U.L.O.スクール ❶❷

U.L.O.school, Heerlen, 1931

■ペウツ自邸 ❸❹❺❻

House of the architect, "Op de Linde", 1931

(linde: linden, シナノキ)

ペウツの自邸の建つ敷地は五叉路に面している。階段室は住宅の中央部の脊椎となり，二つの主要な部分，すなわち，それぞれ通りに面する，向きの異なる二つの区画を連結させている。　ファサードは，灰色のケイ岩プラスターで仕上げられ，水色に塗られた鉄製のドアと窓枠が配されている。　北側のファサードの装飾のまわりの螺旋状の構成は，単に開口部が美しく調和を保って演出されているだけではなく，ファサード平面がずれることによって強調されているのである。　鮮かな色彩をおびた中2階のホールから，階段を下れば，下階の事務所へ通じ，のぼれば中間の小部屋に至り，そこはガラスの引戸によって居間と仕切られている。　3階，4階は，寝室，浴室，ルーフテラスによって占められている。

■ヘールレンの静養所 ❼❽❾

House for retreat, 1932

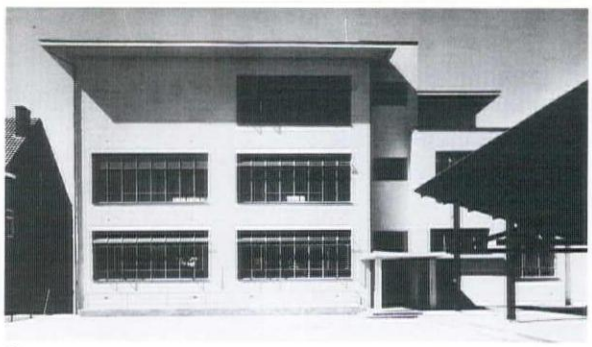
この静養のための施設は，ヘールレンの中心街のすぐ外側に位置する緑の丘の上に建っている。　ここは約50人の婦人が2，3日静養し瞑想するための場所であり，かつ，ローマン・カソリック教会の宗教会議，又は研修用の場所でもある。　この土地は鉱業がさかんであり，このため地質上の障害によって建物の基礎に問題が生じることが予想されたため，建物の構造は，非常に薄い石膏板によって被われた鉄骨造であり，よって地盤沈下によって生じる変形に十分応じることができるのである。

地下室には，台所，倉庫，洗濯室，衣装部屋，車庫，暖房設備などの部屋がある。　1階は，食堂，居住者のためのホール，二つの礼拝堂といった共有の空間によって占められている。　2階と3階は寄宿舎となっている。　大きなテラスからは，周辺の美しい風景へ視界が開けている。　そこでこの建物は，その構造ばかりでなく，組織の機能においても，遊覧船と比較されるのである。

■シュンク・デパート ❿

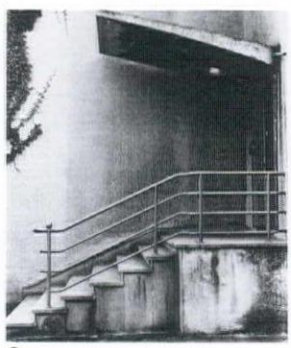
Departmentstore "Schunck", 1933

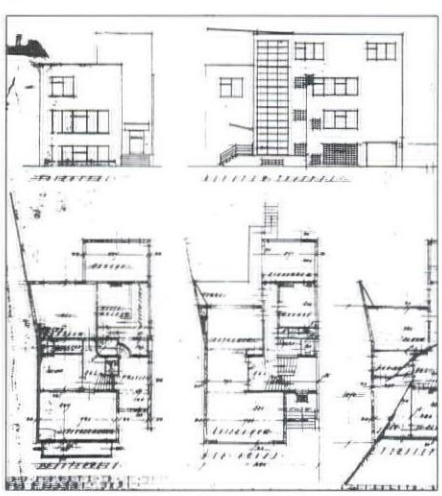
装身具店は，教会広場と市場広場の中間に位置している。　この建物は古い記念建造物である教会と近代都市の間で，建築言語を表現している。　当初は，

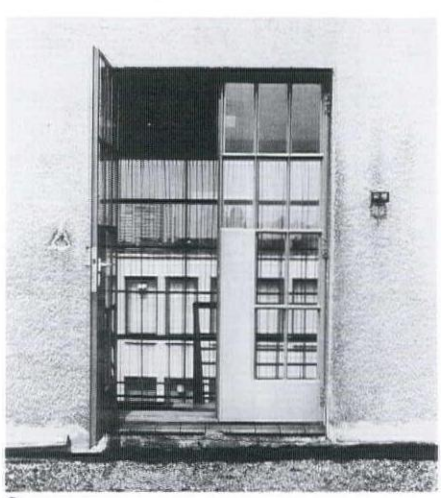

❶


❷

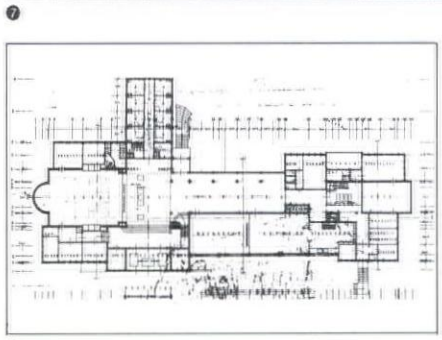

❸

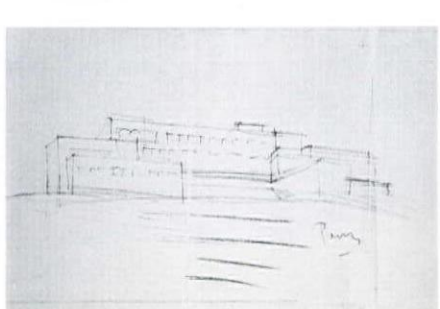

❹


❺


❻

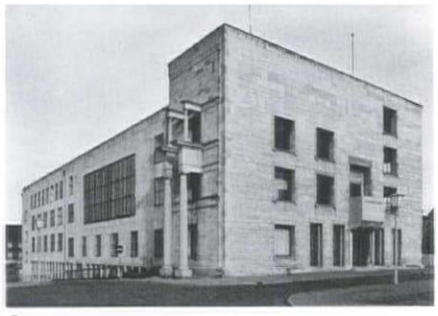

❼


❽

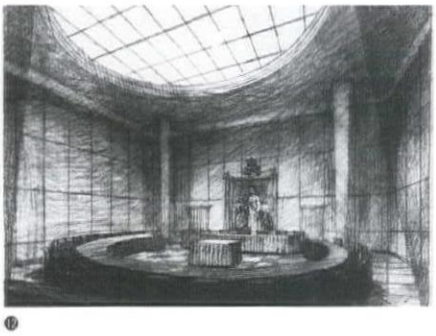

❾



photos: W. Mantz ⑭



⑪



⑫

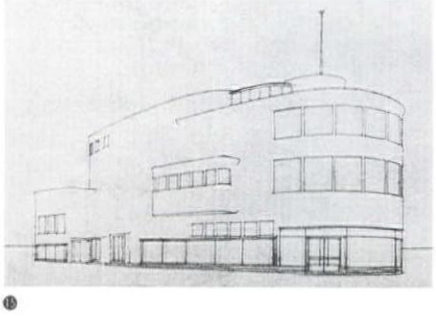


photos: J. d'Oliveira ⑬

⑬



⑭



⑮

旧店舗の増築部分として計画されたが，新しい販売方式確立の必要から，旧店舗とは橋によって接続する自律的な建物となった．　店主であるシュンク氏は，以前は見本による在庫販売をしていたが，1933年に，ちょうど市場のように，展示品を販売する方式に改めることになり，そこで，まるで市場のように商品が吊り下がり，積みあげられた建物という着想が生まれた．　それは，きのこ型の柱に支えられたガラスのカーテンウォール構造で，最上階の床とガラス面との隙間の窓を開閉自由にすることによって，自然換気が得られている．

地下は二層で，倉庫と設備室にあてられ，1階の売場は二層分の高さがあり，陳列棚の並ぶ通路と，天井から吊られている中2階の事務所がある．　その他の階は，裁縫室となっている最上階を除いて，総て売場にあてられている．　町の中心に建つこの店舗の屋上には店主のための2階建てのペントハウスがありその屋上庭園とテラスからの眺望はすばらしい．

■ヘールレンの市庁舎　⑪⑫⑬

Cityhall at Heerlen, 1936／42

ヘールレンの市庁舎は，単に町にとっての記念建造物ではなく，ヘールレンがその地方全体の中心であると知らしめるためのものでもある．　この建物は，町の中心街の端に位置し，旧市庁舎が街の中心部に向いているのに対し外側に向いている．　実際，この建物は異なった時期に建てられた二つの部分から成り，最初のものが主要な区画で（この中に，玄関ホール，大階段のあるメインホール，市長及び助役のための部屋，そして2階には市議会室がある），後に建てられた区画には，官吏の部屋に囲まれた公共ホールが収められている．　ファサードは，フランス産の黄色い石灰石の壁に，濃い灰色に塗られた鉄製のドアと窓枠がついている．　内装の壁面材は構造体であるコンクリート，及び煉瓦であり，黒い石灰石の床とは対照に白く塗られている．　この細部にまでわたって美しい建物の中で，微妙に調和のとれた壁面構成とともに最も際立っているのは，西側面に立つ2本の古典的な柱であり，これはヘールレンの町の起源であるローマ時代の歴史に関係しているのである．

■ロイヤル映画館　⑭⑮

Movie theater "Royal", 1937

オランダでも最も大規模なものの一つであるこの映画館は，ヘールレン駅近くの狭い三角形の区画の角に建てられ，僅か4ヶ月で完成した．　構造体はコンクリートで，仕上げは灰色のプラスターに，平滑な鉄製の窓枠さらにコンクリートの軒蛇腹が付いている．　建物の内部には，桟敷型の雛壇式観覧席が，4本の巨大な柱の上に直立している．　1階への進入の方向は，入口及び中央の切符売場，階段の曲線とその中央に立つ，きのこ型の柱との兼合いによって決定されるが，ホールの中では，観客席に対して釣合うよう方向が変化している．　3階はホワイエにあてられ，建物の外側に張り出された二つの洗面所がある．　桟敷席の入口は4階にある．　5階中央の鼓状部は映写室となっている．　（訳＝堀川幹夫）

ベルラーヘの築いた財産，とその相続人たち

堀川幹夫

オランダにおける機械時代の幕明けは，決して早い時期とはいえない．　1820年代，英仏両国ではすでにスパン150mを越える吊り橋が出現しているのに対し，依然として石と木によって橋を築き，鉄に課せられた役割といえば，僅かに石や木の代用品でしかなかった．　しかし，1840年代には〈建築の進歩を促進するための協会〉，〈王立技術者協会〉が相次いで設立され，1849年には，マース川に掛かるスパン160mの鋳鉄製の橋が計画されるに及んだ．

鉄の使用は一般に普及しつつあり，W.N.ローズは4階建ての事務所建築において，モールディング，敷居，窓枠，柱，ブラケット，梁，トラス等の総てに鉄を使用してみせると同時に，1854年次の様に述べた．　「五つのオーダーは，もはや我々の目的に任えてはくれない．　しかし我々は，その代わりに何を用いるべきかを未だ知らない．」　ここで彼の内部には建築への鉄の導入，並びに折衷主義様式に対する葛藤がみられる．

これが，後のJ.レリマンの場合になると，より深刻となり1869年彼は次の様に表明する．　「真実は建築のモットーであり目的である．」　真実の建築とは，目的に叶っており同時に自己が何者であるかを顕示しなければならない．　建築は基礎から屋根に至るまで，見せかけでない理由のある真実の集積でなければならないと訴えている．

この合理主義思想は，ヴィオレ・ル・デュクの著作がオランダで入手可能となる1860年代以前から議論の的となっていたのであり，後のベルラーヘへの〈空間理念〉へと発展する礎となったのである．

◉先駆者P.J.H.カウパース

今世紀初頭のオランダにおける〈デ・ステイル〉及び〈アムステルダム派〉と呼ばれた二つの建築運動が，1人の建築家H.P.ベルラーヘ（1856-1934）の影響のもとから派生した事実はよく知られており，彼の業績の全貌が歴史家によって，未だに明らかにされていないとしても，彼をオランダ近代建築の父と做すことに異論はないであろう．

しかしその前に，彼の先駆者たる建築家P.J.H.カウパースを挙げねばならない．カウパースはアムステルダムの国立博物館（1885），中央駅（1889）の設計者として知られるが，専らヴィオレ・ル・デュクの合理主義思想の伝達者として論ぜられる場合が多く，事実彼はヴィオレ・ル・デュクの信奉者であった．　カウパースが実践し，次の世代に伝播した，ヴィオレ・ル・デュクの思想とは「建築は過去の傑作を学ぶことによって，自らの時代が命ずる材料を選択し，状況に見合う自分自身の統合の手法を確立しなければならない．」とする主張に要約される．　ヴィオレ・ル・デュクが合理的建築の規範とみなしたのがゴシック様式であり，カウパースもまた，数多くのローマン・カソリック教会を手懸ける際，カソリシズムの最盛期を象徴する様式として，ゴシック様式を採用し，そのゴシック様式への信仰は後の公共建築の設計へと波及している．　そこで彼は，過去の様式を研究する傍，様式に付着する既成概念を払拭し，その根本原理の再考に努めた．

そしてもう一つ，カウパースの仕事の内に重要な教示が潜んでいる．　それは〈煉瓦壁の復権〉である．　19世紀末の合理主義者達は，長きにわたる古典主義の影響に冒された建築及び都市環境を忌むべき対象とみなしており，確かにその影響は，隅々まで浸透していた．　それは，郊外に建つ古典主義様式の邸宅ばかりでなく，都市の中の町家の多く煉瓦壁が，プラスターによって塗り込められてしまっていたという事実によっても明白である．　カウパースは，オランダの伝統的建築材料である煉瓦こそが〈時代の命ずる材料〉と確信し，二つの代表的な公共建築を，煉瓦で覆ってみせると同時に，煉瓦による表現の可能性を提示したのであった．

以上述べたカウパースの理論と実践は殆どそのままベルラーヘに引継がれたが，実際にベルラーヘの建築作品に影響を及ぼしたのは，カウパースの建築よりは，ヴィオレ・ル・デュクの合理主義思想であった．この事は，例えばベルラーヘの代表作であるアムステルダム株式取引所（1903）の意匠を仔細にみると，ヴィオレ・ル・デュクの〈事典〉に見られる分析の影響が明瞭に認められる事によって知れる．

先に述べた様に，ヴィオレ・ル・デュクの思想がオランダに紹介される以前から，真実の建築を目指す合理主義思想は，芽生えていたのであり，この点においてカウパ



●St.ヒュベルトス荘，オッテルロー／H.P.ベルラーヘ



●アムステルダム株式取引所／H.P.ベルラーヘ



●国立博物館／P.J.H.カウパース

ースを過大評価すべきではないが，とまれ，総ての叡知がベルラーヘに結集したと言って良いであろう．

◉様式の確立者ベルラーヘ

ベルラーヘもまた，過去に現われた建築様式を解体することから始めた．　一端，各要素にまで分節化された様式の断片は，再び彼によって統合される．　この時彼は〈多様性の統一〉という常套表現を用いる．　これは，彼の発明ではなく，G.ゼンパーによって定式化された概念であり，ベルラーヘは，ゼンパーの合理主義にも多くを負っているのである．　ベルラーヘにとって，〈多様性〉が〈統一〉されるところに〈安らぎ〉が存在するのであり，彼は歴史上の素晴しい建築の総てがこの〈安らぎ〉という本質的な性質を獲得していると信じていた．　社会主義者であった彼にとっては，労働者階級のための〈安らぎ〉を達成することが，彼の創造活動の目的であり，この時〈安らぎ〉という言葉は究極的に〈様式〉という言葉に置き換えられることが出来る．

この〈多様性の統一〉を達成する為に，彼は三つの原理を主張する．　それは，幾何学的法則の使用，空間の最優先，装飾を廃し，合理精神に貫ぬかれた壁面の創造，の3点である．

以上述べたベルラーヘの思想は，1903年に完成したアムステルダム株式取引所に集約された．　そこでは，三角形分割による組織比例による調和の美を追求し，構造及び材料の選択は常に真実の秩序に基づき，滑らかな壁面の複合的構成によって空間を顕在化させている．　この建物が完成した折，ベルラーヘのデザインの源泉をめぐっての議論がおこり，エジプト，イタリア，ロマネスク，アメリカといった，種々雑多な様式が取沙汰された．　この事実は，取りも直さず，彼によって厳しく吟味された各要素の〈多様性〉の中に〈統一〉がなされた，すなわち〈様式〉が生み出されたことを意味している．

彼の建築創造活動の中で，この株式取引所の存在は極めて大きく，彼がここで提示した合理主義，機能主義的アプローチが，彼に対する評価を決定づけたと言える．

しかし，ベルラーヘがクレーラー家のためにオッテルローの森の中に設計した，猟小屋，St.ヒュベルトス荘（1919）においてベルラーヘは，St.ヒュベルトスが狩に出た際，その頭上に十字架を頂く鹿に出会った，という中世の伝説を，この建物に呼びさましているのである．　両脇の建物は，鹿の枝角を表わし，中央部の塔は，まさにその十字架を象徴するべく，建物の平面と立面が巧みに操作されているのである．

ベルラーヘの合理主義者としての側面と共に，見落してはならないのが，この隠喩的，象徴的な空間造形にとり組む表現主義者としての側面なのである．　すなわち，ベルラーヘは，合理主義者であると同時に表現主義者でもあり，彼の内包する二重性が，ベルラーヘを，延いてはオランダの建築全般を理解する上での鍵となるのである．

その昔，オランダの国土はオランダ人によって拡張された．　国中に運河を張り巡らし，風車を用いて水を北海へ掻き出し，弱い地盤に杭を打ち込み，その上に建てられた建物はお互いに壁を共有しながら身を寄せ合い，荷重を支える必要のなくなったファサードは，採光，通風，荷物の搬入のため，大きな開口を持つに到った．　この様にオランダの国土は，その総てが機能的な構造の集大成であるが，同時にピクチャレスクで，可愛らしい，浪漫的環境を求めるという国民的特質も見逃すことが出来ないのである．　ベルラーヘの活動の場は，17世紀の黄金時代から殆ど隔っておらず，彼の，そして歴史の内包する二重性こそが，あれ程異って映る二つの建築運動の源泉となり得た背景なのである．

◉オランダ建築の二面性

この二つの活動は，歴史家の手によってあまりに遠くへ引き裂かれてしまった感じがあるが少なくとも，1人の建築家ベルラーヘの影響を出発点とし，彼が熱心に吹聴してまわったアメリカの建築家F.L.ライトの影響を受けている点で共通である．

アムステルダム派を代弁する建築雑誌《ウェンディンヘン》は，一般に考えられているよりは遙かに広範囲にわたる情報を収集しており，そこにはヴィルス，ダウカー，タウト，ベーレンス，といった建築家の寄稿も見られる．

デ・ステイルは，より議論好きの立場を堅持していたが，それでもアウト，ヴィルス，リートフェルトといったグループの主要メンバー達は，表現主義的な建築から出発している．

この事は，際立った相違を顕示する両グループが，ベルラーヘの内包する二重性をある程度，共通するところから出発していたのであり，少なくともそれは，デ・クレルクが他界し，ファン・ドゥースブルフがパリへ向かう頃迄，認められた現象なのであった．

●ほりかわ・みきお／明治大学大学院神代研究室

オランダ建築の近代前夜

モダニスト百花繚乱

石上申八郎

◉オランダ都市の競嫣（モダン・シティ・コンテスト）

アムステルダム，デン・ハーグ，ロッテルダム，ユトレヒト…．　これらのオランダ主要都市はそれぞれ，車や電車でわずか30分以内の距離にある．　そしてそこにある近代建築の質×量の総和（つまり見るべき価値の合計）は，ヨーロッパのどの大国をも上まわっている．　少なくとも，それに匹敵しうるのはドイツをおいてほかにない，というのが10年前に初めてオランダを回ったときの，全く先入観と知識をもたない私の印象だった．　これだけの狭い土地にすばらしい近代建築が集中しているさまは，初期ルネッサンス美術のトスカナ地方に例えられる，といったらひいき目に過ぎるだろうか…．

Amsterdam——ロッテルダム方向から向かってアムステルダム中央駅に入る直前，左の車窓から暗い小豆色をした見覚えのある紡錘形の塔がちらっと見える．　デ・クレルクのアイヘンハールト団地．　考えうる限りの，窓形と壁面のうねり，そして異邦への郷愁をさそわずにはいない塔の姿．ガウディやF.L.ライトと並び称されたであろう天才建築家．　もしも39才での死というアクシデントが起こらなかったなら…．そのデ・クレルクと彼の師や仲間たちの，いわゆるアムステルダム・スクールの凝りに凝った労働者向けの集合住宅が，アムステルダムの町中にはいやというほど建ち並んでいる．　そして都心には，あのベルラーへの株式取引所と，東アジアへのあこがれの結晶，内外部ともに装飾でうめ尽くされた映画劇場トゥシンスキー（こんな空間で，たった数百円で新しい映画が見られるという幸福もアムステルダムにはあるというもの）．　なにはともあれ，デ・クレルクまでは，建築は巨大な彫刻にすぎなかった．それは……

Utrecht——郊外に3原色のシュレーダー邸ができあがる前までの話だ．　この住宅では，スラブが全く自由に組み合わされて，外観からはほとんど上下左右の方向感覚が消え，内部からは〈部屋〉という概念がきれいに取り払われている．　ほかにもリートフェルトの二つの線型アパートがあるが，ここではプランは機能主義的に，素材とデザインはノイエ・ザッハリッヒカイトの典型へと移行している．　われわれがいま興味を向けようとしている，そうした運動を生んだ町……

Rotterdam——は，ナチス・ドイツの空爆によって壊滅的な打撃を受けたにもかかわらず，オランダ近代建築の象徴ともいえるファン・ネレ工場を生かしつづけることによって，今もラショナリストの根拠地でありつづける．　工場＝監獄という，産業革命からチャップリンまでのイメージは，社会主義を信じる経営者と建築家の力によってつくられたこのガラスと繊細なスチールでおおわれたRC構造の工場の前でくつがえされる．　しかも徹底したフレキシビリティを含むすぐれた機能性は，現在でも改変を必要としないほどなのだ．　そんな機能性，思想性もさることながら，ファン・ネレはいまでも惚れぼれするほど軽快で美しい．　ロッテルダムでは，ファン・ネレの設計者ブリンクマン＆ファン・デル・フルフトの住宅やサッカー場のほか，J.J.P.アウトのキーフフーク団地，ファン・タイエンの高層住宅などを見ることができる．

Den Haag——デン・ハーグは，オランダ政治の中心地であるにもかかわらず，町中どこも軽井沢といった感じで，建築はどれも広い敷地内に別荘のように建っている．　インテリアにデ・ステイルの影響を感じさせる後期ベルラーへの代表作，市立美術館．　戦艦を思わせる高級アパート，ダウカーのニルワナ．　リートフェルトの白い小住宅，ヴィルスのデ・ステイル風インテリアの保険会社ビル．　そしてダウカーの作風を決定したスヘーヴェニンゲンの技術訓練学校．　いずれも派手な大建築ではないが，〈巨大な田舎町〉にふさわしい落ちつきをもっている．　だが一人，例外的な建築家ヤン・バウス．　ヴェズーニンのプラウダ案を思わせる大胆な広告塔建築，デ・フォルハルディングのモダニティと，神秘主義的なルドルフ・シュタイナー病院の設計者．　もう一つ忘れられないのは，中心街に立ち並ぶショップが，ほとんどアール・デコで，しかもこの町にふさわしく，気品にみちて美しいことである……．

こうして近接するいくつかの大都市は，20年代オランダ建築が徐々にモダニズムの流れに傾斜する中でも，それぞれはっきりしたアイデンティティを保っている，というのが特色だ．　そこからアムステルダム↔ロッテルダムという対立も生まれている



●映画劇場トゥシンスキー，1920-21／H.L.デ・ヨング



●映画劇場トゥシンスキー



●ジュネーブ駅計画／M.スタム

が，実際の町の建築はもちろん両極に完全に分断されているわけではない．

◉モダニストたちの多彩な活動と作風

すぐれた近代建築を数多く生み出した，という意味では，No.1に挙げられるべきオランダの名が忘れられやすいのは，おそらくグロピウス，ル・コルビュジエ，ミースといった〈巨匠〉を欠くせいだろう．　たとえば，理論家，宣伝家にして，画家でもあり，第三世界の都市計画にまで手をのばしたスイス，ジュラ出身のル・コルビュジエ．　そうした多様性は，オランダにおいては何人かのアーティストによって分担された．

①デ・ステイル・グループ．　設立者の画家モンドリアーン．　画家，理論家のファン・ドゥースブルフ．　その協働者ファン・エーステレン．　ロッテルダム市役所の建築家アウト（彼の場合，短期間のデ・ステイル参加ののち，デ・ステイル的味つけの機能主義，そして連続する白い壁面のインターナショナル・スタイルへと向かう），そして職人的建築家リートフェルト．　その周囲にヴィルスやバウス．

②ファンクショナリズムのグループ．行動的で，プロトタイプ志向のマルト・スタム．　構造家兼建築家ウィーベンハー．大企業や公共建築のファン・デル・フルフト，ブリンクマン，ファン・タイエンのチーム．　集合住宅のほか多種多様な商業建築を手がける正統的デザイナー，ダウカー，バイフートのチーム．　その周囲にメルクルバッハなど．

③以上に加えて，デ・ステイル美学をレンガ建築にとり入れ，一般受け路線をいく，デュドック，ヴィルスや後期ベルラーへ．　折衷的なこのグループの登場で，分担制は多層構造を取りはじめる．

彼ら相互，および彼らの名の陰に隠れ，時代と空間を横断した協働者たち——例えばシュレーダー夫人——との間の接触，交流，協働によって，モダニズムの運動が加速し，結晶していくのは，もちろん全ヨーロッパ規模でのベーレンス，リシツキー，ル・コルビュジエ，グロピウスらの交流と対応している．

例えばマルト・スタムは，1922年ベルリンでリシツキーと接触して以来協働し，1924年にはバーゼルでABCグループを結成，その後帰国してファン・ネレの設計に加わる．　構造と動きを軽快に露出させ，地上交通をフリーにしたファン・ネレの方法は，スタムが再びドイツに渡った後のフランクフルト老人施設やジュネーブ駅計画案，とくに1926年のローキン地区計画（ファン・ネレを含むアムステルダムの一区画）と決定的に類似していて，ファン・デル・フルフトの前後の作品とはむしろ隔たりを感じさせる．

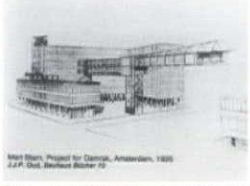
近代的建築史の年代順写真集を見ていると，どうしてもシュレーダー邸の出現が革命的に思えるが，この作品の先駆となっているのがファン・ドゥースブルフがファン・エーステレン，リートフェルトの協力の下につくった1923年の住宅案だ (→p. 42)．ここで建築は，彫刻の延長物から紙細工へと変身し，重力場から解放されたかのようにみえる．　あたかもクプカの描いた〈哲学的建築〉のごとくに．　1917年にデ・ステイルを結成して以来，ル・コルビュジエ，ミースと接触し，バウハウスでは初期の表現主義的傾向を転回させる役割をはたしている．

シュレーダー邸，ファン・ネレと並ぶ傑作ゾンネストラール・サナトリウムとオープン・エア・スクールで知られるヨハネス・ダウカー．　当時のオランダを含む中・北欧が向かいつつあった社会民主主義的工業社会．　その社会が要求する新しい機能を持ついくつもの建築類型——集合住宅，技術訓練学校やニュース映画館，サナトリウム，そして中産階級向け複合ホテル建築．ダウカーはこれらのいずれをも，ドグマ的でない名人芸のプランニングと（ウィーベンハーの協力による）構造計画によって，ザッハリッヒで近代的な感性に徹した建築に仕立てあげた．

そして彼の学生時代以来の僚友，すべての作品における協働者バイフートは，〈ザッハリヒな建築の詩〉，パリのアルザス邸（ガラスの家）における家具デザイナー，ピエール・シャローの協働者でもある．

これだけ多彩なモダニズム建築のきら星が並んだ栄光の時代も，ファン・ドゥースブルフ（1931），ダウカー（1935），ファン・デル・フルフト（1936）と重なる急逝ののち，信じられないほど突然の凋落期を迎える．　メルクルバッハ，ファン・デン・ブルーク，バケマら後続世代の非力さに，アウト，ベルラーへの反動化がともなって，オランダ・モダニズムの輝きはその後急速に下降していった．

●いしがみ・しんぱちろう／建築家



●ローキン地区計画，アムステルダム／M.スタム

DE STIJL

DE STIJL



■デ・ステイル
De Stijl,1917-1931
■テオ・ファン・ドゥースブルフ
Theo van Doesburg,1883—1931
■ヘリット・トーマス・リートフェルト
Gerrit Thomas Rietveld,1888—1964

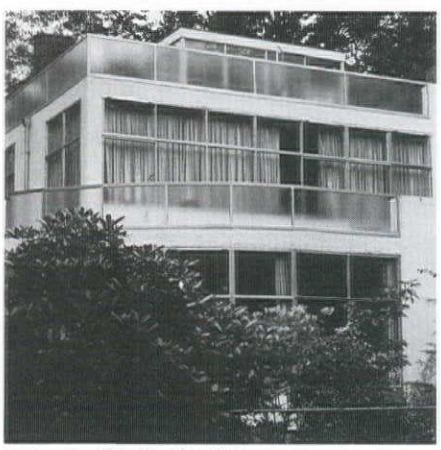
1917年にレイデンで設立されたデ・ステイルには，モンドリアーン，ファン・ドゥースブルフらネオ・プラスティシスムの画家にファント・ホフ，アウト，リートフェルトらの建築家が加わっていた．　このグループを理論的にリードしたファン・ドゥースブルフがファン・エーステレンと協同で計画した1923年の住宅案（→p. 42）は，ネオ・プラスティシスム絵画の方法を3次元に延長したものであり，キューブと平坦な色面の組合せによって無方向性の建築が誕生した．　そしてさらに，ファン・ドゥースブルフらとの協働期間後に生まれたリートフェルトによるシュレーダー邸（1924，ユトレヒト）は，ファン・ドゥースブルフの提案を凌ぐ新鮮な，伝統的な建築の観念を完全に払拭したものだった．

デ・ステイルの建築は，厳密で平坦な色彩分割を行なうために，レンガなどの自然素材を放棄し，無限に開かれた透明でダイナミックな空間を切り拓くために，上下・表裏の方向性が取り払われる．　そして3原色のみの色彩は，装飾でなく空間を規定する本質的な要素として扱われる．　この空間特性をもつデザインは，リートフェルトのレッド＆ブルー・チェアにおいて初めて実現する．　角材と平板の使用，交接のダイナミズム，3原色の使用によって，デ・ステイル的空間は理論に先行して現実のものとなっている．

リートフェルトは少年時から家具職人として出発し，デ・ステイル・グループに加わったのち，これらの画期的な家具と建築をつくりだしたが，彼はデ・ステイル美学にとどまらず，つねに時代の新しい動きに反応していく（ファッション的な追随でなく，根元的な探求を続けながら）．　アルカイックな生活の思想を基盤に，変らず原理的な構造と形態を追求する姿勢が，この時代偶然にもデ・ステイルの美学と一致したというべきか．　その後は，例えば工業化に同調した時代（1928年のユトレヒトのガレージや1930年の合板椅子など，この時期のリートフェルトのデザインはとても興味深い）を経て，戦後には再評価にともなって多量の建築作品を残している．

一方ファン・ドゥースブルフの理論的戦闘性は，バウハウス・グループやデ・ステイル内部でもつねに軋轢を生み，ついには彼自身デ・ステイルとともに危機的な状況に陥った．　1929年の高層建築群計画は先駆的だが，1928年にハンス・アルプ，ゾフィー・トイベル夫妻と協同で設計したキャバレー・オーベット（→p. 42）は，室内計画とはいえ2次元的デザインを脱しきれず，さらに死の直前にパリ郊外ムードンに建設した自宅アトリエは平凡なインターナショナル・スタイルの建築——白いボックス——に終っている．（SI）

RIETVELD


●デン・ハーグのメエース邸，1936

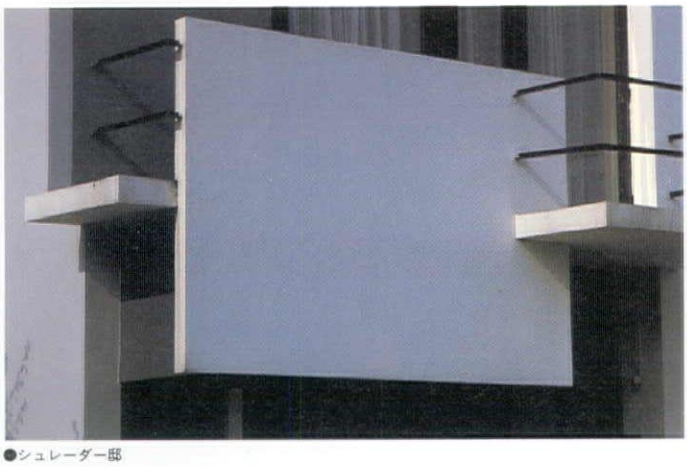


●シュレーダー邸


●ソンスベーク・パビリオン，1955

DE STIJL

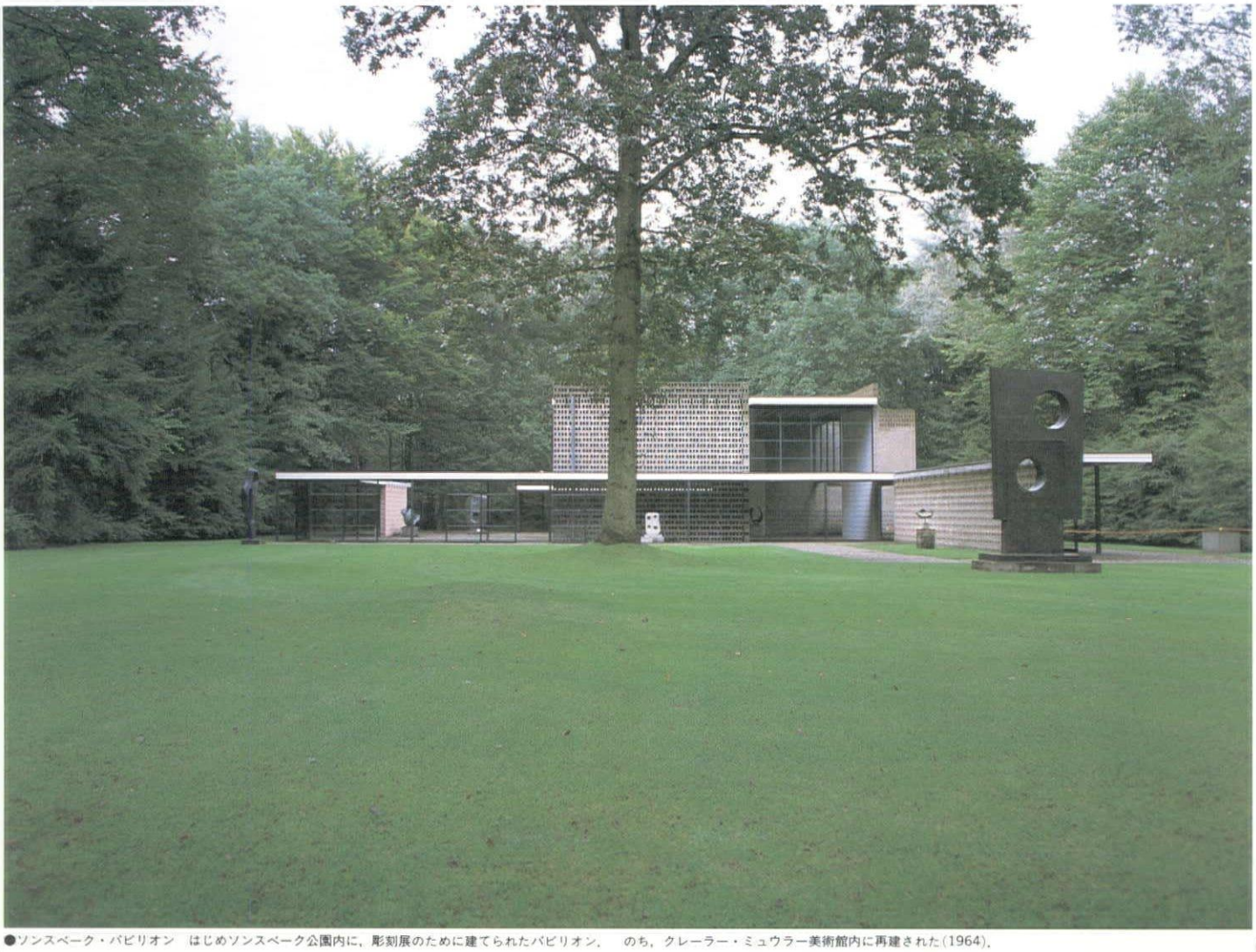




●シュレーダー邸

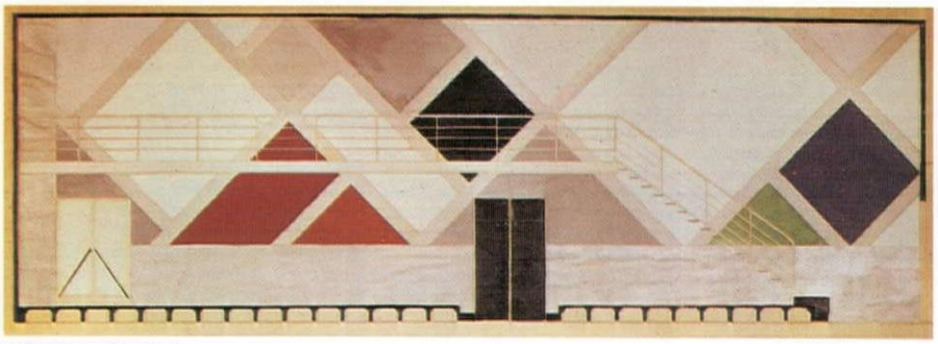


●白，赤，青，黄色のコンポジション，

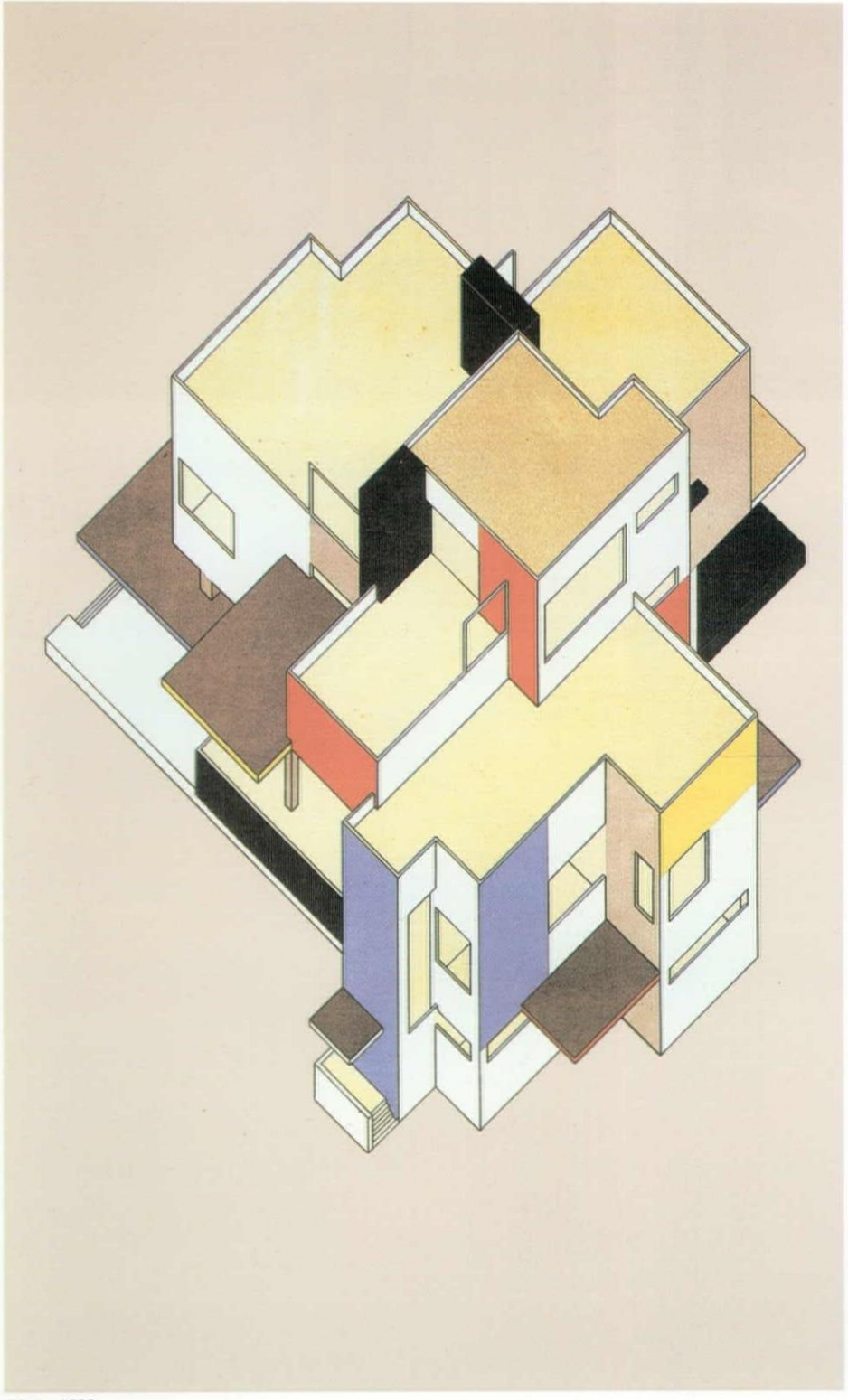


●ソンスベーク・パビリオン　はじめソンスベーク公園内に，彫刻展のために建てられたパビリオン，　のち，クレーラー・ミュウラー美術館内に再建された(1964)，

VAN DOESBURG



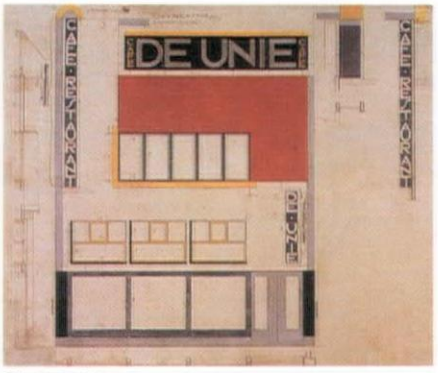
●キャバレー・オーベット



●住宅，1923

OUD

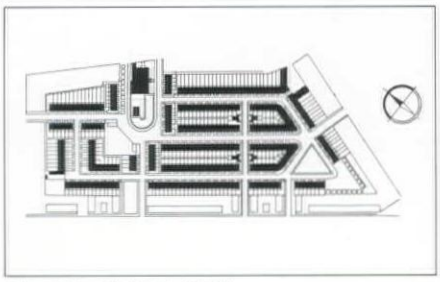
■ヤコーブス・ヨハネス・ピーター・アウト
Jacobus Johannes Pieter Oud, 1890—1963
アウトはオランダのインターナショナル・スタイル派の代表選手としてよく知られてきた。　なかでもラウンド・コーナーの線状メゾネット型集合住宅，バルコニーがヌメッと連続するフーク・ファン・ホラント（1924）と，同じ線状メゾネットで2階窓上部のパラペットが驚異的に薄いのが印象的なキーフフーク（1925，ロッテルダム）は有名だ。　しかしアウトの経歴はそれほど単純ではない。　カウバー



●カフェ・デ・ユニ



●カフェ・デ・ユニの復元模型



●キーフフーク集合住宅　配置図.



●キーフフーク集合住宅

photo : S. Ishigami

ス，テオドール・フィッシャーらとの協働の後，デ・ステイル時代にはファン・ドゥースブルフの初期代表作ヴィラ・デ・フォンク（1917，レイデン）に協力している．　このインテリアはデ・ステイル空間としては最初のものだが，壁面や床の平面的塗り分けに終始していて，ネオ・プラスティシスムの単純な応用にとどまっている．

その後デ・ステイルを離れ（1921），マテネッセにガーデン・シティ風の広大な集合住宅群（1923，ロッテルダム）を計画するが，ここではデ・ステイル的構成で味付けされた白い壁面（窓・扉は赤か青，レンガの基盤は黄色）に赤タイルの屋根といった，木造のコテージ風デザインが見られる．

その後のフーク・ファン・ホラントとキーフフークで，アウトは白く平坦な壁面を連続させる独特のスタイルを確立するが，その間の1925年につくったカフェ・デ・ユニ（ロッテルダム）はL型の赤い下見張り，黄色の枠取り，青の看板といったふうに塗り分けられた，典型的デ・ステイル構成のファサードで，これも極めて平面性が強調されたデザインである．　アウトはデ・ステイル時代から機能を重視し，美的なフォルマリスムへの傾斜を避けようとしていたが，この商業建築では例外的にデ・ステイルの美学そのものといったデザインが成功している．

その後のアウトはシェル本社ビル（1942，デン・ハーグ）で重々しい反動的スタイルに変身し（とはいえ，端部の曲面ガラス階段室は充分に美しい），激しい批判にさらされた．　だが戦後はデン・ハーグの小学校やアーネムの少年施設で再び独特のインターナショナル・スタイルに戻っている．　もう一つ特筆しておきたいのはアウトの家具についてである．細い丸パイプと平板で組み立てられた，構成主義風だが小さなカーブのついた，やはりアウト風としか言いようのない小椅子と肘掛椅子，テーブルは可愛らしい．　ブルー・グリーンの色と軽快なその姿は，メンフィス以後のイタリア家具かと思わせるほどであり，ミースやブロイヤーの家具以上に現代感覚に近いものをもっている．（SI）



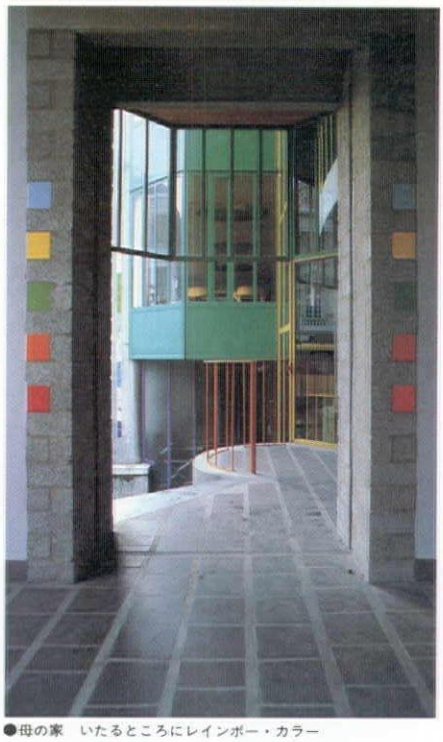
photo: S. Ishigami

●フーク・ファン・ホラント集合住宅

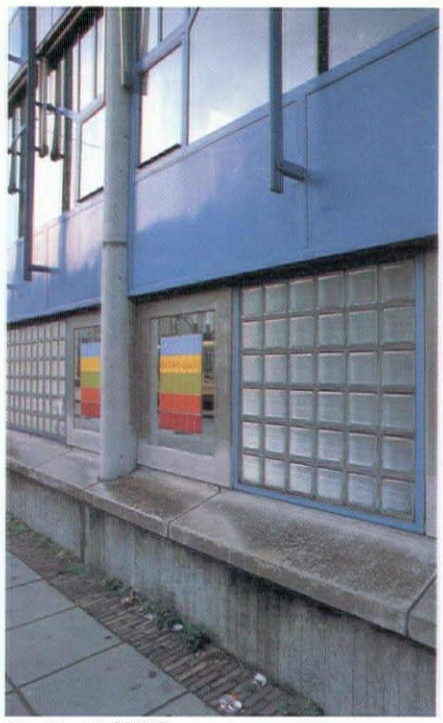


●キーフフーク集合住宅

VAN EYCK



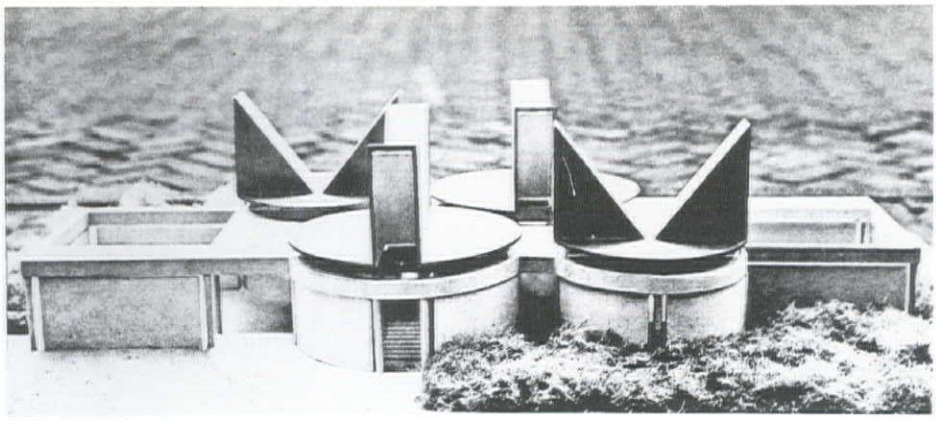
●母の家　いたるところにレインボー・カラー



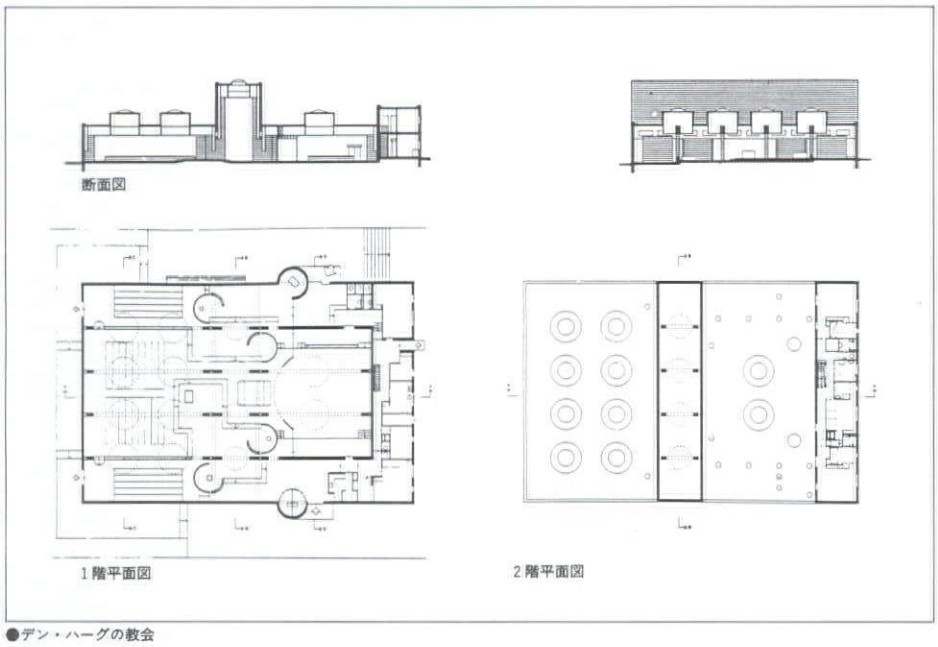
●ファサードの１階部分.



●表通り側ファサード.　すべての部材は細かくて脆弱であり，柱でさえも方立のようだ.



●〈天の車輪〉計画案



●デン・ハーグの教会



●母の家

■アルド・ファン・アイク

Aldo van Eyck

1918年生まれのファン・アイクは，オランダ現代建築の衰えを知らないリーダーである．　実作やスケッチによって，あるいは多くの論評を通して，またデルフト工科大学での授業や世界各地の大学での講演などにより，そしてまた雑誌フォールムの元編集員として，彼は常に創意に溢れた挑発を繰り返すことによって，国内外を問わず測り知れない影響を与え続けてきたのだ．　建築作品に限ってみると，1940年代末から現在に至るまでの彼の作品のすべてには，一つの糸で貫かれたような一目瞭然の連続性を認めることができるが，その連続性は決して滑らかな求心運動ではなく，加速度も方向性も一定しない特異な蛇行曲線として考えることができる．　だからこそ彼の建築はいつも，同時代の建築に痛烈なカウンター・パンチをくらわせることになったのだった．その類い稀れな活動の軌跡は今，長らくパートナーを組んでいたテオ・ボッスと分かれ，妻のハニーと協働を始めたことによって，またまた未知の方角に歩み始める気配である．

■デン・ハーグのローマン・カソリック教会

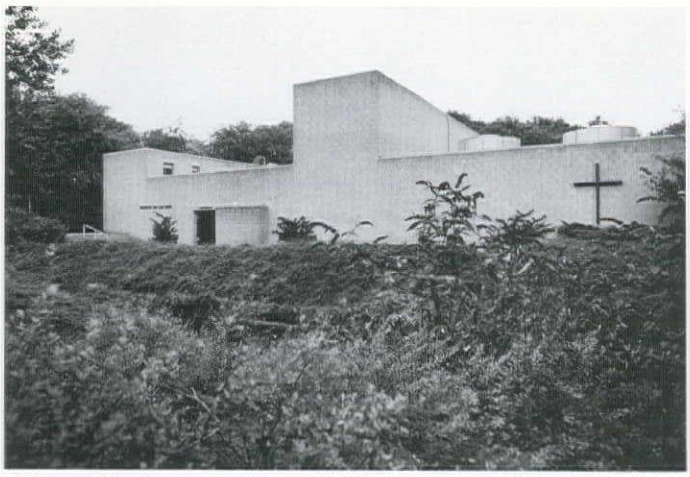
Roman catholic church, Den Haag, 1969

〈天の車輪〉と名付けられたファン・アイクの教会計画案がある．　1964年のこの計画案の平面は，円と方形が完全な点対称の構図の中に収まっていながら，内部の空間は対称性にとらわれない自由度と意外性をもっていて，未完のプロジェクトとはいえ，ファン・アイクの最高傑作と呼べるものだ．　〈天の車輪〉を受け継ぐのがデン・ハーグの教会である．コンクリート・ブロック造の外観の無愛想さと打って変って，内部の空間は中世的な壮厳さを保ちつつも，無数の変化に富んだ場が半ば迷路のごとくに，そして互いの場の一部を共有し合いながら存在しているのだ．　ブロック造の壁と柱，コンクリートのトップライトや梁などによる構造体はルイス・カーンを連想させるほどに閉鎖系をなし，一方でレベルの微妙な違いによって生み出されるまったく開放系の機能区分があり，この閉鎖系と開放系とが同調したりしなかったりすることで，変化に富んだ場が一つの大きな箱の中のそこかしこに生起しているのだ．オランダ現代建築の古典的名作．

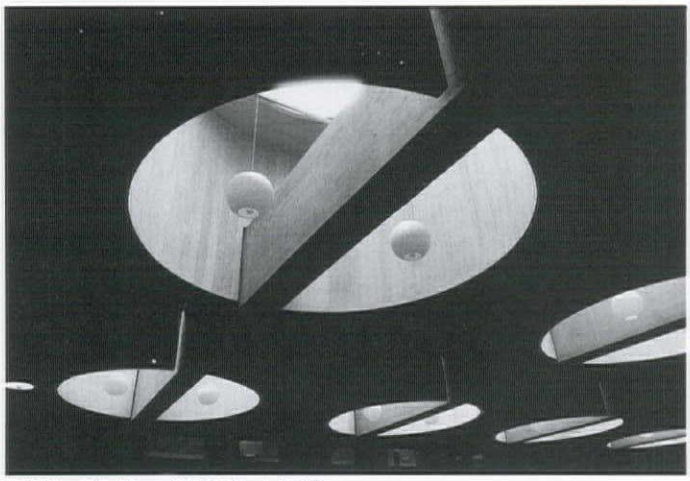
■母の家

Mother's house, Amsterdam, 1982

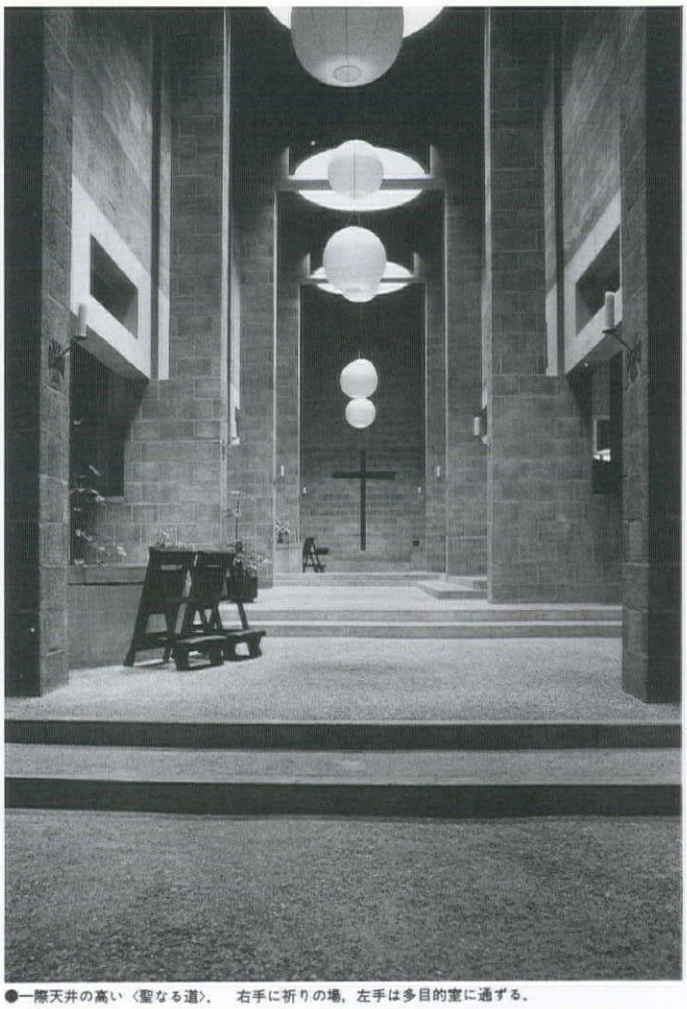
アムステルダムの市街地に建つ未婚の母とその子供達のための建物．　彼らの恒久の住居となるのではなく，治療の意味合いをもった一時的な隠れ家と解釈されるものだ．　もっともファン・アイクは治療施設的な冷たさを徹底的に払拭し，個々の住居のあるいは個室の独立性は厳密に保持しながら，共有スペースの取り方やディテールに細やかな工夫を重ね，居心地の良い空間を作り出している．　レインボー・カラーを全面的に用い，サッシや手摺はむしろ不連続感が強調され，全体としては機能的（ファンクショナル）ポスト・モダンとでも呼べそうな急進的な表現が達成されていて，ここでもまたファン・アイクは彼の同調者や追従者達を裏切り，はるか先方を駆け抜けている．



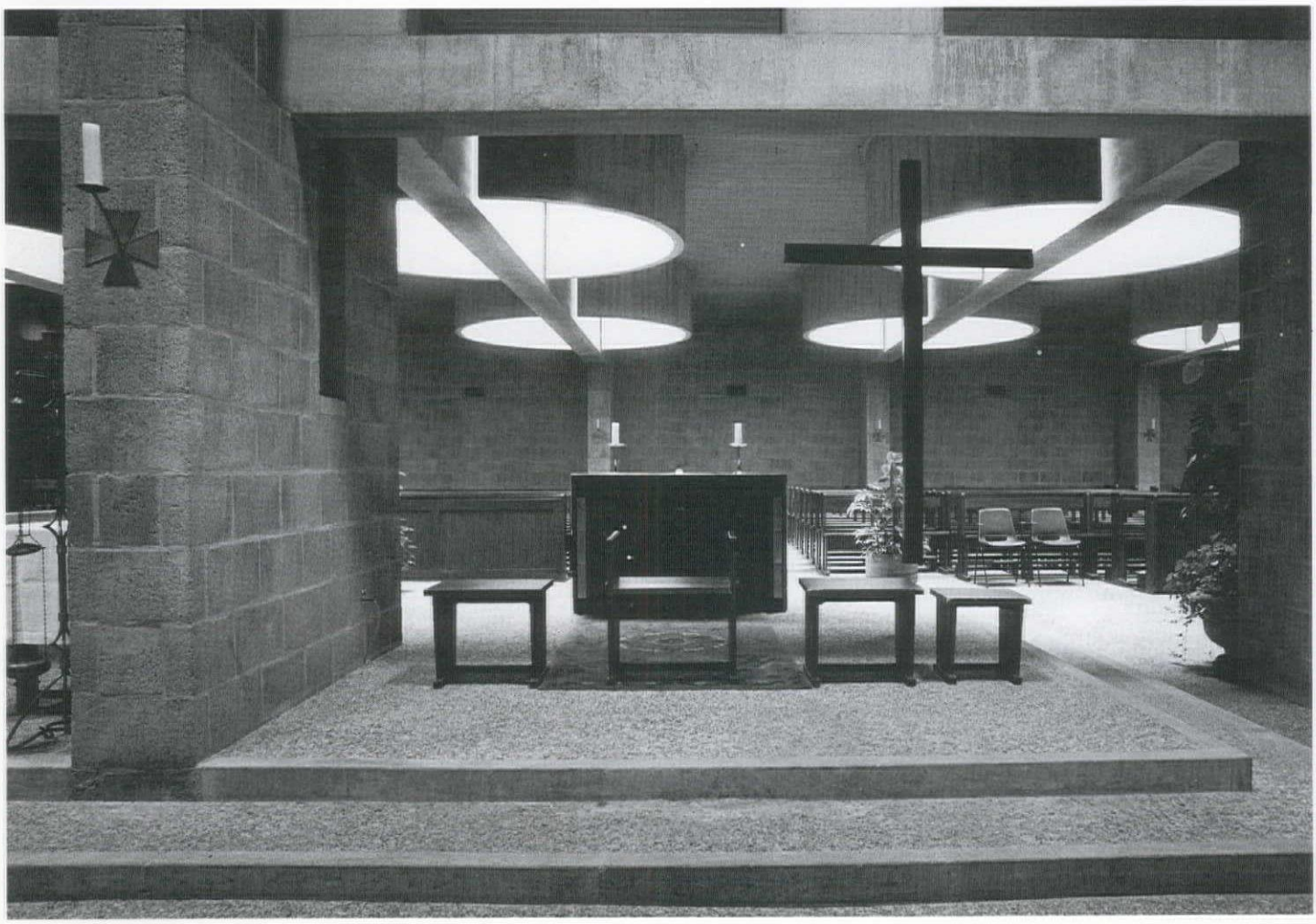
●デン・ハーグの教会。 コンクリート・ブロック造の外観。 十字架のみが教会であることを知らせる。



●円型トップライト。 微妙なスリットに注目。



●一際天井の高い〈聖なる道〉。 右手に祈りの場，左手は多目的室に通ずる。



●祭壇。 何の象徴性も中心性もない。

HERTZBERGER

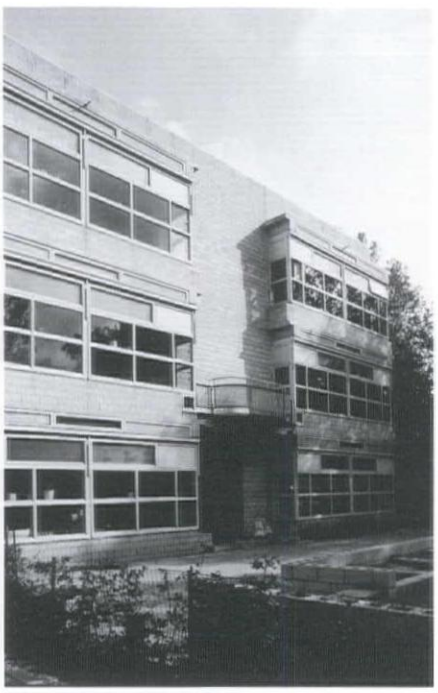
■ヘルマン・ヘルツベルハー
Herman Hertzberger

1932年生まれのヘルツベルハーは，バケマやファン・アイクといったオランダの現代建築の先導者達に続く者として早くから頭角を現わし，デルフト工科大学で教鞭をとり，60年初頭よりファン・アイク，ピート・ブロム，フランク・ファン・クリンゲレン達と構造主義を唱え，現在に至るまで指導的立場にあり続けている。　今年5月に来日し，東京と大阪でユーモアに満ちた講演を行なった。
そこで彼が繰り返し強調していたことは，建築空間が，それを使用する人々にまったく自由な限定されない行動を許すような場としてではなく，多様な行動に巧く適合し，またそうした行動を誘発する装置を幾つも備えたものであるべきだということだった。もちろんそうした装置は高らかに発言するものであってはならず，控え目に全体の構造の中に取り込まれねばならないのだが。　セントラル・ベヒーアに代表される堅固な規則性から，最近では規則性は部分にこそ明瞭に存在するものの，全体はより自在なものに移行しつつあるかに見える。

■アポロ・スクール
Apollo schools, Montessori school and Willems Park school, Amsterdam, 1983

中央に大きな階段状の共用室をもった小ぢんまりとした学校。　室内には半分囲われた小さな空間がここかしこに配され，階段の段板すらガラス・ブロック製であるなどして，子供達全員が常に一つの大きな家の一員であることを自覚できるような配慮がなされている。

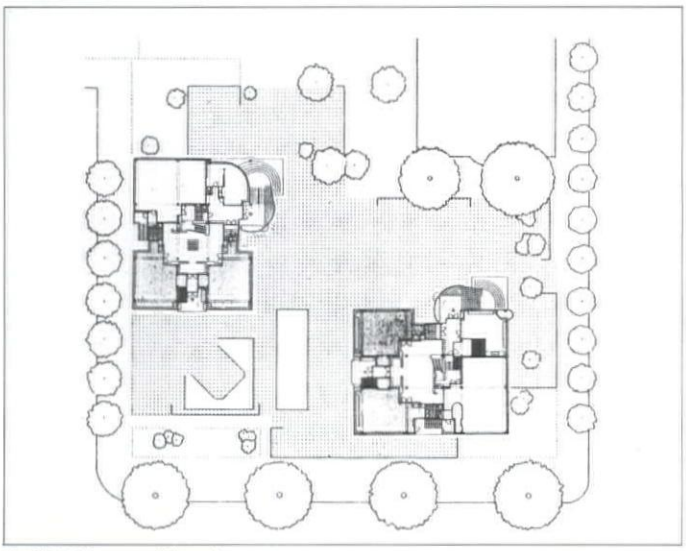




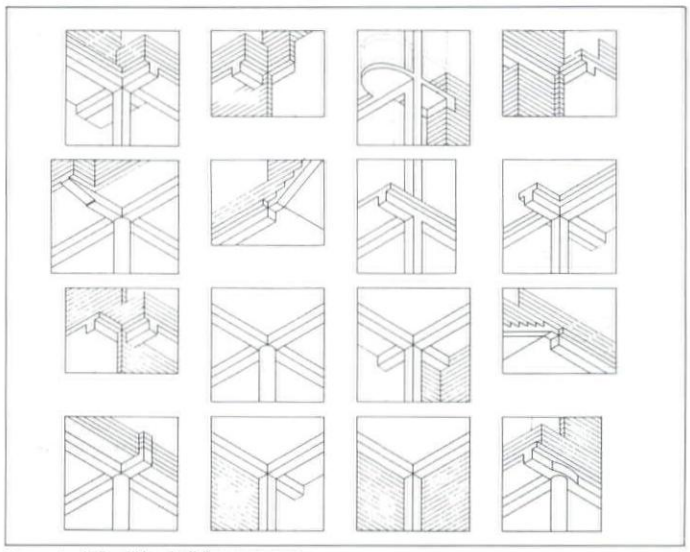


photos : K. Ito

●ホール。　左側に立つのがヘルツベルハー氏。



●1階平面図　ground floor plan



●コーナー部分の詳細　building grammer

孵化せよ，モダニストの末裔たち

伊藤公文

◉生きている機能主義

機能主義（ファンクショナリズム）の建築という語句がある．古めかしい響きだ．埃をかぶった骨董だ．機能に主義をくっつけるなんてダサイにもほどがあるというものだ．第一機械時代にこそふさわしかったこの語句に，今では過日の栄光の面影を偲ぶことはできない，というのが僕らの常識ではないのか．

オランダという国に行く前には心底そう思っていた．

1979年に初めて，オランダの諸都市をまわり諸建築を見る機会を得た．人後に落ちずアムステルダム派の建築の温もりには胸を打たれたが，それより何よりH．P．ベルラーへの近代性に慄然とし，さらにはダウカー，ファン・デル・フルフト，ブリンクマンを目のあたりにするに至って，半世紀ほど前のこの国には確かに機能主義という呼称にふさわしい建築が大河となって存在したのだ，ということを知り，その流れは連綿と現代にまで続いていそうだという感触も得ていた．

去年，1984年の秋，再度オランダを訪れて，ロッテルダムを中心として主として現代建築を見てまわった．そして5年前の感触が確信にと変わった．オランダには機能主義の建築の大河が，水位を下げることも洪水を起こすこともなく滔々と流れていることを痛切に思い知ったのだ．

◉剝き出しの機能が建築となる

「機能的なものは美しい．」モダニズムの黎明期にあってこれほど人を鼓舞しえたフレーズが他にあっただろうか．美醜を機能によって判別してしまうという天をも畏れぬ大胆不敵さ．胸のすくような断定．その裏には機能＝美は尺度化できるのではないかというつつましやかな期待があったことも否めない．

「美しいものこそ機能的である．」丹下健三の物の見事な逆転判決．機能なるものを神棚へ祭り上げながら，美しさの判定を掌中のものと化してしまうという神技的トリック．その裏には日本的なるものを浮上させようという意図が働くのを見ることができる．

しからばオランダはと言うと，機能と美とはいかなる意味においても接点を持たない．なぜならばオランダでは「機能的なものしか存在しえない」からだ．

オランダは国土の4分の1が海面下の土地である．堤防と水路，干拓地と灌漑．それは自らの存在をかけた戦いの成果であり，地上の構築物の多くは水位調節のわずかの狂いのために微塵と化してしまうかもしれないのだ．実際，20数年前に起きた堤防の決壊は空前絶後の災害を招いた．国土全体が，数センチもしくは数ミリ単位の誤差の範囲内に絶えず保たれた水位のコントロールによって成立している国．それがオランダである．少なくとも理念的にはこう言って正しいと思う．そうした状態にあって，あらゆる人工の構築物は機能的であらざるをえない．機能的なものしか存在しえないのだ．「機能的なものは美しい」と言う時ほど，ここでの機能はふやけてはいられない．「美しいものこそ機能的である」と言う時ほど，ここでの機能は脆弱ではいられない．

建築とて構築物であるからには例外ではありえない．美とは交差することも接することもない剝き出しの機能そのものが即ち建築となっている．オランダの建物の機能主義とはこのようなものを言うのである．何と雄々しくも剛健なことか．

◉V.アイクとヘルツベルハーの強大な壁

とは言え建築は，大海を相手にする堤防ではない．人が使い，人が住み，人を迎えるのだ．本質がそうであったからといって剝き出しの機能をストレートに表現し続けるわけにはいかない．それに柔らかな衣裳を着せるのではなく，現実に対応しうる柔軟で微妙で知的な操作が加えられる必要があるのだ．

そうした数多い試みの中でもとりわけ重要な役割を果してきたと思われるのは，アルド・ファン・アイクである．近代から現代への場面転換の際にも，また現代の局面の絶えざる活性化という点においても，ファン・アイクは常に水先案内人であり，発動機であり，スクリューであり，舵であり続けてきた．これほど偉大な人が今もって，血相を変えてポスト・モダンを非難する永遠の〈怒れる若者〉であることは素晴らしいことだ．

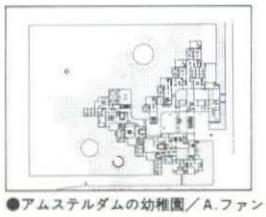
ファン・アイクの建築は，部分の集合から成っている．部分とは，例えば円であったり正方形であったり直方体であった



●パリ・ラ・ヴィレット公園コンペ案／R.コールハース



●陸軍と武器の博物館／K.ファン・フェルゼン



●アムステルダムの幼稚園／A.ファン・アイク

りという具合に，幾何学的に整った完結した形態であることが常である．　それらの部分が，整然として明晰で曖昧模糊としたところがひとつとしてない構造の内に見事に組み込まれるのである．　部分の優位を認めつつ，全体性を見失わず，誰しもがアッと息をのむような特殊解が用意されているのだ．　通常，こうした解法では，整然とした構造が機能の限定を強いることになりがちだ．　つまり，ひとつの部分にひとつの機能というような，一対一的対応に陥りがちだということだ．　しかしファン・アイクは，機能（用）が構造とはピッタリと合致しないような仕掛けを，裏も表もないかのような整然とした構造それ自体の中に仕込んでいるのだ．　そうすることによって凡人が陥りがちな隘路から免れ得ているばかりか，機能に一層高次の自由度を与えてさえいるのだ．　その巧妙にして入念な仕掛けに気づいた時，誰しもが平伏するのである．

巨人ファン・アイクの後に控えるのがヘルマン・ヘルツベルハーだ．　彼は先人の遺産をすべて容易に呑み込んでしまえるという点で，鮫鰐のごとくに雑食性なのである．　デ・ステイル，ファンクショナリズムはもちろん，バケマでさえも消化して，なおかつ自己主張できる強靱さ．　飽食を繰り返してもなお拒絶を示さず食欲を失わないタフネスさ．　ヘルツベルハーの建築の場合も，構造は極めて明晰で整然としているに違いないが，ファン・アイクの場合のように構造それ自体の中に余分な機能を誘発する仕掛けが含まれているのではなく，そうした仕掛けは付加物（アタッチメント）として構造体に取り付いているのだ．　当然のことながら仕掛けが多いほどノイズも高まってくるということだ．

◉コールハースの衝撃

いずれにしても，ファン・アイクとヘルツベルハーのラインは相互に補完しあって，後に続く世代にとって余りにも強力な布陣だった．　ピート・ブロムやファン・クリンゲレンなどの人を加えれば，その布陣はより鉄壁で，若者の意気を阻喪させるに十分であったのだ．

それに加えて，もうひとつ不幸な事情が重なった．　70年前後に呪文のごとくに唱えられた〈参加の建築〉の嵐である．　デザインを口にする者は罰せられかねないような状況が訪れた．　それを一概に非難するわけにはいかない．　なぜなら，住民心理を顧みない単調極まる住戸計画が，新たな種類の犯罪を誘発しさえしたし，無闇に機能分離した広大な団地計画が，町の歴史をぶち壊す無軌道な開発計画が，猛烈な勢いではびこったからである．　反動が起こらない方が不思議だった．　それはそれで良しとしても，しかしそれと並行して，建築への信頼が揺らぎ始め，建築家自身がデザインの力に対して懐疑的になってしまったことは，悲しむべき事態でなくして何であったろうか．

このような重苦しい閉塞状況に思いきり大きな風穴をあけた人物．　それがレム・コールハースである．　彼は今やスーパースターだ．　分家とでも言うべきアルキテクトニカがマイアミの海岸線で世俗的大成功をおさめ，かつての同僚ザハ・ハーディッドがホンコン・ピーク・コンペに1等入選したおかげで，かえってコールハースのカリスマ性が一段と高まったような気がする．　ラ・ヴィレット公園コンペ2等入選以来，彼に関する言説は日本でも数多くなされているので，ここでさらに言を費やすことはしないが，ロッテルダムの新オフィスに腰を落ちつけて実作に熱中し苦闘するコールハースの一挙手一投足は，今後数年間は確実に，衝撃波となって世界に伝播して行くであろう．

◉飛翔せよ，若き世代

コールハースのあけた風穴によって，オランダの建築家の若い世代は幾つもの重圧から一挙に解放され，生気を取り戻したように思える．　デザインの力と価値に対する自信が甦ってきたのだ．　だからといって，個人的な美の追求に耽けったり，形態の自動律に酔ったりしているという傾向にあるのではない．　あの機能主義の底流は涸れることはないのだから，純粋造型もポスト・モダニズムの徒花（あだばな）も咲いてはすぐに流されてしまうのである．　オランダでは依然として，アイゼンマン（かつての）は独善，グレイヴスはナンセンス，ヴェンチューリは笑い物，なのだ．

しかし早合点は禁物だ．　オランダの若い世代は狭くるしいひとつ穴のむじなであるというのではない．　本誌に紹介したほんの数人の作品からも，その幅の広さを，多様性を読み取っていただけるのではないかと思う．　そしてまた，それらの作品のすべてが，現実の要求に対し現実の解法によって応え，現実の構法をしっかりと踏まえて現実化され，またはされようとしていることにも気づいていただけることと思う．

彼らはまだ自信を持って活動し始めてから日が浅く，開花するには猶予が必要だ．けれども，彼らの着実な活動が，そして初期モダニズムの再生が，派手なアクションやオーバー・ゼスチャーやうわべだけの過激さに打ち興じている人達をいちどきに葬り去る日がいつか来るような予感がする．

孵化せよ，飛翔せよ，モダニストの末裔たち．

●いとう・こうぶん

オランダ建築の現代

WEEBER

Hoogstaad, Weeber &
Van Tilburg

■カーレル・ヴェーバー

Carel Weeber

専制的な権力に反旗を翻す者は英雄である。　停滞する流れに新たな渦を巻き起す者は，以後に幾つもの渦を誘発する扇動者である。　カーレル・ヴェーバーはそういう人なのだ。　オランダの建築デザインの分野で，1960年代以降強大な影響力を有してきたのがいわゆるフォールム・グループ（バケマ，ファン・アイク，ヘルツベルハー達）であるが，彼らに公然と立ち向かった最初の人がヴェーバーであり，彼はそうして次世代の代表となり，ゴッド・ファーザー的存在ともなったのだ。　フォールム・グループの「建築は行動を規定し，良い建築こそが正しい生活を形成する」式の教条的な態度，そしてまたその形態の意図的なせせこましさに反発し，より大らかでより明晰な環境の構成を試みようとしたのである。　ともすれば枝葉末節に窮々とし，限りなくチマチマと細部をいじくるしかないような状況に陥りかけていたところに，どっと新鮮な空気を送り込んだのであった。　彼の手がけているのは殆どが公共の集合住宅であるが，そのどれもがラショナリスト風の大胆なスケールと，ヴェーバー特有のグラフィズムとを兼ね持っている。　それは時として単調であり過ぎ，時として大まかであり過ぎるかもしれないが，しかしオランダの建築の歴史的な流れを考えた時，ヴェーバーの占める位置を過小評価することはできない。

■集合住宅〈ペーパークリップ〉

Paperclip housing, Rotterdam, 1978

敷地はロッテルダムの港湾地区の一画で，周囲は倉庫群。　全部で549の住戸が敷地の境界に沿うようなかたちで，連続する一棟の中に納められている。　その平面の形から，〈ペーパークリップ〉と名づけられている。　外装はプレハブのコンクリート・パネルに，白，黒，グレー，赤，黄，青の各色のタイルを打込んだもので，全体の色模様は大きな格子縞のようである。　とかくこせこせとしたものになりがちな公共集合住宅のデザインの分野に，中層の連続する一棟という大胆なスケールを導入し，また大胆な色彩計画を施すことによって，新風を吹き込んだという点ではオランダにおいて大きな評価を得たし，日本においても参考に値するのではないだろうか。　もっともこの建物が肌面の荒い港湾地区に位置しているという特殊性を忘れてはならないだろうけれど。

■地下鉄ヘームラートラーン駅

Heemraadlaan station, Metro Spijkenisse, Rotterdam, 1984

地上6mの高さの軌道を走るロッテルダム市内の地下鉄のある区間に，ヴェーバー達は三つの駅をデザインしたが，これはその一つ。　大きな円窓と格子縞の色模様。

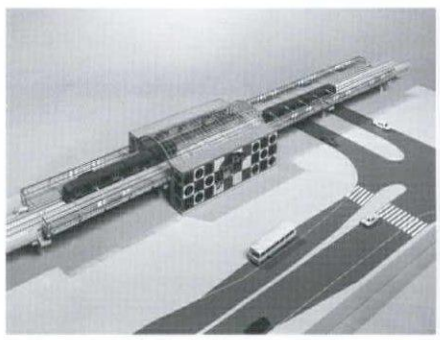
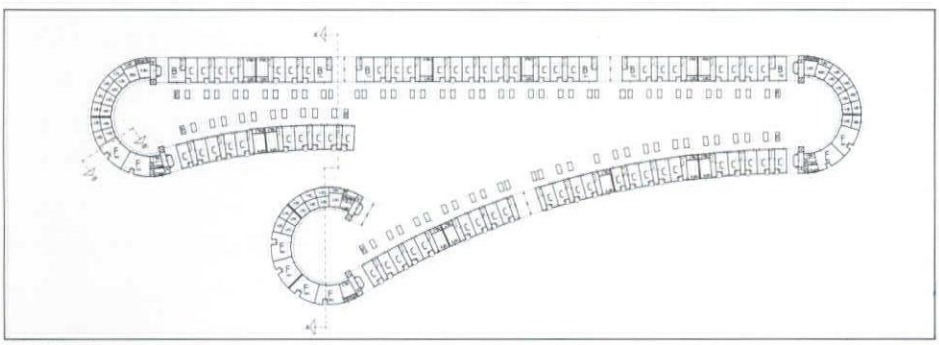


photo : B. Hofmeester

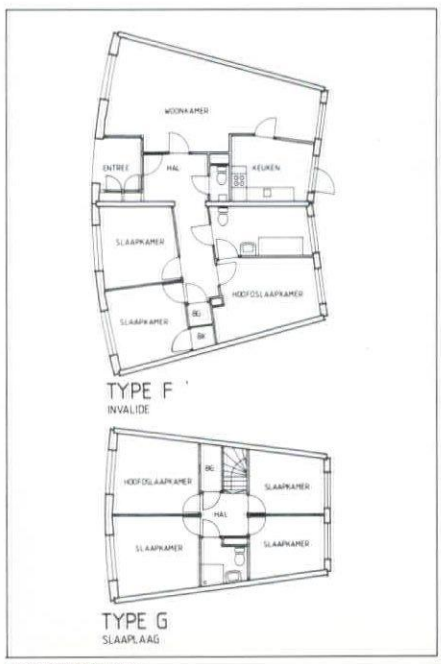


photo : B. Hofmeester



●平面図　plan





●住戸平面図　plan

BENTHEM & CROUWEL

■ヤン・ベンテム
Jan Benthem
■メルス・クラウウェル
Mels Crouwel

フォスターやロジャースを旗頭としてイギリス国内で猛威をふるっているかに見えるハイテック建築は，技術の適正な応用，簡明さ，合理性などなど，どの点においても海を隔てたオランダにこそふさわしいと思われるのだが，少なくとも今のところは下火である．　頑丈な堤防の技術を最大の誇りとするこの国にあっては，ハイテック建築なるものの見かけの脆さが信頼性に欠けるものと映るのだろうか．　それともイギリスにはまだ残っている工芸品的な精度がこの国ではもう失われてしまった故であろうか．1952年，53年生まれのベンテムとクラウウェルの2人組は，そうした趨勢の中で，既製品を最大限に用いながら建築の軽量化，部品化を極限にまで追求しようとしている．　本誌1985年1月号ハイテック・スタイル特集で紹介したベンテム自身の住居では，すべての部材がそれぞれの強度の限界を極めたところで使用されており，足を踏み入れた途端，背筋が寒くなり，次の瞬間，彼らの果敢な，悲壮とさえ言える実験精神に頭を垂れたのであった．

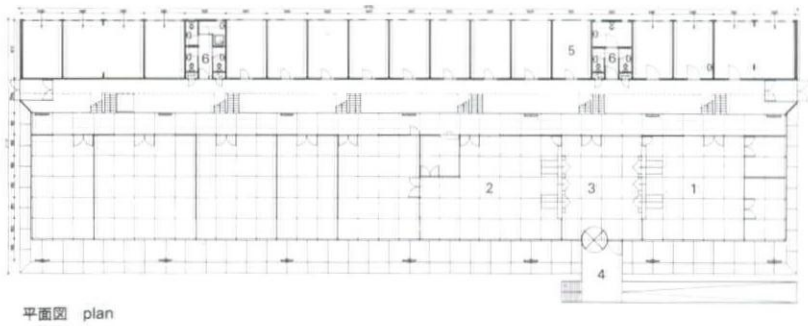
■ハーゼルドンクの税関
Customs-house, Hazeldonk at motorway E10, 1985

高速道路のオランダ国境に設置される税関の建物で，ベンテムとクラウウェルは全部で5ヶ所を手がける予定だが，今年の初頭に最初のものが完成した．　広い駐車場を見下ろせるように半階高くされた事務スペースは可動間仕切りの大空間．　スペース・フレームの屋根の部分は空気が通り抜け，断熱効果をもたらす．　彼らの他の作品と比べると手堅さが目立ち，やや面白味に乏しいのは税関という建物の性格上，止むをえないのかもしれない．

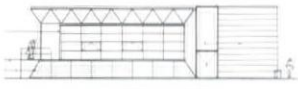




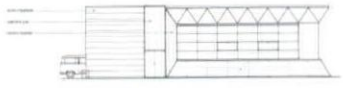
photos : S. Voelen



平面図　plan

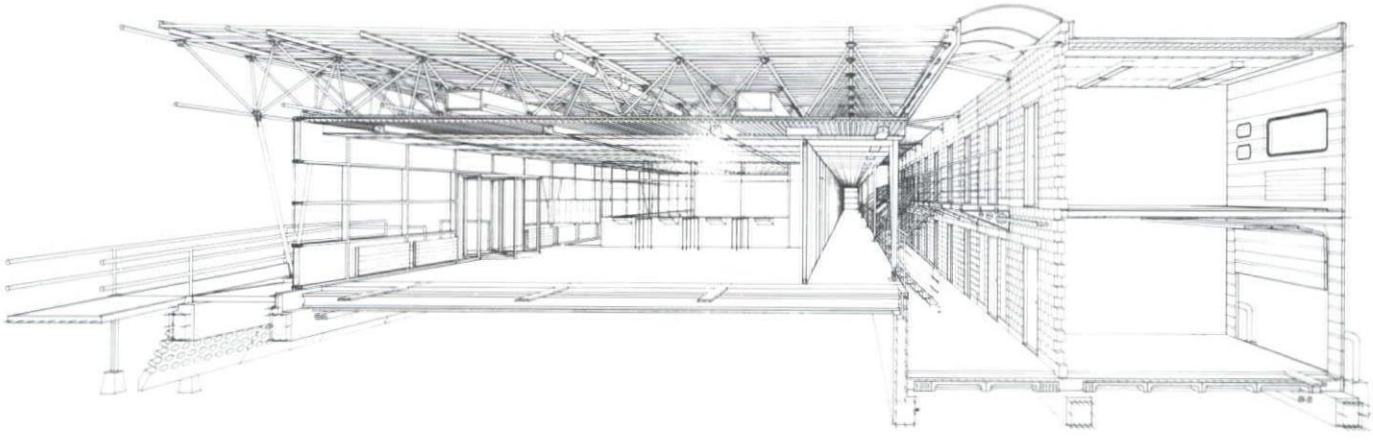


東側立面図　east elevation



西側立面図　west elevation

1　税関事務所（ベルギー）　Belgium-customs
2　税関事務所（オランダ）　Dutch-customs
3　税関手続きホール　room for truckdrivers
4　アプローチ　approach
5　小部屋　small room
6　トイレ　lavatory



KOOLHAAS

OMA

■レム・コールハース

Rem Koolhaas

「平面は大変に重要だ。　なぜならば人間の活動のすべては床の上で行なわれるからだ。」

レイモンド・フッドはこのように〈機能主義者〉の建築を定義した。　それは形態にとらわれたものではなく，平面の上に展開され或いは想いを巡らせるものであり，人間の活動の思いもよらぬ出会いや組み合せを促すようなものである。

レオニドフ，メルニコフ，ベルリンにおけるミース，ブロードエーカー・シティを設計したライト，ロックフェラー・センターを設計したフッド。　彼らに代表されるような類の〈機能主義〉の伝統を我々OMAは保持し続けようと努力している。　そのような〈機能主義〉とは，技術や密度などの社会の様々な因数よりなる文化の内実の中に，直に建築がたち現われるようなものを言うのだ。　最近の建築はそうしたものとは程遠いように思える。

ギリシア神話に出てくるプロクラステスという盗賊は，捕えた人の体を自分のベッドの長さに合わせて断ち切ったり引き伸ばしたりしてしまったという。現在流行の歴史主義的な，または類型論的な建築においては，プロクラステスもどきの無慈悲なやり口がまかり通っている。　新しい行為はただ受け入れる余地がないという理由だけで抹殺されてしまい，一方では埃をかぶった形態が息をふき返し，それに合うという理由である種のプログラムが復活するという有様だ。

うらなりのモダニズムについての大した意味もない挿話をくだくだと批評したところで，それは過去を是認するという以上の働きはしない。

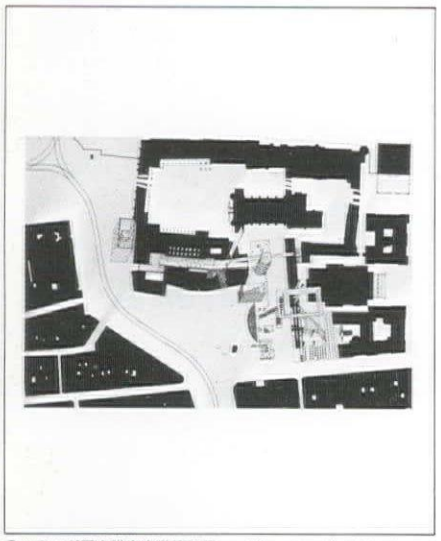
オランダの国会議事堂増築計画とパノプティコン改築計画は我々にとって重要なものだった。　なぜなら二つとも過去との入り組んだ関わりを有した計画だったからだ。　つまり，以前の用途や機能を未来に向けて変革させていこうとするものだからだ。

そのような場合，歴史主義者も類型論者も過去からの連続的な移行には無理があると簡単に結論づけてしまうのが常だ。　我々はしかしそうした計画に明白な近代性を持ち込みつつ遂行することでしか，過去の重みを担うことはできないと思った。　二つの計画では，過去と現代が結びつき共存することこそが重要だと考えたのだ。

さもなければ，実利主義の建物が洪水のように町を席巻するのは目に見えている。　そうなれば，新しいものは奇異なものとされ，創意はしりぞけられ，創造力はとんでもないもののように受けとられ，モダニティは再び遠のいていってしまうであろう。　それは重々しく面白味のまるでない世の中に違いない。

レム・コールハース

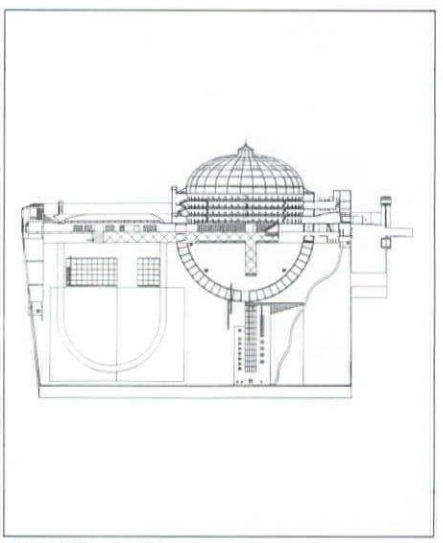
（Rem Koolhaas "Our New Sobriety" 1980より抄訳）



●オランダ国会議事堂増築計画――デン・ハーグ・コンペ
Extension of the Dutch parliament
――The Hague competition, 1978



●首相官邸およびゲストハウス――ダブリン・コンペ
Residence for the Prime Minister and State Guest House
――Dublin competition, 1979



●パノプティコンの改築
Renovation of a panopticon, Arnhem, 1979/80

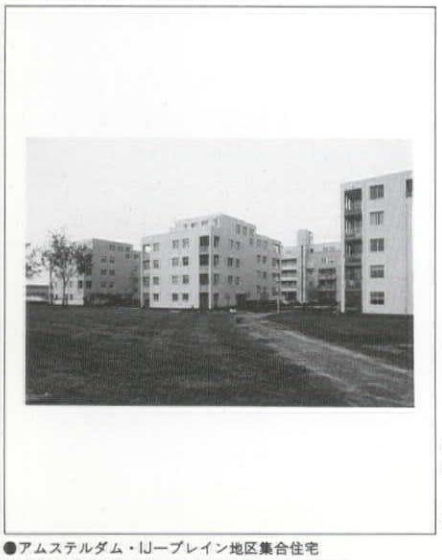
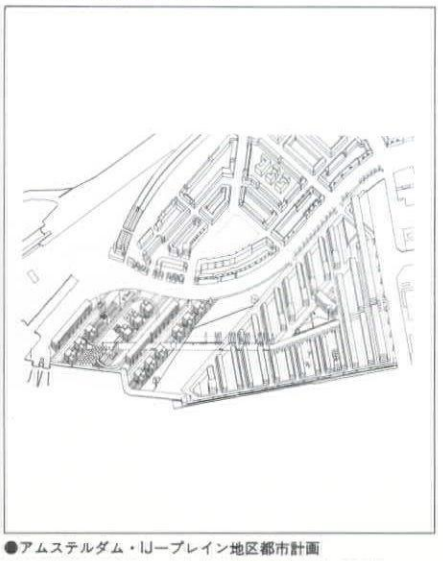
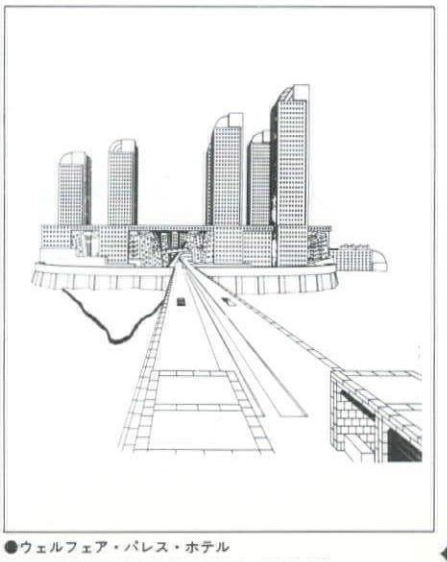


photo : K. Ito

●アムステルダム・IJ－プレイン地区集合住宅
Housing of the IJ-plein, Amsterdam, 1980-81



●アムステルダム・IJ－プレイン地区都市計画
Urban design of the IJ-plein, Amsterdam, 1980-81



●ウェルフェア・パレス・ホテル
Welfare Palace Hotel, New York, 1976-77

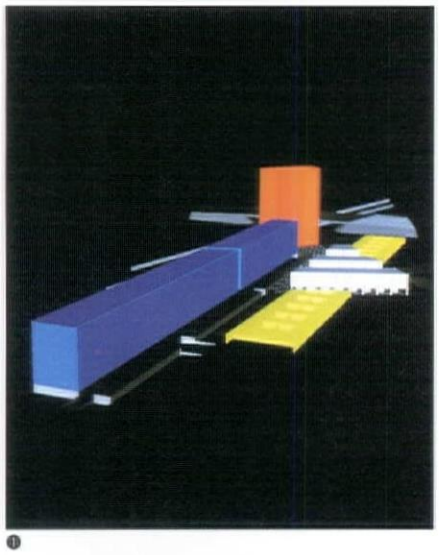
VAN DONGEN & OOSTERHUIS

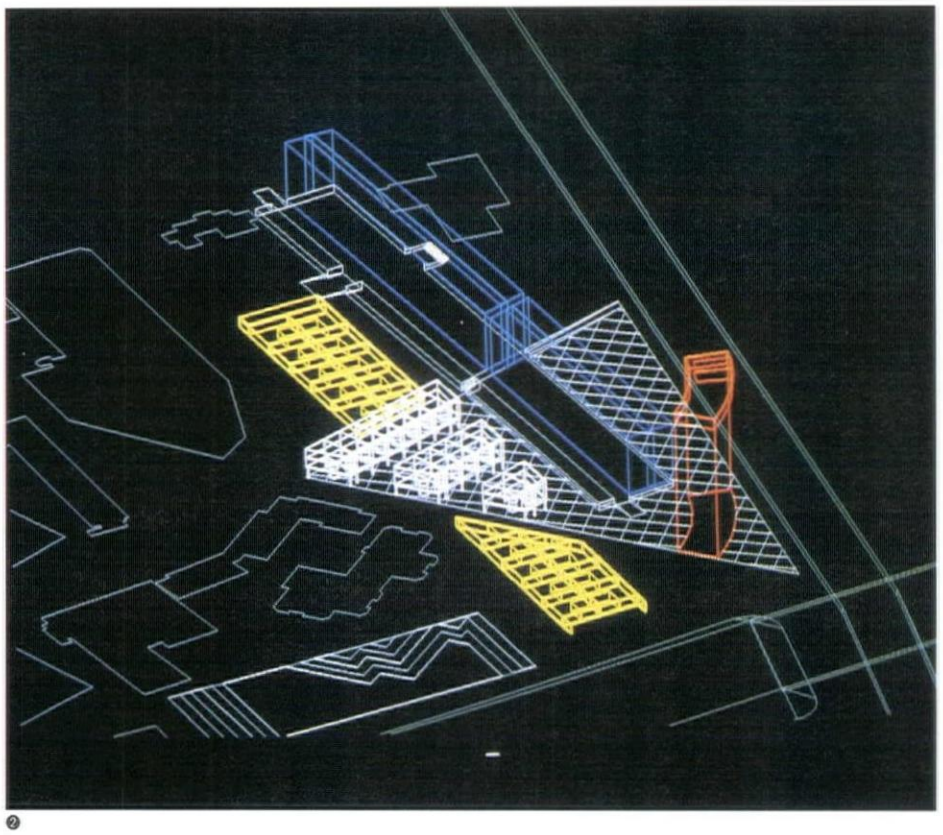
■フリッツ・ファン・ドンゲン
Frits van Dongen
■カス・オーステルハウス
Kas Oosterhuis

ファン・ドンゲンは1946年生まれ，オーステルハウスは1951年生まれ． ともにデルフト工科大学を卒業している． あらゆる点でレム・コールハースの影響を感じさせるが，設計のすべてのプロセスをコンピューター・グラフィックで行なおうとしているところがユニークである． まだ実現したものが無いのは残念だが，そのプロジェクトを見ると，まったく新しい造形への地平が開けるかもしれないという期待がもたれるのだ．

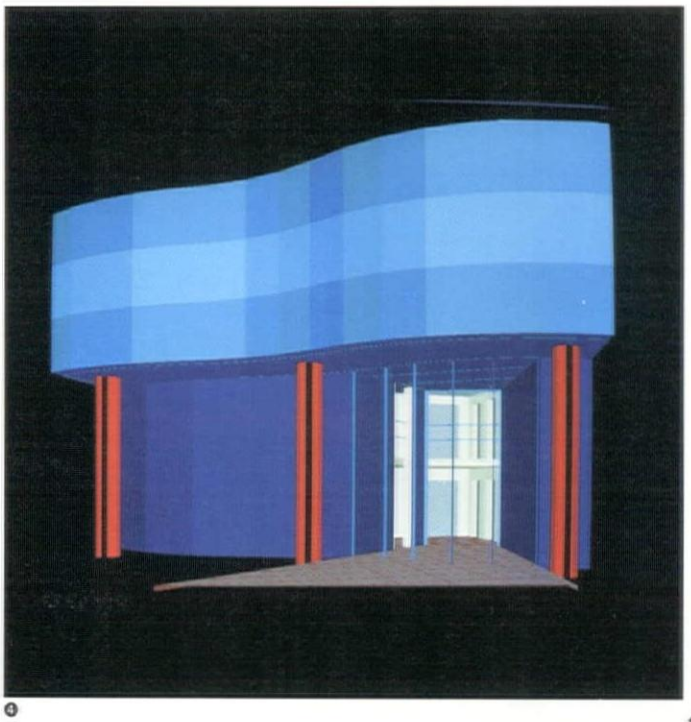
■ニューヴェハインの集合住宅プロジェクト ❶❷
City center east, Nieuwegein, 1983
町の中心部の，偶然生まれたかのような三角形の空地を中心とした集合住宅地計画． 144の標準的な住戸を容する細長い棟（青），比較的狭い住戸のある高層棟（赤），ピロティの上にのった家族用住戸棟（白），そして中庭付き住戸棟（黄）． これらが相互に独立を保ちつつ，また周囲の既存建物との連繋を図りながら，見事なアンサンブルが形成されている．

■ズーテルミールの高層集合住宅プロジェクト❸❹
Condominium, Zoetermeer, 1984
36階建て，地上高100mの高層集合住宅計画．


❶


❷


❸


❹

VAN VELSEN

■クーン・ファン・フェルゼン
Koen van Velsen

オランダの若手建築家の作品の中で最も注目すべきものはと問われれば，何のためらいもなく1952年生まれのクーン・ファン・フェルゼンの設計した自邸であると答えることができる．　この自邸を含めた彼の作品のすべてに渡って，〈ファン・フェルゼン的な〉としか形容しようのない独自な性格が備わっているのだ．　極度にオランダ的な側面と，まったくオランダ的でない側面とが，混然一体となっているのではなく，どちらがどちらを支配しているというのでもなく，互いがはっきりと区別された上で一つの作品の中に並置させられているのである．

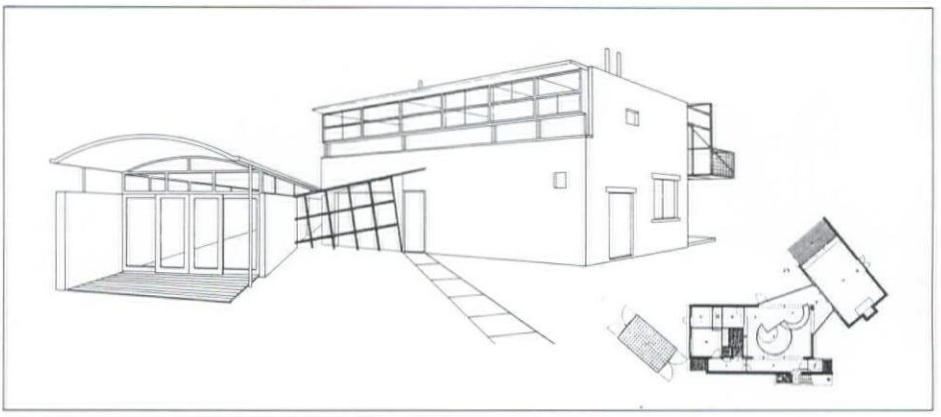
オランダ的な面とは次のようなものである．　彼は正方形，直方体，円などの自己完結的で明確な形態を好み，またすべての部材のアイデンティティを尊重しつつ，それらを組み合わせて全体を構成していく．　使用する材料の種類は割に多いが一定の節度は保たれているので統一感は失われず，装飾のための装飾は避けられながらもディテールの豊かさは各所に看取される．

オランダ的でない面とは以下のようなものである．即ち，際立って自己完結的な形態が，時として予想外の接近を，または唐突な結合を見せたかと思うと，何の秩序もないままに空間の中に散乱させられるという具合なのである．　これは，常に何らかの整った秩序が全体を覆うというオランダの流儀をはるかにはずれるものであって，一見するとフランク・ゲーリーに代表されるカリフォルニアのニューウェーヴの建築家たちの作法に近いように思われるが，彼らのイージー・ゴーイングな気楽なコラージュとも違って，ファン・フェルゼンの方は言わば緻密な乱調が現出されているのである．

アカデミズムに背を向け，大都市に群れ集まる建築家たちとは距離を置き，ヒルヴァサムという小都市で孤高の活動を続けているファン・フェルゼンは，自邸兼アトリエを訪ねた我々の前に，たて続けに進行中のプロジェクトの図面を広げて見せながら，電話の受話機を離すことがなかった．　このエルヴィス・コステロに似た風貌の精力的な仕事師の数年後が楽しみに思えてならない．

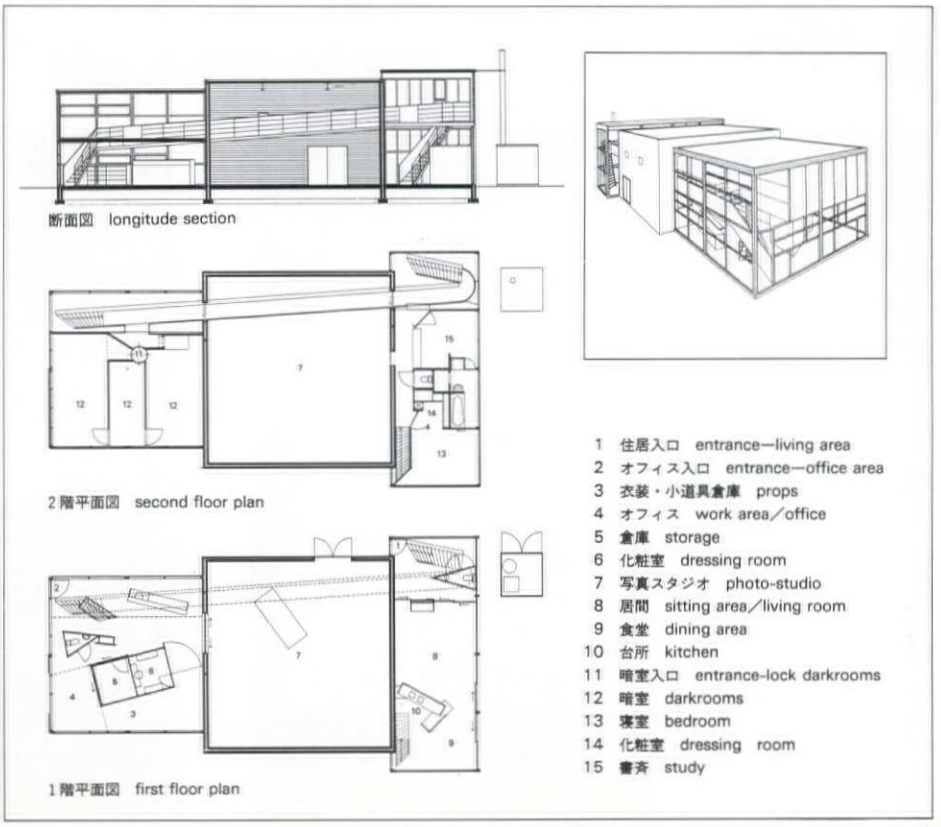
■写真家のスタジオ
Photographer's house and studio, Vinkeveen, 1983

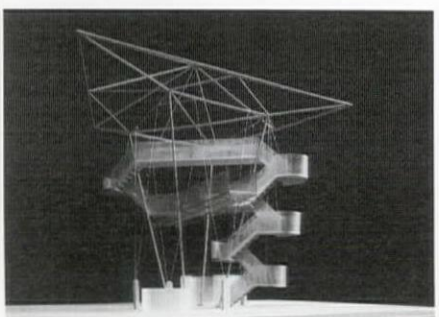
この住宅兼スタジオにおいても，三つの棟が完全な自立性を保ちながら奇妙な角度で配置され，直方体状のスマートな箱におもちゃっぽい階段室が取りついたり，傾いた連結部がくっついたりして，不静定な均衡をうみ出している．



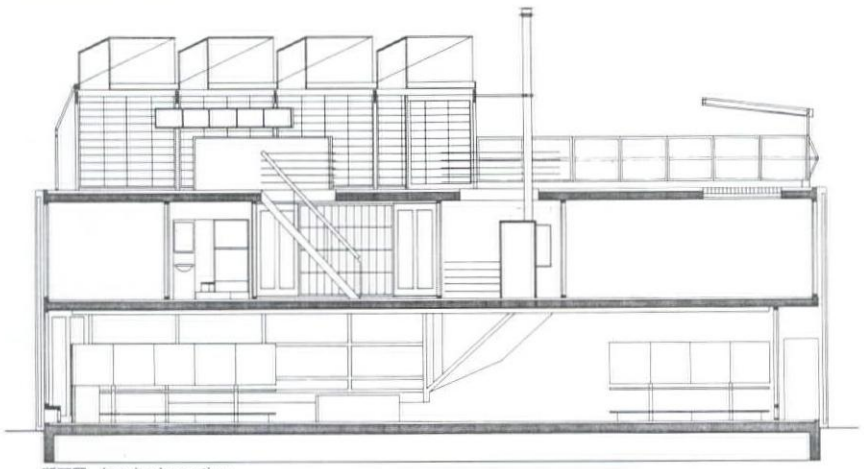
■写真家の家とスタジオ
Photographer's house and studio, Bussum, 1983

窓のない写真スタジオを中央に，事務室と住居がその両側に配されている．　三つの部分はそれぞれ完結した直方体となっているが，幅も高さも微妙に異なる三つの直方体はなんの細工もなしに唐突に連結され，長い斜路がそれらを串刺しにしている．　斜路も含め室内の造作は自邸と同様に，定まった秩序もなしに空間に浮遊している．　視線は絶えず斜めにとすべり抜け，確たる焦点を結ぶことはない．　そこでの構成や空間もまた，既存のカテゴリーには押し込むことができない，まったく新たな，〈ファン・フェルゼン的なもの〉を見ることができる．





●陸軍と武器の博物館　Army and weapon museum, Delft, 1984

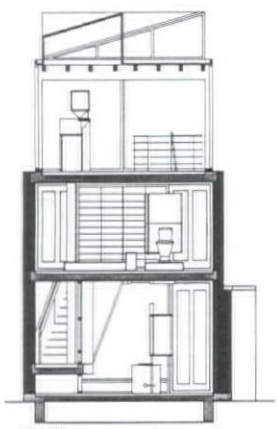


断面図　longitude section

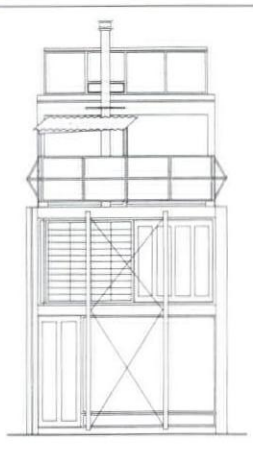
■ファン・フェルゼン自邸

Van Velsen house, Hilversum, 1982

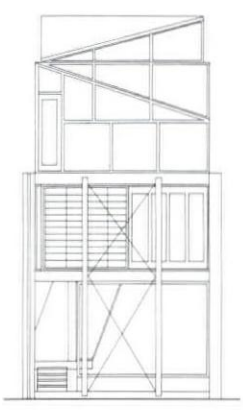
ヒルヴァサムに建つ自邸兼アトリエ．　前面は狭い道路，後側は中庭に面した非常に細長い敷地で，町家の典型である．　1階は美容院で，その脇をすり抜け階段を上がると外部光庭に出る．　光庭をはさんで小さなアトリエと住居（寝室，浴室など）があり，そこから3階に上がると居間があり，南側は広いテラスとなっている．　両側の平行な厚いレンガ壁の間に，様々な線分やら要素が脈絡なしに浮遊して主調（トーン）の定まらぬ奇妙な空間が作り出されている．そうした印象は，鋸歯状のトップライト，異なる大きさの円型吹き抜け，半透明の障子風スクリーン，扉を廃してすべて引戸としていること等のため，空間が開放的になっているだけに一層顕わになっていると言える．　こうした構成法と相まって，使用材料も，木，鉄骨，レンガ，コンクリート，陶器タイルなど多様であり，少し間違えば乱雑になってしまうところを，ファン・フェルゼンの感性が清冽なものにまとめあげている．



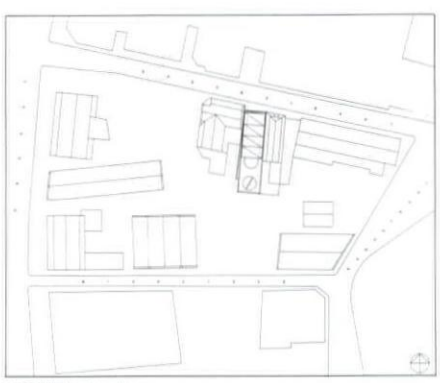
断面図　cross section



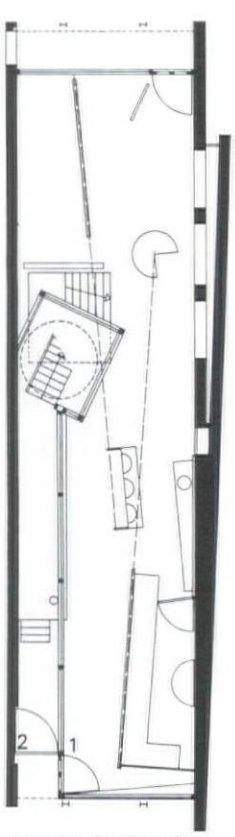
南側立面図　south elevation



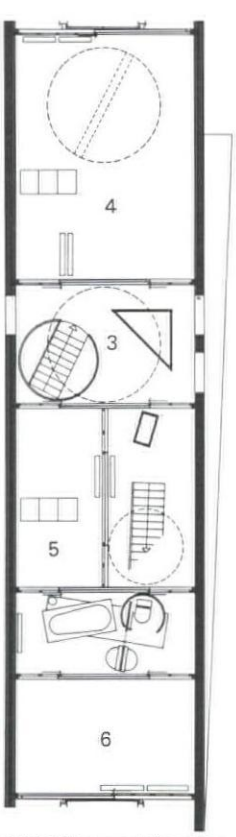
北側立面図　north elevation



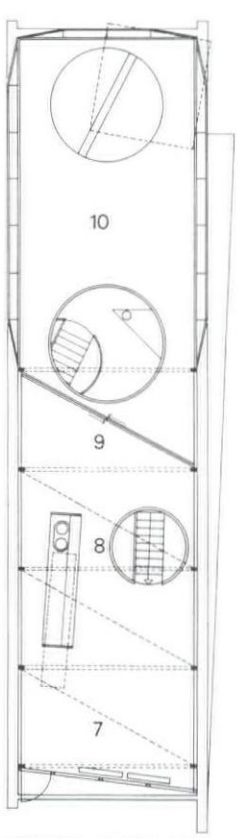
●配置図　site plan



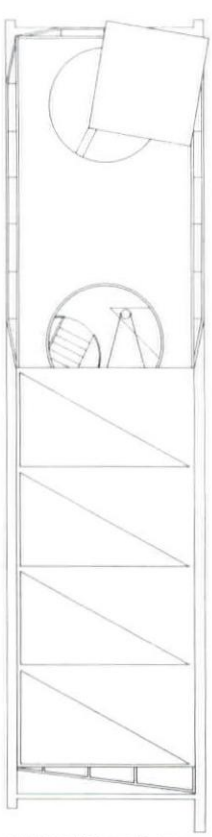
1階平面図　frist floor plan



2階平面図　second floor plan

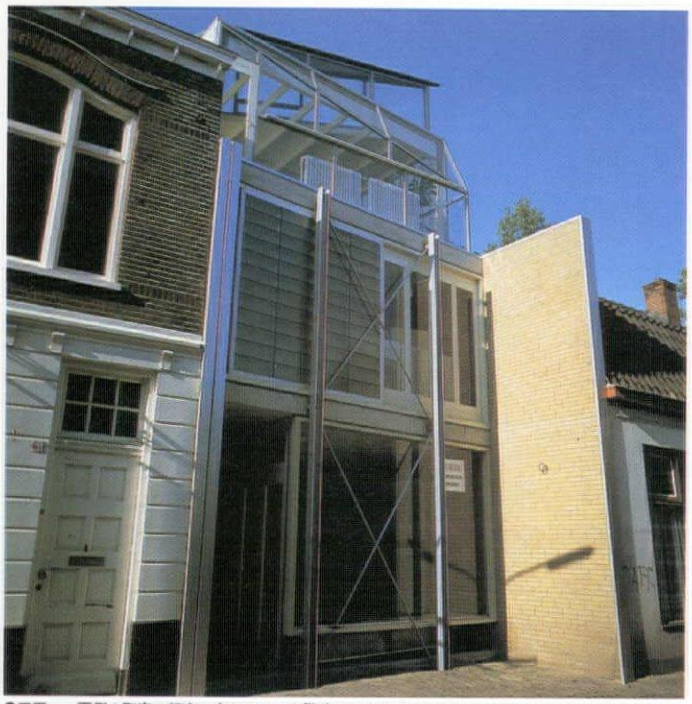


3階平面図　third floor plan



屋上階平面図　roof plan

1　美容院　hairdresser's
2　住居・スタジオ入口　entrance studio／private house
3　中庭　inner court
4　スタジオ　studio
5　予備室　spare room
6　寝室　bedroom
7　居間　sitting area
8　台所　kitchen
9　食堂　dining area
10　屋上テラス　roof terrace



●正面。　両側の町家の軒高に合わせて，2階建ての上にガラスのペントハウスがのっているように見せている。



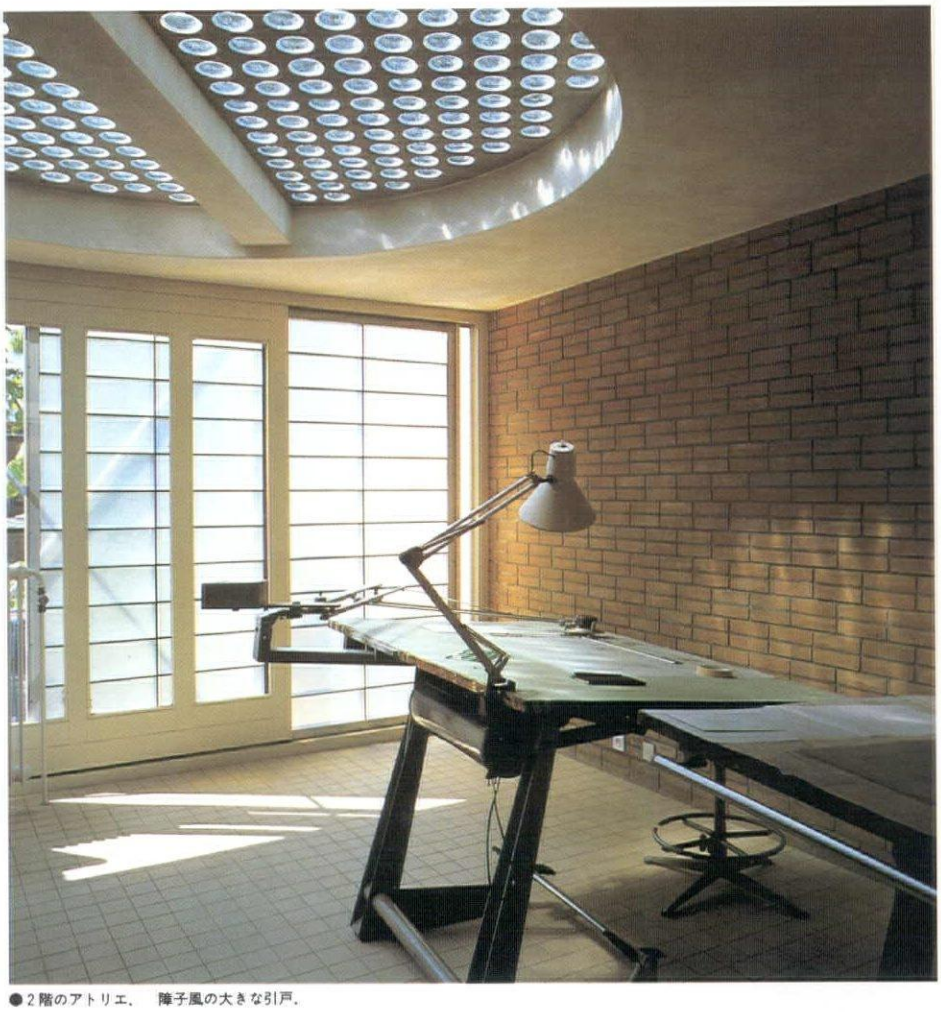
●後の中庭から見る。　レンガ壁の上にガラスの箱。　鋸歯状のトップライト。



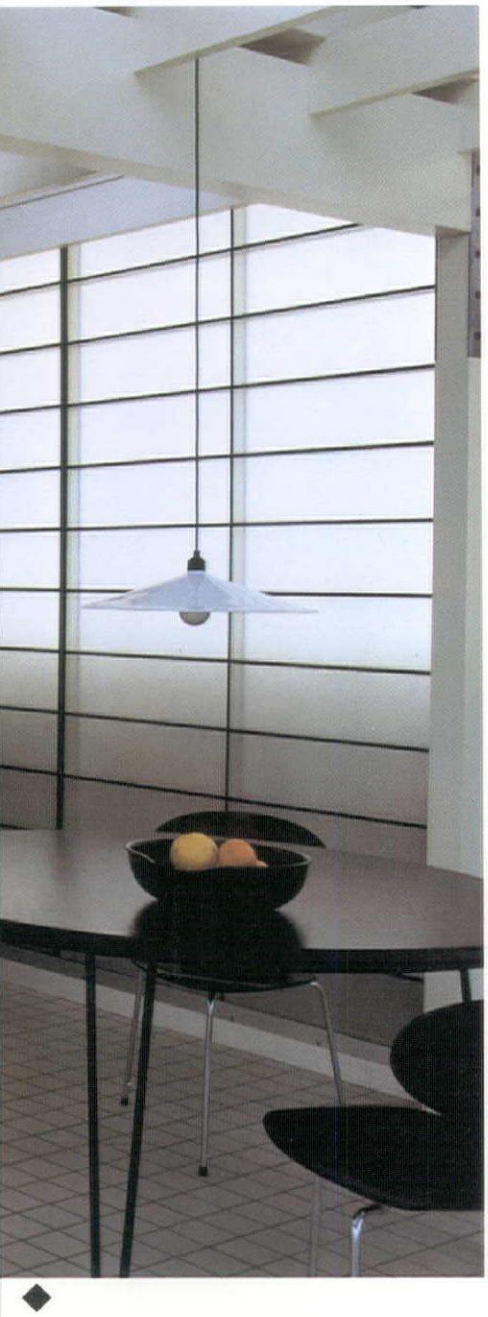
●3階の居間。　限りなく透明に近い空間をとび交う木製の梁，スチールの手摺，プラスチックの食器棚などなど。

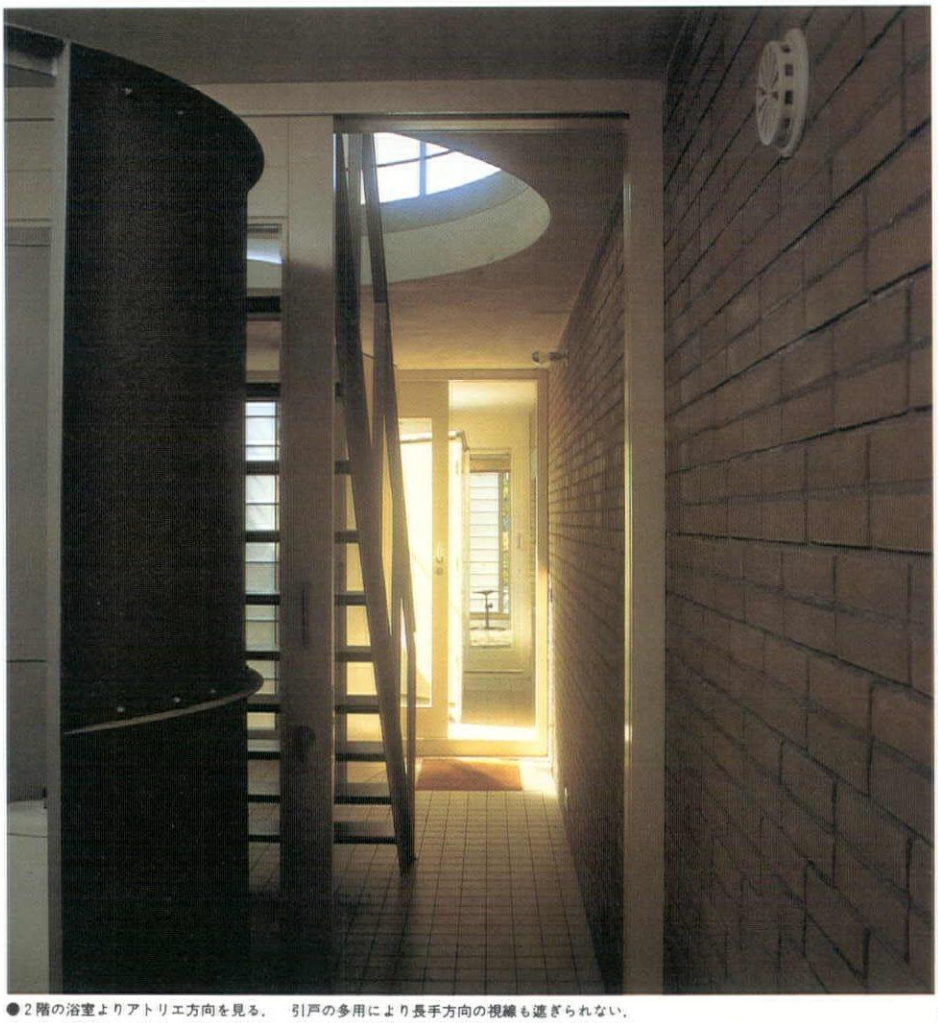


●2階の中庭の見上げ。　円と三角の交錯。



●2階のアトリエ。　障子風の大きな引戸。





●2階の浴室よりアトリエ方向を見る。　引戸の多用により長手方向の視線も遮ぎられない。

MECANOO

Döll, Van Egeraat, Houben,
Steenhuis & De Weiger

■メカノ

Mecanoo

本誌に登場する若手建築家の中でも飛び抜けて若いのが，このグループのメンバーであり，皆1955年，56年の生まれで，デルフト工科大学を卒業したばかりである。　在学中にここに紹介する集合住居計画のコンペに入賞し，一躍注目を集めた。　彼らは1974年以来デルフト工科大学で始められた〈平面の分析的研究〉を学び，デザインを形態の遊戯に終わらせるのではなく，調査・研究と並行した機能的なデザインを目差している。　オランダ流の堅実さの浸透の深さを改めて知らされるグループではないだろうか。

■クライスプレインの集合住宅

Kruisplein housing, Rotterdam, 1985

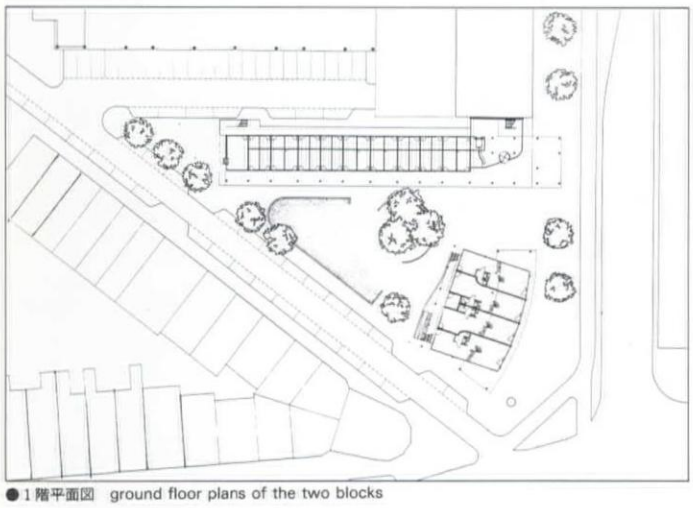
一部に店舗を含む，主として若者向けの集合住宅で，内部のプランニングは徹底した融通性が求められた。つまり大きな住戸を分割して使用できるように，またその反対に小さな住戸を連結することもできることが望まれたのだ。　そうした要求を巧みに満たしつつ，ロッテルダムの中心街区にある敷地の特殊性に対応した住棟配置を行なっている。　敷地はちょうどロッテルダムの近代化された地区と古くからの街並みを残す地区との接点にある。　そこで，前者の側に板状の高層棟を配し，後者に近い側に緩くカーブする立面を持った低層棟を置いて，両者の性格のギャップを埋めようとしたのである。



●メカノ・グループのシンボルマーク



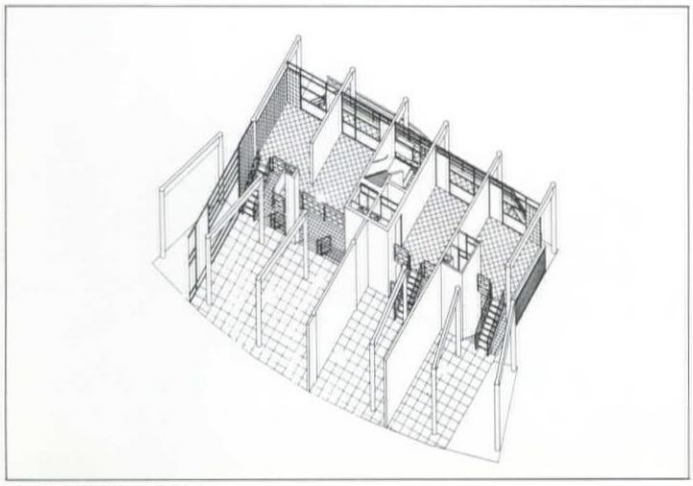
●モンタージュ。　右側にロッテルダム中心地区，左側に19世紀の街並み。



●1階平面図　ground floor plans of the two blocks



●東側から望む。



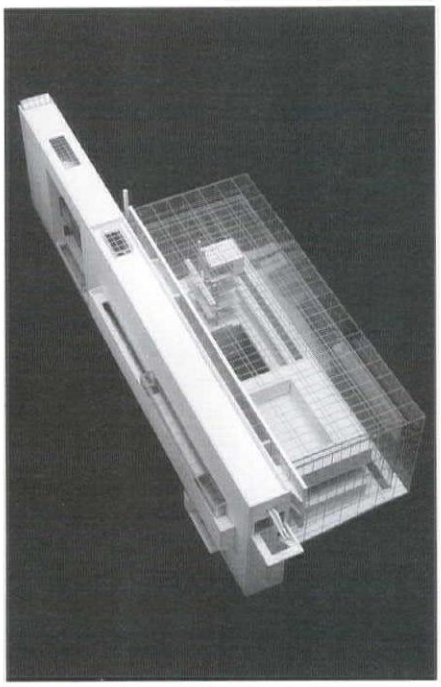
●低層棟1階店舗のアクソメ



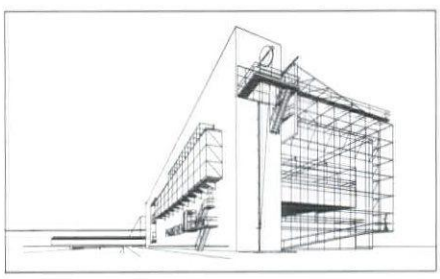
●低層棟の西立面。

photos : P.Rook, Vlaardingen

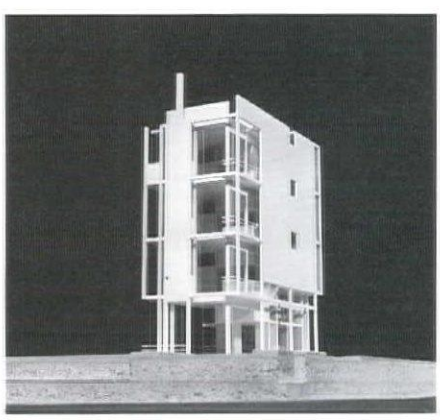
TENGE



■マルニックスプレインのスウィミング・プール
Swimming-Pool, Marnixplein, Amsterdam, 1981
卒業計画としてデザインされたもの。 水を湛えたガラス箱としてイメージされたプールの部分と，それ以外の諸室を収容した細長い閉じた箱の部分の機能の二つが，明確な対比をなしている。 それはまた，アムステルダムの古い街並みとの対比を意図的に作り出し，水泳に興ずる人達の姿を外から望めるようにして，周囲に活気を生じさせようというものでもある。

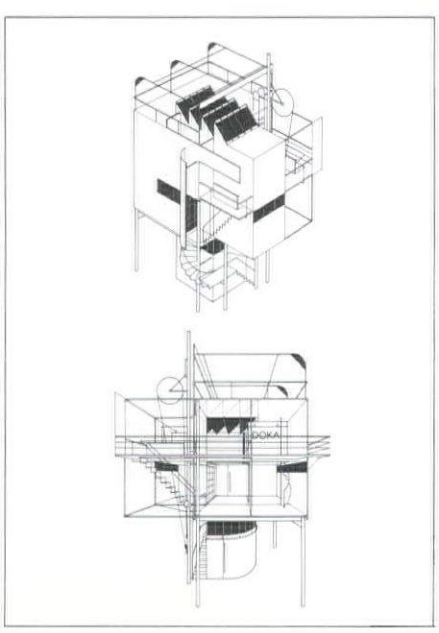


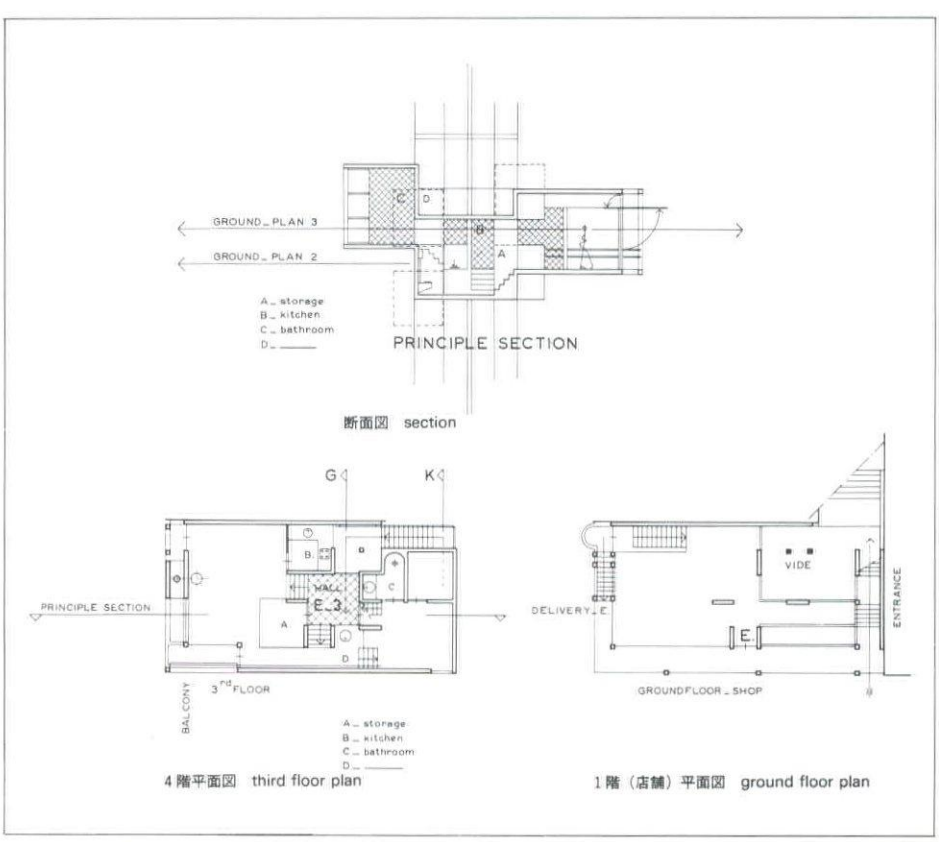
■ベン・テンゲ
Ben Tenge
ベン・テンゲのプロジェクトを一つの覗き窓として，我々はデ・ステイル，ファン・デル・フルフトやブリンクマンの機能主義，ロシア構成主義，さらにはルドルフ・シンドラーやリチャード・マイヤー等を視野に収めることができる。 それらのものの混合物だというのではなく，それぞれの中から最も軽快で透明な質を抽出し，テンゲ流の構成主義の構図の中に素直に導き入れているのである。 形態の洗練度という点ではオランダの若手建築家の中でも群を抜くテンゲは1943年生まれで，アムステルダムの建築アカデミーを卒業し，1982年に事務所を設立した。



■街角の家
Corner building, Amsterdam, 1979
アムステルダムの旧市街地，運河沿いの角地に建てられる予定の4階建ての小さな建物。 1階と地下は店舗で，2，3，4階は住戸。 隣接する建物が例のダッチ・ゲイブルではなくて水平のコーニスを強調したものであるのを利用して，旧市街地には異色の完全なモダン・スタイルのデザイン。 リートフェルトを想わせる柱，壁，床面の巧緻な操作によって，住居にとって好ましい微妙な床のレベル差と，細やかなニュアンスを持った立面が作り出されている。

■人形の家
Doll's House, 1982
イギリスのＡＤ誌主催の〈人形の家〉コンペの応募案。 仕掛けに満ちた可愛らしい作品。



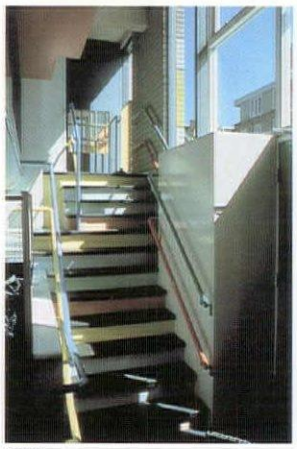


断面図 section

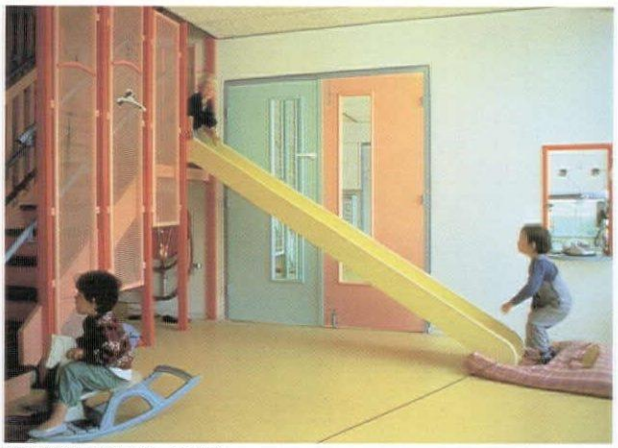
4階平面図 third floor plan

1階（店舗）平面図 ground floor plan

SOETERS



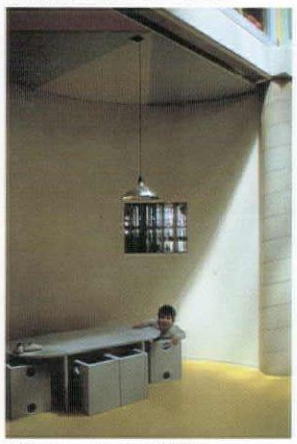
❷入口



❸半日保育室（1才半ー2才半）



❹全日保育室（1才半ー2才半）



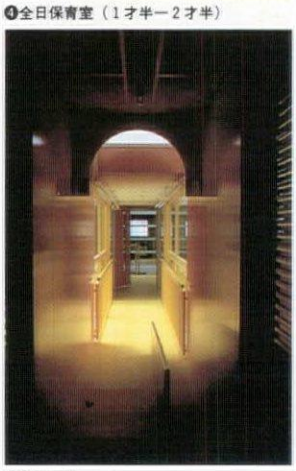
❺コーヒー・ルーム／集会室



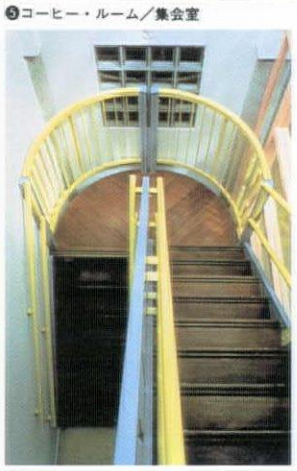
❻遊び場・廊下



❶入口扉



❼ブリッジ



❽階段



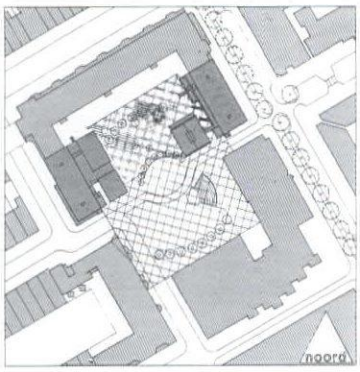
❾裏側全景



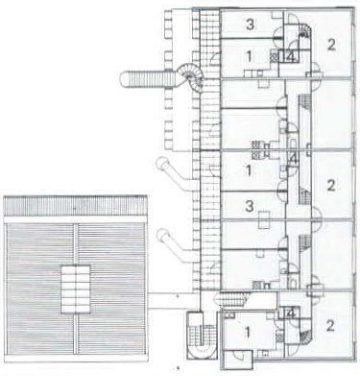
⓫



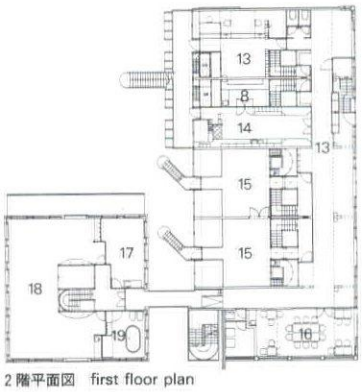
⓬



配置図　site plan



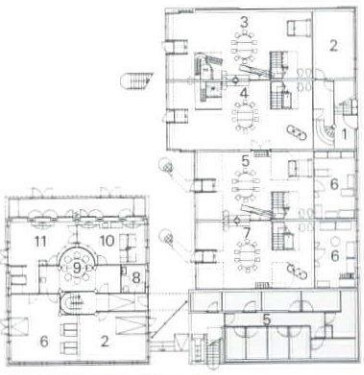
3階平面図　second floor plan



2階平面図　first floor plan

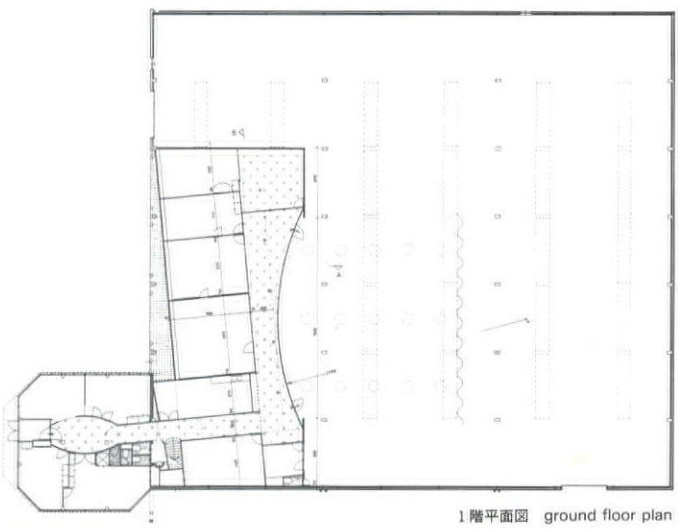
集合住宅部分　Apartments
1　台所　kitchen
2　居間　living room
3　寝室　bedroom
4　トイレ　lavatory
5　倉庫　storage

保育園　Crèche
1　玄関　entry
2　倉庫，自転車・乳母車置場　storage, perambulators, etc.
3　半日保育室(1才半-2才半)half-day-group $1\frac{1}{2}$-$2\frac{1}{2}$ years
4　半日保育室(2才半-4才)half-day-group $2\frac{1}{2}$-4 years
5　全日保育室(1才半-2才半)whole-day-group $1\frac{1}{2}$-$2\frac{1}{2}$ years
6　午睡室　bedroom
7　全日保育室(2才半-4才)whole-day-group $2\frac{1}{2}$-4 years
8　洗濯室　laundry
9　コーヒー・ルーム／集会室　coffee／meeting room
10　乳児保育室　sleep／playroom youngest babies
11　乳児の遊び場　playroom babies
12　遊び場廊下　passage for playing
13　事務室　office
14　厨房　kitchen
15　遊び場バルコニー　balcony for playing
16　父母集会室　parents meeting room
17　作業室　workshop
18　4-6才児用居間　living room-group 4-6 years
19　浴室　bathroom



1階平面図　ground floor plan

⑰



1階平面図　ground floor plan

⑱

■シュールト・スーテルス
Sjoerd Soeters

モダニズムの純粋な培養土を供し続けてきたオランダにあっては，ポスト・モダニズムの建築の姿を想像するのは難しい．　俗なる環境に手がかりを見出すことも困難だし，また歴史の源流に遡ったとしても，成果が期待されるような状況ではない．　もしあり得るとすれば，日常の行動の一つ一つに対応したこまごまとした部分をくっきりと浮き上がらせ，かまびすしく騒がしく楽しい空間を演出することではないだろうか．　それはポスト・モダニズムというよりは，ダッチ・ポップという呼び名の方がふさわしい気がするけれども．　ともあれスーテルスの作るのはそうした空間である．　1947年生まれの彼は，アイントホーヴン工科大学を卒業後，幾つかの事務所で働いたのち，1979年に独立し，アムステルダムに事務所を開いた．　デビュー作の自邸にせよ，ここで紹介する保育園にせよ，ファン・アイクの近年の作品の影響は明瞭である．　しかし，急進的折衷主義者の異名を取るごとく，それ以外にも参照の対象は直接，間接にかかわらず実に多岐に渡るのだ．それらのコラージュが破綻していないのは，機能的で堅実で美しくさえあるディテールが完全にスーテルス自身の流儀でまとめられているからであろう．

■アムステルダムの保育園と集合住宅　⑰—⑱
Dwellings and children's day-nursery, Amsterdam, 1982-83

〈赤ちゃんの神殿(ベビー・テンプル)〉と名付けられた三角破風の2階建ての乳幼児施設と，それとは渡り廊下でつながった，1，2階が保育園，3，4，5階が集合住居となっている棟よりなる複合建築．　隅々まで念入りに工夫をこらされたデザインは，溢れるほどの色彩とあいまって，息苦しささえ感じさせるほどだ．

■ファッションメーカー〈サンドウィッチ〉のショールーム兼倉庫　⑲—⑳
Sandwich fashion showrooms and warehouse, Zoeterwoude, 1984

既存の倉庫（矩形平面）と，同じく事務所（八角形平面）とを衣服メーカーのショールーム兼倉庫に改装したもの．　ハイテック・クラシシズムと称して，アルミを用いて倒置したルスティカ仕上げをファサードに仕立てている．　スーテルスの機智を示す作品．

❶Amsterdam　アムステルダム

ここには代表的な一，二しか挙げなかったが，言わずと知れたベルラーヘとアムステルダム派の建築の牙城．ファン・アイクの代表作二つは建物の性格上，内部見学不可．　コールハースの最初の実現作の全容は1986年中には姿を見せよう．

○H. P. Berlage
Stock exchange　1903 : Damrak
○J. Duiker　[p.24-25]
Cineac　1935 : Reguliersbreestr. 31-33
○J. Duiker　[p.21,28]
Open air school　1930 : Cliostraat 40
○A. van Eyck
Orphanage　1962 : Amstelveenseweg 40
○A. van Eyck　[p.44-45]
Mothers' house　1982 : Plantage Middenlaan 33
○H. Hertzberger
Old people's house　1973 : Pieter Callandlaan／Louis Crispijnstr.
○H. Hertzberger　[p.47]
Apollo schools 1983 : Willem Witenstr. ／Apollolaan
○M. de Klerk
Eigen Haard housing　1918 : Zaanhof, Zaanstr, Oostzaanstr.
○R. Koolhaas　[p.52]
IJplein housing　1981- : IJplein
○J. M. van der Mey
Shipping house　1916 : Prins Hendrikkade 113-114
○S. Soeters　[p.60-61]
Children's day-nursery　1983 : Kinkerbuurt
○J. Wils
Olympic stadium　1928 : Stadionplein

❷Delft　デルフト

旧市街はオランダのベニスと称される美しい水の都．そこから車で数分のところに広大な敷地のデルフト工科大学．　その中にバケマ等の建築多数．

○J. H. van den Broek, J. B. Bakema
Auditorium T. H.　1965 : Prof. Mekelweg
○J. H. van den Broek, J. B. Bakema
Boiler house　1957 : Building for Metallurgy
○H. Hertzberger
School　1967 : J. V. Beierenlaan

❸Den Haag　デン・ハーグ

緑に恵まれた環境の良い町．　事実上の首府でありながら，住宅地は軽井沢をさえ思わせる．　ベルラーヘの市立博物館にはデ・ステイルの部屋があってリートフェルトの家具が勢ぞろいしている．　ファン・アイクの教会は普段は入れない．

○H. P. Berlage
Municipal museum　1934 : Stadhouderslaan 41
○J. W. E. Buijs　[p.32]
De Volharding　1928 : Prinsegracht 39
○J. W. E. Buijs　[p.32]
Rudolf Steiner clinic　1929 : Nieuwe Parklaan 26
○J. Duiker　[p.21,29]
Nirwana　flats　1930 : Benoordenhoutseweg／Willem Witsenplein
○A. van Eyck　[p.45-46]
Roman catholic church 1969:Laan van Meervoort ／Aaltje Noorderwierstr.
○J. B. van Loghem
Private house　1938 : near van Soutelandelaan
○J. J. P. Oud
Head-office Shell Nederland　1942 : Wassenaarseweg
○G. Th. Rietveld　[p.40]
House Mees　1936 : van Ouwenlaan 42
○J. Wils　[p.32]
Papaverhof housing　1922 : Papaverhof
○J. Wils　[p.32]
Olveh Office building　1932

❹Heerlen　ヘールレン

ドイツおよびベルギー国境に近い町．　この町を根拠地として長く活動したペウツの作品が多数ある．　中でも市庁舎は古典から近代までを万遍なく含んだ奇妙にして精巧な建築．

○F. P. J. Peutz　[p.35]
Schunck department store　1933 : Marktplein／Kerkplein
○F. P. J. Peutz　[p.35]
Town hall　1942 : Raadhuisplein
○F. P. J. Peutz　[p.34]
Architect's house　1931 : Kruisstr. ／Oude Lindestr.

❺Hilversum　ヒルヴァサム

何といってもデュドックの町だ．　彼の作品が総計75．すべてを見ると40km歩くことになる．　ダウカーのサナトリウムは町の中心から車で10分．　捜し当てるのに苦労する．　ファン・フェルゼンの住宅は駅のすぐ近く．

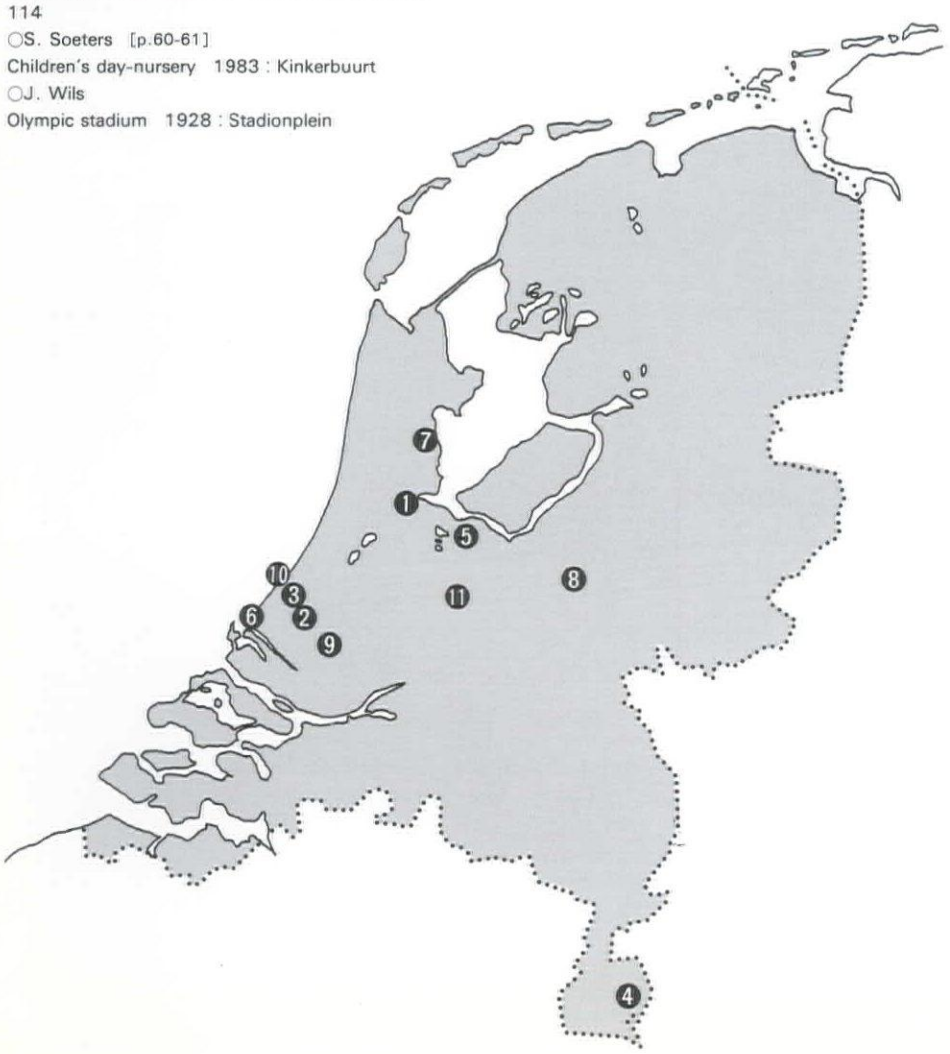
○W. M. Dudok
Town hall　1930
○J. Duiker　[p.24-25]
Hotel Gooiland　1936 : Emma and Langestr.
○J. Duiker　[p.22-23, 26-27]
Zonnestraal sanatorium　1928 : Pampahoeve
○K. van Velsen　[p.55-57]
Van Velsen house　1982 : Spoorstraat 65b

❻Hoek van Holland　フーク・ファン・ホラント

○J. J. P. Oud　[p.43]
Hoek van Holland housing 1924 : 2e Scheepvaartstraat 91a-113a

❼Ilpendam　イルペンダム

○G. Th. Rietveld
Private house　1950 : Monnikerdammerrijweg 31c



主要作品年表

⑧Otterloo　オッテルロー

クレーラー・ミュウラー美術館は旧館がヴァン・デ・ヴェルデ，新館はクイスト設計．　屋外彫刻庭園，ゴッホ，モンドリアーン等のコレクションはヨーロッパ有数．　必見の価値あり．　周囲の大森林に驚嘆．

○W. G. Quist
Kröller Müller Museum extension　1972 : Hoge Veluwe

○G. Th. Rietveld　[p.40-41]
Sonsbeek pavilion　1955 : Garden Kröller Müller

⑨Rotterdam　ロッテルダム

港湾施設を先ず見るべし．　オランダの力を見ることができる．　次にファン・ネレ工場で専用輸送トラックのプラモデルを買い，ファイエノールト・スタジアム（サッカー場）で地元ファイエノールト・チームを応援しよう．　これでロッテルダムの半分は消化したことになる．

○J. A. Brinkman, L. C. van der Vlugt　[p.12]
House van der Leeuw　1929 : Kralingse Plaslaan 38

○J.A.Brinkman, L.C.van der Vlugt　[p.12,14-19]
Van Nelle's factory 1930:Van Nelleweg 1

○J. A. Brinkman, L. C. van der Vlugt　[p.13]
〈Feyenoord〉 stadium　1936 : Stadionweg

○J.A.Brinkman, L.C.van der Vlugt, W.van Tijen　[p.31]
Bergpolder flats 1934:Dr. Abraham Kuyperlaan

○J. H. van den Broek, J. B. Bakema
Shopping center　1953 : Lijnbaan

○Mecanoo　[p.58]
Kruisplein housing　1985 : Kruisplein

○H. F. Mertens
Haka building　1932 : Vierhavenstraat 40-42

○J. J. P. Oud　[p.42-43]
Kiefhoek housing　1925 : Kiefhoek and Heer Arnoldstr.

○W. G. Quist
Water cleaning bed 1978 : Schaardijk 150

○W. van Tijen　[p.30-31]
Yacht club house　1936 : Kralingse Plaslaan 113

○W. van Tjien　[p.31]
Plaslaan flats 1938 : Kralingse Plaslaan／Ramlehstr.

○Carel Weeber
Housing　1980 : Westblaak, Churchillplein

○Carel Weeber　[p.50]
Paperclip housing　1978 : Rosestr. ／Binnen havan

⑩Scheveningen　スヘーヴェニンゲン

オランダ第二のリゾート地．　といっても誠にのんびりとしている．　北海を見ながらの砂浜での昼寝．　デン・ハーグまで行ったら足を伸ばすべし．

○J. Duiker　[p.21,29]
Technical school　1930 : Zwaardstraat 16

⑪Utrecht　ユトレヒト

駅周辺の再開発はかなりのもの．　シュレーダー邸の意外な小ささにびっくり．

○G. Th. Rietveld　[p.40-41]
Schröder house　1924 : Prins Hendriklaan 50

○G. Th. Rietveld
Apartment block　1934 : Erasmuslaan

○G. Th. Rietveld
4 dwellings : Erasmuslaan 5-11

1903 Berlage／Stock exchange, Amsterdam

1915 デュドック，ヒルヴァサム市の建築技師となる．
1916 Van der Mey／Shipping house
1917 〈デ・ステイル〉誌創刊．
Van Doesburg, Oud／Villa De Vonk
Berlage／City plan "Zuid", Amsterdam
〈ウェンディンヘン〉誌創刊．
1918 アウト，ロッテルダム市の建築技師となる．
De Klerk／Eigen Haard housing
Rietvelt／Red and Blue Chair
1919 Oud／Purmerend factory project

1920 モンドリアーン〈新造型主義〉を発表．
1921 ファン・ドゥースブルフ，ミース等〈グループG〉結成．
1922 Oud／Oud-Mathenesse housing
Wils／Papaverhof housing
1923 Van Doesburg／House project
1924 Oud／Hoek van Holland housing
Rietveld／Schröder house
1925 Oud／Café De Unie
Oud／Kiefhoek housing
グランプレ・モリエール，デルフト工科大教授就任
1926 ファン・ドゥースブルフ〈エレメンタリスム宣言〉
1927 ダウカー，ファン・エーステレン等，デ・アフト設立．
1928 第1回CIAM
Wils／Olympic stadium, Amsterdam
Van Doesburg／Cabalet Aubette
Buijs／De Volharding
Duiker／Zonnestraal sanatorium
1929 〈デ・アフト・エン・オプバウ〉誌発刊
Van Doesburg／Meudon House
Brinkman, Van der Vlugt／House van der Leeuw
Buijs／Rudolf Steiner clinic

1930 Dudok／Town hall, Hilversum
Brinkman, Van der Vlugt／Van Nelle Factory
Duiker／Technical school, Scheveningen
Duiker／Nirwana flats
Duiker／Open air school
1931 デ・ステイル解散．
Peutz／Architect's house
1932 Wils／Olveh Office building, Den Haag
1933 Peutz／Schunck department store
1934 Berlage／Municipal museum, Den Haag
Van Tijen, Brinkman, Van der Vlugt／Bergpolder flats
1935 Duiker／Cineac
1936 Rietveld／House Mees van Ouwenlaan
Brinkman, Van der Vlugt／Feyenoord stadium
Duiker／Hotel Gooiland
Van Tijen／Yacht club house
〈ウェンディンヘン〉誌廃刊．
1938 Van Tijen／Plaslaan flats

1940 ロッテルダム空襲．
1942 Oud／Head-office Shell Nederland
Peutz／Town hall, Heerlen
1946 -53 Van den Broek, Bakema／Lijnbaan shopping-center
1947 第6回CIAM〈ヨーロッパの復興〉
1948 ファン・デン・ブルーク，デルフト工科大教授就任．

1950 Rietveld／Private House, Ilpendam
1953 第9回CIAM，チーム・テン設立．
1955 Rietveld／Sonsbeek pavilion
1959 〈フォールム〉誌発刊．

1960 Van Eyck／Orphanage, Amsterdam
Van den Broek, Bakema／Church, Nagele
1965 Van den Broek, Bakema／Auditorium T.H., Delft
1968 Weger, Duintjer／Schiphol airport
1969 Van Eyck／Roman catholic church, Den Haag

1972 Quist／Kröller Müller Museum extension
1973 Hertzberger／Old people's house
1975 De Bruijn／Community hall, Amsterdam
1976 Van Eyck／Visser house
1977 Van Eyck, Bosch／Housing, Zwolle
1978 Weeber／Paperclip housing
1979 Weeber／Vasteland flats

1982 Van Eyck／Mother's house
Van Velsen／Van Velsen house
1983 Hertzberger／Apollo schools
Soeters／Dwellings and children's day nursery
Van Velsen／Photographer's house and studio
1984 Weeber／Heemraadlaan station
Soeters／Fashion showrooms
1985 Benthem&Crouwel／Customs-house, Hazeldonk
Mecanoo／Kruisplein housing
1986 Koolhaas／IJ plein housing

モダニズム建築の王国オランダは雨続きの強行軍だった.



●アイヘンハールトの集合住宅／M. デ・クレルク

今回の
オランダ特集の取材は,
ロッテルダム芸術協会
(De Rotterdamse
Kunststichting)
の多大の協力の下に
行なわれました.
ここに記して
感謝いたします.
昨年9月, 同協会は
ジャパン・エア
(JAPAN AIR :
Architecture
International
Rotterdam)
を開催.
日本の12人の
建築家の展覧会,
7人の建築家による講演と
ワークショップの他に,
SDオランダ特集を
刊行するための私達の取材も
そのプログラムの内に
含まれていたのです.
展覧会とワークショップの
模様については
本誌1984年12月号に
掲載されています.

去年の9月下旬のオランダは, 雨また雨のサイアクの天候だった. レンタカーはブレーキを踏むたびにキーキーと音をたて, 我々をますます苛立たせた. しかし, 天は我々を見捨てはしなかった. 9月18日火曜日. 取材行程上のハイライトとなるべきその日は, たった1日だけ終日, 晴天に恵まれたのだった. 奇蹟の火曜日であったのだ. 午前中はファン・ネレ工場. 案内人つきの内部撮影の時間は, わずか1時間半足らず. カメラマンK氏は, それまでは絶対に手離さなかった七つ道具入りの小型リュックを私の背中に預け, ウップンを晴らすかのように撮りまくった. フィルム総数計15本. それからデルフトでファン・ドンゲンの広大なロフトにため息し, ヒルヴァサムに車を走らせてクーン・ファン・フェルゼンの自邸に度肝を抜かれ, ようやくお目あてのダウカーのサナトリウムにたどり着いた時にはK氏も私もカメラを手にする気力は残ってはいなかった. (K I)

ジャパン・エアと取材を通して, ロッテルダム芸術協会のファン・デル・ルフト氏をはじめ, オランダ側の建築家や職員の人たちはみな親切で, よくしてくれました. リーダー格のヴェーバー, 才能があるが集団を嫌い, ヒルヴァサムで自分だけの道を行くクーン・ファン・フェルゼン, そしてパーティーで何度もヨハン・クライフの真似をしてサービスしてくれたピ・ド・ブライン. お別れパーティーで, それらへの感謝の意をこめて, 流暢だがカターイ英語での, I編集長の挨拶があった. その締めくくりの言葉. 「このイベントがロッテルダムと建築ミュージアムの未来にとってお役に立てば……」というところで, 場のカターい雰囲気は爆笑に変った. このイベントが, 国立建築ミュージアムのロッテルダム誘致につながれば, という下心が主催者にはあったみたいなのだ. われわれは皆, 実はそれを知っていたというわけなのでした. (S I)

今回のジャパン・エアの日本側幹事は, H氏でした. 彼は長い間オランダに留学していた関係から, ロッテルダム芸術協会と, 企画・連絡・展示作製・通訳と実に多くの仕事をしなければなりませんでした. そのH氏が, アムステルダムからデルフトへ帰る途中, 撮影予定にはないデ・クレルクのアイヘンハールトの集合住宅を案内してくれました. それは, 街角に立つ古びたどっしりとした建築でした. H氏はぼくに熱っぽくそれについて語ってくれました. そして知らないうちに, 夕日から街灯の水銀灯へと光が変ってゆくアイヘンハールトを, 夢中になって1時間半くらい撮影しました. そのうちに気がついて戻ってみると, H氏は疲れて, フィアットウーノの中で夢の中でした. 今回の幹事の仕事は大変だったにちがいありません. この誌上を借りて, 厚くお礼を申し上げたく思います. ありがとうございました. (K)

せっかくオランダから招かれた取材旅行だというのに, いかにもオランダらしい秋の曇り空, 何日も太陽を見かけないまま今日は東, 明日は西と縦横無尽の強行軍.
I氏の出立ちは黒ずくめで, 服も黒なら, テンバのバッグも黒, 中に収まるニコンFGもブラック, 黒が災してか, 真先に風邪をひいてしまったのが彼. 病をおして歩く姿は, 痛々しかったけれど, ひとたび建築の前に立てば, 眼に輝きが戻るのですから, こちらの病の方が重いのかもしれません.
中盤, 千鳥足のI氏を先頭に, 二番手は, 不思議に疲れを見せず, 飄々とした足どりのI編集長. 彼はフリーウェイともなると, 眈々と前を見すえてかなりのスピードでとばす. 三番手は, 自分の体と同じ位丸みをおびたリュックに機材をつめた, 写真家のK氏. いつもシャッターの感触を確めながら, 被写体を求めて, ぼっとぼっと歩く. しんがりは, 前を行く3人を気遣う案内役の小生, といった, 4人の珍道中でありました. ともかく, 皆さん御苦労様でした. (H)

アムスの街で見つけた貴婦人

宮木 隆

セピア色に変色した2枚の写真，それがこの建物との初めての出会いであった．　彫刻的要素に満ちた力感的な玄関部分，そして華麗で繊細な装飾によるガラス天井……堀口捨己著《現代オランダ建築》(大正13年刊)に収録されていた写真である．　一見，いかにも表現派の建物らしいのだが，決して過剰な嫌味を感じさせなかった．むしろ，カッチリとした芯の強さが深く印象に残った．

初めて降りたつアムステルダム中央駅付近は，他のヨーロッパ諸都市とは違って，何か異様な緊張感に包まれていた．　レンブラントの絵のイメージである．　様々な人種のルツボ，足取りもセカセカと落ち着きがなく，建物は一様に黒ずみ，運河の水の色さえ，ひどく暗く沈んで見えた．

そんな薄暗い環境の中，鋭角に突き出した敷地に船を連想させる形で建っていた海運ビルは，写真から暖めていたよりも，はるかに圧巻であった．　隅から隅まで，肉眼でははっきりと見えるはずもない部分まで，決して息を抜くことのない丹念なデザインとディテールの集積，また集積．　しかも，竣工後70年近くを経ているというのに，少しの崩れも見せていない．

この建物の設計に当りファン・デル・メイは，カイペルス事務所時代の年下の同僚，クレルクとクラーメルの協力を得たという．　確かに，後にアムステルダム派の代表作とされる集合住宅で用いられたモチーフを発見することもできる．　しかし，レンガ・ワークの密度の濃さは，それらアムステルダム派の一連の集合住宅とは比べようもない程，迫力に満ちていた．　そしてレンガそのものは，細長いシャープなプロポーションと材質による柔らかい表情のアンビヴァレントな関係にある．　随所に嵌め込まれた，海神，イカリ，波，魚等をモチーフにした彫刻

●
海運協会本部ビル　Shipping Building
設計=J. M. van del Mey, 1913-16
Amsterdam, Netherland



は，リアリズムからは離れている。　時には静かな笑みを浮かべて，素朴さと神秘を秘め，それがまた，緻密なレンガ・ワークと不思議な調和を見せていた。

これ程の豊饒な装飾に埋め尽くされていながら，なおかつ保持している落ち着き……それは，キラめく金銀宝石を身につけながらも，決してそれに押し流されることなく見事に着こなしてしまう，豊かなセンスと教養に裏打ちされた高貴な貴婦人の姿を想起させる。　そして，歴史の経過に耐えながら気丈に身を持してきた芯の強さであろうか。

内部でも，飽くことのない海のモチーフによる装飾の密度の濃さは同様であるが，プレーンな白い面との対比が，さわやかさを感じさせる。そして，抑制を充分に効かせた上に，要所に嵌め込まれた鮮かな色彩。　しかし何よりも，隅々まで艶やかに磨き込まれた往時そのままの姿に，この建物に込めた建築家の情熱，そして，それを受けて慈しみ続けてきた人々の深い愛情，その極めて稀れな関係を見てとれた。　ファン・デル・メイがあまり仕事に恵まれず，現存する作品はほとんどないというだけに，より強く胸を打たれる思いであった。

最後に，終始，親切に案内してくれた支配人のHille氏が，裏側に私を連れ出した。　実は今，外壁の修復を実験しているのだという。　部分的に洗い出された壁面に，黒くススけた表情とは別の，輝くばかりの鮮かなサーモンピンクを発見した。　瞬間，私の脳裏でその色が外壁一面に拡がった。　風雪に耐えた気丈な姿とは別の，若き日の屈託のない豊潤なアデ姿を想像しつつも，しかし，果たしてどちらが……。　そんな，気持ちの揺れ動くまま，愛しの貴婦人に別れを告げた。

●みやき・たかし／建築家，鹿島建設設計部



❼







潮の香りと共にアムステルダムは，出発点の中央駅からそのピクチュアレスクな姿にも独特なものが漂っている．　その左手のヘンドリックカーデ通りと運河にはさまれた三角地に，少しごつごつとした力強そうなファサードを呈しているこの建物は，実は，アムステルダム・スクールと呼ばれるパラダイムを世に送り出したモニュメンタルな共同作業の場でもあった．　20世紀初頭，17世紀アムステルダムに基盤を置いた，東インド会社の海運貿易によりもたらされた繁栄を再び想起させるようなデザインが期待される気運の中での計画であり，ファン・デル・メイが若きかつての同僚P．L．クラーメルとM．デ・クレルクを従え，意匠を担当した．　アムステルダム株式取引所においてのベルラーへに習い，クラフトマンとの共同作業を通じて，そのシンボリズムを余す所なく埋めつくした密度の高い作品である．

鋭角状となった北側の角地からエントランスの前，彫刻家ファン・デン・エインデの４つの大洋を比喩したレリーフを通り抜けると天井にはランプ付の北極星と大熊座が張りつけてある．光沢あるチークの扉の先には，W．ボフトマンによる十二宮図と世界地図を印したステンドグラスのトップライトから，光が階段に重層されながら降り注がれるライトウェルが広がる．　ヘンドリックカーデにもうひとつある入口の上には，波模様の間にあけたイルカの口の中に商業神マーキュリーが招き猫の如く置かれ，外壁には17世紀のオランダの探険家達の頭像が突き出され，曼荼羅さながらの世界が構築される．　ローマ大賞の賞金によるヨーロッパ旅行により，ファン・デル・メイは中世建築やレンガの化粧積みに興味を持ち，レンガを鉄筋コンクリート造の装飾としてあえて用いた．　システムをありのまま見せようとするベルラーへの教義から，



⑥



⑦



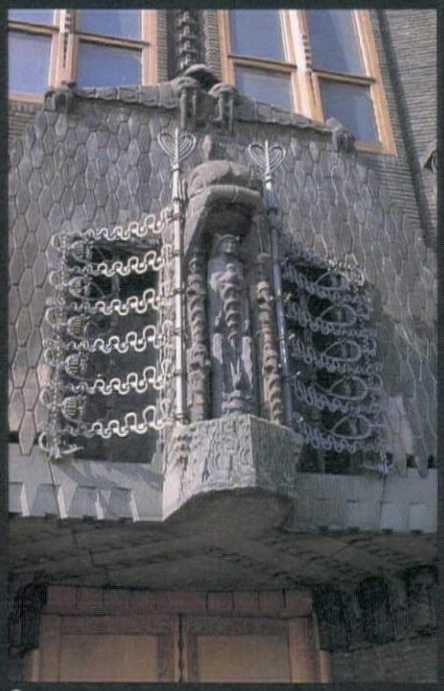
⑧

奔放にシフトしてしまう。　化粧レンガは，あたかも荷重をささえているかの如く表現されるため，縦横貼りの組み合わせ，ギザギザさせた面，テラコッタなどの装飾のパターンで，より垂直性が高められ，襞のある鉛屋根のスカイラインのリズムを支えている。　質感の違いは，色調のコントラストで強調するのではなく，同系色のトーンが自由に組み合わされたものである。　建物の材料や構造上の必要を創造の出発点とし，装飾を施した，Lサリヴァンとの類似性もあるが，パッチワークのように部分分けをしながら共同作業を行ない，過去の様式にはとらわれず自由奔放にスケルトンに装飾を施し，地域性も組み込んでフォルムを調和させることが出来た状況に意義がある。　以降，M.デ・クレルク等が引き継ぎ，時代の要請にかなったポジションに身を置き，集合住宅を中心として，教義性から離れ，奔放にピクチュアレスクの世界を独自に展開し，衆目を浴びる。　急に経済の冷え込む20年代後半に終焉を迎えるまで，華やかにくりひろげられる祭の前夜の出来事であった。

●やちだ・あきお／建築家，ワークショップ



❾



⓫



⓭



❿



⓬



⓮



⓯

❶❸❹❺外観詳細　❷運河越しに見る全景　❻階段室ライトウェル見上げ　❼最上階執務室　❽十二宮図と世界地図を印したステンドグラス　❾最上階階段ホール入口　❿会議室の照明　⓫商業神マーキュリー　⓬彫刻の施こされた正面入口　⓭正面入口天井の大熊座　⓮外壁に突き出された頭像　⓯一部洗い出された外壁　写真：堀川幹夫(❷-❺⓮)，宮木隆(❻-❿⓬⓭)，山口廣(⓯)

ステファノ・カッシャーニ：〈建築としての家具――ザノッタ社のデザイン〉から

ラショナリズモの椅子――カサ・デル・ファッショのためのテラーニのデザイン

横山 正

昨年，ミラノのアルカディア出版社から，上記のような題名の本が出版された．〈プロジェクトから製品へ〉と題する，イタリアのデザインを代表するプロダクトを会社ごとにまとめて紹介するシリーズの第1巻である．　ステファノ・カッシャーニによるザノッタ社の家具を扱ったこの本は，同社が開発生産している個々の家具ごとに項目を立て，その発想から製品化にいたるまでを紹介して興味深い．　カッシャーニについては詳しくは知らないが，1980年代のはじめから近代デザインについての論説を《ドムス》誌などに寄稿しているひとで，1980年代のリンツの〈フォーラム・デザイン〉展のカタログ以来，ザノッタ社の製品の解説を担当している．

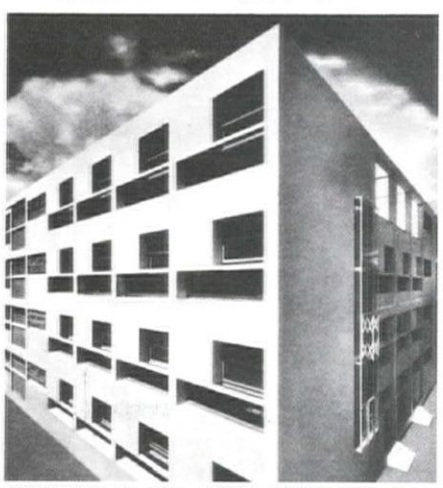
この本は彼が直接，創立者アウレリオ・ザノッタをはじめとするザノッタ社のスタッフやデザイナーたちにインタヴューしてまとめたもので，とりわけ個々の作品の背後に隠れた発想や製品化の過程でのエピソードが語られているのが貴重である．　またザノッタ社の製品は一般に時代の状況に敏感に反応する部分をもっている――もちろんその中から永続的なもの，本質的なものを拾い出しているのだが――ゆえに，これは一社の製品に限っての本でありながら，また一面，ユニークな現代イタリアデザイン史の趣きももっている．　そこでこの本の紹介をということになったのだが，何しろA4判で170頁からある本なので，適宜，そのうちのトピックスを作品本位に拾って，この本に蒐められた資料を用いつつ，私なりの見解を加えてまとめていくことにした．今回はまずザノッタ社が60年代後半以来，復刻を手掛けている1930年代の家具のうち，とくにジュゼッペ・テラーニの作品群をとりあげて見よう．　カッシャーニの本では，第1部「バウハウスからカサ・デル・ファッショへ，1927―1939」にあたる部分である．

〈フォリア〉[1]　1934年／G.テラーニ

A.リベラと並ぶイタリア合理主義の旗手，テラーニのこの椅子が広く知られるようになったのは，まったくザノッタ社が戦後，その復元製作を行なったゆえと言ってよい．というのも，この椅子はあのカサ・デル・ファッショのためにデザインされながら，実際には用いられなかった幻の家具だからである．　もちろん〈フォリア〉，すなわち狂気，または愚行というほどの呼び名は，1971年にこの椅子を発売したときにザノッタが附けた仇名で，これが商品の名まえなのだから，いかにもイタリア人らしいユーモアである．　カッシャーニは，ザノッタ社の製品には〈建築としての家具〉という主題が一貫しており，それをもっとも良く体現しているのがこの椅子だと言っているが，たしかにその形態には，カサ・デル・ファッショの建物のイメージがそのままに写し込まれていると言えるだろう．

カッシャーニはこれが「あまりにも革新的すぎた」ゆえに受け容れられなかったのだろうと推察しているが，とにかくカサ・デル・ファッショの建設のわりに早い時期にデザインされたこの椅子の計画は，途中で放棄されてしまうのである．　テラーニは1932年から1936年にかけてこの建物のためにさまざまな机や椅子をデザインしており，厖大なエスキースが残されているが，そのうち実現を見たのは，次に扱う鉄パイプを用いた〈ラリアナ〉や〈サンテリア〉のたぐいであった．　この椅子の復元は，アルキーヴィオ・テラーニに保存されているそれらデッサンと試作品1脚をもとにして行なわれている．

残されたデッサン[3][4]を見ると，テラーニは背板を支える弓形の帯金を1本にすることも考えているし，回転式の椅子に仕立てることも検討している．　とくに初期のスケッチを見ると，現在の最終的な形とは違って，座板には傾斜やくぼみがあり，背板の上部も大きく面が取られ，バネになっている帯金の背板および座板への取り付き方も異なっている．　最終案はこれから見ると，とことん抽象化を押し進めた極という感が深い．　いっさいの部分が直線と円弧でまとめられ，木部も黒く塗られて，まるで椅子の概念の絵解きのごとき境地に行きついている．　この最終案においては，木部はすべてむくのぶな材を用いてラッカー仕上げ，弓状の帯金は鉄のクロムメッキで，写真で見るように，2本で背板を支える形におさめられている．　しかし復元製作されたものでは，外観はまったく忠実に試作品をコピーしながら，座板については内側に枠を入れて合板を用い，帯金の部分はザノッタ社の製品一般に用いられているステンレススティール〈イノックス18／8〉に変えられている．

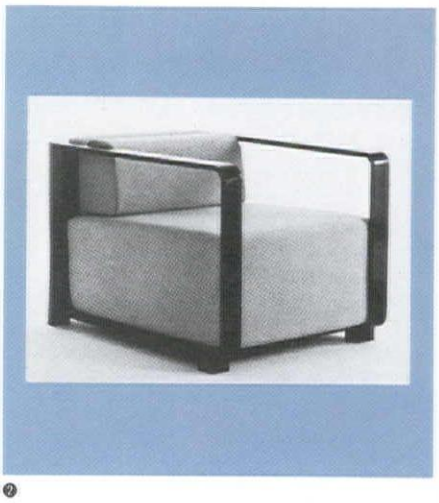


●カサ・デル・ファッショ，M.ビアンキ街側のファサード．

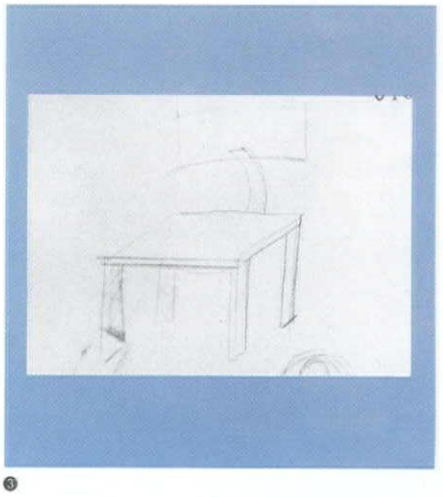
テラーニの家具としては，これに先立って，1929年にデザインされたコモの集合住宅〈ノヴォコムン〉内の農業協会の事務所のための一連のもの，あるいは1930年のモンツァでのトリエンナーレにおけるテラーニたちのグループのデモンストレーション，〈モダン婦人服飾店〉に展示したもの[2]など（これらについてはB.ゼヴィ著《ジュゼッペ・テラーニ》鵜沢隆訳，SD選書181に写真が載っている）があるが，金属の部材を加えた家具が登場するのは，このカサ・デル・ファッショのプロジェクトあたりからのようである．　しかしこの椅子のデザインには，さきほど見たような抽象化への意志とともに，すでにアルプスの北方でかなり展開していた金属部材を用いる椅子に対して，何か新しいこれまでに無かったタ



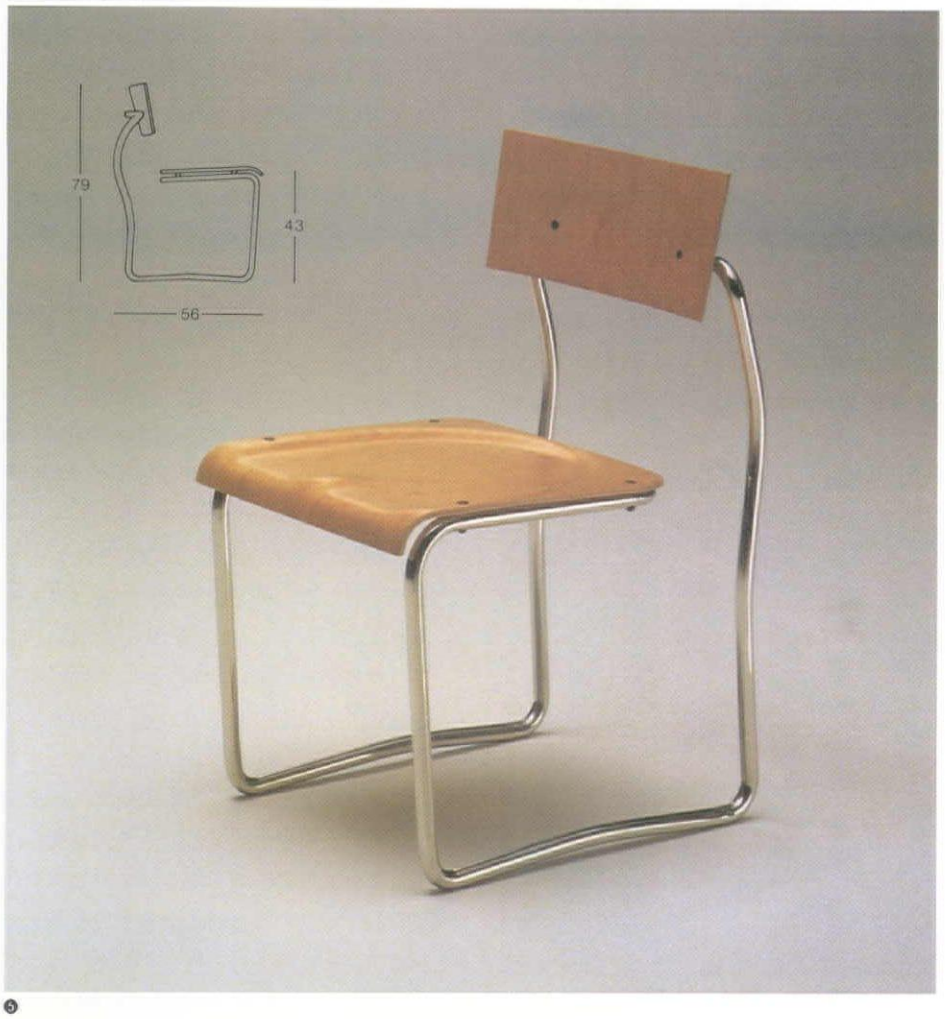
❶



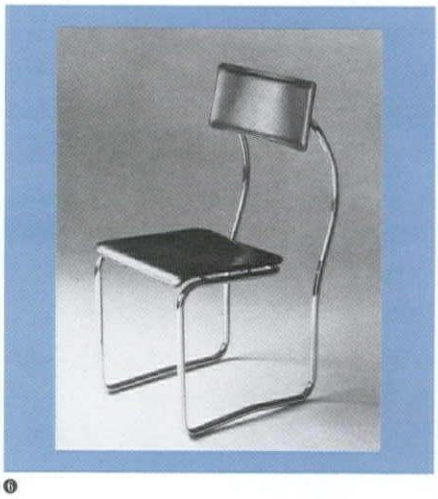
❷



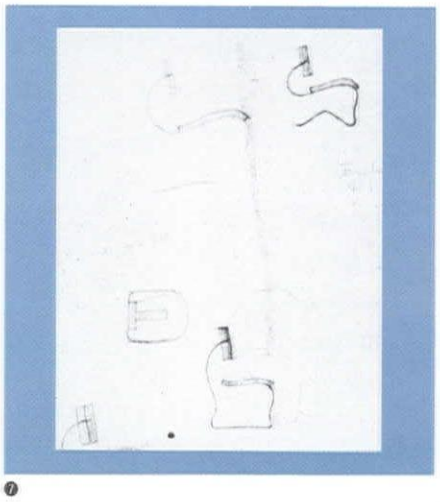
❸



❺

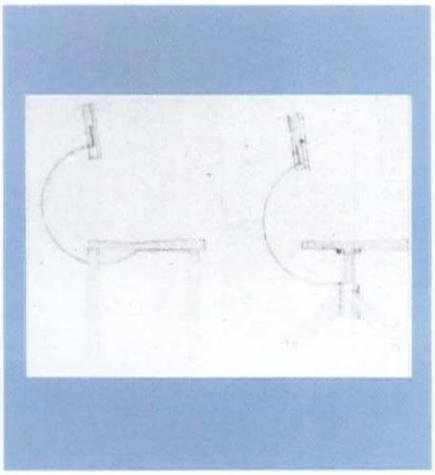


❻



❼

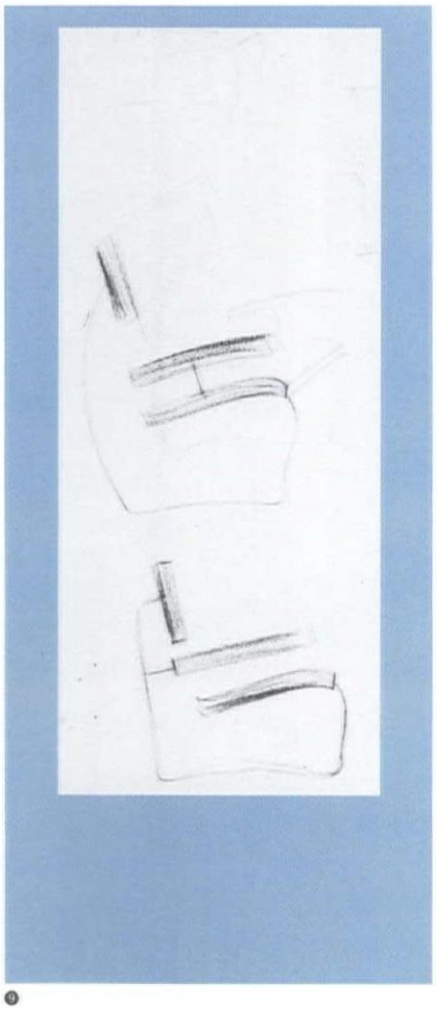
❶フォリア　1934年　カサ・デル・ファッショのためにデザインされたが，実現せず．　1971年復元製作．
❷1930年モンツァでの第4回トリエンナーレ（以後ミラノ）でのデモンストレーション〈モダン婦人服飾店〉に展示された椅子．木製ラッカー塗装．
❸❹〈フォリア〉のためのスケッチ．　弓形の支えが1本のもの，回転型のものも見える．　座板のディテールなどに注目．
❺ラリアナ　1936年　カサ・デル・ファッショのためにデザインし実現された．　サンテリア幼稚園で使用される．　1982年復元製作．
❻〈ラリアナ〉の背板の高い型．　黒の皮張り．　1980年復原製作．
❼〈ラリアナ〉のスケッチ．
❽椅子〈サンテリア〉が並ぶカサ・デル・ファッショの会議室．壁面装飾はマリオ・ラディーチェ．
❾〈ラリアナ〉，〈サンテリア〉の構想スケッチ．
❿サンテリア　1936年　カサ・デル・ファッショのためにデザインされ，会議室などで使用される．　サンテリア幼稚園などでも使用される．　1983年復元製作．



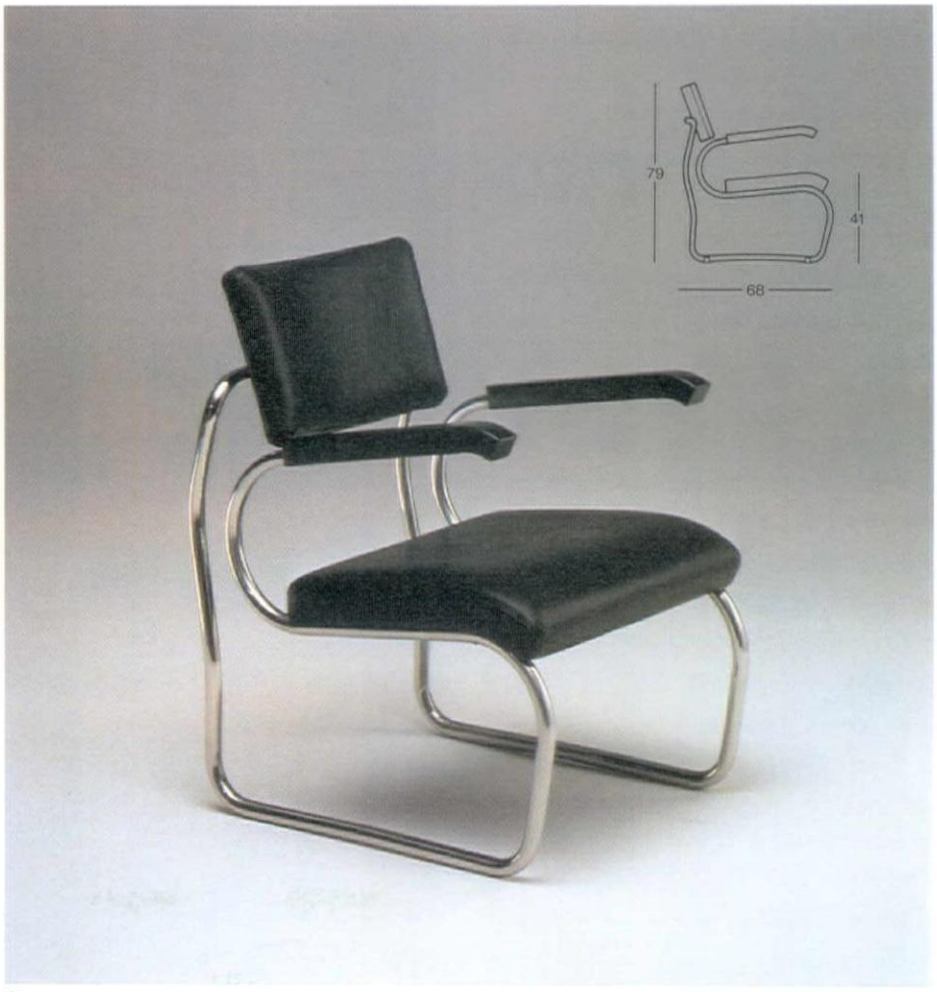
❹



❽



❾



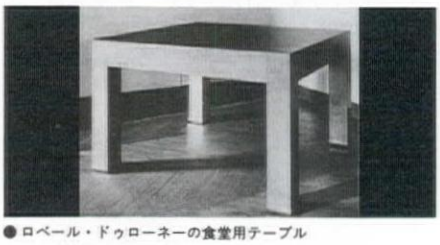
❿

イプを附け加えようという彼の苦心のあとが窺われるように思う．

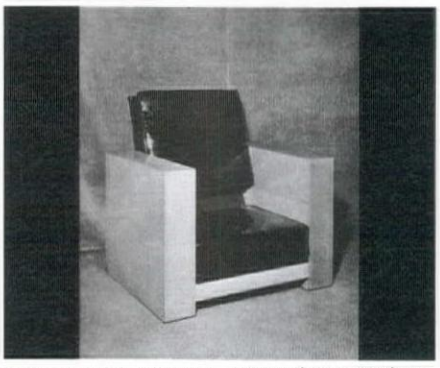
私もまだ完全に調べきった訳ではないのだが，それまでの椅子における金属部材の使いかたとしては，やはり鉄パイプが主流で，帯金をバネ状に捉えて用いるというのは，おそらく1929年のミースのバルセロナ・チェアとこのテラーニの作品くらいではあるまいか．　さらに附け加えれば，カッシャーニが「家具における合理主義＝ラショナリズモ概念のシンボル」的存在とするこの椅子には，またどこか，1920年代の北方のデザイン，たとえばロベール・ドゥローネーやピエール・ルグレンたちの作品(→P72中上)とひびき合う部分もあるように感じられる．　しかし結果として生み出された比例感覚は，まぎれもなくテラーニのミラノやコモの建築群に通い合うものである．当時一般的に追求された，家具全体をひとつの統合されたシステムとして捉える見かたを排して，あろうことか椅子をたんなる真四角な台にまで環元してしまったところがこのデザインの真骨頂なのだが，そのラディカルの徹底にまたふしぎな魅力も生まれる．　人間工学的な坐り心地ひとつが椅子の善し悪しの決め手にはならぬところに，椅子という家具のふしぎがある．

〈ラリアナ〉[3]　1936年／G.テラーニ

カサ・デル・ファッショのための椅子のもうひとつの系列は鉄パイプを用いたものである．　鉄パイプの椅子は先に述べたように，すでに1920年代にさまざまなタイプのものが開発されていた．　ブロイヤー，ペリアン，ル・コルビュジエ，マルト・シュタム，ミース，ルネ・ヘルブスト，ブルジョワ，リートフェルト等々の家具が，すでに登場していたのである．　しかしテラーニの鉄パイプによる椅子の一連のプロジェクトは，背も座もともに弾性をもつ椅子として，それらとは違うまったく新しいタイプの開発を狙ったものであった．　それはブロイヤーやミースの良く知られている椅子が，鉄パイプが垂直の背から水平の座へ，さらにまた下に降りてついで折れ曲って床に接する面をつくる形であるのに対して，鉄パイプがまず背からまっすぐ下に降り立って床にぶつかり，前面で床に接する面からまた立上って，座の高さのところで再度折れ曲って座の支えをつくるという形式のものであって，つまり背と座が別個に切りはなされて弾性をもつのである．　テラーニのデッサン[7]を見ると両方のタイプのエスキースがあり，そのなかから最終的にこのタイプを択びとっている．　ただはたして，テラーニが知っていたかどうかは分らないが，厳密に言うと，ブロイヤーが1920年代にやはりこのタイプに近いものを試作している(→P72中下)．　もっともこれにおいては，背からまっすぐ降りる垂直の部材と床に接する水平の部材とが直角に接合されているので，テラーニの椅子とはやや考えかたが違ってきている．



●ロベール・ドゥローネーの食堂用テーブル



●ピエール・ルグレンのソファ　いずれもヴァン・デ・ヴェルデ編〈モダン・スタイル〉(パリ，1925)による



●マルト・シュタムの椅子．　当時，一般的に試みられたタイプ．



●マルセル・ブロイヤーの椅子．　テラーニのものに似た構成になっている．　いずれもG.シュネック〈椅子〉(シュトゥットガルト，1928)による．

これはカサ・デル・ファッショのほかにも，のちの1936—37年のコモのサンテリア幼稚園で，次の〈サンテリア〉とともに使用されている．　これについても試作品1脚がやはり残されていて，それをもとに復元製作が行なわれている．　まず1965年に〈ラリアナ〉と名付けられて復元されたこの椅子は，背も座もクッション造りになっていた．　その後，1980年になって座と背を合板皮張りにしたもの[6]が造られ（これはテラーニのデッサン自体に，座を薄く板にしているものがある故である），また1982年にはぶなの合板生地仕上げのものも造られたが，これではテラーニのデッサンのひとつに従って，背板の高さが以前のものより低められている．　ここでもパイプの鉄のクロムメッキが今日的にステンレスに変えられたほか，以前金属のプレートを介してパイプに背板が留められていたのに対して，ビスで直接，パイプと背板を接合する形をとっている点がオリジナルと異なっている．

〈サンテリア〉[1]　1936年／G.テラーニ

〈ラリアナ〉の座を低くして肘掛けを添えたタイプだが，これはカサ・デル・ファッショの会議室[8]に用いられたほか，その後もサンテリア幼稚園など，いくつかの建物でヴァリエーションが使用されている．　カッシャーニはピーター・アイゼンマンの言を引いて，「新しい技術のメタファーとして物質的な存在から解放する」というパラドキシカルなアプローチがテラーニの建築から家具にいたるまでのデザインの理想のうちにあったと言い，テラーニはこの椅子のデザインにおいても，当初はスケッチ[9]に見るようにもっとリジッドな感覚のある，そうした彼のテーゼに近いものを構想していたのだが，鉄パイプ工作の技術的理由から，ここに見るような当時の合理主義の流れのなかではむしろ異例とも言うべき有機的な形態に移行していったのだと述べている．結果として生み出されたものは，新しいタイポロジイの開発と，曲げの形の特異さにおいて，これまたカッシャーニの言葉を借りれば，当時の他のイタリアの作家たちの作風にも見られる「インターナショナルスタイルのマニエリスム」のひとつのあらわれとなったのであった．

●よこやま・ただし／東京大学助教授

文=草森紳一　写真=大倉舜二

ロマンチシズムの洞窟(グロテスク)

1

「ライトを含んで私たち三人が，つんざくようなスピードで田舎をかけ廻ると，純朴な北欧系農夫の妻たちは，馬にまたがる悪魔の災いをさけるため，胸に十字を切った．　その頃のマスターの並みはずれた暮らし方のため，タリアセンに関するすべてが，人びとにとっては奇妙で，悪魔とさえ思われていた」(《自伝アントニオ・レーモンド》三沢浩訳)

1916年の春，スプリング・グリーンのタリアセンにレーモンドが妻をともなって訪れた時の回想である．

レーモンドは，「発狂した召使が，ライトの妻と二人の子供を含めた七人を殺し，最初のタリアセンのアトリエを全焼させた」1914年の惨劇の悪夢からいまだ醒めやらぬものの，第二次タリアセンの再建がほぼなったころに訪れたわけである．

「数日間，私たちは夢の世界をうろついていた．　そこには創作の才能がくりひろげられ，独創的な計画と優雅な調和があり，風景と建物とがぶつかりあうのではなくとけ合っている光景が，私たちを恍惚とさせた」と述べているところをみると，レーモンドは，たちまちライトの魔法にかかっている．

だが，惨劇については，一種のタブーになっていて，だれも口を閉して話さなかったらしいが，近所の農夫たちが，タリアセンに住む人々を悪魔かなにかのように思っておそれおののいていたというのは，理解しやすい．　ライトの不屈の精神を賞するものなどいなかっただろう．　野を駈ける馬上のライトをみれば，まさしく「悪魔が風に乗ってやってくる」(ウォールポール)であり，十字を切らないわけにいかなかっただろう．

「タリアセンの生活は，一見もの静かな，調和のとれた建築となだらかな土地をもつ田舎に思えながら，一刻たりとも平和ではなかったのである」とレーモンドは，観察している．

ライトの文章を読んでいて，しばしば気になる言葉は，〈美〉と〈ロマン〉と〈詩〉である．　20世紀の末葉にあっては，なかば形骸化した死語に等しい言葉になりさがって，三文小説の謳い文句にも使われなくなっているからだ．

このころ，ライトは，ラーキン・ビル(1904)，ユニティ教会(1906)，ロビー邸(1908)，ミッドウェイ・ガーデン(1914)を完成しているが，建築家としてまだ有名といえず，スキャンダリストとしてのほうが著名だったとレーモンドは言っている．　彼は，自伝の中で，当時《アメリカの建築》と題して発表したライトの宣伝パンフレットの言葉を引いているが，そこにも〈美〉がでてくる．

「人間の家は……つまり美しくなければならぬ」

「……この〈美しい〉という言葉におじけつくことはないのだ．　多分，美が大変な金持だけに縁のあるものと，考えられているのかもしれない」

「フランク・ロイド・ライト氏は……センスのない醜悪な家を建てるのと同費用で，それよりはるかに美しい家が建てられるように計画した．　この建築家の天才を理解していただきたい」

「……彼はいろいろな型の家をデザインしたが，それぞれ，信じられないほど美しく，幾とおりにも変化する」

ライトの建築をここでは「アメリカン・システムの家」と呼び，それは「アメリカの感情を語る，この国の精神の表現である」と主張している．　この宣言には，スピリチュアリズムとロマンチシズムの容認がある．

宣伝文を見てもわかるように，まだこのころは〈美〉という言葉も，生命力をもっていた．　あたかも金持だけ手にすることができるような特権的な価値をもっていたのである．

しかし，ライトは，そういう〈美〉とか〈詩〉とか〈ロマン〉なる語の連発をいっさい気にしていなかったわけでない．　1928年，《アーキテクチュラル・レコード》誌に，建築のための言語についてエッセイを発表している．

彼は，建築中でない時は，つねに建築について書くのだといいきる．　それは，たんに宣伝のためというより，建築と文章は，不可分の関係にあるという積極的な姿勢からきている．　そして，「ユーソニア的ロマンチシズム」を言い，その達成よりも，希求探求のほうが重要なのだといっている．　ロマンチシズムとは，奥深い神秘への参入であると心得ているからだろう．

とはいえ，〈ロマンチシズム〉などという言葉が危険なことは知っていた．　詩人のカール・サンドバーグは，彼の友人であったが，ライトにつぎのように文句をつけたことがあったという．

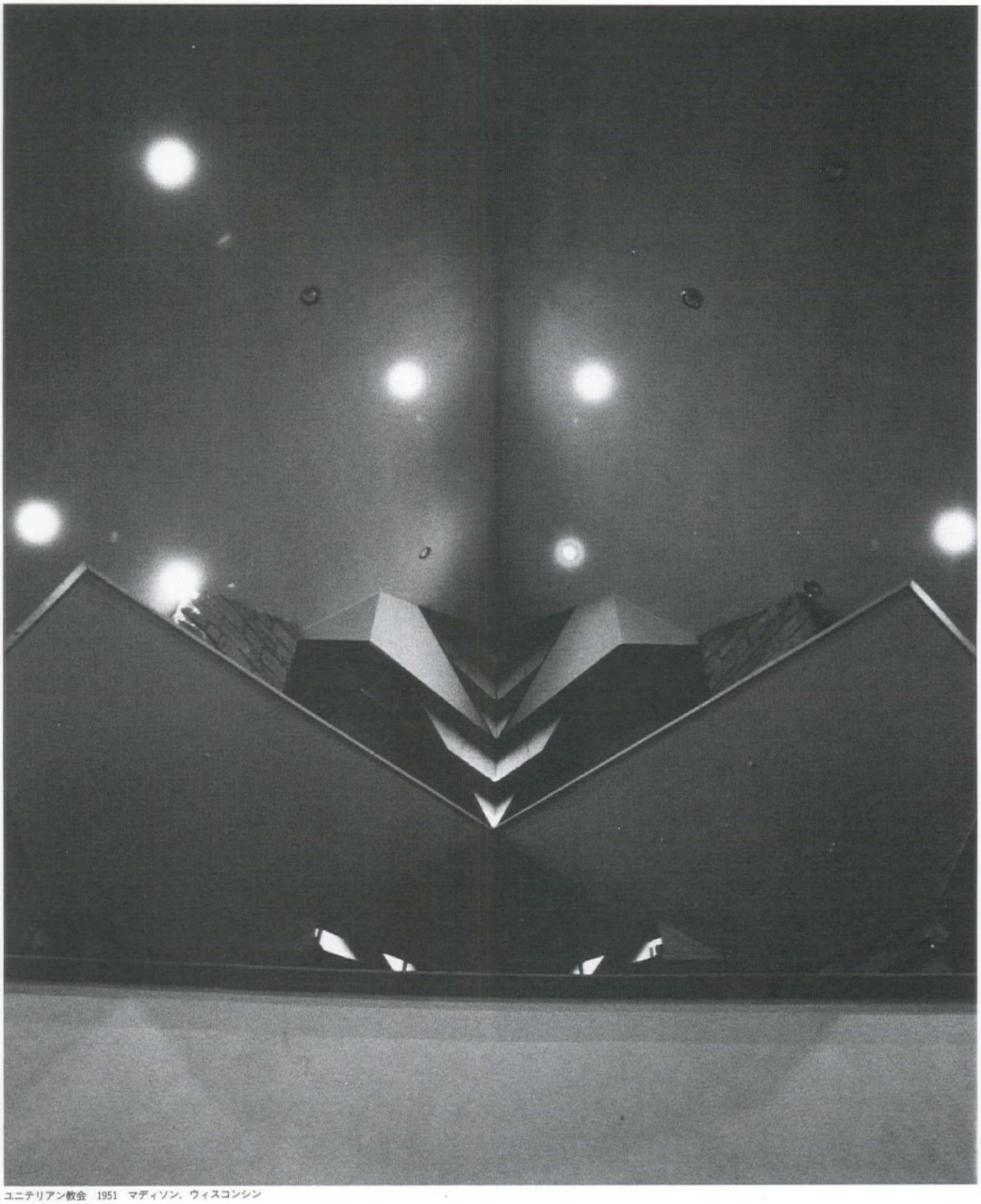
「なぜ〈詩情〉とか〈美〉とか〈真実〉とか〈理想〉といった語をまだ使うのだろう．　どうして物事の核心に触れないのだろうか．　板とか，釘とか，納屋の扉について話しなさい」(谷川正己・睦子訳)

この1878年生れのサンドバーグは，同じ中西部のイリノイの出身であり，ライトより若い．　この《シカゴ詩集》の詩人は，1926年に《リンカーン伝》の第一部〈草原時代〉を完成している．　草原に突如と勃興した工業都市シカゴの息吹きを一身に受けて出現したという点では，ライトと似ている．

ホイットマンの影響は濃いが，より都会的であり，その叩きつけるリズムは，ジャズにも似て機械の時代に対応したスピードをもっている．　だが即物的にみえながら，抒情的でもある．

> 昼間は摩天楼は煙と日光の中におぼろに聳(そび)え，たましいを持っている．
>
> 草原と盆地と大都市の街区が人々をそこに注ぎこむ．　彼らは二十階の各層に紛れこみ，また再び草原と盆地と街区に吐き出される．(安藤一郎訳)

彼の詩《摩天楼》の出だしだが，かならずしもスカイスクレーパーの谷間を呪っているわけでない．「夢や想念や記憶にみちた一つの



ユニテリアン教会　1951　マディソン，ウィスコンシン

魂」を見ようとしているからであり，ホイットマンやライトのスピリチュアリズムがサンドバークの中にもあるといってよい．

時々刻々，石工の手とモルタルは建築家が決めた形態に合せて細かい部分を堅く締めつなぐ．

時々刻々，太陽と雨，空気と錆，それから幾百年かにわたる歳月の圧力は内からも外からもこのビルディングに働きかけて，これを消耗させるのだ．

杭を打ち，モルタルをこねた人々は，いま風も言葉もなく荒々しく吹きすさぶ墓地の中に眠っている．

これも《摩天楼》の中の一部だが，ただサンドバークの〈魂〉は，ライトのように〈美〉などにこだわらない．　ライトがやたら〈美〉を乱発する背景には，ホイットマンよりも，ラスキン，モリスがいる．

《救済》という詩は，第一次世界大戦に触発された作品だが，「ウイリアム・モリスよ，ぼくはあなたがこの世にいないことを喜ぶ」と詠っているところからみて，時代がかわったことをサンドバーグは知っており，逆説的に即物的に表現している．「美しい」などとまだラスキン，モリスの尾をひきづるライトのように連発しないが，〈魂〉なども信じないところまではいたっていない．機械はもちろん，万物万象をも内在化するホイットマンほど楽天的でなく官能的でもないが，荒々しい悲傷感はある．新しいロマンチシズムといってよい．ライトも，ホイットマンの血統に立っている．が，サンドバークのように遺憾を表しながらモリスやラスキンを葬りきれていないのである．だから，「どうして物事の核心に触れないのだろうか．板とか，釘とか，納屋の扉について話しなさい」と若きサンドバーグに説教されるわけだ．

素直にライトは，「そうすべきだと私は思う」とし，「良い忠告」として受けとめた．たしかにロマンスや美や詩などという言葉は，今や貴重といいがたく，かっこよくもなんともないといいながら，どっこいライトはしぶとい．

「しかしそうすることによって同じようなものが得られない限り，私はそうはしないだろう．そしてその同じようなものを，私は得られはしないだろう」

〈ロマンス〉という語が，抽象的で曖昧だということは認めてもいい．ただ廃することによって私の心が求めている〈ロマンス〉が得られないのなら，私はやはり〈ロマンス〉という言葉を用いると断言して，サンドバーグの忠告にノーサンキューをもってし，ただし言葉のシンボルとして〈ロマンス〉を見直し，有意義に使わなければならぬと反省している．たいへんな自信であり，つっぱりである．

同じ年の論文《建築のために――全く個人的なこと》の中で，ライトはこうもいっている．

「実は，私がいぶかっているのは，分別ある歴史学者たちが私のことを云々する場合，既に〈ロマンチスト〉としていることである．それは決して恥ずかしいことではなく，私は建築の健全な体質と呼んでいるこの詩的な展開を求めている．これは感傷ではなくて原理に基づいた探求である．表面にしろ，量塊にしろ，生命を導くことのできる唯一不可欠な要求は，深さである」

ライトの建築は，〈ロマンチシズム〉だというういいかたは，このころすでにあったことがわかる．それは，19世紀の芸術思潮の〈ロマンチシズム〉の意味あいで言ったのか，言ったとすれば，〈古い〉という揶揄がこめられていたのだろうか．それとも，もっと軽い意味あいで，〈ロマンチスト〉と笑ったのだろうか．

だいたい，ライトには，悪口を言われた場合の反撃パターンがある．自分に放たれた悪口そのものの価値をくるり逆転させて，わが武器としてしまうことである．〈昔の感傷主義者〉といういいかたにしても，本来の意味での〈感傷主義者〉なんだぞという威嚇になっている．感傷とロマンスは，密接な間柄にある．〈新しい伝統主義者〉にしても同じである．伝統主義と笑われたことへ逆襲である．この伝統も，感傷・ロマンスと同胞である．

彼のロマンチシズム志向は，死ぬまで続いたといってよい．1939年の論文《58番目のものへ》でも，「私は感傷を愛するようにロマンスを愛する．しかしまた，私が感傷性を嫌うように彼らの〈ロマンス〉を嫌う．ル・コルビュジエかグロピウスの建物のどれかに，ゆるやかな傾斜の屋根を載せてみるがよい」とつっぱっている．

人々が潜称する〈ロマンス〉は，〈原理の啓示〉がない故に，ロマンスにあらずというわけである．「秘教じみた哲学の名において，私が資本主義的な寄生虫のために気ままに建てている」という非難への反論である．〈秘教じみた哲学〉というのは，おそらく彼の有機建築理論をさしているのだろう．ロマンスも伝統もセンチメントも，〈有機〉的なものである．とはいえ，〈秘教じみた哲学〉は拒否するにしろ，ライトはあえて，〈秘教（オカルト）の哲学〉だと，いつもの手口で，啖呵を切ってもよかったのではないか．オカルティズムは，有機の原理であり，世間的にはマイナス・イメージであるにしろ，実際には大いにかさなりあうところがあったはずだからである．

2

ライトの師ルイス・サリヴァンは，少年性にこだわりつづけた人である．

サリヴァンは，高い教育を受けると，即物的になり，現実把握に秀でるようになるが，いってみれば物事を皮相的に見る能力が身につくにすぎぬと考えていた．彼はボザールの出身だが，ライトを見た時，〈少年の夢見る力〉をもちつづけているのを見抜いただろう．《ルイス・サリヴァン自伝》(1924) の中で彼はこう述べる．

「夢見るということは，少年の神秘的な直覚力のあり方そのものであり，これがあるからこそ少年にはおとなが滅多に見ることのできないものを見ることが可能となるのだ．そして，この能力は，頑迷でロマンチックなものを解さないという人間においては，日常的な関心事のなかに埋没してしまって，生きた意識としては永久に失われてしまうものなのである」(竹内大・藤田延幸訳)

ありふれた意見だが，だからといって世の中の人間は，みなせっせと少年の心を棄てていくのにかわりない．サリヴァンは，少年のころ，川にかかった鉄橋をはじめて見た時，〈怪物〉だと思いこんで，おびえた話がある．《自伝》の中で，もっとも魅惑に富んだくだりである．

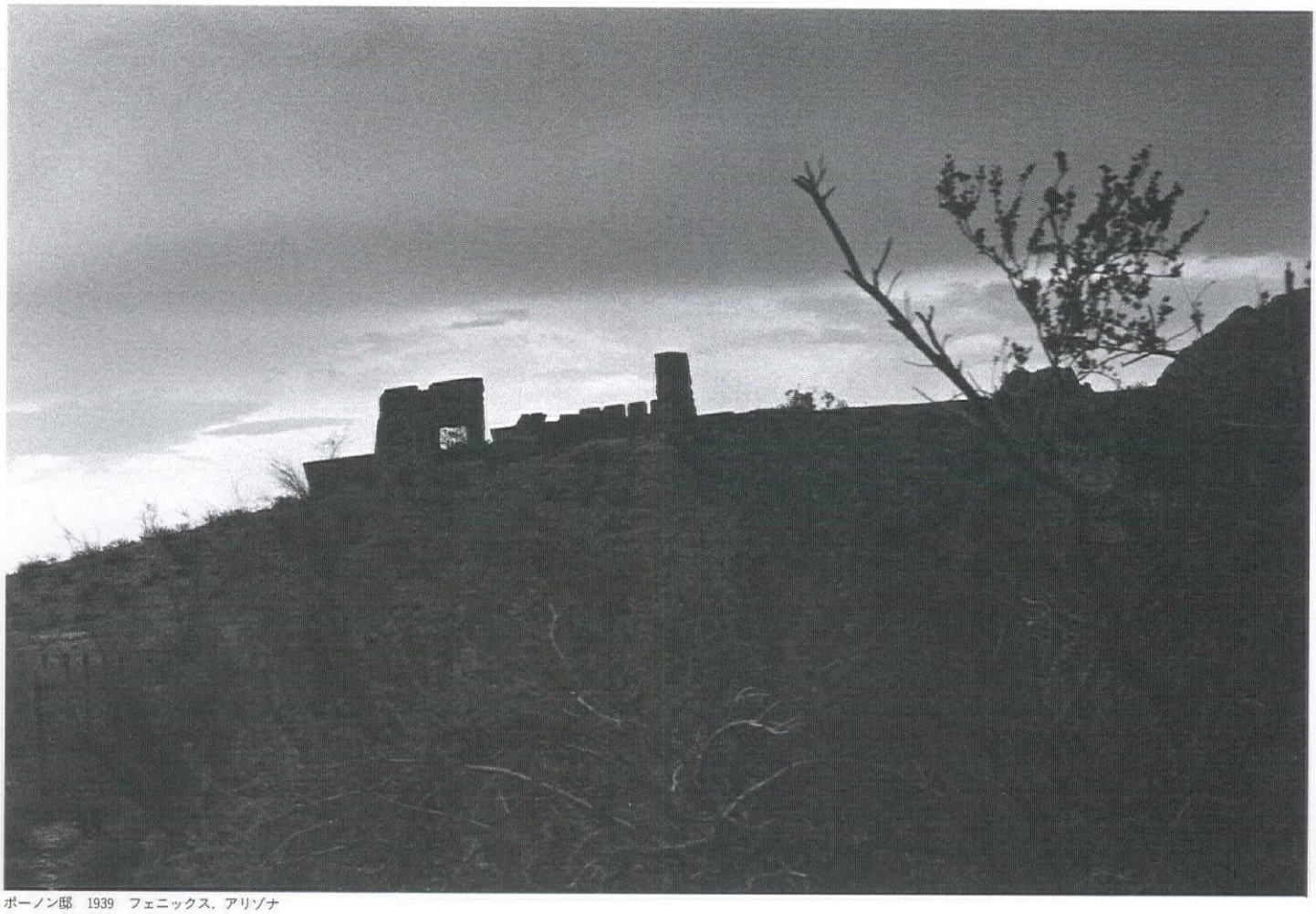
「魔法やお伽話など頭から信用せず，子供らしい真摯さで何かを信じこむということもなく，夢想にとらわれることもない」，そういう人間は，「いったい何のために生きているのか？」とサリヴァンは問いかえしている．自伝によると，身につきだした知性の紋章をかざし，そういう少年性を棄て去ろうとしたことがあったらしいが，踏みこたえて，「未知の領域を踏破」すべく「虚空に橋を架ける」べく身構えたと書いている．

こういうサリヴァンに青年ライトがめぐりあったのだから，両者のあいだに衝撃的な興奮が生まれたとしても不思議でない．ライトの裏切りのかたちで両者が別れたのも，そうでもしなければ，ライトは精神的にも自立できなかったともいえる．

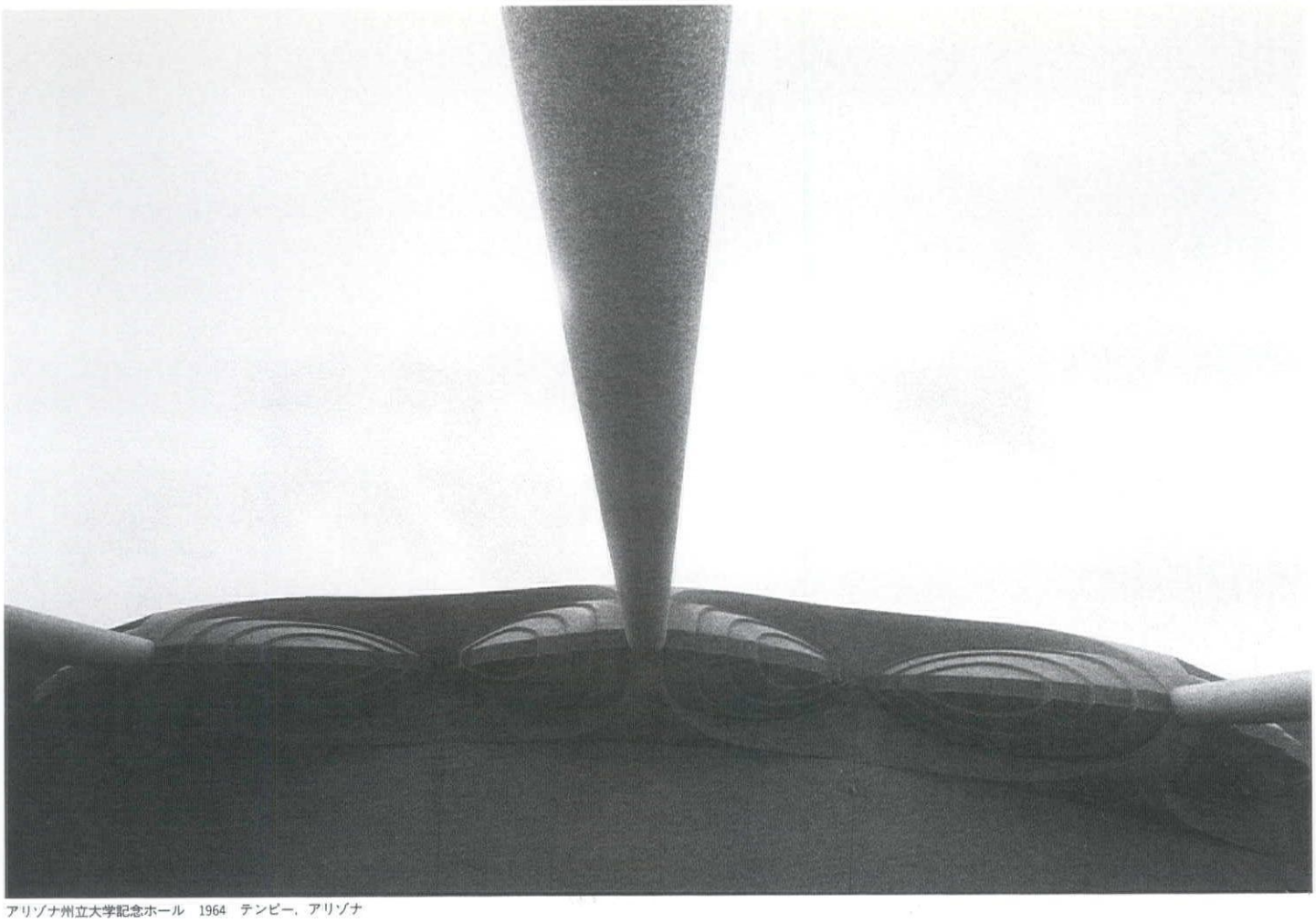
日本の影響を受けたといいたがらないが，サリヴァンにだけシャッポを脱ぐ裏には，両者の暗闘があったにちがいない．サリヴァンの自伝を読む時，有機理論にしろ，デモクラシーと建築の関係にしろ，ホイットマンへの共感にしろ，ロマンスにしろ，すぐ〈魔



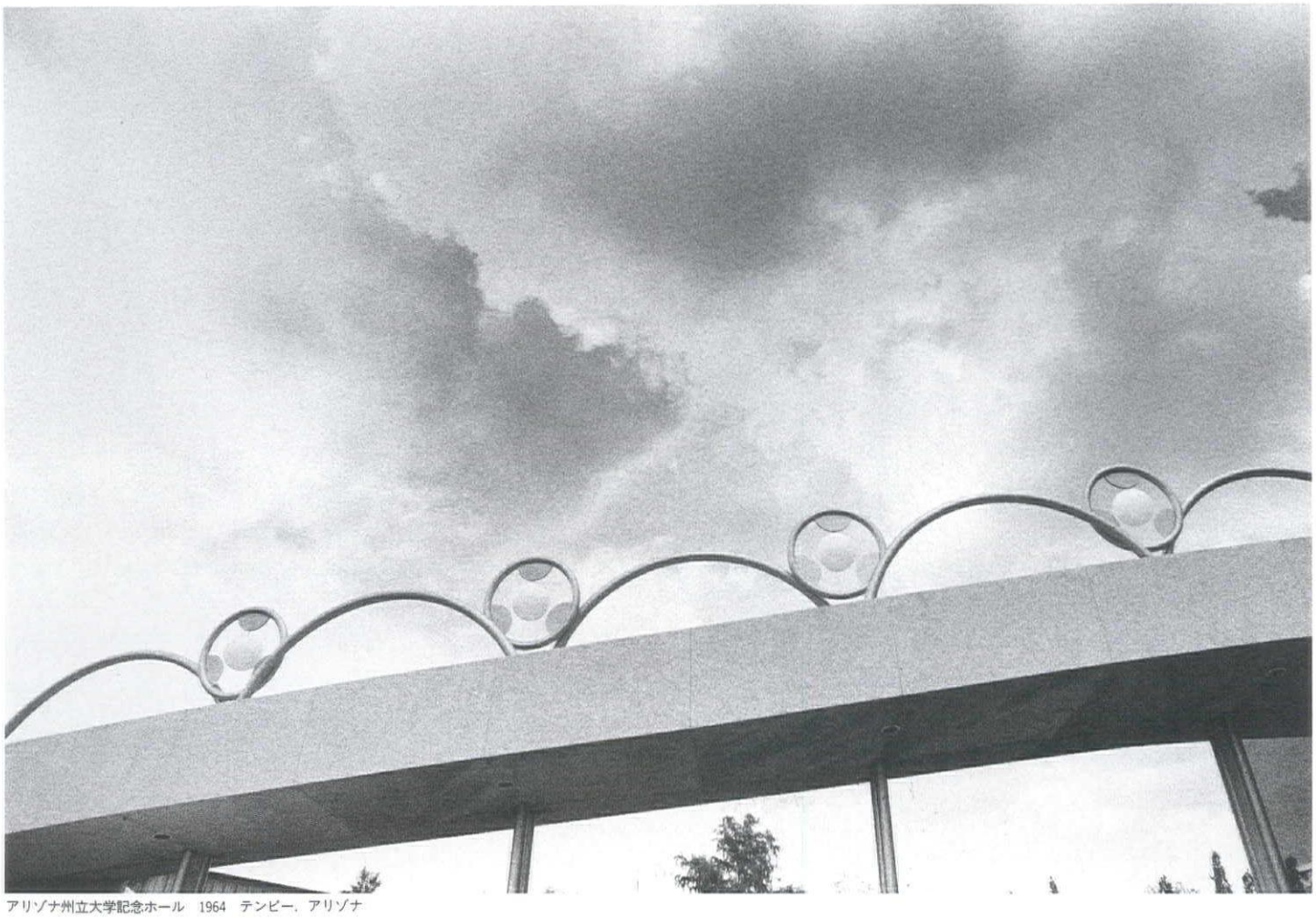
ポーノン邸(焼跡)　1939　フェニックス，アリゾナ



ポーノン邸　1939　フェニックス，アリゾナ



アリゾナ州立大学記念ホール　1964　テンピー，アリゾナ



アリゾナ州立大学記念ホール　1964　テンピー，アリゾナ

法〉や〈予言〉といった言葉を使いたがる癖にしろ，みな師サリヴァンの中にあるのを知るだろう．　ライトは師をつぶしたのち，知らん顔するのではなく執拗に師をたてたといってよいだろう．

8年後に出るライトの《自伝》は，ある点で師サリヴァンの《自伝》の踏襲であり，真似をしたというより，あえて敬して韻を踏んだといってもよいのである．　サリヴァンへの挑戦とみない．

「個人とはその自我（エゴ）であり，〈我在り〉の〈我〉であって，まさしくかけがいのないもの，人間の諸力のうちで最も神聖な力である．　それは人間の多様さの原基でありまたその総和である．　……自由の精神である．　部分ではなく全体である．　……自我のうちで地球や，人間社会や，民衆や，宇宙は，一つの自我世界を形づくる」

個人主義や自由の精神が，いかに理解しにくく，誤解しやすいものであるかがこれを読むとわかってくる．　たとえば，宇宙が自我世界だということは，かけがえのない個人が即ち普遍ということでもあり，利己や放縦と無縁であり，これこそが彼のいう有機というものである．　師のサリヴァンのほうがライトより明快であり「人間を敬虔に見れば見るほど，神話と現代の神秘主義的信念にもとずく二元的人間像は色褪せて影うすい存在となってくる」とも彼はいう．ここでの〈人間〉は〈物〉と置きかえることができるだろう．　いいかえればサリヴァンが，俺のロマンチシズムは，新しいといっているのである．

このようなところから，「存在の奥深くに浸透している生命の神秘」に思いをめぐらしたサリヴァンの「形態は機能を表現する」の法則が生まれる．「扉を開く呪文」と彼はいい，建築だけでなく，あらゆるものに通じるとした．「生きた機能が生きた形態へと変転する神秘な流れの，その奥深くを凝視した結果」，「一つ一つ積み重ねるという古い思考は，切れ目なく連続した垂直面という新しい思考にその場所を譲らねばならなくなった」というのである．　いわばロマンチシズムを理知的に再構成したというおもむきがあり，スタンダールの恋愛小説にも似ている．

ライトの連続性も，サリヴァンに源を発していることがわかるが，両者の印象は，大きくちがう．　ライトのほうが流動しているように感じられるのは，〈有機〉の観念がもっと肉体化しており，さらにホイットマンの〈草原〉の思想を具体化していたからだろう．

なによりも，サリヴァンは，自らの10階建オーディトリアム・ビルの煉瓦の絶壁を見て驚き，「線と面と精妙に交錯させつつ，非の打ち所のない堅固さで屹立し，見る者にロマンチックな戦慄を覚えさせるほどだった」ということはあっても，〈ロマンス〉を標目化することはなかったし，〈有機〉についてもまた同じであった．

3

19世紀のロマンチシズムは，芸術の伝統からの解放，古典からの脱走といった運動性をもった相対性の芸術であり，20世紀のライトの個人主義と結びつくだけ契機を包蔵していた．

ヴィクトル・ユーゴーは，〈天賦の才〉，〈冥想〉，〈霊感〉を条件とする宣言をしたが，こころみに，ロマンチシズムの属性をランダムに列挙してみよう．

〈自由〉〈詩情〉〈自然〉〈廃墟〉〈感情〉〈心情〉〈隠遁〉〈憂鬱〉〈甘美〉〈変化〉〈情熱〉〈運命〉〈魂〉〈夢〉〈憧憬〉〈感受性〉〈恋愛〉〈才気〉〈趣味〉〈幻想〉〈天才〉〈不合理〉〈想像力〉〈エグゾチシズム〉〈自我〉〈吸血鬼〉〈中世〉〈ゴシック〉〈官能〉〈独創〉〈抒情詩〉〈神秘〉〈厭世〉〈ヒューマニズム〉〈怪異〉〈遊蕩〉〈苦悩〉〈宇宙〉〈愛〉〈恐怖〉〈グロテスク〉〈豊饒〉〈秘密〉〈予言者〉〈啓示〉〈誇張〉〈アンバランス〉〈孤独〉〈多様性〉〈心理〉〈地方性〉〈宗教〉〈冒険〉〈遊び〉〈放逸〉〈感傷〉〈無気力〉〈悪魔主義〉〈内面性〉〈装飾〉〈写実〉〈占星術〉〈黒ミサ〉〈生理〉〈伝奇〉〈伝説〉〈高雅〉〈天上性〉〈地獄〉〈狂乱〉〈陰鬱〉〈刹那〉〈本能〉〈幻視〉〈予見〉〈色彩〉〈繊細〉〈心霊〉〈オカルト〉〈魔法〉〈降霊術〉〈有機性〉〈美〉〈崇高〉〈空想〉〈墓地〉〈退廃〉〈戦慄〉〈深淵〉〈暗黒〉〈地下牢〉〈迷路〉〈歴史主義〉〈病的〉〈洞窟〉〈森〉〈耽美〉〈錬金術〉〈処女〉〈孤児〉〈放浪〉〈精神分裂〉〈追跡〉〈超人〉〈不安〉〈幽霊〉〈落し穴〉〈骨董〉〈ダンディズム〉〈怪物〉〈螺旋〉〈幾何学〉〈円環〉〈貴族主義〉〈異端〉〈機械〉〈無垢〉〈革命〉〈秘教〉〈退屈〉〈エクスタシー〉〈不思議〉〈考証〉〈奇人〉〈悪漢〉〈原始〉〈伝奇〉〈残酷〉〈古城〉〈伽藍〉〈田園〉〈妖術〉〈秘儀〉〈驚異〉〈個性〉〈超越〉〈階段〉〈抜け穴〉等々，きりもないが，かなりの部分がライトの属性と重複することがわかる．

アメリカの詩人ホイットマンは，ライトに数々の影を落していることはあきらかだが，〈ロマンス〉だけは口走らなかった．《草の葉》の序文でいう．

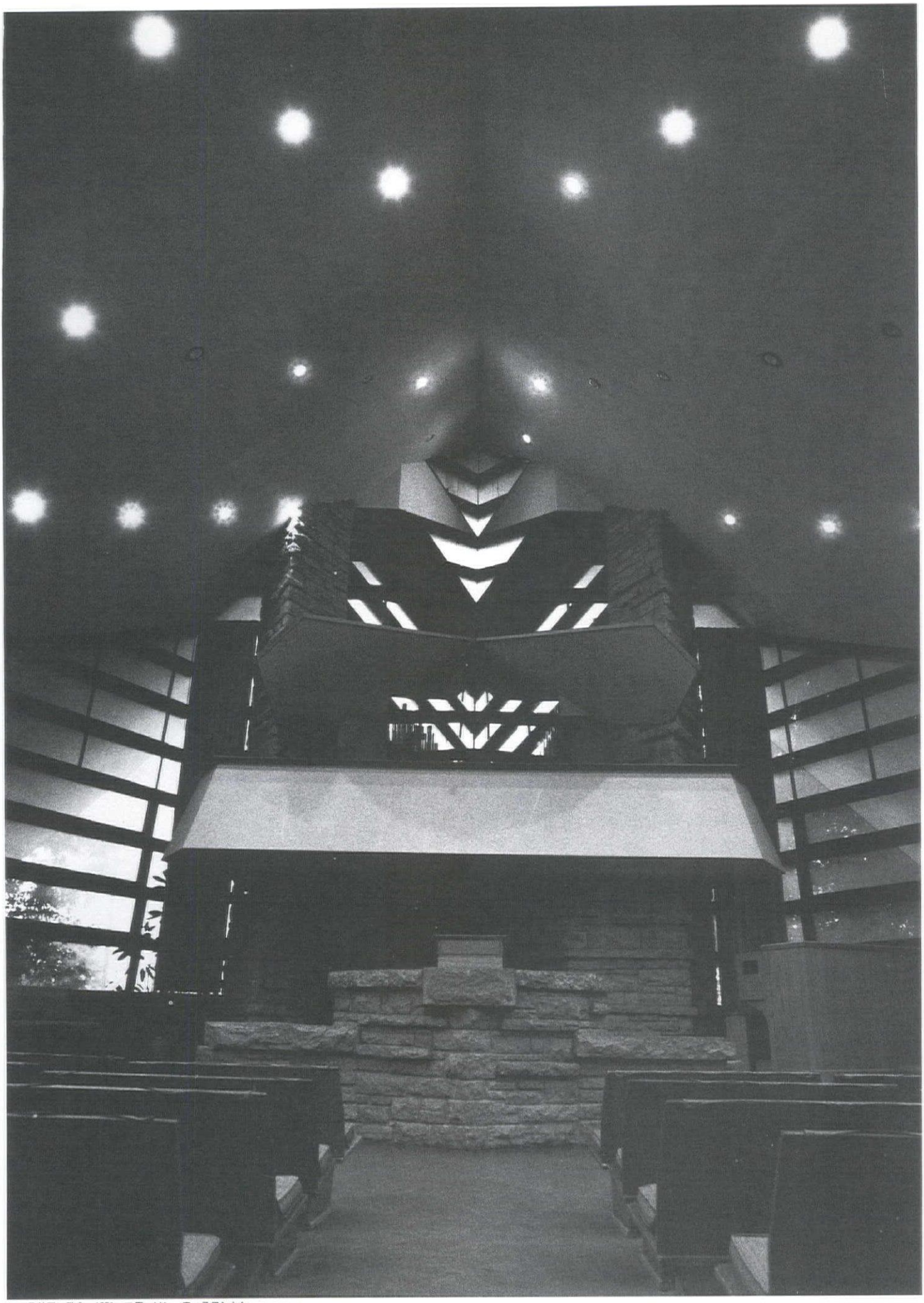
「宇宙をうたう詩人たちの性質はまことの肉体と霊魂と事物のたのしみのなかに集中するから，詩人はあらゆる小説（フィクション）や物語（ロマンス）にまして真実という優越性をもっている．　彼ら詩人が自己をおし放つ時に，さまざまの事実の上に光がふりそそがれる」（夜久正雄訳）

宇宙詩人をもって任じる彼は，いわゆるロマンチシズムを超えているともいえる．　宇宙を語り，霊魂を語るかぎり，ロマンチシズムだともいえるが，晩年の《歴程回顧》でも，「詩としての《草の葉》の地盤については，ぼくはありきたりのテーマをいっさい棄て去った．……唯美のための何ものもなく，伝説も神話もロマンスも美文も韻律もないといってもよかろう」とし，さらに「近代の想像的能力の真の使命は，もろもろの事実や科学や日常生活に究極の活力を与えることであり，かつ，それらのものに，あらゆる真実の事物に属し，真実の事物にのみ属する光輝と栄光と最後の照明とを与えることである」とした．　サリヴァンもライトも，この意味では，ホイットマンの弟子である．

魂を見たければ物を見よ，といい，すべての真理はすべてのものの中に待機しているともホイットマンは言った．　この世のあらゆる事物と目に見えぬ内部の魂とは対立しあわない．　同一であるから，ホイットマンは，物のみを詠う．　即物化するのではなく，物の中に魂があるからである．

「おまえ，家々の列！　おまえ，窓をうがった正面よ！　屋根よ！」「おまえ玄関の戸口よ！　おまえ，笠石よ鉄柵よ！」（〈大道の歌〉酒本雅之訳）と，だから物々を親しげに「おまえ」呼ばわりするのである．　ここには相対性（内面性）から出発した絶対性への上昇がある．「いつも内部の権威が優越し外部の権威がそれに従うところ，そこにこそ偉大な都市が屹立する」（〈ブロードエーカの歌〉酒本雅之訳）

ライトのユートピアともいうべき〈ブロードエーカ市〉の計画案は，まさにホイットマンの思想の具体化である．　だが，東洋的ともいえるが，きわめてアメリカ的なホイットマンの大食漢的な風通しの



ユニテリアン教会　1951　マディソン，ウィスコンシン

よさに，私は，20世紀における破産を見てもグロテスクを見ないが，ライトの建物には，グロテスクを見る．　ライトは，しつこく〈美〉をいいつづけるが，それはグロテスクの美である．　ホイットマンのおおらかさはない．　もしやらせるものがいたらやる気十分だった〈ブロードエーカ市〉が，現実化したとするなら，やはりグロテスクな異様な官能空間をそこに私は見ただろう．

「広々とした内部空間の自由が彼を訪れ，それは新しい実体となる．ロマンティック．　彼は内にも外にも目を向ける．　有機的法則を深く掘り下げて進む彼は，もはや古代ローマの専横な遺物を信じることはない．　自分自身を信じる彼の新しい信仰は，大自然の中にこそ打ち立てられ守られる」(谷川正己・睦子訳)

これは，《The Living City》の言葉だが，ライトは，〈ロマンス〉の言葉を棄てていない．　これは言葉へのこだわりというより，具体化に向うものの不安である．　だから棄てられないのである．　ブロードエーカ市は，実現されずにイメージでとどまるが，同じ発想に立つ彼の建築は，ホイットマン的な風通しのよいおおらかさはなく，重苦しくグロテスクである．　グロテスクは，ロマンチシズムの重要なエレメントだが，ライトにはその志向はない．

しかし人間の官能を手玉にとって具体化に向かえば，グロテスクな姿となって現れるのは，必然の道筋なのである．　実相は，なべてグロテスクである．

「単に気取り，あるいは感傷性を意味して来た，この時代遅れの言葉〈ロマンティック〉も，解放され，自由になりつつある．　建築は真にロマンティックである．　構造の真の科学性と詩情の中には，自然の鼓舞された愛が潜んでいる筈である．　これこそわれわれがロマンティックと呼ぶべきもの」(谷川正己・睦子訳)

と《A Testament》の中で，ライトは呪文をとなえつづける．　言葉の上では，グロテスクでないが，真のロマンチックは，グロテスクであり，それを具体化すれば，どうしても秘儀的にならざるをえない．宗教の場ならともかく，日常空間にあっては，逆に生理を逆撫でされて，かえって不自由である．　そうなれば，悪魔の空間になりかねない．　空間の内面的感覚は，ロマンチックで，自由であり，日常生活における精神的完成をもたらすとライトはいうが，毎日，精神を喰って生きられぬさびしい人間にとって，かえって呪縛空間になりかねない．　グロテスクは，趣向化し悪魔ばらいすることはできるが，日々，趣向に生きるのは，命がけである．　日々，自由に生きれないのが人間であり，ライトの機械とよく結婚してあつらえた自由空間も，不自由となり，不幸となる．

ホイットマンでさえ，20世紀にそぐわなくなった．　その衣鉢をつぐライトの建築も，孤立せざるをえない．　片思いのデモクラシーにも裏切られる．　人間のはかりしれぬ深みと向かいあうライトの建築そのものに嘘はない．　死後，敬して遠ざけ，偉人化する．行きづまるたびに，ライトの呪的空間は見直される．　ただそれだけである．　生得という意味で，ロマンチックな有機建築は，素朴主義とはいわずに貴族主義だと彼はいうが，このどちらにも20世紀の風は冷たく，理念として許すだけである．

グロテスクは，人間や自然の内なる姿だが，その見えにくいものをことさらとりだされた時，人は異和を覚える．　疎外感さえ生じる．　サリヴァンの建築のファサードにも，親和的というよりは拒絶的といってよいグロテスクな魅力がある．　壁がたちはだかり，装飾もグロテスクな美に充ちている．　むきだしのなまぐささがある．　そのくせ，拒絶しながら引き寄せる．

ヴォルフガング・カイザー(〈グロテスクなもの〉)流には，グロテスクとは，構造である．　構造であるなら，必然，呪的なものになる．人間の内的構造が表にでてくるからである．　それは自らのうちにありながら人間の知らぬもので，それをつきつけられれば異和を覚えるだろう．　この異和は，もともと人間のうちなるものだから，同時に親和をも感じる．　厳粛と招きとが，一緒になっている．勇を鼓して内部にはいれば，グロテスクの属性たる突発性と不意打ちが連続して押しよせてくる．　不意打ちと感じるのは，己れをしらないから．

カイザーは，グロテスクの特性として，〈諸領域の混同〉〈静力学の廃止〉〈同一性の喪失〉〈均衡の歪曲〉〈物体範疇の廃棄〉〈人格概念の破壊〉〈歴史的秩序の崩壊〉をあげる．　これは，ロマンチシズムの特性であり，有機的存在の特性である．　神秘主義のスヴェデンボルクを信奉するバーナムをよきパートナーとしたサリヴァンもそうだが，それ以上にライトは，徹底している．　しかも〈草原〉と野合しているから，サリヴァン以上に狡智である．　ライトを信奉したものは，もとよりそこにグロテスクを感じずに，ひたすら瞑想の至福に酔うだけであり，そういう神秘的な力を今ももちつづけているし，地球があるかぎり，これからもそうだろう．

ライトは，1931年のある講演で，こういっている．(〈建築の理念〉谷川正己・睦子訳)

「アトランティスが再創造されれば，彼らを感動させるものはこの同じ原理であろう．　もしも悪魔の国や，ヴィーナスの国にも建築が存在すれば，……そこで働いている原理もまた，これと同じものである」

その原理とは，ライトの呪文，自由への〈有機構造〉にほかならぬ．彼は，悪魔もヴィーナスも，人間の意識によって決るものであり，もとは一つと思っているところがある．

ここでは，ライトの建築そのものに即せず，総体的な印象を土台にして語ってきたが，ライトの〈作品〉が悪魔とヴィーナスのどちらの棲み家と問われるなら，〈悪魔〉をとるだろう．

ライトの《自伝》によれば，牧師だった彼の父が，ポーの《大鴉》を「予言者よ，鳥にあれ悪霊にあれ!」と朗誦しているのをきいたという．　ライトの建築哲学は，エマーソン，ソロー，ホイットマンが貢献しているにちがいないが，彼の建物が人に体験させる質は，同じアメリカ・ルネッサンスの作家たちでも，ホーソン，ポー，メルヴィルといったまがまがしきものを秘めた作家たちの系列に属しているように感じられてならなかった．

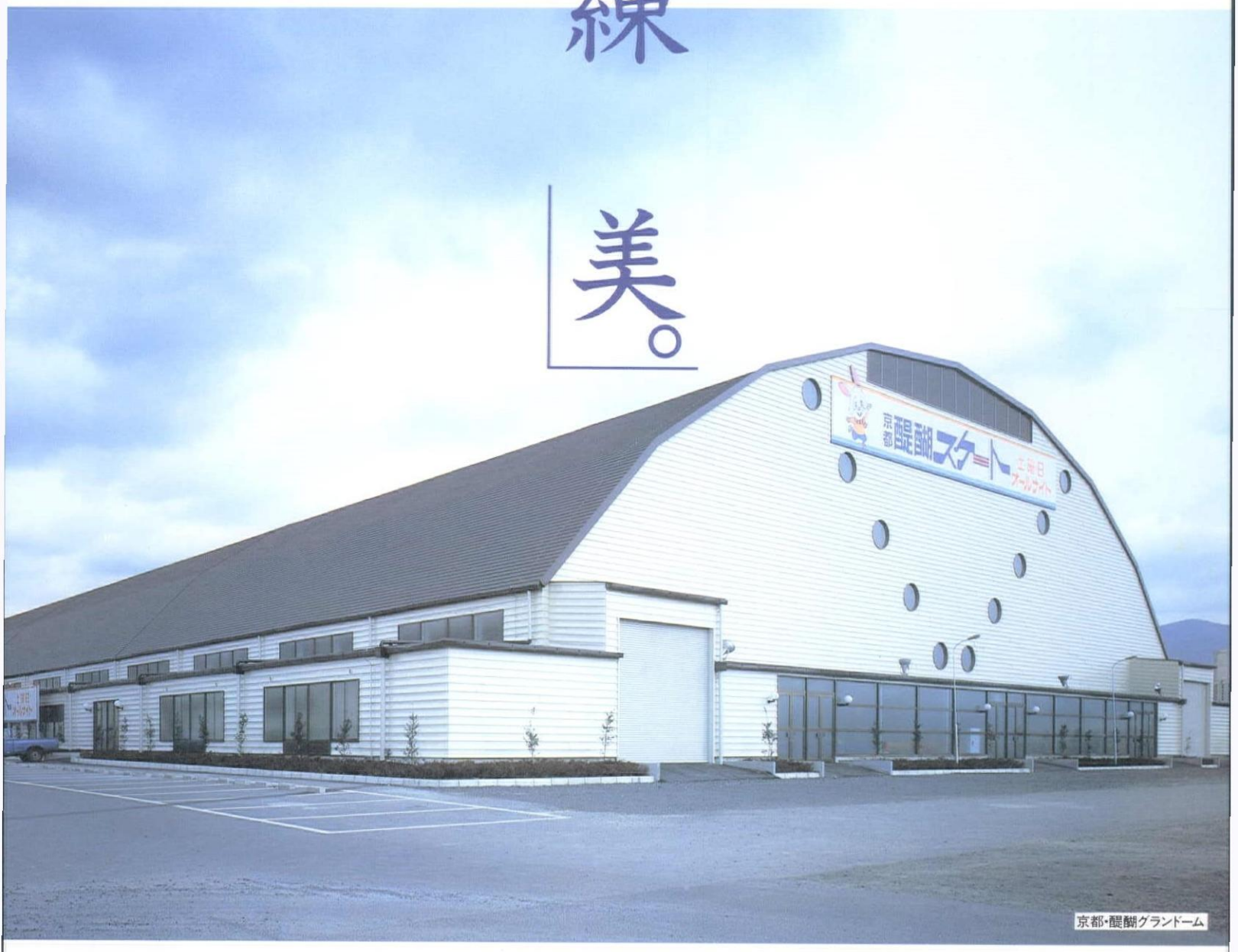
惨劇のあったタリアセンへの先入観でいうのではない．　彼の狂気的といってよい有機空間には，人の心にひそむ悪魔をもひきだすような魔力が，どの建物にも，ユーソニアン住宅をふくめ等しく感じられたのである．

●くさもり・しんいち

日新製鋼

景観にしっとり、洗練美。

屋根材の選び方ひとつで建物の表情が変わります。丈夫で長持ちすることはもちろんですが、その土地、環境にマッチする美しく、落ち着いた色調も屋根材の大切な要素。そこで、日新製鋼では着色亜鉛鉄板「月星カラー」のニュータイプとして、完全つや消し仕上げを施した「月星カラーつや消し」を発売いたしました。標準色はブラック、ダークグレー、ブラウン、ダークブラウン、モスグリーン、ネービーブルーの6色。日本の美しい景観に映え、上品で美しい建物を演出します。ぜひ、ご検討ください。



京都・醍醐グランドーム

完全つや消し仕上げの屋根材 月星カラーつや消し

■お問合せは——●本社〒100東京都千代田区丸の内3丁目4番1号(新国際ビル)☎03(216)5511●大阪支社〒541大阪市東区大川町1番地(日土地淀屋橋ビル)☎06(202)1331●名古屋支社〒450名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル)☎052(582)6061●札幌営業所☎011(241)7524●仙台営業所☎0222(22)5835●新潟営業所☎0252(43)3491●富山営業所☎0764(33)8011●岡山営業所☎0862(31)4355●広島営業所☎082(248)4611●高松営業所☎0878(51)9756●福岡営業所☎092(781)1251

資料請求券 SD
カラーつや消し

[SDレビュー1985]作品募集のお知らせ

年ごとに増加する応募案.
秋の代官山ヒルサイド・テラスにて催される展覧会[SDレビュー]は,
沢山の建築家の方々の支援の声を得て今年で4回目に突入します.
SDレビューは,実際に建つという条件の下に企てられた計画を
その対象としています.　そこでは,計画のコンセプトが
現実社会のコンテクストを映し出していることが求められると同時に,
建築を表現する手段であるドローイングや模型,
或いは言葉の今日的意味を改めて問い直そうとするものです.
今回も応募案の中から約20点を選択した後,入選者の自由なプレゼンテーションを
[SDレビュー1985]展覧会とSD12月号誌上にて発表します.
多数の方々の参加を期待しています.

——SD編集部



SD Review,

■[SDレビュー1985]の応募要領は下記の通りです.　応募の際には,プレゼンテーションそれ自体の技術や密度は,選択にあたっての主要な評価の対象とされないことにご留意下さい.

■[SDレビュー1985]
コミッティ・メンバー
槇文彦（東京大学教授）
竹山実（武蔵野美術大学教授）
小宮山昭（建築家）
八束はじめ（建築家）

■主催
鹿島出版会SD編集部

■応募対象建物
（屋外空間,インテリアを含む）
実施を前提として設計中ないし施工中のもの.　国外に建つものも含める.　但し,応募の時点で既に完成しているもの,実施の見込みが全くないもの,コンペの応募作（公開,指名,入選,落選を問わず）は対象外とする.　応募作品点数は原則として一人一点に限る.

■応募者の資格
特になし.

■所要図面等
特に制約なし.　設計意図を説明するのに必要と思われる図面,写真等を各自選択する.　表現方法も自由.

締切迫る!!

建築・環境・インテリアのドローイングと模型の展覧会および誌上発表

1985

■応募の受付・締切

1985年6月25日より7月31日（同日消印有効）

■送付先

〒107　東京都港区赤坂6-5-13
鹿島出版会SD編集部

■入選者への通知

前記のコミッティ・メンバーにより約20点を選択した後，ただちに入選者に直接連絡する．

■展覧会用の図面・模型等の製作

入選者は通知後40日以内に，展覧会用（SD誌上発表用）の図面，模型，その他のプレゼンテーションを製作し，後日指定の場所に搬入する．入選者には費用として一律5万円が支払われる．

■［SDレビュー1985］展覧会

期間　1985年10月中旬，2週間
場所　東京都渋谷区代官山ヒルサイド・テラス，ヒルサイド・ギャラリー

■提出図面の返却

提出図面は1985年12月10日から14日の午前11時から午後5時までの間に鹿島出版会SD編集部まで直接受け取りに来られた方には返却します．

■SD賞

展覧会に展示された作品の中からコミッティ・メンバーの合意により数点を選出し，SD賞として記念品を贈呈する．発表は下記のSD誌上にて行なわれる．

■誌上発表

SD誌1985年12月号（予定）

■問い合わせ

［SDレビュー1985］についての問い合わせは，前記送付先にハガキにてお願いします．

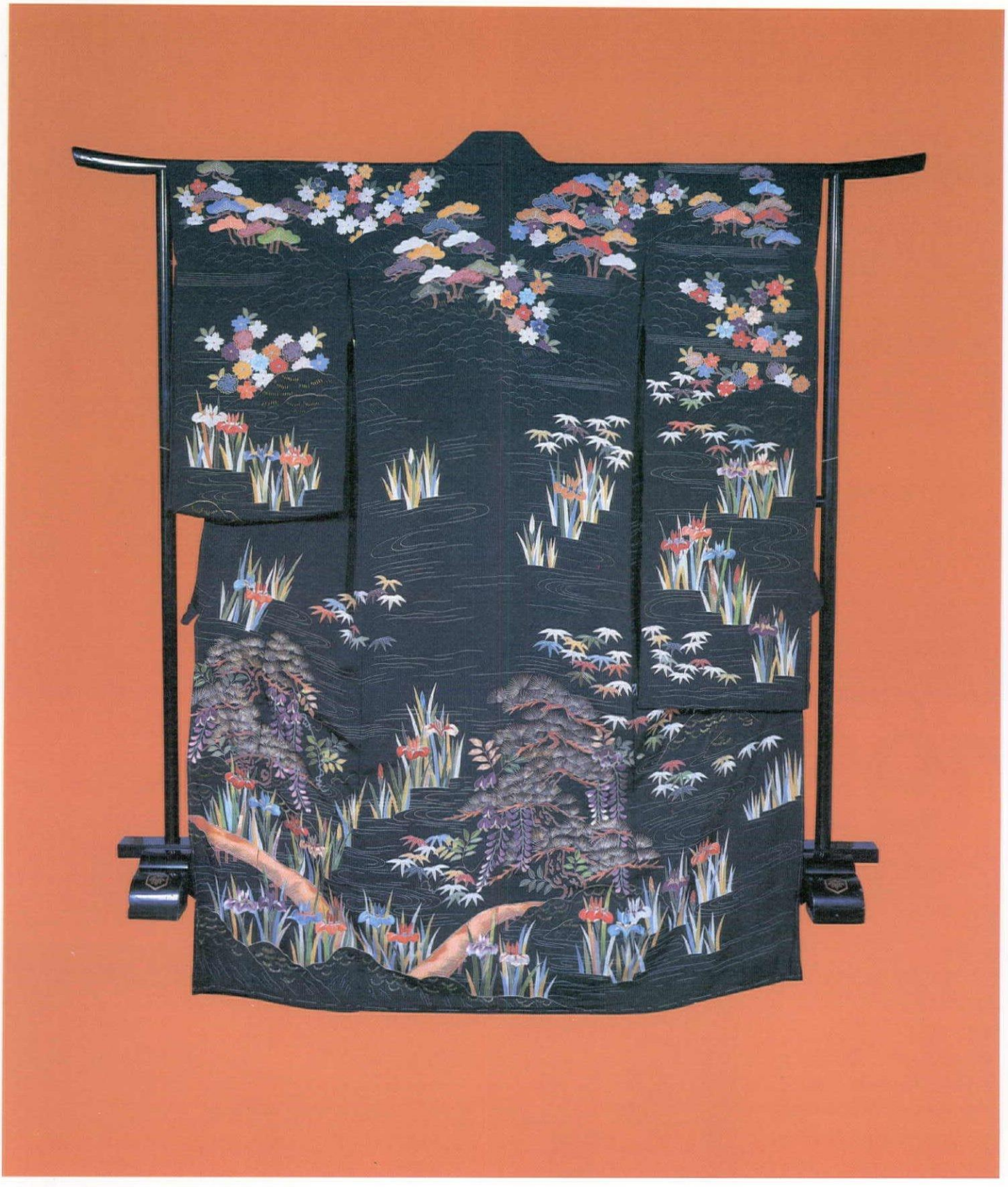
■提出用紙

A3判用紙（420mm×297mm）4枚以内．

■提出書類

❶プロジェクト名，施主名（事業主体名），工事予定期間，主体構造，主要仕上げ材料，面積（建築面積，延床面積等），応募者名（組織の場合は担当者を明記のこと），年令，職業，勤務先の住所と電話番号，協同者の氏名，❷400字以内の設計趣旨．以上をそれぞれA4判程度の用紙1枚に記入し添付すること．　❷は無くても構わない．





染繡技術の最高峰

京和工芸

東京都世田谷区若林1―8―3　電話(413)0118(代)

お知らせ INFORMATION

第10回吉田五十八賞

この度，建築設計および建築意匠上，特に関連のある絵画・彫刻・工芸等の優秀制作者に贈られる吉田五十八賞の本年度受賞者が決定した．　建築の部では，伊豆の長八美術館：石山修武氏，建築関連美術の部では，朱龍(大正海上火災本社中庭)：清水九兵衛氏（彫刻家），特別賞として向井一太郎氏（表具経師），大河原光之助氏（漆塗師）が受賞した．

三重県住宅供給公社設計競技

三重県住宅供給公社では，〈時代の変化に対応した公的独立分譲住宅〉をテーマに設計競技を実施することを発表した．

応募資格：制限なし(審査委員及び公社職員は除く)グループでの応募も可．

日程：登録締切８月31日（官製はがきにて申し込むこと)，応募設計図書締切９月30日，審査結果発表11月末，なお応募要項は登録完了後に郵送．

審査員：前田昌靖，加藤明，中祐一郎，山下和正，竹内源一

賞：１等－１点 40万円，２等－２点 20万円，３等－３点 10万円

問い合わせ：８月31日までに住所・氏名を明記した返信用封筒に60円切手貼付のうえで申し込むこと．

申込・問い合わせ先：三重県住宅供給公社「住宅設計競技係」　Tel.：0592-26-6226

〒514 三重県津市栄町１－171 三重県合同ビル４階

東アジア建築都市計画国際会議

水路空間が截然とネットワーク化された都市〈水網都市〉をテーマに，東アジアにおける代表的な水網都市を事例として水路の新たな役割を考える．　日，米，仏，中，韓，各国からパネリストが参加．

テーマ：都市と水路空間

日時：９月２日(月)　９：00～17：00
９月３日(火)　９：30～17：00

会場：大阪大学付属図書館吹田分館 視聴覚ホール

募集人員：約80名

申込方法：往復ハガキに住所，氏名，年齢，職業を明記して申し込むこと．　参加費無料

申込先：大阪大学工学部　環境工学科　上田篤

〒565 大阪府吹田市山田丘２－１

Tel.：06-877-511　ex.5151，5269

第１回大阪シンポジウム 世界の水路―その構造と未来

日時：９月５日(木)　10：00～17：00

会場：大阪科学技術センター 大ホール

参加費：3000円（テキスト代）

申込方法：往復ハガキに住所，氏名，年齢，職業(１枚につき１名）を明記して申し込むこと．

申込先：世界都市研究会事務局　Tel.：06-942-6691

〒540 大阪市東区石町１－１ 天満橋千代田ビル２号館９Ｆ

ハンガリーの建築展 ―世紀末から未来へ

12世紀に遡ったハンガリーの歴史的建造物，ハンガリー文化が華開いた世紀末建築，さらに現代建築を紹介する写真，図面等の展示，ビデオ上映がある．

会期：７月30日(火)～８月15日(木)
９：30～17：30　（８月９日は16：00まで）

会場：建築会館ホール　Tel.：03-456-2051
東京都港区芝５－26－20　入場料無料

●講演会〈ハンガリー・いま我々に意味するもの〉

日時：８月９日(金)　18：30～20：30

講師：栗本慎一郎，黒川紀章

定員：300名（先着順）　入場料1000円

問い合わせ先：ハンガリー建築展実行委員会

〒107 東京都港区北青山１－２－３　青山ビルディング11階　黒川紀章建築都市設計事務所内

Tel.：03-470-0961

ファン・ド・シエクル ―KEIICHI TAHARA

第10回木村伊兵衛写真賞を受賞した田原桂一氏による世紀末建築写真を多数公開．　連日同会場にて写真家，歴史家，デザイナーなどの方々と田原氏によるレクチャー&シンポジウムが行われる．

会期：７月27日(土)～８月14日(水)
11：00～20：30　（18：30～20：30はシンポジウム）

会場：ラフォーレ・ミュージアム赤坂
東京都港区赤坂２－17－12　赤坂ツインタワー１Ｆ

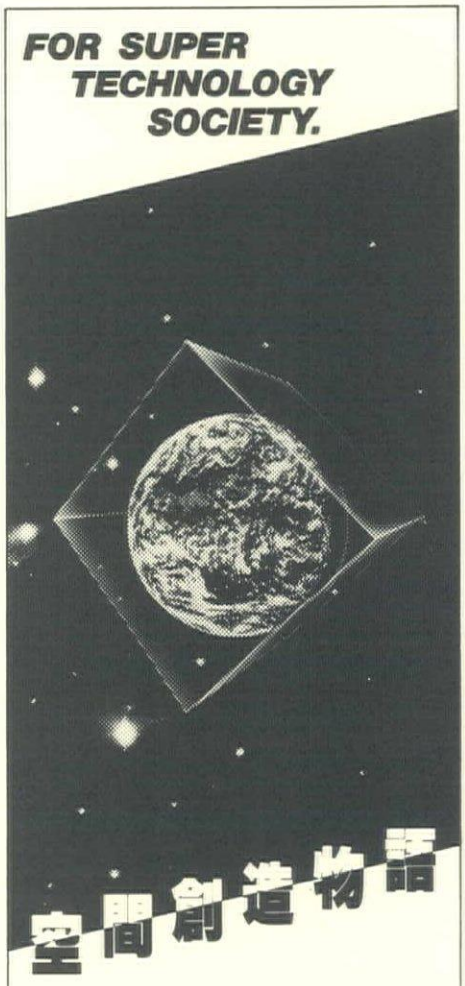
入場料：大人1200円（1000円），学生1000円（800円）（前売券）チケットぴあ，チケットセゾンにて発売．

●シンポジウム〈個性への回帰〉

日時：７月28日(日)～８月13日(火) 18：30～20：30

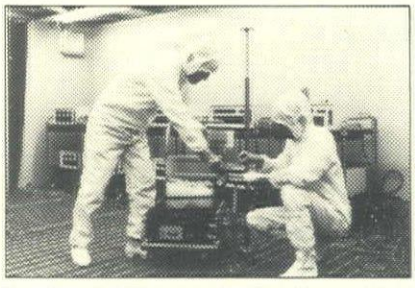
予約申込：ファン・ド・シエクル事務局

Tel.：03-573-3386



限りないミクロの世界への挑戦。…80年代、超LSI・バイオテクノロジーなどの先端産業では、空気中の数ミクロンの微粒子の存在さえも大きな障害となるため、生産環境はとくに重視され、清浄空間＝クリーンルームが不可欠の条件です。今後は、科学技術の進歩とともに、より精度の高い空間創造技術が要求されてきます。こうした産業界のファイン化に対し、SNKは、空調技術へのさまざまなニーズに応えるため、限りないミクロの世界への挑戦を続けています。

暮らしから産業まで、あらゆる空調分野に総合エンジニアリングでお応えします。●保健空調分野：オフィス、ホテル、マンション、住宅、デパート、劇場、病院、学校、体育館、船舶、海洋構造物 ●産業空調分野：機械、電気、電子、化学、薬品、食品、冷蔵・冷凍、原子力、バイオなどの工場・研究所諸施設



✚上の写真は、各種装置類を使っての実証実験。大型コンピュータによる各種シミュレーションを行ない、その研究成果が現場にいかされています。
✚上のイラスト(上原徹氏の作品)は、コンピュータを使用し、数理的構造にもとづいたスーパーイメージの世界です。

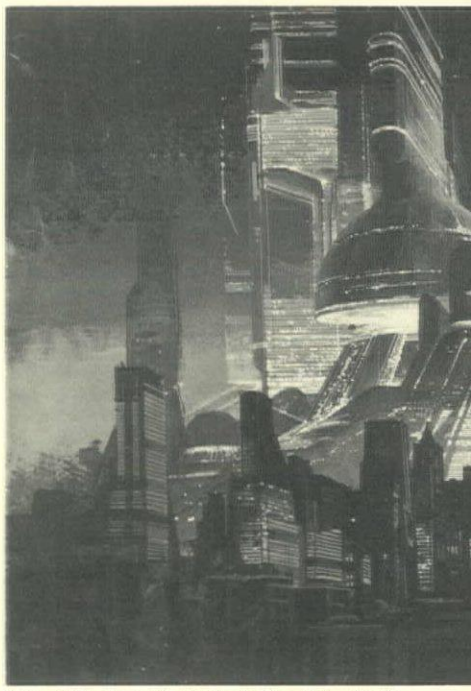
21世紀の環境創造をめざす SNK
新日本空調
〒103東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第2別館)
☎(03)279-5681(代表)

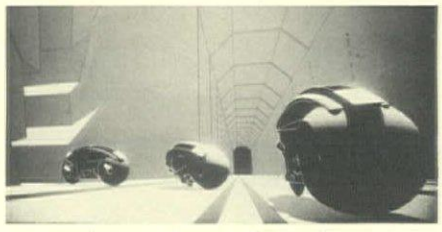
想像力の射程〈シド・ミード〉: ＩＤからブレードランナーまで

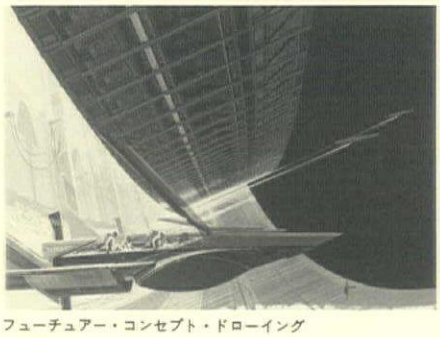
君は《ブレードランナー》という映画をみたか。　公開は1981年である。　にもかかわらず巷の建築家達は依然として，この映画から放射される熱に打ちのめされ続けている。　伊東豊雄は建築雑誌誌上において繰り返し《ブレードランナー》について語る。　原広司の研究室では，1986年のミネアポリスでの展覧会の準備がされているが，そこで絶えず話題にされ，リファレンスされているのが，この《ブレードランナー》である。　今や巷では《ブレードランナー》を見ざる人は建築家に非ず，いやむしろ人に非ずというささやきが聞こえるほどの，異様なもり上がりかたである。　この《ブレードランナー》のコンセプチュアル・アート・メカ・デザインを担当し，映画制作のビジュアル・ディレクションを行なったのがシド・ミードである。

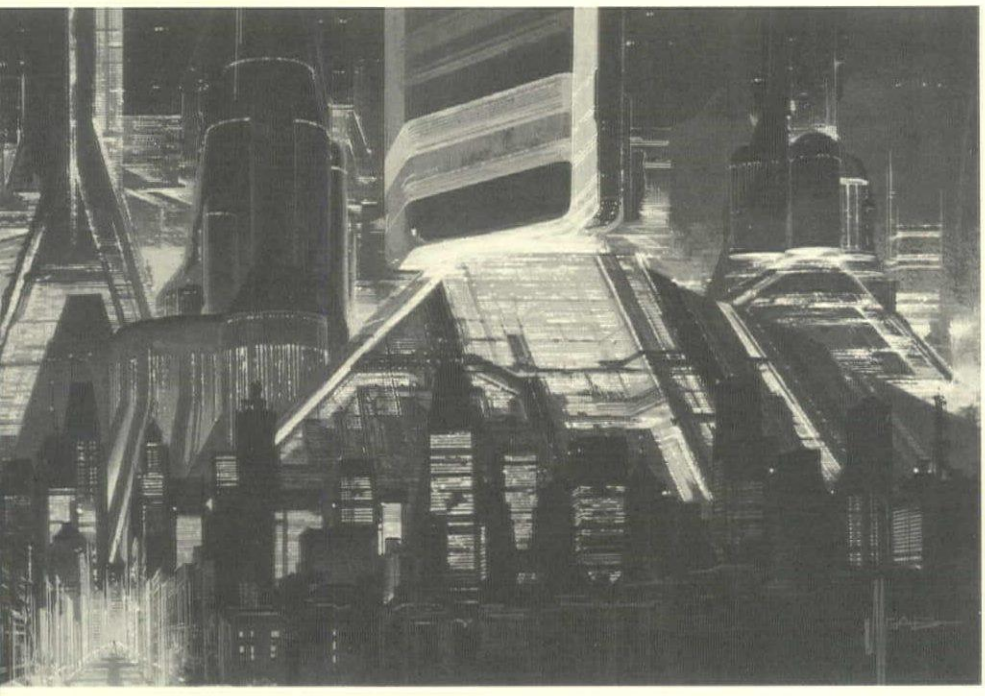
《ブレードランナー》の舞台は2000年のロサンジェルスである。　スーパーマンのような超能力をもった人造人間，レプリカントが宇宙船を逃げ出す。　その彼らを追い，彼らと闘うのが，ブレードランナーと呼ばれるスゴ腕かつ丸腰の特命刑事，ハリソン・フォードである。　2000年のロスはまぎれもないＳＦ的メカストリアであるけれど，その足元はなぜかラーメン屋の屋台が軒を連ねるアジアの路地裏であった。　新宿の超高層の下に歌舞伎町の雑踏と猥雑があり，香港上海銀行の足元にはHong Kongの喧噪とゴマ油の臭いがある。　しかし《ブレードランナー》における，co-existenceはそれらに数倍する。　この不可思議にして卓抜なるＳＦ映画の掉尾にVisual Futurist：Syd Meadという文字が流れるのである。このSyd Meadとはそもそもいかなる人物であるのか。

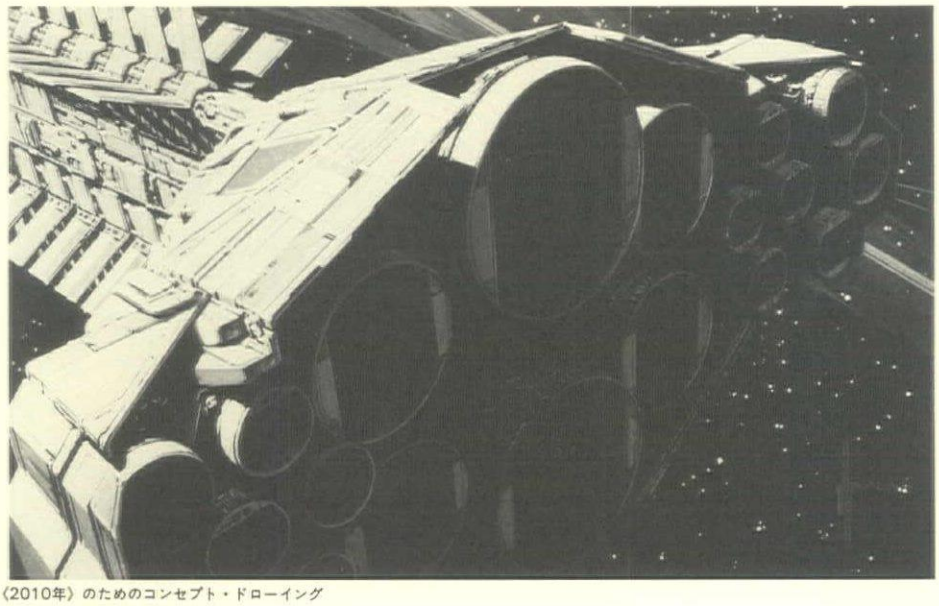
シド・ミードは1933年ミネソタ州セントポールに生まれロスのアート・センター・スクールでＩＤを学び，ＩＤのデザイナーとしてその輝かしい経歴のスタートをきる。フォード，クライスラー，AM，ボルボ，BMW，ジープ社等の自動車メーカー，弱電のフィリップス，さらにコンコルド，ＮＡＳＡのデザイン・コンサルタントを歴任し，世界的なＩＤデザイナーとしての地位を築きあげる。　石油ショック以降のAMを大躍進させた小型車シリーズのコンセプトはミードが提出したものであり，ボルボの名声を不動にしたボルボ70年代シリーズは，彼のコンセプト・デザインにもとづくものであった。　また昨年フィリップスから発表されたシェーバーは，彼が14年前にフィリップス社に提出したデザインの，なんと14年振りの実現であった。　しかしこれらのＩＤの実績にもまして彼の名声を不動にし，彼の名を世界的にし，熱狂的な信者までうんだのはＳＦ映画のVisual Futuristとしての彼の活躍である。　《スタートレック》《ブレードランナー》《トロン》《2010年》等の映画で，彼はコンセプチュアル・アート・メカ・デザインを担当する。　すなわちこれらの映画では彼のスケッチに従って，未来都市がデザインされ，その街角がデザインされ，宇宙船がデザインされ，空・陸両用の車が作られ，登場人物のコスチュームが作られ，登場人物の生活するインテリアのセットが作られ，彼らが撃ちあいに使うレーザー銃が作られる。　昔レイモンド・ローウィが〈口紅から機関車まで〉と称してＩＤデザイナーのコミットする仕事の広大な領域を示したが，ミードのデザインの領域に比較すれば，ローウィの〈広大さ〉などは児戯に類する。　その広大さが，ジウジアーロやコラーニの未来的なデザインと，ミードのデザインとをはっきりと区別している。　レーザー銃の精巧にしてロジカルなディテールから，宇宙都市，惑星スケールの荒唐無稽，気宇壮大なるデザインまでをいっきに貫く彼の想像力の射程に比較したなら，ジウジアーロもコラーニも，所詮はヨーロッパの職人の延長にす


〈ブレードランナー〉のためのコンセプト・ドローイング


〈トロン〉のためのコンピュータ・グラフィックス


フューチュアー・コンセプト・ドローイング





〈2010年〉のためのコンセプト・ドローイング

ぎないのではないかと，なにやらため息もつきたくなってしまうのである。　そして，そのミードが事務的な助手一人しか使わず，土曜も日曜もなく毎朝7時から，夜中の12時まで一人で黙々と絵を描き，あの計り知れない莫大なスケッチを生み続けているのを知って，私はまた別のため息をついてしまうのである。

●隈研吾／建築家

有楽町西武にてシド・ミードの来日記念講演会と展覧会（8月2日—14日）が開催される。

コンセプチュアル・デザイナー〈シド・ミード〉講演会

21世紀のインテグラル・デザイン——ＩＤから都市まで

日時：8月4日(日)　16：00〜18：30

会場：有楽町マリオン12Ｆ　朝日ホール

入場料：一般前売3000円，会員2500円，当日3500円

予約申し込み：西武コミュニティ・カレッジ

Tel：03-985-9655

出演：シド・ミード，泉真也（ＩＤデザイナー），伊東豊雄（建築家）

進行：隈研吾（建築家）

講演に先がけて13：00より映画《ブレードランナー》が上映され本講演会のチケットで入場できる。

からだのしくみは「骨格と筋肉」だけではありません。



神経もあれば、血管もあり、あらゆるものが総合的に働いてこそ、一個の生体としての機能が発揮できるのではないでしょうか。
ビルや建造物の場合も、これと全く同じことで、鉄骨やセメント、石材、の組合せだけでは、外見上如何に立派でも、それは単なる物体の集合です。やはり神経や血管と同じく、電気、水道、ガス、空気調和などがその機能を充分発揮できてこそ、素晴しい**居住性**が生れると思います。
しかし……
それだけで終ったのでは、まだ多くの欠かんが残っております。ところがこれ等の機能を更に無駄や損失のないよう活用できたとしたら、もっと素晴しいことではありませんか。
集中管理或は**集中制御**によって……
省力、省エネルギー、省経費をはかることこそ、最も完ぺきな、からだのしくみ、つまりビル全体の機能を**フル**に発揮できるのではないでしょうか。

集中管理装置
NESCA

川崎電気株式会社

本　社　〒999-23 山形県南陽市小岩沢225番地
電話0238(49)2011大代表
営業本部　〒108 東京都港区芝浦3丁目7番4号
電話03(454)5141大代表



協和銀行本店

「ようこそ、協和へ」
街角から、笑顔のごあいさつ。

《協和銀行》は全国230余の街角から、笑顔のごあいさつをいたします。
ふだんの暮らしのアドバイザーとして、親身のお世話をいたします。
この一年を大切に、「ようこそ、協和へ」、お立寄りください。

いつもごいっしょ
協和銀行

新刊紹介 BOOK INFORMATION

［近代建築ガイドブック］
東海・北陸編
飯田喜四郎＋伊藤三千雄＝顧問
瀬口哲夫＋竺覚暁＝編
四六判　312頁
鹿島出版会　2800円

さきの〈関東編〉〈関西編〉〈西日本編〉〈北海道・東北編〉と同様，日本建築学会編《日本近代建築総覧——各地に残る明治大正昭和の建築——》（1980年，技報堂出版）にリストアップされた中から，洋風建造物を選んで見学コースに組み，それぞれに，コースの解説文と案内図を掲げ，次いで各建造物の写真に設計者・施工者名，建造年，構造・階数，所在地，交通案内を配し，見どころその他の説明を加える．
東海・北陸に分かれ，ともに地方全般の性格を概観する編者の文章で始まるが，それぞれ建造物368件，253件を，23コース，14コースに組んでいる．
コース名は，東海が「名城・官庁街」「白壁・主税町界隈高級住宅地」「広小路商業業務地」「栄生・煉瓦工場」「大須・鶴舞」「熱田・港・生産施設」「覚王山別荘地」「守山・八事住宅地」「堀川名橋めぐり」「尾張」「知多・碧海」「西尾・岡崎・足助」「軍と糸の東三河」「水力発電所山間部」「多治見・瀬戸窯業」「岐阜・美濃」「高山・飛騨」「安濃津県産業・公共施設」「伊勢・神都建築」「浜松・報徳殖産」「富士と茶の駿河」「熱海・伊東別荘地」「伊豆温泉・長八」，北陸が「広坂・兼六園周辺」「長町・長土堀」「武蔵辻・尾張町・浅野川」「犀川」「白山麓・加賀圏」「能登圏」「富山市・富山南部・射水」「高岡・伏木・新湊」「礪波平野」「滑川・魚津・入善」「宇奈月・黒部峡谷」「福井平野～奥越」「丹南」「若狭」である．
本編の刊行で，このシリーズは日本全土をカバーすることとなった．

［比較都市計画序説
——イギリス・アメリカの土地利用規制］
渡辺俊一＝著
A５判　296頁
三省堂　3600円

我々は〈都市計画〉を自明で普遍的なものと了解しがちだが，一般にその具体的内容は各国の社会的・歴史的条件の違いを反映して互いに個性的なものとなっている．都市計画の大きな潮流である英米の例を検討し，都市と法・行政，計画理論を考察する〈比較都市計画〉を平易に概説している．

［アントニオ・ガウディ論］
入江正之＝著
A５判　390頁
早稲田大学出版部　3800円

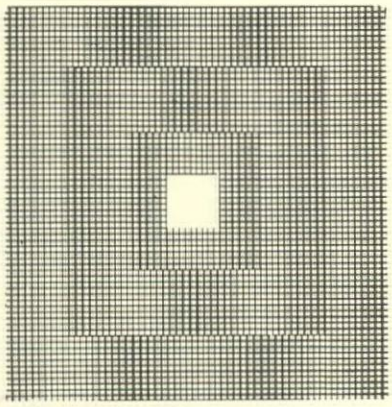
ガウディについては，様々な分野の様々な人が様々な言葉を語ってきたが，本書は，既往のガウディ論に一つの系譜を与えるという外面からの考察と，ガウディ自身の原稿や晩年の言葉，そして建築作品を検証するという内面からの考察を通して，総合としての彼の創作方法を解明することを目的とした，本格的なガウディ研究書である．

［トランス・イタリア・エクスプレス］
細川周平＝著
B６判　244頁
筑摩書房　1500円

〈トゥッティ・フルッティ〉．この〈すべての果物〉を意味するイタリア語は，なんでもかんでもという実にイタリア的な愉快な言葉である．２年間のイタリア滞在の〈トゥッティ・フルッティ〉を綴ったこの１冊にはイタリアの日常（私たちには驚き）が実に歯切れよく語られている．すてきなデザートとしてお勧め．

FP
デザイン・ビジネス実践情報誌
エフ・ピー
■A4判変型
■隔月刊〈奇数月28日発行〉
定価1800円
クリエイターのためのデザイン雑誌
創刊2号
7月27日発売
特集Ⅰ
最先端イタリア・インテリアビジネス事情
デザイン王国イタリアの中心インテリア産業界の激しい開発競争の実態と日本上陸をはかるイタリア家具メーカーのデザイン・マネージメント・システムを紹介。
特集Ⅱ
仕掛の時代のデザイン戦略
ヒット商品の「市場」「イメージ」「技術」「トレンド」「組織」などをテーマに、話題のセイコー、カシオの液晶テレビや洋酒のボトル戦争、家電の統一ブランド作戦など商品戦略の内側をレポートする。
企業レポート
●デザイン開発の現場＝本田技研●デザイン界のビジネスリーダー＝バオス●地場産業レポート＝インテリア・センター（旭川）
メッセージ&トピックス
●プティックの空間演出＝横田良一・松田光弘●「日本——未来のアバンギャルド展（ジェノバ）」速報●ほか小川明・小池一子・植田正也・浜野安宏・望月照彦・河口洋一郎・今井アレキサンドル・皆川魔鬼子
学研　お問合せ、カタログの請求は下記まで。
学研・美術出版事業部
〒145東京都大田区上池台4-40-5☎03/720/1111代

産業と文化生活に
クリアな空気を供給する——
これが菱和の仕事です



超高層・地域冷暖房・原子力・クリンルームに技術の可能性を追求し、新しい未来をきづくため研究をつづけています

菱和調温工業株式会社
東京都港区南青山2丁目3番6号
〒107 Phone：東京(03)402－7231

［東京の空間人類学］
陣内秀信＝著
B6判 308頁
筑摩書房 1800円

評者＝
海野 弘

都市の頁を開く

70年代にニューヨークという都市の魅力が再発見されたように，80年代には東京ルネサンスとでもいえるように，東京論が盛んになってきたようである． 私も，江戸から東京への盛り場の移り変わりを調べていたこともあって，陣内秀信著の《東京の空間人類学》を大きな興味を持って読み進んだ．

80年代の都市論を私なりにまとめてみると，都市と〈私〉との結び目をさぐろうとする試みとして考えられる． 60年代に数多くつくられた東京計画は，高度成長期の楽天主義に支えられ，建築家が上からイメージを押しつけるものであった． 現在においても，私たちは，60年代の都市計画へのはっきりした決算を行なっていないし，一部では，ポスト・モダンへのあいまいな癒着も見られる．

しかし一方では，そのような機能主義的な都市計画における〈私〉不在への反省から，少しずつ，都市のディテイルを再発見してゆこうとする試みもあらわれつつある． この本もその一つの成果である．

都市と〈私〉との結び目の発見は，都市の歴史性，そして空間性という二つの方向を持っている． 歴史性とは，都市の現在にのみ価値を置くのでなく，〈私〉がこの都市に生きる意味を，人間の全歴史の奥行きのうちにとらえることである． 過去のすべてのものは消え去ってしまうのではなく，今に生きつづけているのだ．

空間性とは，〈私〉のまなざしのうちに，都市を具体的に見えるものとすることである． 抽象的な記号化による都市論だけでは都市は見えるものとならないのである．

《東京の空間人類学》では，都市の歴史性と空間性は明確に意識されている． 陣内秀信は，《都市のルネサンス》などで，イタリアの都市研究から出発している． そして東京にもどってきた時，ヨーロッパの都市論を東京にあてはめるだけでは，この漠然とした都市をとらえることができないのに気づいたのである． そして東京のディテイルを根気よくたどっていきながら，この本でついに東京を発見したのであった．

欧米の都市論の翻訳でしかなかった日本の都市論の状況をこえて，欧米をパースペクティヴに置きつつも，あくまで日本から出発する都市論が生れつつあることは私たちを力づける．

この本の第一章〈『山の手』の表層と深層〉は，大きな骨格で，鮮やかに東京の空間構造を浮かび上らせてくれる． そこでとりあげられる町の例も魅力的である．
そして，ここで発見された東京を出発点として，さらに，この巨大で複雑な都市のさまざまな部分を見えるものとしていってほしいと思う． 上からの都市計画に対して，〈物〉による都市のとらえかえしは，決して終ることがないからである．

●うんの・ひろし／評論家

［いま，見えない都市］
磯崎新＝著
A 5 判変型　200頁
大和書房　1800円

評者＝
粉川哲夫

見える都市の解体

今日の都市は，〈見えない都市〉，〈虚体〉としての都市へ向かいつつある――本書のタイトルは，磯崎新氏のこの洞察にもとづいている．　氏は，この洞察を，20年前にセスナ機でロサンゼルス市を鳥瞰したときに得たという．　それは，「ヒロシマの原爆被光の直後の光景と二重映しに」なる，「建造物はほとんど眼にうつらない光景」であり，「ありとあらゆる仮象ともいうべきフェイクの群と，数々の記号だけが散乱する有様」であった．

そこでは，近代（モダン）の透視図法が支配する空間のなかで〈主体としての人間〉が，その身体的な空間知覚を介して建造物のあいだを遊歩しているのではなく，これとは全く異なる身体知覚をもった人間が「単純に記号を認知するだけで行動している」．　事実，自動車都市としてのロサンゼルスでは，人は，遊歩者ではなく，文字通り〈操縦者〉であるが，磯崎氏は，これを単なる――機械文明による〈人間の疎外〉といった――消極的な局面としてではなく，より積極的な事態として受けとめようとする．

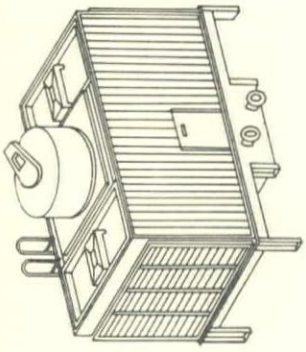
都市空間が，「計器によって測定された．すなわち記号に翻訳された対象物と主体との相対的関係性だけとなる」事態は，決して，単に人が自動車に乗り，ハイウェイが都市を構成するようになったから生じたわけではない．　むしろ，より深い変化がわれわれの空間・時間知覚のなかで起こったからこそ，自動車が生まれ，自動車都市が出現したのである．　それが文明の宿命なのか，テクノロジー的理性の目的論なのか，はいま置くとして，磯崎氏は，この変化を歴史現実的な変化として受け入れようとする．

いうまでもなく，今日の都市は，電気的・電子的な情報メディアによって構成されており，情報メディアなしには都市生活はなりたたない．　これは，ある意味で，われわれがそうした媒介なしには行動できないほど〈無能〉になりつつあるということであるが，他方では，われわれがもはや知覚や生を〈見る〉ということのなかだけに特権的に閉ざすのではなく，知覚と生のすべての諸機能を等しく情報メディアに向かって分子状に開放しようとしているということでもある．

都市の人間つまりは身体をこのような〈錯綜体〉としてとらえるとき，〈かいわい〉という概念によって表現される日本の都市空間に磯崎氏が最も今日的な――ポスト・モダンな――要素を見出すのは当然だろう．しかし，問題は，今日の先進テクノロジーが都市空間を〈かいわい〉へと〈再解体〉しうる可能性をもち，そして実際に日本の都市がその徴候を見せはじめているにもかかわらず，テクノロジーも建築も，その支配的な動向は，依然としてその可能性に逆行する方向を向いていることである．

磯崎氏は，本書の最後のところで，「現実の都市のほうから記述言語や建築的言語や都市モデルにいたるまで，いっさいをまとめてやりかえることを要請されているようだ」と言っているが，本書はそのような〈解体〉を触発する一つの〈錯綜体〉である．

●こがわ・てつお／批評家

空研のシンボル
騒音0（ゼロ）に挑戦
新製品発表――18シリーズ
音は更に低くなりました
送風機は全てFRP製

営業品目
空気吹出口・防排煙設備
KUKEN 空研工業株式会社
東京支店　東京都渋谷区宇田川町36－1　☎(03) 464-0161(代)
本　社　福岡市中央区大濠公園2－39　☎(092) 741-5031(代)
支　店　福岡・広島・大阪・名古屋
工　場　福岡・宮田・東京

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社
●営業種目
空気調和設備/給排水衛生設備/塗装設備
/公害防止関連設備の設計・製作・施工
本社・東京本店 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
☎03-344-1851(大代)
大阪支社 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル
☎06-448-5851(代)
北海道支店☎011-222-3371 東北支店☎0222-21-7800
名古屋支店☎052-211-1535 中国支店☎082-247-5541
九州支店☎092-431-2147

［村山知義の美術の仕事］
「村山知義の美術の仕事」刊行委員会＝編
239mm×260mm 140頁
未来社 12000円

評者＝
羽原肅郎

続いて《マヴォ》の復刻を期待する!

《村山知義の美術の仕事》という本が出たことを知って「遂に出たか!」と大変期待した。早速取り寄せて見ているうちに《みずゑ》1985年No.935夏号に浅野徹氏による書評が出てしまった。この浅野氏の意見に私もほとんどと言って良いほど同意見である。前半の永井潔氏の意見を取り上げられ,「村山知義の仕事は小説,戯曲,演出,評論,舞踊,建築など非常に多方面に拡がっており『この全方位的〈マルチ人間〉村山知義を表現しているところにこそ村山芸術の特色が生じてもいる』。そして,村山知義の美術の仕事として最も重視されるのはマヴォ時代の活動である.」と言われている。また,「マヴォ時代の作品が一点でも二点でもこの機会に新たに発見され,収録されているのではなかろうかと思ったが,それははかない期待に終った.」とも書かれている。やはり誰もが《マヴォ》誌第1号表紙に掲載され,リシツキーとアルプ編による"DIE KUNSTISMEN"にも掲載された作品のことなどもっと知りたいのである。私もその一人だ。私が最初に村山知義を知ったのもマヴォである。原弘先生からエディトリアルデザインの,あるいはタイポグラフィー(しかも日本語による)の斬新なデザインとして《マヴォ》誌の何冊かを見せられた時,モダンで大胆なカッチリとしたレイアウトに感動した。その時以来,村山知義の特にデザイン,建築に関するものはできるだけ知りたいと思っていたのである。本書は,それに答える内容を持った本であろう。

本書の構成は,特に目次はもうけていないのだが,(近頃,目次のない本も珍らしいが,この本には頁数(ノンブル)もついていない),肖像写真,絵画,舞台装置(この中に〈「朝から夜中まで」の時〉(村山知義),というエッセイが入っている),童画,装幀,ポスター,色紙絵,などの図版頁につづいて,〈現代芸術の課題〉(村山知義),〈村山知義の美術について〉(永井潔),〈従来の芸術とオクターブ異る空間の世界〉(住谷盤根),〈肖像画について〉(村山亜土),〈舞台装置者としての出発 トム村山の転機・1924年〉(関きよし),〈村山さんの側面〉(飯沢国),〈村山氏のポスター,装幀の仕事〉(土方重巳),〈村山知義 美術・演劇年表〉(菅井幸雄),〈刊行にあたって〉(清洲すみ子),〈あとがき——編集委員を代表して〉(松下朗),更に刊行委員の氏名,ご協力いただいたかたがたの氏名や団体名が記される,と言った独特の本造りになっている。文章の脇には,それぞれカットとして説明写真も入っており,それらは始めて見るものも多く大変興味深かった。特に私には「設計したマヴォ理髪店」という説明のついた一枚の写真に目がとまった。年代が記されていないのでいつ頃の作品か不明だが,いずれにしても1920年代か30年代にこのようなデザインで実現したことはやはり村山知義のデザイン感覚に感心する。また,村山知義の童画と装幀の手法と感覚は今でも新鮮であり,グラフィック・デザインやイラストレーションによる成果は大きい。あとがきにも書かれているが,私も村山知義の著書《現代の芸術と未来の芸術》(1924),《構成派研究》(1926)や《カンディンスキー》(1925)《マヴォ》全巻の復刻を期待する者の一人である。

●はばら・しゅくろう/社団法人:日本インダストリアルデザイナー協会事務局長

技術がつくる高度なふれあい・SOCIO-TECH

MITSUBISHI

設備・防犯・防災監視、制御を一体化、ビル管理の省力化に応えます。

監視業務のオンライン化・トータル化で
ビルの管理を省力化するシステムです。

三菱ビル遠隔監視システム〈メルセントリー〉は、お客様のビルと菱電サービス㈱情報センターおよび綜合警備保障㈱ガードセンターを一般加入電話回線で結び、エレベーターをはじめとするビル設備の異常や故障、不法侵入や火災の信号を監視し、緊急サービスも実施して、ビルの総合的な省力化を図れるシステムです。三菱電機の総合技術力に加えて、設備・保守、防犯・防災サービスに業界トップの実績と規模をもつ菱電サービス、綜合警備保障のすぐれたサービス技術が提供されます。

オンライン化された集中管理で
このような導入効果が生まれます。

〈ビル管理の合理化〉：設備監視、防犯・防災監視の無人化を可能にし、省人化が図れます。

〈ビル管理費の節約〉：ビルを24時間常時オンライン監視して、異常の早期発見と、迅速な対応処置が可能になります。また設備の自動制御や計測記録業務を付加することにより、省エネルギーが図れます。

〈ビル運営管理の簡素化〉：総合的な監視業務から、設備メンテナンスまで一括してお引き受けし、ビルの運営管理を簡素化します。

小規模ビル、マンションに
〈メルセントリー〉
- 設備の故障監視、防犯(侵入)、防災(火災、ガス洩れ)の監視
- 設備のスケジュール制御等





▲ ガードセンター
防犯・防災は警備業界大手の
綜合警備保障株式会社

監視サービスから
メンテナンスまで
菱電サービス株式会社
▼ 情報センター



中規模以上のビルに
〈メルセントリーU〉
- 中央監視機能——各種設備監視の一本化
- テナント単位での設備、防犯、防災の監視・制御
- 省エネルギー、省力化向上のための制御
- ビル管理の簡素化

三菱ビル遠隔監視システム 〈メルセントリー〉〈メルセントリーU〉

●詳しい資料をご希望の方は資料請求券をハガキに貼って本社へどうぞ。●お電話でのお問合わせは、お近くの各支社へどうぞ。

三菱電機株式会社 本社 〒100 東京都千代田区丸の内2-2-3（三菱電機ビル）昇降機事業部 支社：札幌(011)212-3727／仙台(0222)64-5633／新潟(0252)41-7221／富山(0764)42-2324／東京(03)218-2752／名古屋(052)565-3160／大阪(06)347-2271／広島(082)248-5278／高松(0878)51-0003／福岡(092)721-2163

菱電サービス株式会社 本社 〒100 東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビル)(03)270-1861 支社：北海道(011)231-8055／東北(0222)21-5661／東京東(03)433-4155／東京西(03)344-2901／横浜(045)311-6433／中部(052)263-7031／北陸(0764)32-0002／大阪(06)344-1196／中国(082)248-1451／四国(0878)22-6061／九州(092)711-9520

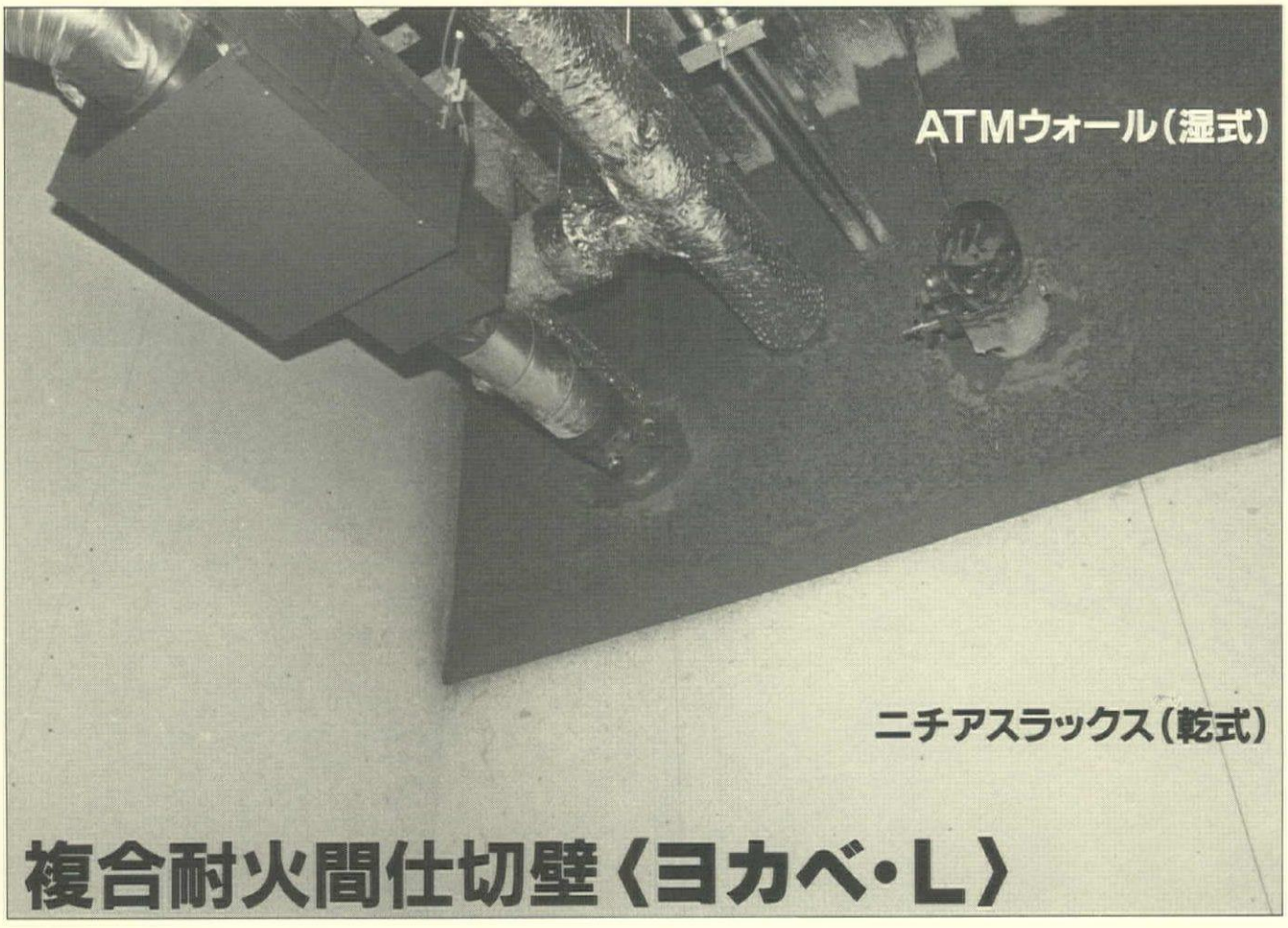
綜合警備保障株式会社 本社 〒107 東京都港区元赤坂1-6-6（第二安全ビル）(03)402-7571

資料請求券
メルセントリー
SD
8508

あなたの電話番号をご記入ください。

ニチアスの燃えない建材

湿式 ATMウォールと、乾式 ニチアスラックスの 機能一体。



複合耐火間仕切壁〈ヨカベ・L〉

新工法

湿式・乾式工法の一体化では、初の〝耐火指定〟を取得！

建設大臣指定 W2157（昭・59年7月11日）

耐火間仕切壁の代表的な施工法である湿式工法と乾式工法の一体化は、従来より、さまざまな工法が試みられてきました。

ニチアスは、これら工法の長所のみを抽出し、ATMウォール（湿式吹付ロックウール）と、ニチアスラックス（けい酸カルシウム板）を一体化。新たに、複合耐火間仕切壁〈ヨカベ・L〉として確立させ、耐火指定を取得しました。

湿式工法と乾式工法の特長の相乗効果が、品質の向上と現場工数の低減を生み出します。

〈ヨカベ・L〉は、今、画期的な新工法として、各方面に大きな反響をよんでいます。

複雑な壁面は、従来の湿式工法で

天井裏の設備配管、開口部等の壁面は、ATMウォール（湿式工法）で施工します。湿式工法ですので、これら複雑な取合部の施工が容易であり、また、気密性と耐火・遮音性に優れます。

表面化粧を施す壁面は、乾式工法で

クロス・タイル貼り等、いろいろな表面化粧を施す壁面は、ニチアスラックス（乾式工法）で施工します。乾式工法ですので乾燥期間を必要とせず、工期を大幅に短縮することができます。

ニチアス

本社／東京都港区芝大門1-1-26 〒105
☎03(433)7241 大代表
東京支社☎ 03(438)9741(代)
名古屋支社☎052(931)9217(代)
大阪支社☎ 06(252)1371(代)
九州支社☎092(531)3031(代)

海外建築情報
8508

編＝DUCTSPACE
植野紘
小菅克己
田名網雅人
田辺正義
森 徹
若松久雄

インテリジェントが止まらない

ここに至って，現代建築は全く新しいタイプの課題を迎えている——それは，建物の〈インテリジェント化〉である．

マイクロ・コンピュータやセンサーを搭載して，細かな状況変化に自動制御を行なう機器は，〈インテリジェント・オブジェクト〉と呼ばれる*．　マイコン付のエアコン，洗濯機や電気釜等々が製品化されてきている．　建築部品もまた然り，センサー制御の照明，ブラインド，エレベーター，水洗便器などが登場し始め，それらを統合したところに，いわば知能を持った〈インテリジェント・ビル〉像が浮かび上がる．

我が国では，〈ＯＡ（オフィス・オートメーション）ビル〉の呼び名の方が普及しているようだが，〈インテリジェント・ビル〉の方に，来たるべき状況の概念が逆照射されていて，言葉としての可能性があると思われるのは，次のような理由による．

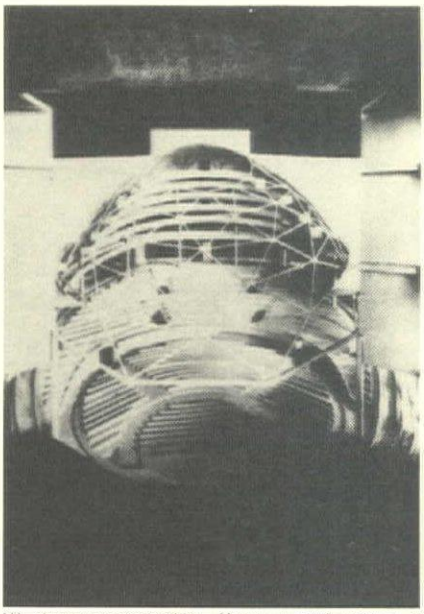
まず，〈ＯＡ〉が〈機器を導入して作業効率を上げる〉という，事務所内の作業から発しているのに対し，〈インテリジェント・ビル〉は，逆に器である建物の方からの発想であるところが，より包括的な含みを持っている．それ故，ＯＡを他の分野に，ＦＡ（ファクトリー・オートメーション），ＬＡ（ラボラトリー・オートメーション），ＨＡ（ホーム・オートメーション）と展開していった場合，それぞれの建物を例えば〈ＨＡ化対応ビル〉と呼ぶよりは，〈インテリジェント・ハウジング〉と言った方が，分かり易く，一応のイメージを伴っている．

また〈オートメーション〉とは，いかにも19世紀産業革命的だが，〈インテリジェント〉は，情報化社会の高度通信システムに繋がる響きだ．

たかが言葉ではあるが，それは状況に形を結ばせる鏡である．　そしてそこに映し出されているのは，過去の建築家が思いも及ばなかった，建物が知能を持つという概念だ．　そんな事は，ＳＦ小説の中の話で，現実の事となるのは，ほど遠いと見るむきもあるだろうが，例えば電話というものができてしまえば電話のないオフィスが考えられないように，インテリジェント化も，後戻りできない時代の潮流なのではなかろうか．



宇宙船ディスカバリー号を自動制御するコンピュータ・ハルの眼から見た人間達．（〈電脳都市〉坂村健著　冬樹社より）
〈2001年宇宙の旅〉はインテリジェントな環境を予言的に描いていた．



W. グロピウスの〈全体劇場〉．（〈ロボット・アヴァンギャルド〉山口勝弘著　パルコ出版より）
自動的な装置によって上演される機械化劇場．　クルト・シュミットの〈メカニカル・バレー〉やモホイ・ナジの〈メカニカル・エキセントリック〉など，〈オートメーション〉の時代の中で人間と機械の関係を見据えていた作家達の作品を上演する目的で計画された．

ここにおいて建築家は，いかなる対応をするのだろうか．　また，しているのか．　今の状況を概観してみたい．

- インテリジェント・ビルなる謳い文句を世に出したシティプレイス・ビルの狙いは？
- ニューヨーク56番通りに対峙する通信情報界の２巨人ＡＴ＆ＴとＩＢＭは，現代建築の巨匠達からどんな住まいをあてがわれたか？
- 人間を母の様に気づかうインテリジェント・ビルであるためにエルゴノミクス（人間工学）は，いかに適用されるべきか？
- 人間と機器の接点である，インテリジェント・ビルの最小単位，ワーク・ステーションは，どのように進化していくのか？
- そしてインテリジェント・ビルは，オフィスの他にどのような展開を見せるのか？

人間と機械の関係を見据えるフィロソフィーが，建築家に要求されている．　それこそ，〈オートメーション〉の波に時代が洗われた時，バウハウスのアヴァンギャルド達が機械人形の衣裳をまとって舞踏することにより，機械と人間の間合いを測ろうとしたように，〈インテリジェント〉の波は，人間に似てくる機械との関係を問いかけてくる．（森 徹）

＊〈電能都市〉　坂村 健

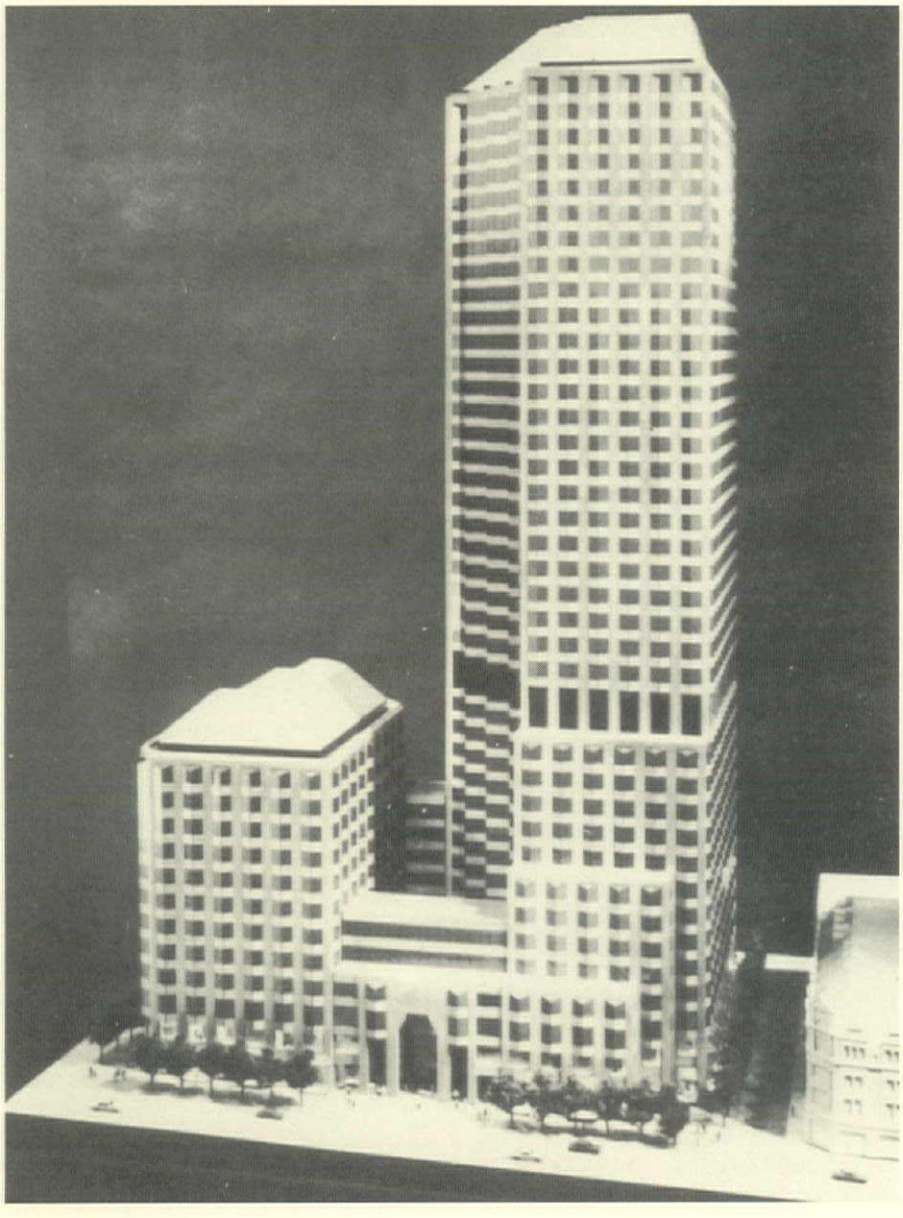
AJ : The Architects' Journal
AR : Architectural Record
ar : The Architectural Review
a+u : Architecture and Urbanism
d : domus
SD : Space Design

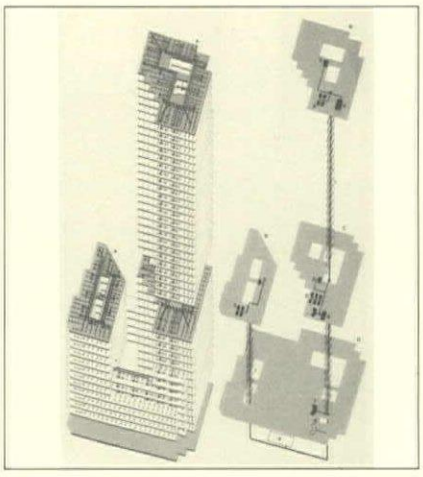
[シティ・プレイス]

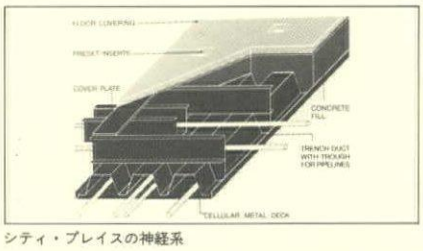
元祖./インテリジェント./

City Place
Hartford, Cennecticut, U.S.A.
architects : SOM Chicago Office
〈AJ 831123〉

構造が骨格で意匠が容姿だとすれば，設備は呼吸器・循環器など生命体を持続させる諸機能である，という陳腐な人体アナロジーをそのまま援用すれば，〈インテリジェント・ビル〉とは脳・神経系を有する建築といえる．　諸機能をコントロールする中枢・内部情報を伝達し更に外部へと繋がってゆく神経・情報処理を行う頭脳．　これらの完備により，商品としての賃貸オフィスの付加価値を高める．　自ら大型コンピュータを導入する余裕のない中小テナントにとって，情報のインフラストラクチュアをもつオフィスは，大いに有益であるに違いない．　この種のビルは，現在アメリカで30棟前後建っているという．　中でもその草分け・元祖！ともいえるのが，'83年2月竣工のこのシティプレイスである．　SOM(シカゴ)による外観は，特にこれといった切れ味もなく，ピンクの御影石の外装と低層部のアトリウムもまた，アメリカではありきたりの高層オフィスのヴォキャブラリーといえるのだ．　が……問題は，その容貌ではなく，中身＝知性？なのだ．　シティプレイスは主に二つのインテリぶりを示す．　一つは，設備諸機能（空調・照明・防災・EV等）の総合的コントロール．　そしてもう一つは，はりめぐらされたデータハイウェイという情報のインフラストラクチュアと，テナントへのソフトウエアの提供．　どちらも大量情報を輸送可能にした光ファイバーにより実現した．　とはいえ残念ながら，今のところこれらの〈知性〉が人格全体を変貌させるには至っていない．　たかだか設備の一機能が増えた時の，あたふたとした建築的対応をしているに過ぎないといったふうなのだ．　要するに配線スペースの確保と，OA機器の室内環境への侵害を軽減させる手だて，ということなのである．かといって〈インテリジェント・ビル〉を言い出したユナイテッドテクノロジー社（シティプレイスのオーナー）の時代センスはいささかも過小評価されるべきでない．　そのキーワードの響きこそ未来型オフィスを創り出すためのアジテーションとして有効だと思われるからである．（Q）







シティ・プレイスの神経系



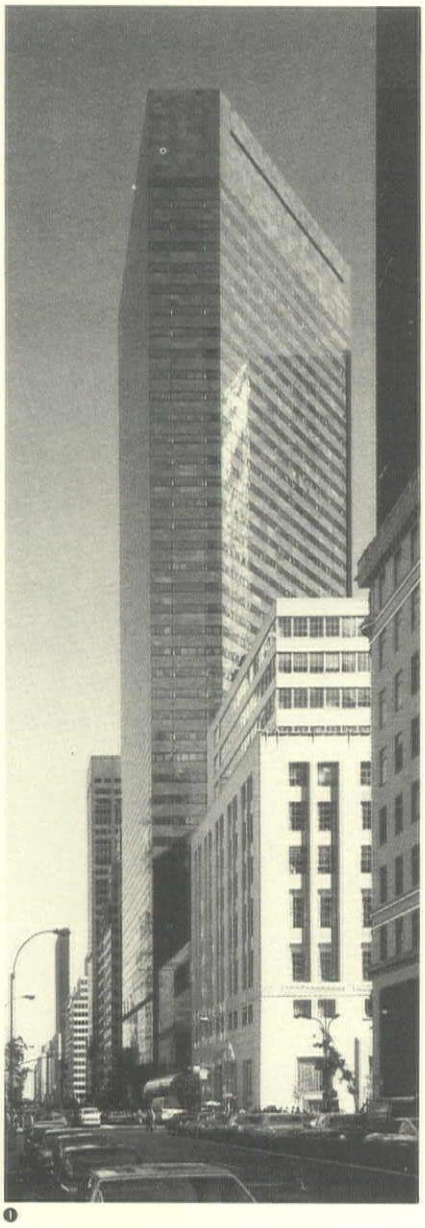
光ファイバー

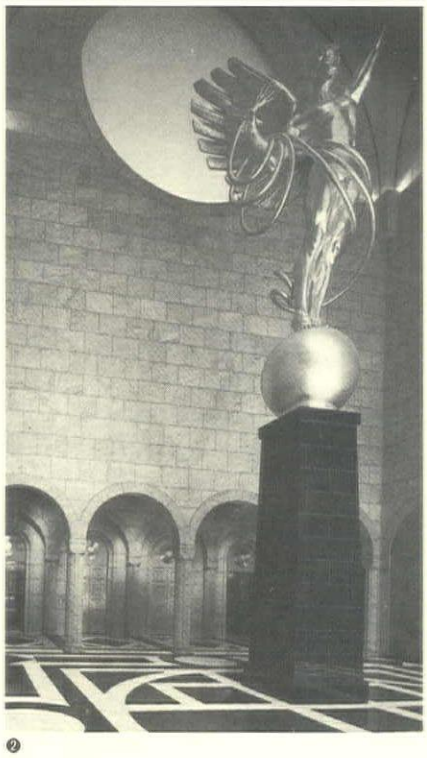
[IBMタワー+AT&Tビル]

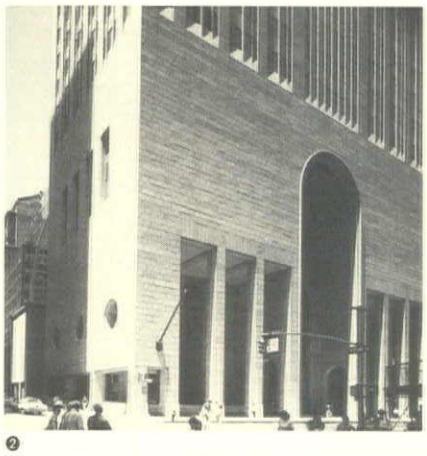
インテリジェントに無関心なスカイスクレーパー

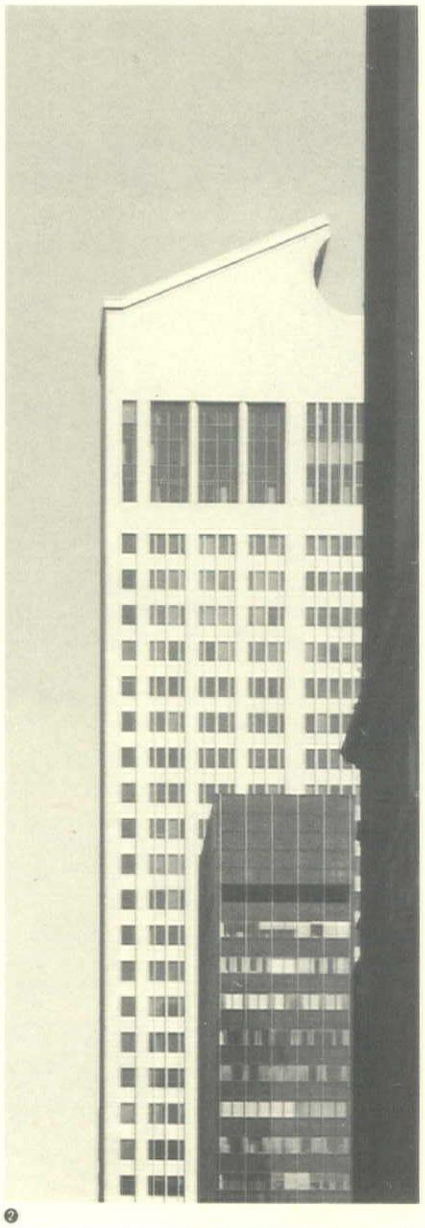
IBM 590 Madison Avenue——❶
New York, New York, U.S.A.
architects : Edward Larrabee Barnes
〈AR 8403〉〈a+u 8405〉〈SD 8507〉
AT&T Building——❷
New York, New York, U.S.A.
architects : Johnson／Burgee
〈ar 8408〉

ＯＡ化が進むにつれてそれがオフィスに及ぼす影響は顕在化して来ているが，その一方で建物のメカニズムに無感心な建築家の姿勢がある．　ここに紹介するバーンズのＩＢＭタワーと，ジョンソンのＡＴ＆Ｔビルなどはその典型である．　ニューヨークのマディソン街と56番街の交差点に立つＩＢＭタワーは正に彫刻である．　灰緑色のガラスと磨き上げられた御影石でつくられた五面のプリズムである．　見る方向により細い垂直線に見えたり，壁に見えたり，また塔の様相を呈したり，その風格をやや一時代前の石とガラスの扱い方に委ねようとした姿勢が見られる．　逆に言えば，バーンズの持つ実に誠実な端正さが抑制された洗練度をつくり出しているとも言えるが，ＩＢＭがつくり出す技術先端性のイメージを，ワンテンポ遅れた風格と格調で表現したようにもとらえられる．　建物構成も都市のコンテクストから素直に導き出されている．　トランプ・タワー周辺より来る流れを低層部の大きなアトリウムで受け，スケールを上層部とはっきりと切り離し，整然と聳え立っている．　一方，ジョンソンのＡＴ＆Ｔビルだが，この作品の発表当時は，およそＯＡ化の先端性といったものとの連関は結びつかなかった．先端性のイメージとほど遠い外観．　イメージ源泉が初期ロールス・ロイスか，ブルネッレスキのパッツィ家礼拝堂か定かでないが，オフィスビルを規定し続ける技術の先端性による拘束をものともせず，ジョンソン一流のシンボリズムが見事なスカイスクレーパーを創り出している．　上層階にあるエクゼクティブ・ウィンドウ（重役用情報通信システム）とインテリアの取り合いを見ても総て彼のデザイン・プログラムの裏面に位置づけられ，アスレチックスペースなどが組み込まれる結果とタワーのトップ・シンボルが暗示する伝統性とのアンバランスはやや滑稽な感もまぬがれない．　組織の意志決定プロセスの場をより高度に具体化するＯＡ化，もしくは，漠然としたネーミングのインテリジェント化．　それに背を向けた姿勢は今後も色濃く続くだろう．（H.W.）


❶


❷


❷


❷

[コネティカット・ジェネラル生命保険本社南棟]

ささやかなパイディア

CIGNA South Office Building
Bloomfield, Connecticut, U.S.A.
architects : The Architects Collaborative
〈AR 8503〉

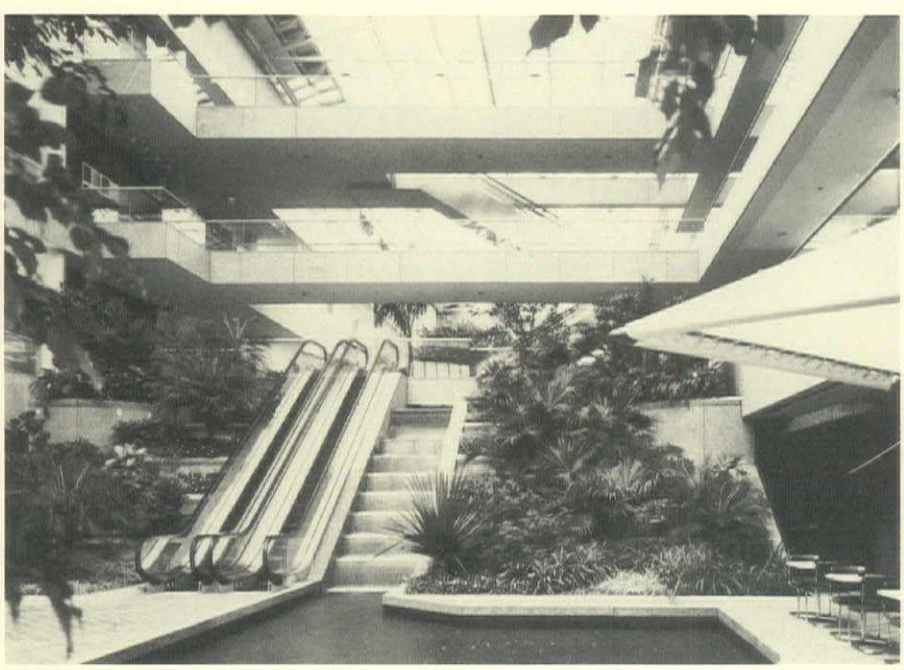
本来〈遊び〉は日常性や定住性や生産性の原理から完全に逸脱しているもののはずだが，労働と有効性という生産性の原理に支えられたオフィスビルに，このところささやかな〈遊び〉の空間が嵌め込まれ始めている．

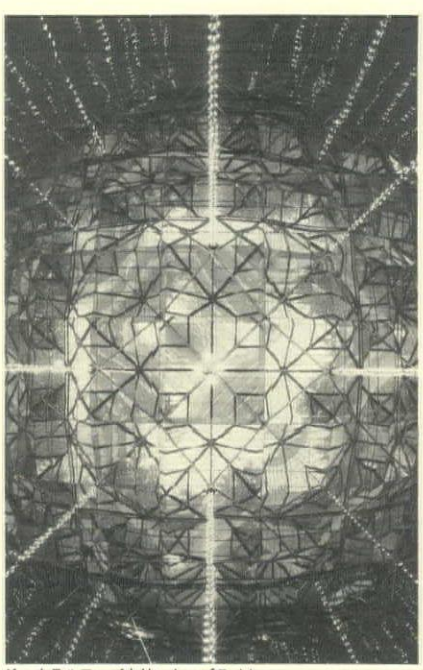
とりあえず産業革命を起点とすれば，工場の片隅に置かれた工場主のデスクと椅子を起源とするオフィスが産業社会の進展と共にオフィスビルに特化し，この象徴とまでに化した．　さらに，情報を軸に社会が再編成されつつある現在，オフィスビルは単なる器から情報処理能力を備えたインテリジェントなビルとして要請され始め，技術的にはコンピュータや通信設備を駆使したＯＡ化がこれを担っている．

ＯＡ化の目的は事務労働者の可及的排除と知識労働者の知的な仕事の促進にある．　しかし，単線的なＯＡ化の推進はかえって能率の低下を招いたこともあり，実現されたインテリジェント・ビルでは知的労働生産性を高めるためのオフィスの魅力化，快適な生活空間化がはかられている．

たとえばＴＡＣによるコネティカット・ジェネラル生命本社の南棟．〈80年代のエレガンス〉を求めたというこの建築では省エネを一応の目標としたアトリウムを中心に植栽，池，ブリッジ，エスカレーター等々の空間要素が嵌め込まれ，多様なテクスチャーのマテリアルや自然光による明るい執務スペースが実現され，オフィスの魅力化，快適な生活空間化に成功している．　〈真面目〉を軸にした近代のプロテスタンティズム的な生産労働の世界が知的労働者をその主役に迎えて〈遊び〉を持ち込まなければ逆にその有効性を高められない，そんな時代になりつつあることをこの種のオフィスビルは示唆してはいまいか．

本来，日常的な生産の原理に支えられているはずのオフィスビルに非日常的な〈遊び＝パイディア〉の空間をささやかに仕組んで労働の質の変化に対応する姿勢はインテリジェントというよりもインテレクチュアルな人間の証であろうか．（K_2）





ジェネラルフーズ本社　トップライト





[SPECIAL UFFICI]

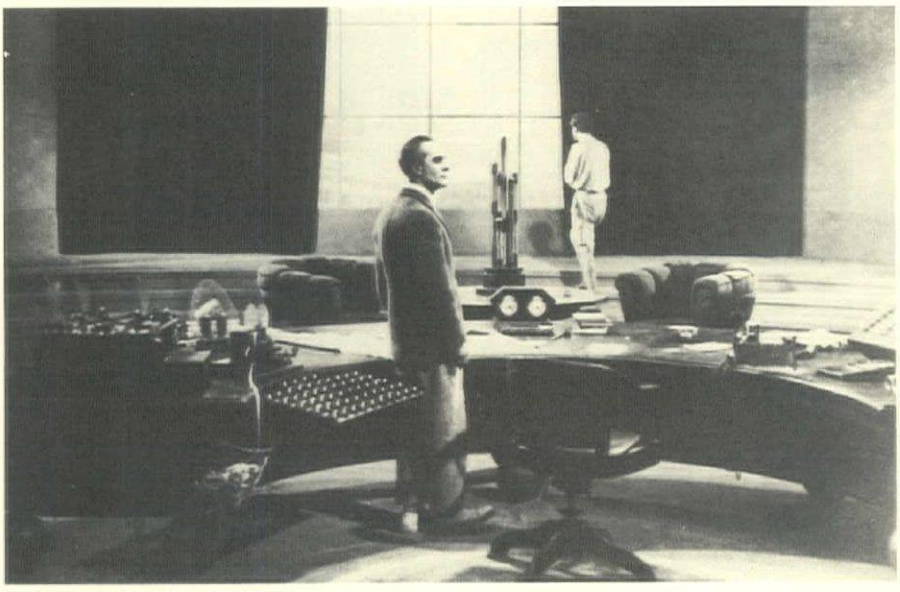
インテリジェント・マシーン

‹d 8409›

1926年のサイレント映画〈メトロポリス〉の中でフリッツ・ラングが描いた未来社会のヴィジョンは彼の予測能力の確かさを実証している。 バカでかいオフィス，組み込まれた機械装置，大きなガラスの壁……は1980年代のオフィスデザインの幾つかの特徴を見通している。 パトリック・ハネーによると，統合された電子オフィスはインテリジェント・プロセッサーと電子メイルとテレビ会議の三つの部分に分かれる。 インテリジェント・プロセッサーは情報を生産，収集，処理する機能を果たす。 統合できる現在の技術はディクタフォン，タイプライター，コピー機器，製図板，植字器及び計算器である。 現在，紙や電子ファイルシステムにもりこまれている情報の記録，再編集，検索の機能は，一部はインテリジェント・プロセッサー，一部は電子メイルによってなされる。 電子メイルはまた現在，郵便，テレックス，ファクシミリ，通信衛星でなされている文章によるコミュニケーションを組み込むこともできる。今日，オートメーション化されたオフィスには，ケーブルを通しオフィスの各場所とつながった中央処理システム，ユーザーの近くにおいてある小さなプロセッサーを通じてやるインテリジェント端末，同軸ケーブルによってつながれたローカルネットワーク装置の三つのコンピュータ・システムが考えられる。

こうした状況の変化に対して，エルゴノミクス（人間の解剖学的，心理学的，機械的特性）に則した機械設備や環境条件の設計整備が行われるべきである。 これが今叫ばれているＯＡワークステーションの考えである。 人間と情報処理機械の共存するマン・マシーン・システムをより人間的な立場で考えている。 カー・デザインにおけるコックピットの考え方はこうしたマン・マシーン・システムの最たるものである。

このような電子工学の進歩は，我々をルーティン化されたオフィスワークから解放し，オフィスを情報処理の場から人と交流する，真にインテリジェントな場に変えるであろう。（人）



〈メトロポリス〉／フリッツ・ラング 1926



セディット・トレーディング・ホール／ENFIデザイン・グループ



西暦2000年のコックピット，シトロエン



ジウジアーロのコックピット，フォード〈マヤ〉



OAワークステーション

［ディスカバリー・パークス賃貸研究施設］

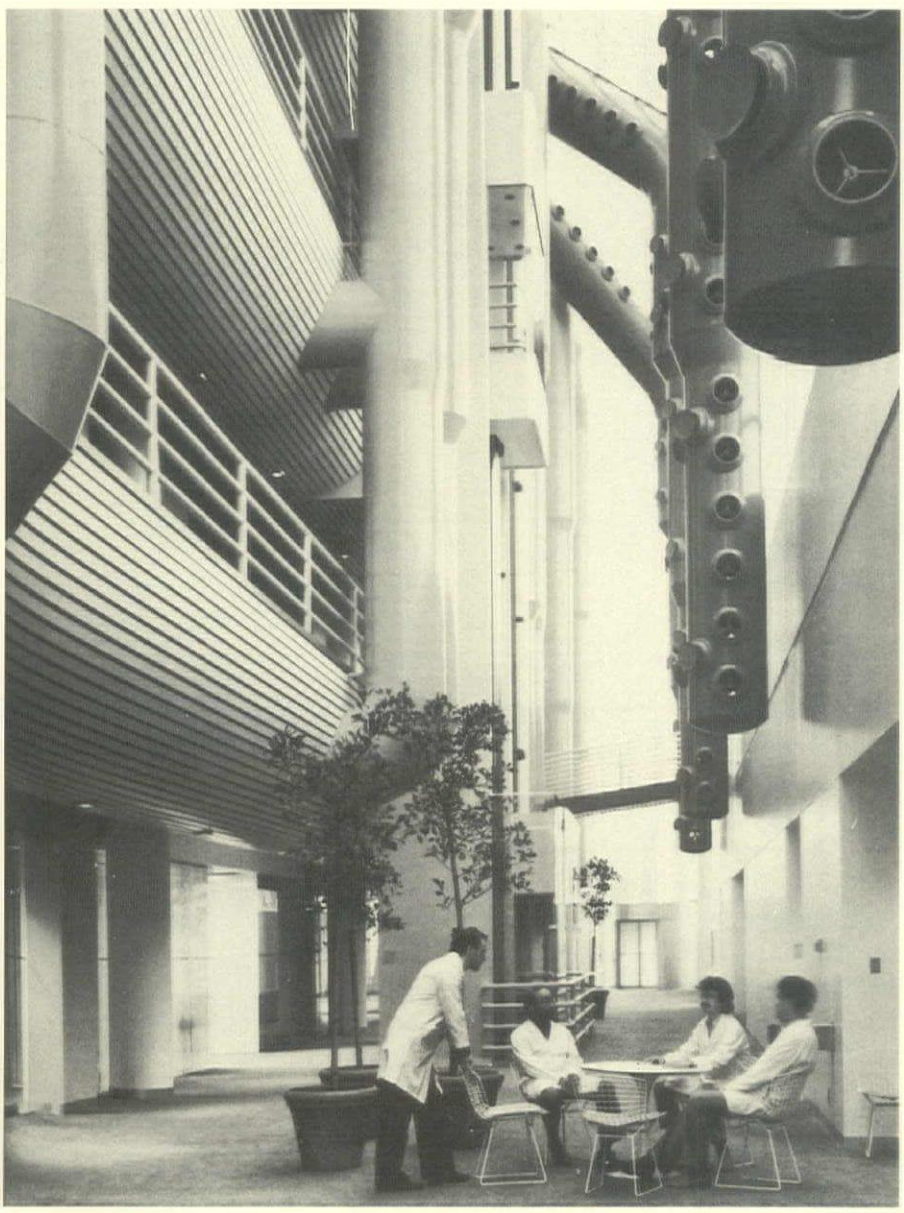
インテリジェント・スペース

Discovery Parks Multi-Tenant Research Facility
Vancouver, Canada
architects : Russell Vandiver Architects
〈AR 8504〉

インテリジェント・スペース……，直訳するならば〈知的空間〉．　これまでの空間そのものの感性に加え，コンピュータやセンサー等を組み込んで〈知的〉にしようというコンセプトをいう．　なぜ，インテリジェント・スペースというかというと，むしろ受動的であった空間の性能（普通空間とは，光や熱や空気が供給される端末としての空洞をさす）に代えて，記憶し，判断でき，連絡を取るといった能力を備え，きめ細かな制御の媒体となり，放っておいてもあたかも人間が生命を維持しているのと同じように活動する．　つまり，知能を持った空間のようだからだ．

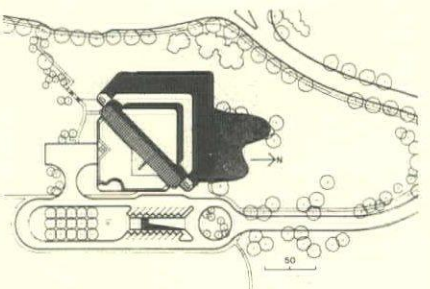
さて，ここにあげた施設における実態をご覧いただこう．　この施設は，正方形平面の対角線上に4層吹き抜けのコンコースが走り，それを軸にして二つの部分に分かれる．　一方は，誕生して間もない先端企業のための賃貸研究スペースが4層あり，他方は，クラブ・会議室・食堂等の共用スペースが平屋で構成されている．　この施設の何よりの目玉商品は，機械設備システムに対する中央コンコースの積極的な役割であろう．　一見したところ，鮮やかな原色に塗られたダクトは，内臓器官さながらの俗流ハイテックを呈しているが，単に奇をてらったものではない．　空調方式が単一の系統からなる．　つまり，濾過され，暖冷気化された外気のすべてがまずダクトを通してコンコースに供給される．　コンコースは，一つの巨大な対流空間であり，かつパッシヴ・ソーラー・コレクターとしても機能する．　この空間は屋外と各賃貸空間に対してわずかな正圧で維持され，ここから手摺腰壁のルーバーを経由して空気が賃貸空間の天井裏へ送られる．　そして消費された空気の大半が屋外へ捨てられるが，熱のみが回収され，再利用される．

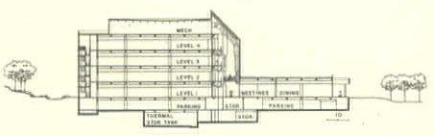
コンピュータ，コンピュータしていなくて，見た目には少しもコンピュータっぽくない空間のコンピュータ化の一例を見た．（ｍｔ）



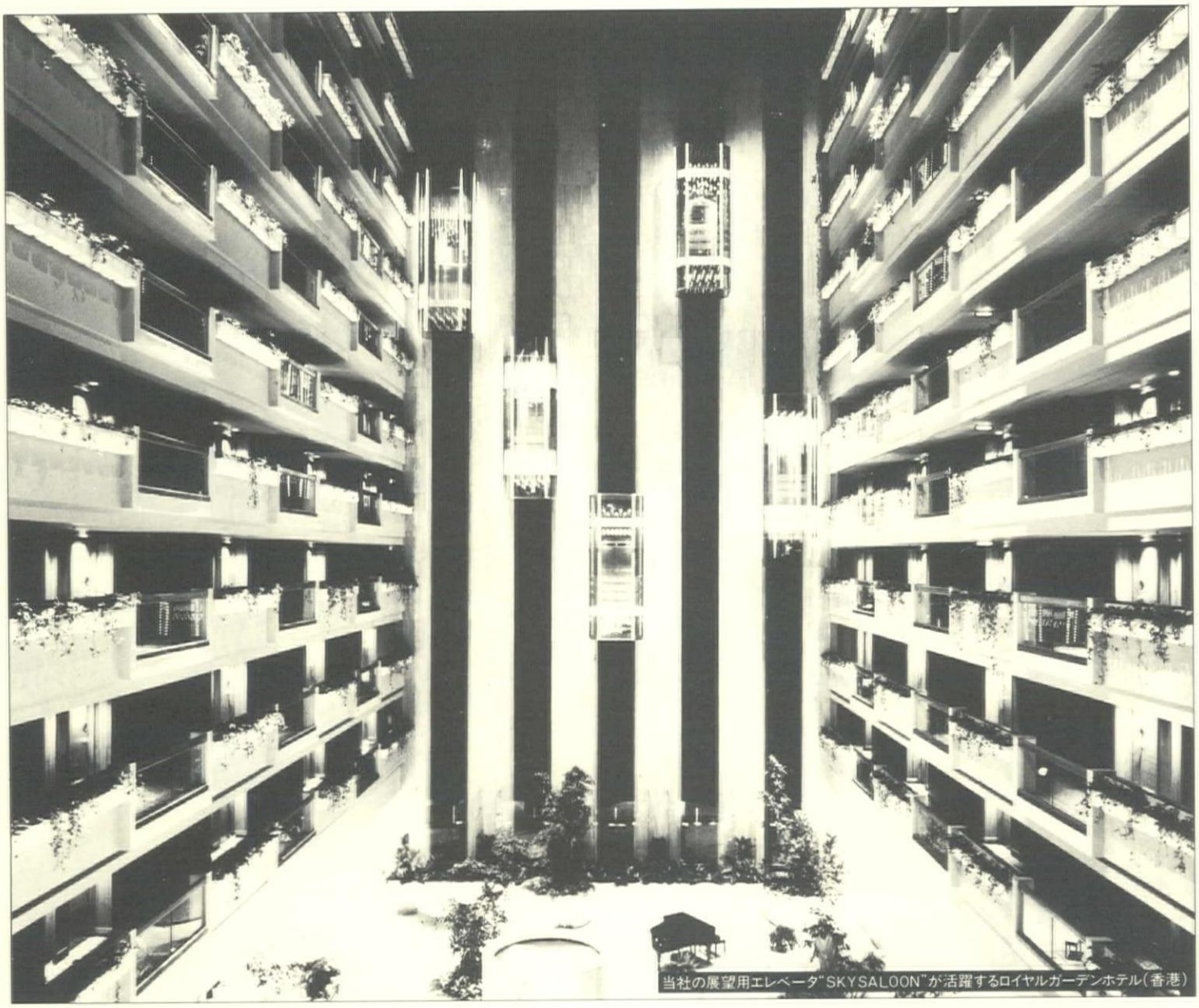








●世界のエレベータ **FUJITEC**



当社の展望用エレベータ"SKY SALOON"が活躍するロイヤルガーデンホテル(香港)

エレベータは人の流れを読む。

●ビル交通需要の変化を予測して、エレベータが動く。しかも、その動きはきわめて効率的。FLEX-11はまさに先進の群管理システムと呼ぶにふさわしい装置です。中枢部には学習機能をそなえた高性能マイクロコンピュータを搭載。時々刻々変化する交通需要を逐次、分析・整理します。結果、常に最新の交通データが確保されます。乗場呼びが発生すれば、その交通データからビル内の人の動きを予測、最適なエレベータを割当てます。この予測割当てには高度なゲーム理論"ベイズ戦略"を応用。その精度の高さは驚嘆に値します。しかも待ち時間の短縮だけでなく、消費電力の節減、予報はずれの防止などからも総合評価し、割当てます。FLEX-11はサービス性でも、経済性でも一歩進んだ群管理システムです。

エレベータの動き、あざやか。FLEX-11

- ■エレベータは乗場呼びに素早く応答します。長待ち発生率は大幅に減少、平均待ち時間は約20%(当社比)短縮。
- ■高精度な即時案内。
- ■省エネ運転。乗場呼びには停止回数の少ない、走行距離の短いエレベータを割当て、消費電力を節減します。
- ■テナントの入れ替わりなどによる大幅な交通需要の変動にも自動的に対応できます。プログラムを変更する必要はありません。

●群管理システム

FLEX-11

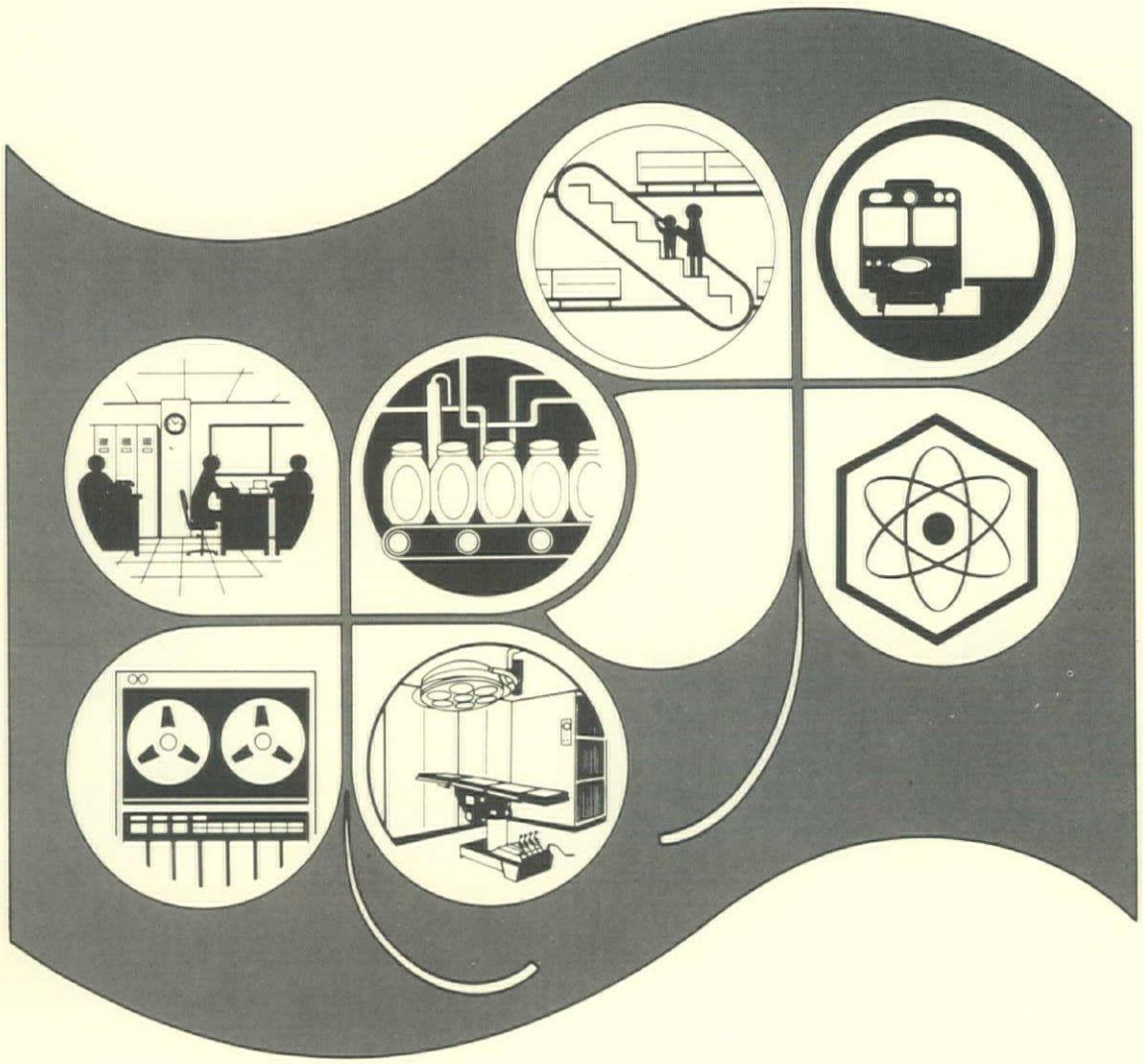
フジテック株式会社

●本社 大阪府茨木市庄1-28-10 ☎0726-22-8151

●東京 03-443-5231 ●大阪 06-441-8521 ●札幌 011-742-2241 ●金沢 0762-61-5108 ●仙台 0222-22-0271 ●京都 075-231-7144 ●高松 0878-31-0015 ●横浜 045-201-0869 ●神戸 078-391-4795 ●福岡 092-472-1591 ●名古屋 052-261-6851 ●広島 082-231-6760 ●鹿児島 0992-26-9555

MODAIR

あすの空気調和をになう



自然より清浄な環境づくり
それが東熱のねがいです

〔東熱〕がめざす「空気調和」とは、温湿度調整だけでなく、有毒ガスの除去、脱臭、除塵等、人間の生活環境、あるいは高度生産環境を作り出す総合技術です。

この開発された個々の技術を更に、総合的に発展させ、都市全体としての環境改善に寄与してゆくことに東熱としての使命感を持っております。

〔東熱〕によって開発された技術は●地域冷暖房●アイソレーター●サンシャイン計画●超高層ビル●病院●地下鉄等、あらゆる分野に生かされ都市環境の整備、浄化に貢献しております。

〔東熱〕は常に社会の要望に対応した、技術の開発をし、より清浄でより快適な生活環境を皆様に提供いたします。

東洋熱工業

本　社／〒104／東京都中央区京橋2－5－12
TEL 03（562）1351大代表
支　店／札幌・仙台・関東・新潟・横浜・名古屋・大阪・広島・九州
営業所／水戸・前橋・静岡・京都・神戸・岡山・高松

国内建築ノート
聖吾評
8508

El Nideという南海の楽園に行ってきた．　マニラから南々西に500km，パラワン島の北端にしがみつくように点在する島々は海からそそり立つ奇観を呈し，海の透明度は比類がない．　ボンベを背負って水深20mから魚群の腹を見あげていると，頭の中がからっぽになって水面をきらきら洩れ来る光の眩さのみが眼の奥に残る．　静かだ．　水の外はスコールかもしれない．　海の底までスコールは届かない．　累々と横たわる珊瑚の死と生，その繰り返しが生成の神秘と時の悠久を語り継ぐ．鮮かな色彩が沈黙に映える．　身体の中を海が滲みわたってゆく．

Tokyoはあいかわらずあわただしさと喧噪が支配している．　情報メディアの発展と知的な読者と編集のお嬢さんの熱心な電話攻勢が，かろうじて聖吾評を成立させている．

今月の宿題

「新人たちに贈る言葉」

評者＝竹山聖

風薫る五月，である．　木々の緑も輝きを増して，そうともこれが青春だ，の季節である．　（知らない人はお兄さんかお父さんに聞いてみて下さい．）

ところで青春といえば，五月は大学の新入生も社会人1年生も，なべてフレッシュマンには五月病といって，なにやら危険な季節だそうな．　そんな，ひょっとしたら迷える新人たちに，暖かい，あるいは厳しい，いずれにせよ励ましの言葉をかけてやろうというのが今回の宿題の出来心である．　建築科の，あるいは建築家の，ともあれまがりなりにも建築界の先輩たる皆さんから，新たに建築の世界にとびこもうという殊勝な心がけの後輩に向かって，発すべきメッセージとはいかようなものであろうか．　これを考えてみてもらいたいのである．

ケンチクのケの字も知らずにいきなり〈建築とはなんだ〉（青春とはなんだ，に似てるな，どーもくどいよーだが）とどやされた1年生の気持ち，あなたにも身に覚えがあるでしょーが，　ずいぶんと大上段に振りかぶって建築，建築と呪文さながら，なんやそんなタイソーなもんやろか，と思った経験があるでしょーが．　なんぼのもんじゃい，と心ひそかに反発したことも，なくはないんじゃないでしょか．たかが建築！と．　とはいえいつしか，されど建築……と心の片隅で呟いている自分自身に気がついたりして．　そんなあなただから，あえて今，新人として同じ土俵に上がらんと待機している若者たちに，言うべきことを言っておいてほしいのです．

この〈新人たちに贈る言葉〉といった類の企画はまるで目新しいものではなく，むしろ〈中一時代〉なんかだと必ず毎年決まって繰り返される春の桜といった古典的趣向であります．　ではありますが，そこはそれ，聖吾評らしく，ホロ苦く甘酢っぱい感慨をも込めながら，クールに，そしてちらりワサビなんぞも散りばめながら，建築界の新人たちに先達の重みをジワッとわからせてあげようではありませんか．　もちろんそれが天に唾する行為であることは，誰よりあなた自身が御存知のはず．　日頃建築を友として（or敵として？）心にわだかまる由無し言をこの際どっと吐き出すもよし，日々の仕事の辛さを嘆くもよし，課題の過酷を呪うもよし，夢とロマンを語るもよし．　ひとつヒネリとワサビのきいた辛口の批評を，建築界へのオリエンテーションの意味もこめて新人たちに贈ってやって下さい．　ことによるとあなたの一言が，未来の大建築家を生むかもしれない．　あるいはその一言が，建築の正体を鋭くえぐり出すかもしれない．　だから……建築良いとこ一度はおいで，酒は旨いしネーチャンはキレイダ，ワッワッ！　よろしく．　●竹山聖

●宿題解説

おそらくこの欄に文章を寄せてくれる読者諸君の多くは，評者たちとさほど年齢の開きのない人なのではないかと思う．　というのも，寄せられる文章の多くが，およそテーマを追求するといった姿勢からほど遠く，良くも悪しくもかなりズッコケた姿勢をなにやらひとりでにとってしまっているからである．　こうした姿勢をとらざるを得ぬ気分とでもいうものが，評者にはよくわかる，いやわかるような気がする．　いわば状況に対する気分の一致というやつだ．　逆にこの気分というやつが状況をつくる，という仕組もあるのである．　誰しも晴れた日にゃあ気分がいい．逆に気分がいい日は晴れなのである．　比喩的な言い方は誤解を招くのでよくないが，つまるところ気分の伝達があって，それはそれで七面倒臭いテーマの追求とは違った形でのコミュニケーションの成立を見ているのだ．そしてこの成立の契機のひとつに年齢の近さがあるのではないか，と思ったわけなのである．

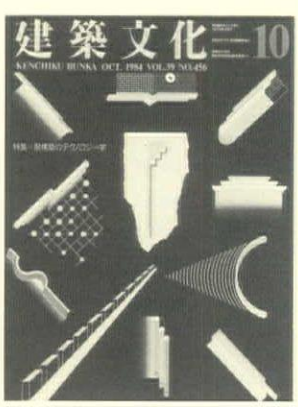
たぶん聖吾評の読者諸君に（評者をも含めてのことだが）最も欠けているのは，首尾一貫した論理構築力である．　言いかえるなら全体である．　部分のきらめきばかりで全体がない．　世界観がない．　テーマを絞って首尾一貫した論理を組み立ててゆく姿勢が微塵も見られない．　これが聖吾評の読者諸君における致命傷であり，聖吾評の致命傷であり，聖吾評が誇言を浴びる最大の原因である．　反省めされたい．　評者も反省する．

とはいえ，ここだけの話であまり大きな声では言えないが，実はこれが状況なのだ．開き直って言うならこれこそが時代の気分だ，と突っ張ってしまってもいいんじゃないかという気もするのである．　全体がない，首尾一貫性がない，主義主張がない，というのはまさにその通り，御説ごもっともと拝聴するよりないのだけれども，それがひょっとしたら時代の呼吸のリズムかもしれないぞ，とこっそり呟いてみてもいるのだ．　そこがいいとこじゃないか，と囁き合ったりもするのだ．一寸の虫にも五分の魂．　で，今んとここの五分の魂を信じてやっていくよりないんじゃないか，と思うわけなのである．　これがいわゆる局所というやつですね．　このことはくれぐれも他言無用である．　とりわけ思考の制度化の進んでいる人々に対しては，くれぐれも謙虚にふるまうように．　なにしろテーマだの価値観だのの根拠などというものが，選びとられた虚構の上に立って初めて成立す

■愛のレファレンス・コーナー

もちろん，投稿におけるレファレンス[*1]の山[*2]と呼ばれることはやぶさかでないが，それはマニアックではなく，むしろ紋切型[*3]の方が適切である．　2つともおのおの独立したものとしての性格を主としながらも，互いに侵入[*4]し合い，異化[*5]し合うことになる．　全くランダム[*6]に付けられたものであるにもかかわらず，それらは我々の目[*7]を欄外へと向けさせ，それが何であるか全く説明がなされないため，意義のあるべき書物であると思われてしまうほかない．　しかも，投稿者自身その1/10[*8]も読めていないという告白は，この場合明らかなように告白[*9]ですらない．　これまで愛の無い集団教育の只中にいたあなたがたが，愛に満ちた個人教育に向うに当たって，どう対処[*10]し得るのか．　例えば建築を学ぶための十全な手引き[*11]を求めたとして，ないことはない．　ある先生は〈名誉ある地位[*12]やお金を手に入れたかったら問題は方法だ．[*13]〉そして建築をやることはその方法を複雑にするだけだ．〉と言い，〈まちがえても研究[*14]で生きていこうと思ってはいけない．〉と付け加えた．　数々の承服しがたい言葉や理論[*15]を前にした時に肝腎なのは，そこから隠喩を引き出すのではなく，それぞれを，あなたが〈あなたとあなた〉という2重人格[*16][*17]（それは3重，4重……である）となり，1つの人格として肯定[*18]してしまうこと．　もちろん批評[*19]家になるのではなく，倫理としてたえず深さの誘惑に身をさらしながら浅さへと回帰することも付加[*20]してよい．　若い人に贈る言葉や読書案内[*21]といったものは，常にある種の過剰[*22]なサービスとならざるを得ない．　嫌いなふりをしてはいけない．

その過剰[*23]さこそ愛の本質[*24]であり，愛なしにはいかなる学習も正真の実を結ばぬ[*25]．　言葉のかたちと意味との間[*26]を〈1対1〉の頑強な対応関係が支配するところには愛は生じない．　あらゆる機会[*27]を利用して〈1対多重人格〉を体験すること．　それが，あなたの青春の特権でもある．　あなたは，自由なのかも知れない．　一時，両親から開放されて，プロメテウス・コンプレックス[*28]の解消を試みるのも許されるし，意見があるとして，この聖吾評のような遊び場で戯[*29]れるのも良い．　しかし，もちろん運動[*30]やセックス[*31]をした方がもっと楽しいに決っている．[*32]　愛は地球を救うかも知れない．[*33]　そこで大切なのは，そうした愛するもの[*34]と一緒にいて，他のことを考える．　ということであり，その時に一番よい考えが浮ぶ，かも知れない．　（かねはまとおる）



ここにもレファレンスの山がある（P.148, P.149）　新人たちよ勉強せー．

＊1　〈建築有情〉長谷川堯
＊2　〈注文の多い料理店〉宮沢賢二
＊3　〈ブヴァールとペキュッシェ〉フローベール，〈女たちよ！〉伊丹十三
＊4　〈古代研究　国文学編・民俗学編〉折口信夫
＊5　〈日本の祭〉柳田国男
＊6　〈記号論Ⅰ　Ⅱ〉U.エーコ
＊7　〈都市のイメージ〉K.リンチ
＊8　〈風の詩を聞け〉村上春樹
＊9　〈白痴・二流の人〉坂口安吾
＊10　〈建築をめざして〉ル・コルビュジエ
＊11　〈建築大辞典〉彰国社，〈ウィトルウィウス建築書〉，〈建築辞典〉ヴィオレ・ル・デュク
＊12　〈建築は兵士ではない〉鈴木博之
＊13　〈外の思考〉M.フーコー
＊14　〈アルヴァ・アアルト〉武藤章
＊15　〈建築の文脈・都市の文脈〉八束はじめ
＊16　〈I and I〉ボブ・ディラン
＊17　〈ポジシオン〉J.デリダ，〈アミナダブ〉M.ブランショ
＊18　〈共同幻想論〉吉本隆明
＊19　〈音楽が終った後に〉渋谷陽一
＊20　〈物語批判序説〉蓮實重彦
＊21　〈表現と学問の間〉原広司
＊21　〈エロティシズム〉G.バタイユ
＊23　〈霊柩車の誕生〉井上章一
＊24　〈妖星伝〉半村良
＊25　〈愛への誘惑または権利としての辞書活用法〉渡部直己
＊26　〈一般言語学講義〉F.D.ソシュール
＊27　〈建築の解体〉磯崎新
＊28　〈空間の詩学〉G.バシュラール
＊29　〈空間・時間・建築Ⅰ，Ⅱ〉S.ギーデオン
＊30　〈パターン・ランゲージ〉C.アレギザンダー
＊31　〈セクシーギャルの攻略法〉上野千鶴子
＊32　〈賢者の石〉コリン・ウィルソン
＊33　〈山の随筆〉今西錦司
＊34　〈数寄空間を求めて〉西和夫
＊35　〈快楽のテクスト〉ロラン・バルト

るものだということが，まるでわかってないか，とうに忘れてしまった人々なのだから．それにつけても心のフットワークが軽やかでありたいもんです．

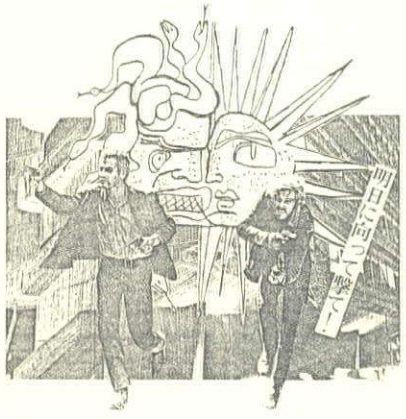
たとえば〈テーマが不在である〉とか〈価値観が多様化している〉とかいう論調の裏には，えてしてこういう響きが隠れている．
曰く，〈本来テーマは存在すべきものだ〉，あるいは〈本来価値とは普遍且つ不動に存在すべきものだ〉といった具合．　信じられないが本当だ！　そこで彼らは，〈主題の不在〉や〈価値観の多様〉をことさらに言いたてる．その口調の裏には嘆きと謗りとが隠されているのである．　もとより〈本来あるべき主題〉とか〈本来普遍たるべき価値〉なんていう思考パターンにはとてもおつきあいしかねるけれど，そうしたことがらをしつこく言いたてる神経にもイイ加減ついてゆけないのが本心ですね．　ただ，表向きはつきあってゆかねばならない，ついてゆかねばならない，ここに聖吾評の読者諸君の論調の甘さとやさしさとがあり，ひいては聖吾評の辛さがある．　いやしくも評論たるもの，論理をもたずしてどうなる！　全体をもたずしてどうなる!!　首尾一貫性をもたずしてどうなる!!!　悩みは深まるばかりなのである．

雑誌を例にとってみよう．　雑誌は毎回テーマをたてて，そのテーマの下に材料を収集し，吟味し，配列する．　いわば古典的方法論であって，これは誤解のないよう言い添えるなら，実に有意味な方法なのである．
およそ本格的な雑誌たるもの，テーマもなしに場当り勝負をしてよいはずがない．　ただし昨今の売れ筋は，Focus, Friday, Emmaをはじめとする断片つぎはぎ雑誌，POPEYE, ホットドック・プレスに代表されるカタログ雑誌，シティロード等の情報誌であって，本格派は下火である．　これはまことに憂うべき事態であるが，現実は現実．　ついでに言えば〈これぞテーマ〉というやつと，〈とりあえずこれがテーマだけどまあどーでもいいけどね〉，というやつとは，後者の方が受けがいい．　他人事のような書き方はよくないな，はっきり言って〈これぞ――〉というのを冗談抜きで言える人種ないし雑誌はピンとこない

■明日に向って撃て!

映画《明日に向って撃て[*1]》御存知？FRESH（アウトローor個性）vs. OLD（権力or管理）の戦いがステキなシネマでR. 〔éniwei〕,〈明日・向う・撃つ〉（>ノム・ウツ・カウ）のFRESHなサウンド，今回のタイトルに㊗CAN・CAN. この種のもので感動シナイ・デキナイ者HOLD UP，君は㊙の捕虜[*2]であり予備軍ナノダ. OLDな精神，キン肉マンに宿らない. イカなるFRESHの範疇にも属せない哀れな⇄幸せな人種よ，君達に贈る言葉はナイ! 諸君には朝食にカロリーメイトをRECOMEND.

徹夜明けのモーニング・ドンブリメシと生タマゴが大好物のFRESHな同胞よ，TAKE UP YOUR OWN ARMS! 建築シタイ者[*3]，ン万人，やらなきゃやられるこの世界，まず精神時系列のFRESHという認識を改めよ. 対OLD FRESH包囲陣，そこに戦いの突破口はない. 未熟，素朴，純粋，無垢…大いに結構，結構毛ダラケ猫灰ダラケ尻ノ回リハ青アザダラケ. 実績，期限，詳細，法規，経済性etc.，キャリア実弾雨霰，情ハ無用之介，Ah! Johnny Got His Gun.[*4] 死んだはずだよおTOMYさん，ヤらればなしじゃ，Bonnie and Clyde[*5]よ. 能ある烏[カラス]は武器を隠さず. 3ヶ月待つのだぞ，即席ARMで反撃せよ. インスタントでもいい，腕白ニ憤[イキドオ]レヨ，ン？ 本日出血大サービス，武器の紹介TAKE OUT. サア，サア，ATTEND. 日本刀は早すぎる. 聖吾評でお馴染A. ASADA Co. Ltd.の七色光線役タタズ. 安忠印の棍棒は原始的. ボス・モダなんて水鉄砲. 核爆弾，GREAT MASTER以外保有不可ナリ. 誇大広告ハJARO・JARO. THEN,『建銃』が先達のオススメLunch Time. 密造建銃熱烈歓迎.〈思い込み〉弾頭に一人の建築家or一コの建築or一ツの理論PACKして，エネルギー火薬でブッパナセ. 世間ではこれを無鉄砲ともいうらC. HERE，注意一秒怪我一生. 撃つまえに一声かけて，呪文[ノロイ]かけて. 『FRESHはアポロ，OLDはメデュサ. FRESHはラシャナルGOD，OLDはディオニソス的CREATURE. FRESHは明日，OLDは現在. 合体セヨ二重肖像[*6]. Omen[*7]』READY，君もコルブ13，狙ったGAMEは逃がさない，がんばれ! Bears[*8]. ミスってもドンマイ，白旗あげて横断しようThe Longest Yard.[*9] 後は知らない，君らはGREEN. FIRE! FIRE! FIRE! （桂利空）



作品No.13「新人たちに贈るCOPY」 by Riku Katsura

＊1 〈Butch Cassidy and Sundance Kid〉
1969, Dire : George Roy Hill.
＊2 SD 8503 聖吾評参照.
＊3 給料ホシイの反意語. 建物シタイとも異なる.
＊4 邦題〈ジョニーは戦場へ行った〉
1971, Dire : Dalton Trumbo
＊5 邦題〈俺たちに明日はない〉1967, Dire. : Arthur Penn
＊6 LE CORBUSIER And The Tragic View of Architecture C.4を参照. by Charles Jencks.
＊7 〈The Omen〉1976, Dire. : Richard Donner
＊8 〈The Bad News Bears〉1976, Dire. : Michael Richie
＊9 邦題〈ロンゲスト・ヤード〉(The Mean Machine)
1974, Dire. : Robert Aldrich

だけなのだ. そーゆー輩に限って酒飲むとからむんだよね，あ，反省，もって他山の石とすべし，でした.

とはいうものの，だ. あんまり開き直ってズッコケられると，どーもズッコケの必然性を疑う部分も出てくるのである. ここはやはり，とりあえず首尾一貫したテーマを追求しつつ論理を構築する姿勢[ポーズ]をとってみせるのも一興ではあるまいか. あまり皆が皆，レトリック混ぜ御飯だと，消化に悪いということもある. 聖吾評に選ばれるには言葉の綾のみで勝負，などという，選者の気分を見透かしたような噂も耳にする. 本当は，評者は本格派の速球投手が好きなのである. 論理は論理で筋を通してほしいのである. ただし先述の理由から，ここに神聖なる悪意がこめられるはずだ. でないと思考のパターンに足をすくわれてしまう. 元も子もなくなってしまう. やはり心すべきは呼吸である. 肺活量に見合った文章というのがあるのである. ついでに言えば胸から，あるいは腹から，息を吐かないと伝わるものも伝わらない. 鼻息だけでは建築も人生も語れない，と評者は思う. 全体への稀求をこめた部分のきらめきであってほしい，と願うのである.

え，さて，そういうわけだからして，今回もあいかわらずテーマなんぞ霧散しがちな聖吾評だが，とりあえずは〈新人たちに贈る言葉〉ということであった. ひとつひとつ見ていこう.

まず，**かねはまとおる**君の作品. さながら新入生のための読書案内の観もあって，レファレンスの山はそれなりに圧巻である. 註の蓋然性と必然性との絡み合いも気分として理解できる. ただ，かねはま君のいつもの癖なのだが，最後で腰くだけとなるのである. 今回も例に洩れない. 評者ならばこの最後を，〈他のことを考える〉でなく，〈他のことを一切考えない〉に，〈よい考え〉を〈よくない考え〉にしただろう. 冒頭からのアイロニカルな調子が保存されるし，なにより同じことを言っても反語表現は意味の広がり方が違うからである. 最後の〈かも知れない〉も全体の調子を弱めている. 性格の甘

■毒にも薬にもならないある座談会

司会「今日は特別企画といたしまして〈新人たちに贈る言葉〉と題し，現在建築界で御活躍中の，俗世間ではどなたがポストモダンの主導権をにぎるのかなどという話題の中心的存在である３人の先生方に集まっていただき座談会をおおくりいたします．」

Ⓐ「では私からいかせていただきます．　今ポストモダンの…という司会者の紹介がありましたけれども，それはぼくにいわせればちょっと異なった意味での」

Ⓑ「また理屈っぽくなっていけないですね．　そういうことは関係なくてとにかく今は建てた方が勝ちなんです．　形などというものはね，スケールをちょっと違えれば，やっぱり大きい方が目立つし」

Ⓐ「ちょちょっといいですか．　今かなりストレートな言葉で貴方の位置を説明していただけたような気がするんですけれども，建築がアートとして自立していく過程において，ぼくは，〈引用と暗喩の建築〉なんていってみたわけですけれども，どうもそれが誤解されちゃって最近じゃ〈乱用と直喩の建築〉ばかり（笑い）…巷にふえているような気がするんですけどね．」

Ⓒ「私には，御２人のおっしゃる深い意味での建築におけるレゾン・デ・トールについてはあまり関心がないのですが，これからの都市においては，やはりコンテクスチュアリスムというのは，それを抜きにしては語りえ」

司会「あっ，すみません．　大変興味深いお話のところ，大変失礼ではありますが，一応今日のテーマがきまっておりまして　その」

Ⓐ「新人なんてどこにいるんですか（爆笑）これは冗談ですけれども，やっぱりこれからの人たちはいろんな意味で大変なんじゃないのかな．　建てる機会はどんどんすくなくなっているしね．」

Ⓒ「私は，５年後に再び〈野武士たち〉を批評させていただきたいと思っています．　（笑）」

Ⓑ「なんのことですか．　それは．　とにかく今の若い人たちに望みたいのは，まず母国の歴史に目をむけることが大切だと思いますね．　巨大建築にかかわってはいても，例えば茶室なんかにも挑戦してみるとかね．」

Ⓐ「……」

Ⓒ「……」　FADE OUT

（1985年某月某日某出版社にて収録）（Mr.ポストモダン）



❶〈建築のパフォーマンス〉磯崎新編著 パルコ出版

ワッカルカナー

■問題状況

昔[*1]，居合い抜きの名人が２人おりました[*2]．　両雄並び立つのはよろしくない，と考えた殿様，２人の優劣を決めることにしました[*3]．　とはいえ，果し合いでどちらかを殺すのは忍びない．　しかし，２人が同時に抜いたのでは優劣はわかりません[*4]．

樽に蓋をして，その中で抜かせることにしました．蓋がしてあると刀を鞘から抜き去ることはできません[*4][*5]．

名人Ａが，樽に入り蓋が閉められます．　裂ばくの気合がかかって[*6]，パッと蓋が開けられます[*7]．　見事に刀は抜かれています．　「待たれい，お願申す，今一度試みられよ」と名人Ｂ，名人Ａは，もう一度樽に入り蓋が閉められます．　気合いがかかり，係りの者が蓋を開けようとします．　「待たれい，ソロソロと開けられよ」と名人Ｂ．　蓋がゆっくりと開けられます[*7]．　刀は鞘に納ったままです．　「お見事」と名人Ｂ[*8]，一同何のことがよく分かりません．　「では，拙者が」名人Ｂが樽の中に入ります．　蓋が閉められ，気合いがかかります．　蓋がゆっくりと開けられ，見事に刀は抜かれています．

「見事である」とこれは殿様[*9]．　「お待ち下され」と，樽から出て来た名人Ｂ「まことの名人上手はＡ殿でござる．　拙者にはあれはできませぬ[*10]」これではしょうがありません，「あい分った，共に名人上手，苦労であった」と殿さま．　これで抜き競べは終りです．　帰りがけ，名人Ａが聞きます．名人Ｂの答え，「貴殿は蓋の開く折に，音も無く抜かれたが．　拙者は初めから抜いておった[*11]」２人は笑って別れました．　（系庵主人）

さは，ほのかに感じとらせるものであってもさらけ出すものではない，かも知れない．（ほら，甘いでしょ？）

次に**桂利空**君．　あいかわらず才気走ったテクニシャンぶりは他の追随を許さない．とはいうものの，新人たちにコミュニケート可能とは思えないので（評者は面白かったけどね），これは新人を話の枕にした旧人たちの自己確認の作品と見なすのが妥当だろう．　ただしFRESHなButchCassidy（ポール・ニューマン）とSundance Kid（ロバート・レッドフォード）も最後にはFIRE！[3]になっちまうんだから，かつて元気だった新人たちの鎮魂の言葉と読むことも，あるいは可能なのである．白旗は降参，GREENはGOということもある．いわば玉砕の勧め，と見たが如何？

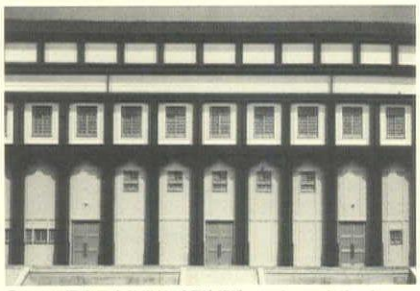
次なる２題は少々趣向のこらされた作品．まずは**Mr.ポストモダン**君．　座談会の趣向は珍しいものではなく，中味もとりわけどうということはないが，それぞれの発言が然りなるほどであり，全体にうまく落ちていることがまずは賞讃される．　ただ，殺し文句は一言，〈新人なんてどこにいるんですか（爆笑）〉これである．　（爆笑）を付したセンスに脱帽したい．　ここでは新人を，建築家としてある地位を確保し，そこから上位の者を脅かしうる存在，と規定しているところがミソである．　どんな世界も新人が輩出する時期と円熟に向かう時期とが交互に訪れるのであって，この仮空座談会の出席想定建築家たちが元気なうちはあとの世代が辛いなあ，という気分が伝わってくるようだ．　新人をこうした意味にとらえた応募作も数多く見られたのは，少し意外であった．　自己を客観化，あるいは相対化しうる林真理子的視線は，なかなか持ち得るものではない．　あっぱれというべきか．

いまひとつは寓話の体裁をとっている，**系庵主人**君の作である．　彼もまた，なかなかにアイロニカルな視線の持ち主である．つまり名人の世界というもののはかなさとバカバカしさと面白さとを垣間見せること（殿様にも一同にも見えないが，読者たるわれわれは垣間見ることができる）によって，建築界の構図をほのめかし，もって新人諸君の教

■Moratorium——ピッカピッカの1年生に

㊧入選

❶新建築8506，建築文化8506，SD8503



❷盈進学園東野高等学校／環境構造センター　クリストファー・アレギザンダー

時間は流れねばなりません。　＊7　＊8参照

＊1　時代は気にしないこと。
＊2　友達の友達は友達で，2人が3人，3人が4人ということにしておきましょう。
＊3　西欧的発想ですね。
＊4　ダブルバインドです。　近代的ですな。
＊5　この公案をどう解くか，禅の世界です。　ポストモダンに出口があるとか無いというのもこのパターンです。
＊6　これが記号になります。　名人の行為を示すはずの記号，動作は周りの人間に見えていません。
＊7　ここでは確認のやり方が，結果を左右したことに注意しましょう。　建築でもそういう場合があります。
＊8　賞讃が抜かない今でなく，抜いた前回に対するものであることに注意。　時間は流れたのです。
＊9　人を驚かすのは仕掛のある事実の結果です。
＊10　これをやっておかないと闇打ちに遭うかも知れません。これが日本の現実です，というのは冗談です。
＊11　ちょっとした思いつきですが，やっちまうところがすごい。　ばかにしないことです。

4年前大学に入る時，なぜ建築学科を選んだのか，今でははっきりとは覚えていない。　当時やたら思い入れが大きくて，今思い出しただけで気恥かしくなるような理由だったような気がする。　それが課題やら雑事に追われ，今や4年前に想像していた姿はどこにもない。　何も知らなかったからこそ，あんなのーてんきなことを平気で考えていられたのだろう。　大学の専門教育を受け始めると，できること，できないことの分別がだんだんとついてくる。　そして親切な先輩も追討ちをかけるようにいろいろなことをそっと教えてくれる。　アルバイトをして，設計事務所の実体を知るという貴重な体験もしていたりする。

かくして，純情な少年のつくった砂の城は世間の荒波の前に脆くも崩れ去る。

しかし，人間もおもしろいもので，新しい知識や経験が増えるほど，同じ建築の内でも興味の方向がぐるぐる変わったりする。　こうなってみると，初めの思いこみなど大したものではないようである。　しかし人によっては初めの思いこみが最後まで持続する人もいる。　ちなみに僕はこのタイプではなかった。　どちらがいい，悪いではなくて，個人個人違うものなのだろうと思う。

大学という場はこんな風に進路を見極めるのには最適なところ，などと言えば叱られるか？　建築とは全く別のことに熱中していたりして（実はこっちの方がメインになっていたりする），ふと又，建築に目を向けてみると全く別の見方をしていたりする。　気がつかないうちに，自分の進むべき方向がわかったような気になっている。

〈東芝ビデオ ビュースター〉ポスターより



少なくとも自分にとっては，こんな風に変わって良かったのではないかと思っている。　たぶんこの結論が出るのは十数年先のことだろう。　しかしきっといい結論が出るに違いないと思っている。4年前思っていたように。　僕は今，大学4年。来年は再び新人となる。（AK！）

訓としよう，との企みと見た。　要は気合と行為とは別々で，はたまた賞讃はさらに異なる位相にある，という基本的な骨組の上に，コノテーションの豊かな寓話を築き上げたのである。　コノテーションの豊かさとその方向性の誘導には註が預って力があり，むしろ逆に，本文を註の註として読むくらいで丁度いい。　気合を理論，行為を実作，賞讃を批評などと読み換えると想像力の萎縮をもたらす。　蛇足というべきであろう。

今月の入選は，誰あろうＡＫ！君である。ごらんの通りの文章である。　たどたどしく，言葉すら覚束ないように見える。　ただ〈新人たちに贈る言葉〉とし，素直に，正直に，心の内を語ろうとしたのはこの一編のみだった。　聖吾評は，意外とこういうのに弱いのである。　カーブ，シュートはおろか，スライダー，シンカー，パームボール，フォークボールばかり相手にしていると，こういうゆっくりとしたストレートについ手が出せない。決して薬師丸ひろ子の写真に魅かれたわけではない。　断じてない。　きっとない。　たぶんない。　いや，ちょっとはなくもない……かもしれないが，やはりこういう素朴な文章を読んで，少しホッカリした気分になったのである。　舌足らずで下手くそな文章が，技巧派の周囲から，悪意と皮肉と虚無に満ちた周囲から，きわだっていたのである。　ひとかけらの純情は，誰の胸にもあるのである。味わって下さい。

ところで今回から入選，佳作に次いでハミダシという賞が設けられます。　詳しくは後の宿題頁を参照のこと。　なんと2回も入選を果たしていた**カッサンドラ**君が今月はハミダシ。　かつての言葉の輝きがやや失せたよーに感じられた。　考えてみりゃカッサンドラ君はそもそも特待生第1号に輝く資格をすでにして備えているわけだ。　こんな形で伝えざるをえないのはまことにもって残念。

次を期待である。　その他ハミダシの諸君は，以下の如く。　**新人・黒川しゅうじ**君，**今村有策**君，**しんちゃん**。　いま一歩及ばず，といったところであった。

＊ 都市住宅8507 P.39

〈国内建築ノート・聖吾評〉原稿募集のお知らせ

■応募規定

応募の資格　とくになし

提出物　本文（1,000字以内），本文の内容に即した写真・図・そのコメント．　本文は原稿用紙に清書のこと．　写真・図は現物またはコピーとし最大Ａ４判程度．　また，出典（掲載誌名，掲載年月）を明記のこと．
応募原稿には，本名・職業・年令を明記のこと（ペンネーム希望者も同様）．

送り先　〒107　東京都港区赤坂６－５－13
鹿島出版会ＳＤ編集部聖吾評係

提出物の返却　提出物はいっさい返却いたしません．

問合わせ　宿題に関する問合わせは御遠慮下さい．

御礼の規定が少し変わります．
イッチョ応募してみようかという意欲・やりがい・闘争心をより高める為に，応募作は次のように層別されます．

入選：入選された方にはSD半年分（採用号以降）を差し上げます．

佳作：佳作の方には，SD２か月分（採用号以降）を差し上げます．

ハミダシ：ハミダシの方は，名前のみSDに掲載し，SD１カ月分（採用号）を差し上げます．　（ハミダシに選ばれるのはわりと簡単です．　どんどん応募してSDを手に入れて下さい．）

特待生：SDを通算して１年分以上手に入れた方は特待生に任命されます．　（すなわち入選２回すれば特待生ですし佳作６回でも特待生です．　ただハミダシは計算の対象にはなりません．）

1985年10月号・宿題

「磯崎新にラヴ・コールを送ろう」

締切＝８月13日（当日消印有効）

磯崎新はスーパースターである．
これほどまでに自身の作品について語りながら，その実，本当には何ひとつ語ってこなかった建築家はなかった．　実作と言説とのズレが，誰もを魅了した．
ところが最近の作品からは，この身体を引っ掻くズレが薄れてきた．　実作と語りとがきわめて接近してきて，精神と肉体の運動に根ざしたオリジナリティーから，本当の知的ソフィスティケーションへと移ってきてしまった．　作品の晴れやかさは冴えわたってきたにしても，物体の持つ力が言葉を裏切り，それをまた言葉が裏切る，という幾重ものヴェールを引っぺがしてもどうしても行きつけないような，そんな不透明かつ不可視の魅力が薄れてきている．
どうもそんな気がするのである．
磯崎新は疲れてしまったのだろうか．　日本の建築の知的レベルを一身に背負ってきたがために，心身の衰えが出たのだろうか．　まだまだヘバってもらっては困るのである．　もっともっとぐんぐん先を走ってもらいたいのである．　磯崎の一挙手一投足を見つめ続けるファンにとって，たとえ打率が３割を切っても，ホームランが20本を切っても，磯崎の存在自体が生きる活力なのだ．
とはいえ，磯崎が切り拓いた地平で，いかに多くの追従者が討ち死にしていったか．　磯崎がその存在を隠蔽した地平で，いかに多くの棲息者が歯噛みしたか．　思えば長嶋の天才のみがベースぎわのゴロを逆手でなく順手でさばいて矢のような送球を可能にしたのであり，あの野性のカンのみがクソボールをホームランし，泳いだフォームで三遊間を抜くのである．　白鳥の中には水面下で足をバタつかせなくても優雅に進む者がいるのだ．　長嶋や白鳥の存在は，どれほど同じく三塁を守る者を不幸にし，地道に打撃フォームを磨いてきた者をバカを見た気にさせ，水面下で必死に足をかく白鳥たちを歯ぎしりさせたろうか．
そこで磯崎は，長嶋は，白鳥は，自分たちだって一生懸命お勉強をし，練習をして，汗もかくし努力もしているのだ，というポーズを演出せざるをえなくなる．　そのうちに本当にお勉強だの練習だのをし始めたりもして，そこで凡庸なる人々はホッと胸をなでおろしつつ，つまらなくなった，などとホザくのである．
長嶋は引退し，白鳥は姿を見せない．　しかしわれらが磯崎はもっと果敢奔放に頑張ってほしい．　日本の建築の知的レベルを背負わざるをえなかったのは，なにもあなたのせいじゃない．　まわりのレベルが低すぎたのだ．　そろそろそんな使命感は脱ぎ捨てて，また自由奔放めちゃめちゃラジカルな作品を世に問うてほしい．　まわりの期待は，本人の感じとはえてしてズレているものなのだから．
手法だ引用だ暗喩だ解体だとシュプレヒコールをあげながら，それらをクソ真面目にとって一生懸命浮き身をやつす輩の傍を，涼しい顔してスイスイと追い抜く姿の頼もしさ．　自分の言葉なんかに呪縛されちゃあだめじゃないか，とここに僭越至極，無礼千万，傲岸不遜，無知蒙昧を承知で，聖吾評は磯崎新にラヴ・コールを送るものである．　この趣旨に御賛同の方，あるいはまた異議のある方はこぞって応募下さい．　待ってます．　●竹山聖

1985年11月号・宿題

「あなたはどのプレハブ住宅に住みたいですか」

締切＝９月９日（当日消印有効）

プレハブ住宅というのはもうはやらない．　もう少し正確な言い方をすれば，生産技術としてのプレハブがはやらないのである．　プレハブ住宅の生産技術は，青く，危なかっしく，みずみずしいその青春時代―SALADA DAYSをとうのむかしに通りすぎてしまった．　かつての青年はいつのまにやら酸いも甘いも知りつくし，渋く，落ちつきはらった「おとなの技術」になってしまった．　住宅産業の成熟技術化という現象である．　なにもこれをせめるというのではない．　人が年をとるのを止めることができないように，技術も年をとり，それをとめることは何人たりともできないのである．　かつて東大の内田研はプレハブ技術のメッカであり，セキスイハイムのうみの親である大野勝彦をはじめとする工業化住宅の研究者，技術者をうみ出した．　しかしプレハブ界の一大イベントであったハウス55のプロジェクトをさかいとして，内田研の研究テーマは在来構法の見直しへとシフトしていった．　プレハブはすでにアカデミッシャン，アカデミックエンジニア達の手を離れたのである．
かといって，これはプレハブ住宅，工業化住宅が，建築界の外の出来事になったわけでは少しもない．　弱小設計事務所の経営基盤は，悲しいかなローコスト小住宅の設計である．　ローコスト小住宅の分野で，建築家の最大のコンペティターは工業化住宅である．　〈いやあっ，やっぱし○○ホームに決めちゃいましたよ．　先生にはインテリアのことでいろいろまた相談にのっていただけたらと思ってるんですけど〉　技術の横ならび化は，プレハブメーカーを新たなるテーマ〈様式〉へと向かわせた．　〈様式〉で武装したプレハブメーカーは，建築家にとっていよいよ手ごわいコンペティターとなったのである．　青二才の書生建築家などひとたまりもない，こわい〈おとな〉へといつのまにやら変身していったのである．　おおこわ！というところである．
まさに〈由々しき大問題〉である．
〈由々しき大問題〉を扱うにしては，今回のタイトルは軽い．　本来だったら〈建築家は工業化住宅に対抗できるか〉とか〈工業化住宅にどんな可能性があるか〉といった，鋭利な切れ味をもったタイトルがくるべきかもしれないが，ここはぐっととぼけて，問題をひとひねりしてみる．　そのひねりが，この欄のスタイルである．　軽きスタイルを借りながらいかに長い射程をもちえるか．　応募諸子の技術がとわれている．　工業化住宅のメーカーサイドからの，寄稿があったりしたら，すごくもりあがるのではないかとも期待する．　〈うちのメーカーの○○シリーズが本当におすすめデッセ〉という論がでてきたら，脱帽である．　●隈研吾

<都市住宅>1985年7月号　定価1,200円

特集｜パートナーシップの可能性

アモルフ&ワークショップ

●

座談会：

新たなる建築家像を索めて―パートナーシップの地平――[AMORPHE]小林克弘・竹山聖・榎本弘之＋[WORKSHOP]北山恒・木下道郎・谷内田章夫

文：

隈研吾，野口昌夫，三宅理一，吉田研介，今川憲英

●

[AMORPHE]アモルフ・ステートメント，アモルフ・ストーリー，アモルフ・ステージ'85，アモルフ・ストック'79―'85

作品：高尾の歯科医院＋住宅，古河の歯科医院＋住宅，目白の住宅，Fプロジェクト，Uプロジェクト，Iプロジェクト，Wプロジェクト，他

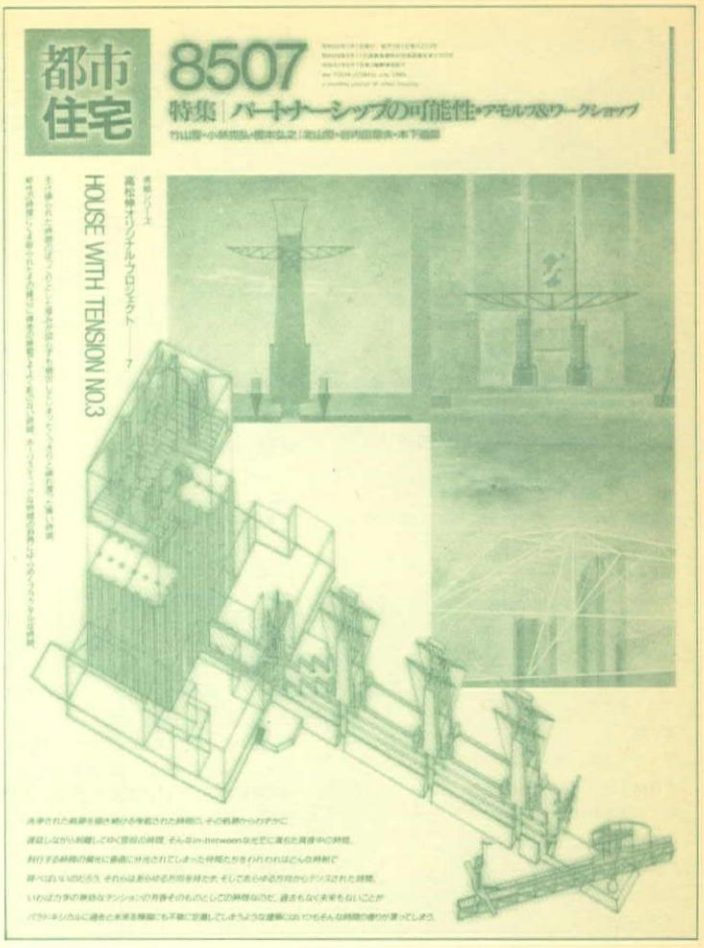
●

[WORKSHOP]年代記1968―85，3×3―9つの住宅による9つのストーリー――合成・ハイブリッドまたは分裂症症候群，格子，透過する構造体，気まぐれ，重層，浮遊する段板，繰り返し，シフトする空間，テクスチュア――，ESA report，商業空間へのアプローチ，集合住宅ノート

作品：玉川学園の家

■

表紙シリーズ：高松伸オリジナル・プロジェクト7――HOUSE WITH TENSION NO. 3



<都市住宅>1985年8月号　定価1,200円

特集｜街並の設計手法

戸建住宅地の場合：宮脇檀建築研究室

●

インタビュー：[個]から発想して[街並]をつくる――宮脇檀

作品：高幡鹿島台ガーデン54　九州の家プロジェクト

戸建住宅の街並・設計マニュアル―5つのハードと1つのソフト

1.造成計画―道は狭いほど親密感が出る　他　2.施設計画―ひとつの大公園より小公園の分散を　他　3.外構計画―統一―外構は美しさを生む　他　4.宅地内計画―自然発生するものを誘導する　他　5.建物計画―建物の変化は楽しさを生む　他　6.管理計画―住民も参加しなければ街は育たない

●

今月の住宅：

スピニング・ハウス――設計｜石井和紘建築研究所

鎌倉のアトリエ――設計｜小川守之建築・設計事務所

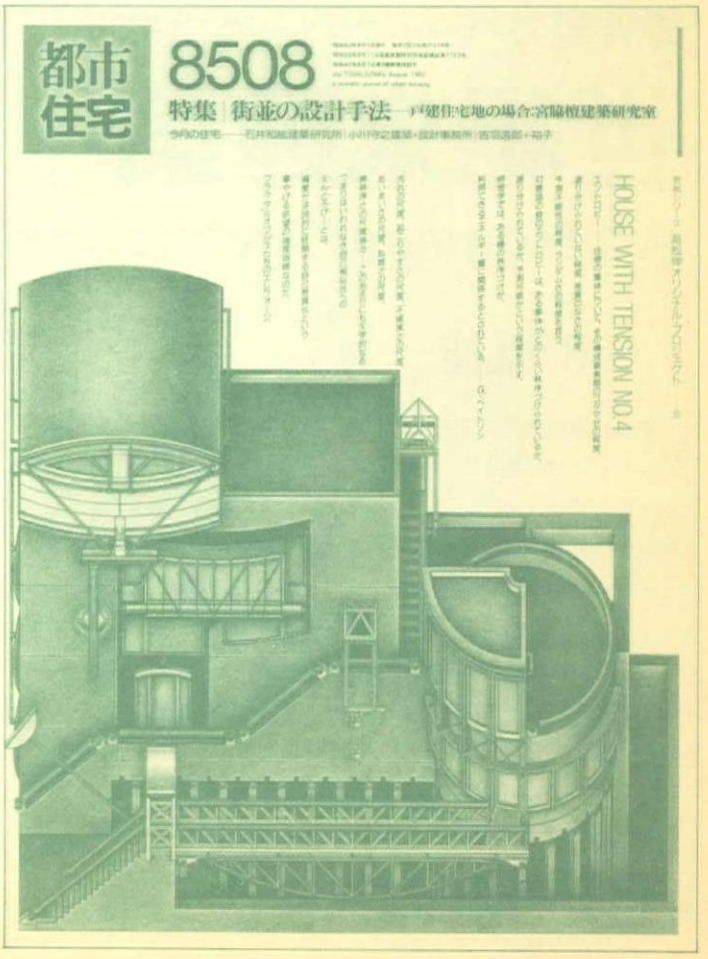
吉羽邸＋アトリエ――設計｜吉羽逸郎＋裕子：アイエフ建築研究所

●

シアトルの浮家――鈴木信宏

■

表紙シリーズ：高松伸オリジナル・プロジェクト8――HOUSE WITH TENSION NO.4



SD

バックナンバー

8501—8506

SDバックナンバー常備店
●東京
中央区　八重州ブックセンター03(281)1811
千代田区　三省堂本店(神田) 03(233)3314
　　書泉ブックマート 03(294)0011
新宿区　紀伊国屋本店 03(354)0131
渋谷区　大盛堂書店 03(463)0511
豊島区　西武百貨店ブックセンター03(981)0111
●札幌
旭屋書店 011(241)3007
●横浜
有隣堂本店 045(261)1231
●大阪
北区　旭屋書店本店 06(313)1191
西区　柳々堂 06(443)0167
●京都
駸々堂京宝店 075(223)1003
大龍堂書店 075(231)3036
●大学生協内書店
東北工業大学
早稲田大学理工学部
法政大学理工学部
関東学院大学

8501

ハイテック・スタイル
論文：難波和彦，杉村憲司，岡部憲明
人物研究：C.イームズ，P.シャロー，J.プルーヴェ，池辺陽，N.フォスター，O.アロプ，F.オットー，B.フラー
作品：R．ピアノ，ABK，アロプ・アソシエイツ，T．ファレル，N．グリムショウ，J．ヌーヴェル，R．アースキン，F.O.ゲーリー，他
ハイテック論：伊東豊雄，押野見邦英，黒川哲郎，小西敏正，小宮山昭，高橋公子，中込清，野沢正光，松永安光，村田豊，葉祥栄
ハイテック辞典
特別定価＝2800円

8502

ポスト・モダンのフランス建築
論文：A．エメリ，進来玄，三宅理一，松浦寿夫
建築家：H.シリアニ，J.P.ビュフィ，Y.リオン，アルシステュディオ，R．スピッツ，J.P.ワテル，F．モンテス，B．ボール，ケトフ&プティ，C．ドヴィレー，C．ヴァスコーニ，H．パゴ，プリュネル&ロボネン，P．ベルジェー，M.N.ヤノヴスキー，J.ヌーヴェル，ベショー&ブルジョア，ガルースト&ボネッティ，キャナル，P．スタルク，S．ケトフ，F．セニュール，P.L.ファローチ
定価＝1500円

8503

グローバル・アール・デコ
対談：山口昌男×松永安光
論文：松永安光，小林克弘
ロサンゼルス　文：松永安光
マイアミ　文：松永安光
ニース　文：石上申八郎
パリ　文：柴田いづみ
モスクワ　文：三宅理一
ロンドン　文：下村純一
上海　文：村松伸，山口幸夫
東京　文：松山巖
C．アレギザンダー：**盈進学園計画**
文：H．ナイス
特別定価＝1800円

8504

長谷川逸子
インタヴュー：長谷川逸子
論文：長谷川逸子，鈴木博之，八束はじめ，多木浩二，菊池誠，松永安光
作品：BYハウス，小山の住宅，作品M，NCハウス，池袋の住宅，金沢文庫の住宅，伊丹の住宅，眉山ホール，焼津の住宅1，鴨居の住宅，緑ヶ丘の住宅，柿生の住宅，焼津の住宅2，焼津の住宅3，焼津の文房具屋，徳丸小児科，松山・桑原の住宅，AONOビル
特別定価＝2800円

8505

アドルフォ・ナタリーニの建築
1979—83
論文：A．ナタリーニ，磯崎新，他
作品：アルツァーテ・ブリアンツァの銀行，ゾラ・プレドーサのコンピューター・センター，イェルサレムの〈嘆きの壁〉周辺地区計画，他
大橋晃朗
——家具ゲーム，文化ゲーム
インタヴュー：大橋晃朗
作品：ハンナン・チェア，フロッグ・チェア，ボード・テーブル#3，他
ザハ・ハディドのプロジェクト
[科学万博つくば'85]をめぐって
定価＝1500円

8506

モロッコ，スペイン，ポルトガル
〈いえ〉と〈まち〉調査紀行
論文：鈴木成文，小川信子，畑聰一，服部岑生
モロッコ：クサール，メディナ，スーク，ベルベル人の住宅，他
スペイン：チンチョン，モンテフリオ，セテニール，カサレス，グァディス，他
ポルトガル：アルファマ，ナザレ，他
文：曾田忠宏，長沢悟，斉木崇人，初見学，笠島泰，林章，植松貞夫，峯成子，曾根陽子，畑聰一
建築家によるテーブルウェア
P.A.キング&S.ミランダの最新作
定価＝1500円

●待望のハードカバー装出来！

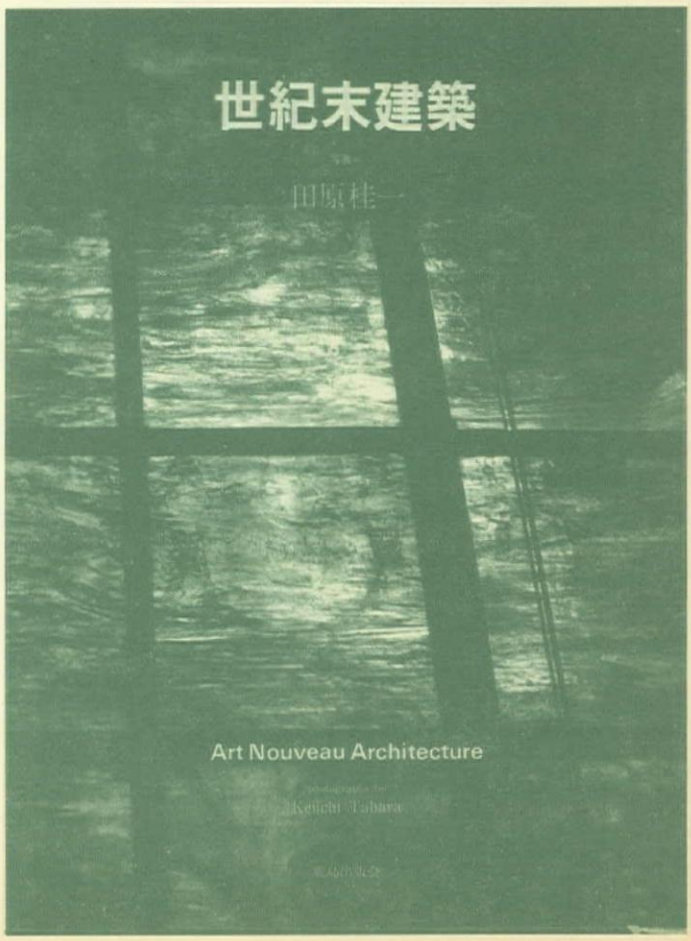
世紀末建築
Art Nouveau Architecture

写真＝田原桂一

本年度の木村伊兵衛賞を受賞した，今，最も注目される写真家
田原桂一の眼が捉えた，妖美なる光と影の世紀末建築．　その写真集！
ガウディ，オルタ，ギマール，ヴァークナー，ロース，マッキントッシュ，……．
微かな，あるいは充溢する光の下に繰り広げられる，
ヨーロッパの世紀末建築の精華．　その形と空間！

●PART 1——スペイン，フランス，ベルギー
●PART 2——イタリア，トルコ，ハンガリー，ロシア，ルーマニア，他．
●PART 3——スイス，ドイツ，オーストリア，オランダ，イギリス，他．
A4判変型　116頁
SD8407の上製・保存本．　定価＝3000円

絶賛発売中！



SD 7月号好評発売中！

特集＝

Edward Larrabee Barnes
エドワード・ララビー・バーンズ

転変するデザインの潮流に身を委ねず，飽くまでもシンプルで
プライマリーな形態を追求し続けるエド・バーンズ．
その珠玉の作品を一堂に公開．　そこに私達は，
モダニズムの最良の質が現代に脈打つ姿を見ることができる．

インタヴュー＝エドワード・ララビー・バーンズ　文＝堀内正弘
作品＝ダラス美術館，スケイフ・ギャラリー，ワットレー邸，
ヘイスタック林間工芸学校，IBMワールド・トレード本部，
IBMタワー，ボードゥン・カレッジ視覚芸術センター，シカゴ植物園，他

●倉俣史郎の新作家具
●NICE SPACE：バリ島のプラ・バトゥール，インドネシア
●イタリア・デザイン界に台頭する第三世代：マルコ・ザニーニ
特別定価＝2000円



SD 9月号予告

特集＝

Swedish Grace
現代スウェーデン・デザイン
——花瓶から戦闘機まで

ボルボ，サーブ，ハッセルブラッド，コスタ・ボーダ，
ブルーノ・マットソン，アストリッド・サンペなど，
北欧の美しい自然とスカンジナヴィアの誇る工業力が生んだ
スウェーデン・デザインのすべてを現地スウェーデンに直接取材．
国会議事堂，ボルボ本社棟のインテリアを含めて，
デザイナーの素顔とともに紹介．
海外現地取材シリーズ第2弾．

インタヴュー＝川上玲子
文＝今井一夫，宗幸彦，堀田明裕
作品＝テキスタイル，家具，テーブルウェア，身体障害者用器具，
工業デザイン，インテリア，他．



ボルボ780


身体障害者用のテーブルウェア／エルゴノミ・デザイン

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

SD 選書

■今日の造形文化に関心のあるすべての人びとにおくる，新しいタイプの選書 ■現代文明のあらゆる課題をあつかい，新鮮でダイナミックな視点を提供する選書 ■高度に細分化し，専門化した現代文明の各領域をつなぐかけ橋となる選書 ■写真・図版を豊富に入れて，ヴィジュアルに編集し，感覚と知性に富む読者のよき伴侶となる選書．

①現代デザイン入門
勝見 勝著 ¥1,500

②現代建築12章
カーン，ルドルフ他著／山本学治訳編 ¥980

③都市とデザイン
栗田 勇著 ¥980

④江戸と江戸城
内藤 昌著 ¥1,500

⑤日本デザイン論
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑥ギリシア神話と壺絵
澤柳大五郎著 品切

⑦フランク・ロイド・ライト
谷川正己著 ¥1,500

⑧きもの文化史
河蝉実英著 ¥1,500

⑨素材と造形の歴史
山本学治著 ¥1,500

⑩今日の装飾芸術
ル・コルビュジエ著／前川国男訳 ¥980

⑪コミュニティとプライバシイ
シャマイエフ，アレクサンダー共著
岡田新一訳 ¥1,500

⑫新桂離宮論
実藤 昌著 ¥1,200

⑬日本の工匠
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑭現代絵画の解剖
木村重信著 品切

⑮ユルバニスム
ル・コルビュジエ著／樋口 清訳 ¥980

⑯デザインと心理学
亀山貞登著 ¥1,500

⑰私と日本建築
アントニン・レーモンド著 ¥1,500

⑱現代建築を創る人々
神代雄一郎編 ¥980

⑲芸術空間の系譜
高階秀爾著 ¥1,500

⑳日本美の特質
吉村貞司著 ¥1,500

㉑建築をめざして
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正訳 ¥1,500

㉒メガロポリス
J.ゴットマン著／木内・石水共訳 ¥1,500

㉓日本の庭園
田中正大著 ¥1,500

㉔明日の演劇空間
尾崎宏次著 品切

㉕都市形成の歴史
アーサー・コーン著／星野芳久訳 ¥1,500

㉖近代絵画
オザンファン，E.ジャンヌレ共著
吉川逸治訳 ¥980

㉗イタリアの美術
A.プラント著／中森義宗訳 品切

㉘明日の田園都市
E.ハワード著／長 素連訳 ¥1,500

㉙移動空間論
川添 登著 品切

㉚日本の近世住宅
平井 聖著 品切

㉛新しい都市交通
B.リチャーズ著／曾根・森岡共訳 ¥980

㉜人間環境の未来像
W.イーウォルド編／磯村・星野共訳 ¥980

㉝輝く都市
ル・コルビュジエ著／坂倉準三訳 ¥1,500

㉞アルヴァ・アアルト
武藤 章著 ¥1,500

㉟幻想の建築
坂崎乙郎著 ¥1,500

㊱カテドラルを建てた人々
J.ジャンペル著／飯田喜四郎訳 ¥1,500

㊲日本建築の空間
井上充夫著 ¥1,500

㊳環境開発論
浅田 孝著 ¥980

㊴都市と娯楽
加藤秀俊著 ¥980

㊵郊外都市論
H.カーヴァー著／志水英樹訳 品切

㊶都市文明の源流と系譜
藤岡謙二郎著 品切

㊷道具考
栄久庵憲司著 ¥1,500

㊸ヨーロッパの造園
岡崎文彬著 ¥1,500

㊹未来の交通
ハル・ヘルマン著／岡 寿麿訳 品切

㊺古代技術
H.ディールス著／平田 寛訳 品切

㊻キュビスムへの道
D.H.カーンワイラー著／千足伸行訳 ¥1,500

㊼近代建築再考
藤井正一郎著 ¥980

㊽古代科学
J.L.ハイベルク著／平田 寛訳 品切

㊾住宅論
篠原一男著 ¥1,500

㊿ヨーロッパの住宅建築
S.カンタクシーノ著／山下和正訳 ¥980

(51)都市の魅力
清水馨八郎・服部銓二郎共著 ¥1,500

(52)東照宮
大河内直躬著 ¥690

(53)茶匠と建築
中村昌生著 ¥1,500

(54)住居空間の人類学
石毛直道著 ¥1,500

(55)空間の生命―人間と建築
坂崎乙郎著 ¥980

(56)環境とデザイン
ゲレット・エクボ著／久保 貞訳 ¥980

(57)日本美の意匠
水尾比呂志著 ¥1,500

(58)新しい都市の人間像
イールズ，ワルトン共編
木内信蔵監訳 ¥780

(59)京の町家
島村 昇他著 ¥1,500

(60)都市問題とは何か
レイモンド・バーノン著／片桐達夫訳 ¥980

(61)住まいの原型(I)
泉 靖一編 ¥980

(62)コミュニティ計画の系譜
佐々木 宏著 ¥1,500

(63)近代建築
V.スカーリー著／長尾重武訳 ¥1,500

(64)SD海外建築情報(I)
岡田新一編 ¥980

(65)SD海外建築情報(II)
岡田新一編 ¥980

(66)天上の館
J.サマーソン著／鈴木博之訳 ¥780

(67)木の文化
小原二郎著 ¥1,500

(68)SD海外建築情報(III)
岡田新一編 ¥980

(69)地域・環境・計画
水谷穎介著 ¥980

(70)都市虚構論
池田亮二著 ¥780

(71)現代建築事典
ウォルフガング・ペーント編
浜口隆一・神代雄一郎監訳 ¥1,900

(72)ヴィラール・ド・オヌクールの画帖
藤木康雄著 ¥780

(73)タウンスケープ
T.シャープ著／長 素連・もも子共訳 ¥780

(74)現代建築の源流と動向
L.ヒルベルザイマー著／渡辺明次訳 品切

(75)部落社会の芸術家
マリアン・W.スミス編／木村重信他訳 ¥780

(76)キモノ・マインド
B.ルドフスキー著／新庄哲夫訳 ¥1,500

(77)住まいの原型(II)
吉阪隆正・他共著 ¥980

(78)実存・空間・建築
シュルツ著／加藤邦男訳 ¥1,500

(79)SD海外建築情報(IV)
岡田新一編 ¥780

(80)都市の開発と保存
上田 篤・鳴海邦碩共編 ¥980

(81)爆発するメトロポリス
W.H.ホワイト・他著／小島将志訳 ¥980

(82)アメリカの建築とアーバニズム(上)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(83)アメリカの建築とアーバニズム(下)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(84)海上都市
菊竹清訓著 品切

(85)アーバン・ゲーム
M.ケンツレン著／北原理雄訳 ¥980

(86)建築二〇〇〇
C.ジェンクス著／工藤国雄訳 ¥980

(87)日本の公園
田中正大著 ¥1,500

(88)現代芸術の冒険
オト・ピハリ＝メリン著
坂崎乙郎・宝木範義共訳 ¥980

(89)江戸建築と本途帳
西 和夫著 ¥980

(90)大きな都市小さな部屋
渡辺武信著 ¥980

(91)イギリス建築の新傾向
R.ランダウ著／鈴木博之訳 ¥980

(92)SD海外建築情報(V)
岡田新一編 ¥980

(93)IDの世界
豊口 協著 ¥980

(94)交通圏の発見
有末武夫著 ¥980

(95)建築とは何か
B.タウト著／篠田英雄訳 ¥1,500

(96)続住宅論
篠原一男著 ¥1,200

(97)建築の現在
長谷川 堯著 ¥980

(98)都市の景観
G.カレン著／北原理雄訳 ¥1,500

(99)SD海外建築情報(VI)
岡田新一編 ¥980

(100)都市空間と建築
U.コンラーツ著／伊藤哲夫訳 ¥1,500

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

⑱「作庭記」からみた造園

飛田範夫著

四六判 216頁 ¥1,500

本書は、日本庭園史の一分野から造園全体をみようとした試みである。平安時代の庭園技法を集大成した「作庭記」を基礎に、多様化する現代造園を把え直している。

---

⑩1 環境ゲーム
T.クロスビィ著/松平 誠訳 ¥980

⑩2 アテネ憲章
ル・コルビュジエ著/吉阪隆正編訳 ¥1,500

⑩3 プライド・オブ・プレイス
シヴィック・トラスト著
井手久登・正子共訳 ¥980

⑩4 構造と空間の感覚
F.ウィルソン著/山本・稲葉共訳 ¥1,500

⑩5 現代民家と住環境体
大野勝彦著 ¥980

⑩6 光の死
H.ゼーデルマイヤ著/森 洋子訳 ¥980

⑩7 アメリカ建築の新方向
R.スターン著/鈴木 一訳 ¥980

⑩8 近代都市計画の起源
L.ベネヴォロ著/横山 正訳 ¥980

⑩9 中国の住宅
劉敦楨著/田中 淡・沢谷昭次共訳 ¥980

⑪0 現代のコートハウス
D.マッキントッシュ著/北原理雄訳 ¥980

⑪1 モデュロールI
ル・コルビュジェ著/吉阪隆正訳 ¥1,500

⑪2 モデュロールII
ル・コルビュジエ著/吉阪隆生訳 ¥1,200

⑪3 建築の史的原型を探る
B.ゼーヴィ著/鈴木義治訳 ¥980

⑪4 西欧の芸術1 ロマネスク(上)
H.フォション著/神沢栄三・他訳 ¥1,500

⑪5 西欧の芸術1 ロマネスク(下)
H.フォション著/神沢栄三・他訳 ¥1,200

⑪6 西欧の芸術2 ゴシック(上)
H.フォション著/神沢栄三・他訳 ¥1,500

⑪7 西欧の芸術2 ゴシック(下)
H.フォション著/神沢栄三・他訳 ¥1,200

⑪8 アメリカ大都市の死と生
J.ジェコブス著/黒川紀章訳 ¥1,500

⑪9 遊び場の計画
R.ダットナー著/神谷五男・他共訳 ¥1,500

⑫0 人間の家
ル・コルビュジエ他著/西沢信弥訳 ¥1,200

⑫1 街路の意味
竹山 実著 ¥1,500

⑫2 パルテノンの建築家たち
R.カーペンター著/松島道也訳 ¥980

⑫3 ライトと日本
谷川正己著 ¥980

⑫4 空間としての建築(上)
ブルーノ・ゼーヴィ著/栗田 勇訳 ¥1,500

⑫5 空間としての建築(下)
ブルーノ・ゼーヴィ著/栗田 勇訳 ¥980

⑫6 かいわい〔日本の都心空間〕
村野博司著 ¥1,500

⑫7 歩行者革命
ブライネス, ディーン共著
岡 並木監訳 ¥980

⑫8 オレゴン大学の実験
C.アレグザンダー著/宮本雅明訳 ¥980

⑫9 都市は「ふるさと」か
ローマイス著/武 基雄・他共訳 ¥980

⑬0 建築空間「尺度について」
P.ブドン著/中村貴志訳 ¥980

⑬1 アメリカ住宅論
V.スカーリーJr.著/長尾重武訳 ¥980

⑬2 タリアセンへの道
谷川正己著 ¥980

⑬3 建築 vs. ハウジング
M.ポーリー著/山下和正訳 ¥980

⑬4 思想としての建築
栗田 勇著 ¥980

⑬5 人間のための都市
P.ペータース著/河合正一訳 ¥980

⑬6 都市憲章
磯村英一著 ¥980

⑬7 巨匠たちの時代
R.P.バンハム著/山下 泉訳 ¥980

⑬8 三つの人間機構
ル・コルビュジエ著/山口知之訳 ¥980

⑬9 インターナショナル・スタイル
ヒッチコック・他著/武澤秀一訳 ¥980

⑭0 北欧の建築
S.E.ラスムッセン著/吉田鉄郎訳 ¥980

⑭1 続建築とは何か
ブルーノ・タウト著/篠田英雄訳 ¥980

⑭2 四つの交通路
ル・コルビュジエ著/井田安弘訳 ¥980

⑭3 ラスベガス—忘れられたシンボリズム
ヴェンチューリ他著/石井・伊藤共訳 ¥1,500

⑭4 ル・コルビュジエ
C.ジェンクス著/佐々木宏訳 ¥1,500

⑭5 デザインの認識
R.ソマー著/加藤常雄訳 ¥980

⑭6 鏡—虚構の空間—
由木常雄著 ¥980

⑭7 イタリア都市再生の論理
陣内秀信著 ¥980

⑭8 東方への旅
ル・コルビュジエ著/石井 勉・他共訳 ¥980

⑭9 建築鑑賞入門
コーディル, ケノン共著/六鹿正治訳 ¥1,500

⑮0 近代建築の失敗
P.ブレイク著/星野郁美訳 ¥1,500

⑮1 文化財と建築史
関野 克著 ¥1,200

⑮2 日本の近代建築(上)
その成立過程——稲垣栄三著 ¥1,200

⑮3 日本の近代建築(下)
その成立過程——稲垣栄三著 ¥1,200

⑮4 住宅と宮殿
ル・コルビュジエ著/井田安弘訳 ¥1,200

⑮5 イタリアの現代建築
V.グレゴッティ著/松井宏方訳 ¥1,200

⑮6 バウハウス——その建築造形理念
杉本俊多著 ¥1,500

⑮7 エスプリ・ヌーヴォー
〈近代建築名鑑〉
ル・コルビュジエ著/山口知之訳 ¥1,200

⑮8 建築について(上)
F.L.ライト著/谷川睦子・正己共訳 ¥1,200

⑮9 建築について(下)
F.L.ライト著/谷川睦子・正己共訳 ¥1,200

⑯0 建築形態のダイナミクス(上)
R.ルドルフ著/乾 正雄訳 ¥1,200

⑯1 建築形態のダイナミクス(下)
R.アルンハイム著/乾 正雄訳 ¥1,200

⑯2 見えがくれする都市
槇 文彦・他共著 ¥1,500

⑯3 街の景観
J.バーク著/長 素連・もも子共訳 ¥1,200

⑯4 環境計画論
田村 明著 ¥1,500

⑯5 アドルフ・ロース
伊藤哲夫著 ¥1,200

⑯6 空間と情緒
祖岡総一著 ¥1,200

⑯7 水空間の演出
鈴木信宏著 ¥1,500

⑯8 モラリティと建築
D.ワトキン著/榎本弘之訳 ¥1,200

⑯9 ペルシア建築
A.U.ポープ著/石井 昭訳 ¥1,500

⑰0 ブルネッレスキ
G.C.アルガン著/浅井朋子訳 ¥1,500

⑰1 装置としての都市
月尾嘉男著 ¥1,500

⑰2 建築家の発想—私の師匠たち
石井和紘著 ¥1,500

⑰3 日本の空間構造
吉村貞司著 ¥1,500

⑰4 建築の多様性と対立性
R.ヴェンチューリ著/伊藤公文訳 ¥1,500

⑰5 広場の造形
カミロ・ジッテ著/大石敏雄訳 ¥1,500

⑰6 西洋建築様式史(上)
H.バウムガルト著/杉本俊多訳 ¥1,500

⑰7 西洋建築様式史(下)
H.バウムガルト著/杉本俊多訳 ¥1,500

⑰8 木のこころ—木匠回想記—
J.ナカシマ著/神代・佐藤共訳 ¥1,500

⑰9 風土に生きる建築
若山 滋著 ¥1,500

⑱0 金沢の町家
島村 昇著 ¥1,500

⑱1 ジュゼッペ・テッラーニ
ブルーノ・ゼーヴィ編/鵜沢 隆訳 ¥1,500

⑱2 水のデザイン
D.ベーミングハウス著/鈴木信宏訳 ¥1,500

⑱3 ゴシック建築の構造
R.マーク著/飯田喜四郎訳 ¥1,500

⑱4 建築家なしの建築
B.ルドフスキー著/渡辺武信訳 ¥1,500

⑱5 プレシジョン(上)
ル・コルビュジエ著/井田・芝共訳 ¥1,500

⑱6 プレシジョン(下)
ル・コルビュジエ著/井田・芝共訳 ¥1,500

⑱7 オットー・ワーグナー
〈ウィーン世紀末から近代へ〉
ゲレーツェッガー著/伊藤・衛藤訳 ¥1,500

⑱8 環境照明のデザイン
石井幹子著 ¥1,500

⑱9 ルイス・マンフォード
木原武一著 ¥1,500

⑲0 「いえ」と「まち」—住居集合の論理
鈴木成文・他共著 ¥1,500

⑲1 アルド・ロッシ自伝
A.ロッシ著/三宅理一訳 ¥1,500

⑲2 屋外彫刻—オブジエと環境—
M.A.ロビネット著/千葉成夫訳 ¥1,500

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●図書目録呈

パタン・ランゲージ［環境設計の手引］

C.アレグザンダー他著　平田翰那訳

A5判　656頁　¥9,800

著者が前文で述べるように，パタンの多くは原型的であり，あまりにも物の本質に根ざしており，500年たっても今日と同様に，人間の本性や行動の一部であり続けるように思えるのである。

図版写真867点収録

本書を用いれば，家族とともに自分の家を設計したり，隣人とともに自分たちの町や近隣を改良することができる。さらにオフィス，作業場，公共建物などの設計や，実際に建物を施工する手引きとしても役立つ。

10年の沈黙の後，環境構造センターのクリストファー・アレグザンダーとその仲間たちは，3部作の形でその成果を発表した。それらは彼らの言葉を借りると，「建築と建設と計画に対するまったく新しい取り組み方の基本を示し，今日の考え方や実践に完全にとって代ることを，私たちは願っている」というものである。その3部作とは，『The Timeless Way of Building』，『オレゴン大学の実験』，そしてこの『パタン・ランゲージ』である。

これらの本の核心となる考え方は，人びとは自宅や街路やコミュニティを自らの手で設計すべきだというものである。このような考え方は急進的(建築関係の職能に急激な変革を迫るかも知れないが，それは単に，世界の美しい場所のほとんどが建築家以外の人びとによってつくり出されたという事実から生じるのである。

もうひとつの核心は，環境を設計する際には，人びとは普通言語のようなある種の「言語」に頼っており，一貫性の生れる一種の文法を用いて，デザインの無限の多様性を分化し，伝達することができるのである。

本書に示すのは，このような言語である。本書を用いれば，あらゆる建物や建設環境の設計が可能になるのである。

このランゲージの基本単位である「パタン」は，デザインのあらゆる問題に対する解答を示している。(窓台の高さはいくらにすればよいか。建物は何階建にすべきか。近隣内のどれだけの土地を草や木に提供すればよいか。)このパタン・ランゲージには，250以上のパタンがあり，各パタンは問題提起，イラスト付きの問題の検討，そして解答の3部分から構成されている。



広大な駐車場は，人間の土地を台無しにする。駐車場の規模は，5から7台以下にすること。それぞれを庭囲い，生垣，柵，斜面，樹木などで囲い，外部から車が見えないようにすること。これらを30m以上の間隔で分散させること。［パタン103　小さな駐車場］より

ストリート・ファニチュア

屋外環境エレメントの考え方と設計指針

西沢　健著　A5・240頁　¥2,900

都市街路や広場・公園の設備に関する資料が皆無に等しい中で，我が国で初めて全容が紹介された実務に役立つガイドブック。内容は極めて分り易く，デザイン・分類・設計指針，配置と実例に及んでいる。

環境の空間的イメージ

イメージマップと空間認識

ダウンズ，ステア共編　吉武泰水監訳　A5・450頁　¥9,300

都市計画へのデザイン手法の導入は，われわれの生活環境の質と位置とを考える上で重要である。イメージマップは，その空間認識において，有益なデザイン効果につながる新素材であろう。

人間のための街路

B.ルドフスキー著　平良敬一，岡野一宇共訳　A5・344頁　¥3,200

とらわれない眼で世界に現存する街路を観察するとともに，歴史の中の街路をも想起しつつ，街路のもつ人間にとっての豊かな意味性を考え，未来の街路のモデルへの示唆を示したユニークな文明批評の書。

環境のデザイン

R.P.ドーバー著　土田　旭訳　B5・334頁　¥5,500

建築よりも大きなスケールを対象とし，都市計画よりも総合的な瑞境デザインについて，著者ドーバーのアイデアを十分に生かして体系的に考察したもので，広い視野に立った事例研究の書である。

水辺の計画と設計

吉村元男・芝原幸夫共著　A5・240頁　¥2,900

河川・湖沼・港湾や海岸線など，水辺や親水性の空間に関するデザインやプランについて，幅広く全国各地の事例を総合的に把え紹介している。都市計画家，土木・建築関係者，造園家，自治体関係にすすめる。

新しい建築・都市環境デザインの方法

T.ムーア編　環境デザイン研究会訳　B5・444頁　¥6,900

世界各国の建築・都市計画・システム工学・心理学・社会学等，多方面の専門家の協力によりまとめられた〝人間環境の設計・計画についての新しい方法〟に関する最新の研究報告であり，かつ指針書である。

住居：その本質とプラン

A.ギュトン著　佐々木隆文訳　B5・256頁　¥5,800

エコール・デ・ボザールの定評ある講義録。I住居，II宮殿，III都市の住居（A私的な邸宅，B積層集合住宅）IV郊外住宅，V都市地域外の住居，VI住居の周囲：環境。豊富な写真，図面共4百点収録。

驚異の工匠たち

知られざる建築の博物誌

B.ルドフスキー著　渡辺武信訳　A5・436頁　¥3,800

〝みっともない人体〟に続いて読者に贈るルドフスキーの最近作。従来の建築史の視野の外にあった地方的，土着的建築物を再評価し，人類文明の多様性を積極的に肯定しようとするユニークな建築論。

人気急上昇

予約申込殺到!!

年間予約購読、郵送制

書店ではお求めになれません



月刊 ダルトンレポート

DALTON REPORT

「建設業のいま」を満載したニューリトルマガジン

8507号 目次

スポット テクノポリスのその後を追跡する

●現地ルポ●驚異の工期短縮 高浜発電所が全機運開

●ピックアップ●石川日建連、いよいよスタート！

★視点★都市の色彩計画——カラー戦略と都市化——

建設業のＥＣ化戦略2クリーンルームの受注合戦熾烈

連載 建設業の生いたち＊営業マン誕生

●わいどあんぐる●OECD—「町に活力と潤いを」／10年ぶり、広くなる「居住水準」

●霞が関ホットライン●学識経験者を集め土砂災害対策検討／下請代金支払い長期化で悪化傾向

●タウンパトロール●お化けタマゴがハマの河口に出現？／南西諸島で新種のコオロギ確認

●情報るうむ●60年度建設投資、50兆円台に伸びる／北野建設海外での工事受注拡大へ

●ハウジング●21世紀のマンション研究組合発足／西武鉄道・京王帝都 都市再開発に本腰

●地域レーダー●四国電力、伊方原発三号機建設計画まとまる／東京テレポート構想で委員会始動

●ローカルスポット●南海電鉄、熊取町の宅地開発着手

DALTON EYE／らんきんぐ／世界の街角／海外トピックス／サイエンス

GOODS & GOODS／マガジンジャック／用語／他

建設マンのための気楽に読めるユニークな建設情報誌です。

● 忙しいあなたに代って必要な情報を収集・整理してお届けします。

● これさえ読んでいれば高度情報化社会で遅れをとることはありません。

購読のお申し込みは今すぐに！
大変割安な定期購読料金です。

ただいま定期購読のお申込みを受付けています。
申込書用紙をきりとり、もれなくご記入のうえ、ハガキに全面のり付け貼付し、下記までお送りください。
※お申込みは個人名でおねがいします。

購読申込書の送り先
〒107 東京都港区赤坂6-5-13
㈱鹿島出版会 情報システム事業部
ダルトンレポート読者係 ☎03(583)6050

● 定期購読料 1年購読(12冊) 4,800円(1冊当り400円)
（送料共） 3年購読(36冊) 9,600円(1冊当り266円)

※購読料金のお支払いは、ダルトンレポート本誌に添付の郵便振替用紙でお近くの郵便局からお払込みください。

DALTON REPORT 定期購読申込書

□新規購読申込 SD

フリガナ お名前			
ご自宅 〒 ☎ 住所			
お勤め先 （職種）	該当のものに○印を	ご専門	建築 土木 機械 電気 事務 ほか
		ご担当	設計 施工 管理 営業 経理 ほか
購読期間(☑印をつけてください)		□1年	□3年

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●図書目録呈

近代建築ガイドブック

古い街に見えがくれする近代建築を見に行こう

さあ，見て歩こう！ 街は生きている博物館だ

〈全5巻〉

[関東編]

四六判 276頁 2,300円



東京建築探偵団著 顧問＝村松貞次郎＋山口廣 団員＝宍戸実＋植松光宏＋河東義之＋藤森照信＋堀勇良＋清水慶一＋高橋喜重郎

建築探偵団始末記——藤森照信

皇居一周コース／銀座・築地商店建築探訪コース／日本橋・兜町オフィス街コース／本郷・お茶の水大学街コース／上野公園コース／浅草六区映画館街コース／赤坂・麻布・六本木高級住宅街コース／三田・白金・高輪大邸宅コース／田園調布・成城コース／川巡り・橋巡り／横浜旧居留地コース／横須賀・猿島コース／関東環状別荘帯・湘南コース／関東環状別荘帯・箱根コース／関東環状別荘帯・軽井沢コース・信濃路巡遊コース／藤村式擬洋風建築コース／房総近代建築巡遊コース／駒杵勤治と茨城の建築コース／産業遺跡コースⅠ／産業遺跡コースⅡ／宇都宮・日光コース／那須野ヶ原プランテーション別荘コース／新発田・新潟・上越市コース

[北海道・東北編]

越野武＋坂田泉＝編

四六判 272頁 2,800円



北海道の近代建築——越野武

函館西部市街コース／函館東部市街・効外コース／小樽・山手コース／小樽・運河コース／札幌都心コース／札幌周辺コース／北海道開拓の村／石狩川流域コース／旭川コース／帯広・根室コース／北見・網走コース／いぶり・日高コース／追分そ～らんライン

みちのく有情——坂田泉

安積コース／会津コース／信夫・伊達路コース／仙台コース／仙北コース／岩手路コース／奥むつコース／津軽コース／米代川コース／秋田・日本海コース／雄物川コース／最上川コース／庄内コース

[関西編]

石田潤一郎＋沢田清＋柴田正巳＋中川理＋福田晴虔＋山形政昭＝共著

四六判 308頁 2,800円



はじめに——福田晴虔

船場コース／キタコース／ミナミコース／ニシコース／東天満・上町台地コース／なにわの名橋めぐりコース／堺・泉南コース／ステンショめぐりコース／三条・烏丸コース／東山コース／京都御所一周コース／七条コース／丹波・丹後コース／旧居留地・税関構内コース／山本通・北野町コース／海岸通・栄町通コース／須磨・塩屋・舞子コース／あめりか村コース／阪神間コース／産業施設と公共建築コース／滋賀コース／琵琶湖周遊ヴォーリズコース／紀州・灯台巡りコース／奈良県コース

[東海・北陸編]

飯田喜四郎＋瀬口哲夫＋竺覚暁＝編著

四六判 308頁 2,800円



東海の近代建築——瀬口哲夫

官庁・東区コース／広小路商業建築コース／熱田・港コース／八事・覚王山住宅地コース／名古屋近郊・明治村コース／岡崎・豊田コース／豊橋・渥美コース／高山・飛騨コース／岐阜コース／多治見・瀬戸コース／伊賀・北勢コース／伊勢・熊野コース／浜松・遠州コース／静岡・駿河コース／勢海・伊東別荘地コース／伊豆コース

北陸の近代建築——竺覚暁

富山市近郊コース／高岡市近郊コース／新川・黒部コース／小矢部・砺波平野コース／金沢城周辺コース／兼六公園周辺コース／犀川左岸コース／能登半島コース／加賀平野コース／福井平野コース／丹南コース／嶺南コース

[西日本編]

松葉一清＋宮本雅明＋片野博＋大森久司＋土田充義＋宮本達夫＋桑原三郎＋山口光臣＋村田明久＋阿久井喜孝＋川上秀人＋木島安史＋福原昌明＋伊藤行＋中力昭＋杉本俊多＋中川幸治＋小野木重勝＋山本忠司＋松村正恒＋四宮照義＋山本長水＝共著

四六判 280頁 2,800円



日没する国より——松葉一清

関門コース／洞海湾コース／博多天神コース／九大コース／筑豊炭鉱遺跡コース／有田・唐津コース／長崎市街地コース／南山手・東山手コース／軍艦島コース／五島教会堂建築コース／熊本コース／日豊本線コース／鹿児島コース／岡山・牛窓・和気コース／倉敷・児島・笠岡・高梁コース／津山を中心とした美作コース／広島コース／呉・江田島コース／岩国・柳井コース／山口・宇部・萩コース／山陰コース／香川コース／愛媛コース／徳島コース／高知の建築コース



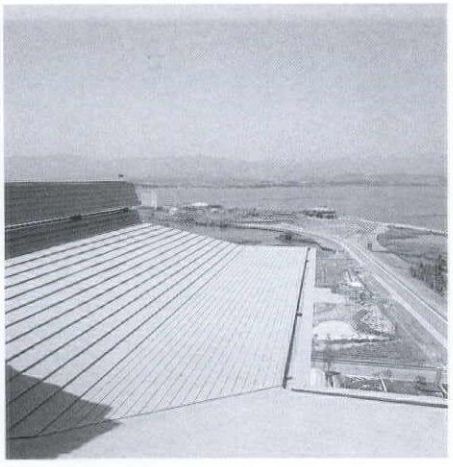
●

金属屋根葺機

華厳

●

古河電気工業株式会社



古河電気工業㈱では，今度天然緑青の主成分である塩基性炭酸銅の微粒子を，特殊な被膜処理によって銅板の上に被覆したもので，耐食性，加工性に優れ，高級感がある人工緑青銅板，華厳を新発売した．

特長

①銅の電気分解より一貫して製造した銅板に特殊な二重構造の被膜処理を行なっているため，耐食性，耐候性に優れている．

②主成分の塩基性炭酸銅と使用環境の相互作用により，年数がたつに従い徐々に天然緑青に変化する．

③特殊な前処理と熱重合タイプの特殊樹脂を使用しており，ロール成形，ベンダー曲げ，はぜ折り，絞り，はり出しなどの各種加工をしても被膜の剥離がない．

④運搬，施工に便利な標準コイル50kgと，500～2500kgの長尺コイルが品揃えされている．

仕様

標準寸法　厚さ0.30，0.35，0.40㎜
　　幅　365，455，606㎜
　　長さ　1.212㎜（板）
　　50～60kg（小コイル）
　　500～2500kg（大コイル）

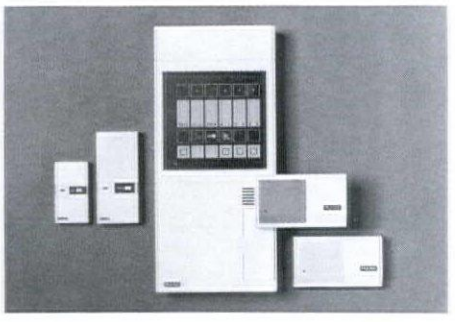
●

防犯＋防災設備

パルニックス ワイヤレス セキュリティシステム

●

竹中エンジニアリング工業株式会社



竹中エンジニアリング工業㈱では，今度従来の方式（有線式）と違い配線工事が不用なため，工事の期間やコストの低減ができる，美観をそこなわず必要なセンサーを設置できる，移設が簡単に行なえる，システムのグレードアップが簡単に行なえる，などのメリットがある本格派ワイヤレスタイプの防犯・防災システム，パルニックス　ワイヤレスセキュリティシステムを新発売した．　これはシステムの中枢である，コントローラC-201Wを中心に，人間の体温を検知して警報を発するスペース・センサー（ワイヤレス型）PA-9500シリーズ，持ちはこびに便利なハンディタイプの押ボタン送信機TX-1，従来の有線式センサーを接続することによってワイヤレス・センサーにグレードアップすることができるTX-2から成り立っており，本格派ワイヤレス・セキュリティシステムとして，住宅，店舗，オフィスなどに適している．

セット価格

108,900円

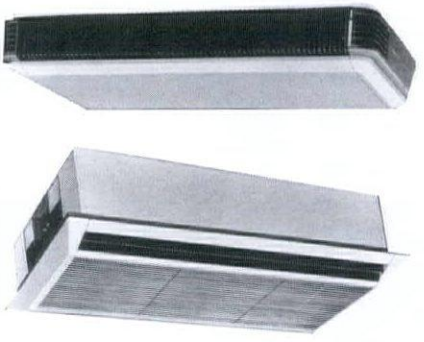
●

熱源機器

キヤリアエアコン かせっと形　うす形

●

東洋キヤリア工業株式会社



東洋キヤリア工業㈱では，今度あらゆる空調システムに対応でき，また新型マイコンリモコンの採用により，省エネルギー，省工事，サービス性が向上したエアコン，40QT（天井埋込カセット）と40CQ（天吊薄形）を新発売した．

天井埋込カセット特長

①埋込リモコンの採用により1個のリモコンで最大16台まで運転操作ができる．

②リモコンコードの延長は，市販のコード（0.75㎟以上×3本）で500mまで使える．

③遠方・手元切換え操作の対応が可能である．

天吊薄形特長

①外観がさらに薄く，シャープになり，またオートターンルーバモーターが標準装備されている．

②フィルター取出しワンタッチの下面吸込方式，吊りボルトが見えない新据付方式が採用されている．

③別売の埋込リモコンを利用して集中制御もできる．

価格

天井埋込カセット　730,000円～990,000円（3機種）
天吊薄形　550,000円～920,000円（4機種）

古河電気工業株式会社　広報課
東京都千代田区丸の内2丁目6番1号
〒100　Tel　03—286—3050

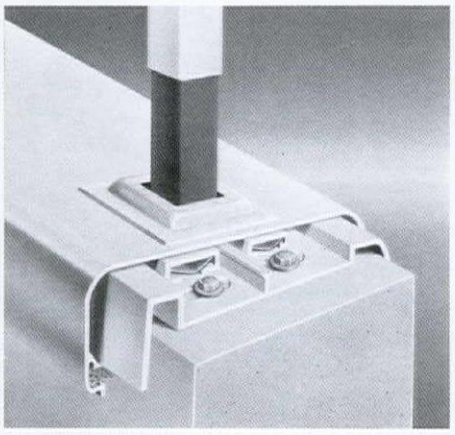
竹中エンジニアリング工業株式会社
京都市山科区北花山大林町60番1号
〒607　Tel　075—594—7211（代）

東洋キヤリア工業株式会社
東京都中央区日本橋本石町4丁目2番地
〒103　Tel　03—270—9411（大代）

●
手摺笠木

ハクスイ手摺笠木

●
白水興産株式会社



白水興産㈱では，今度従来の化粧用笠木だけでなく，ブラケットをガッチリ固定する工法により強度も兼備され，デザイン性と耐久性に優れた手摺笠木，ハクスイ手摺笠木を新発売した．

特長

①ブラケットの溝底部を貫通して，パラペットの上面に打込まれたボルトにより従来の製品よりも頑強である．

②手摺支柱取付け材が後付タイプで，また金具取付工事は簡単で工期が短く，手間がかからない．

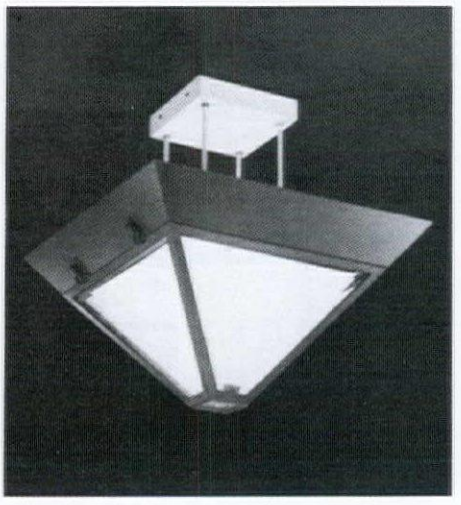
③材質はアルミ合金なので，耐候性に優れ，電蝕に対しても配慮されている．

④改装工事もめんどうな事がないので，省力化，省費化にも役立つ．

●
照明器具

サービスステーション用照明器具

●
東芝電材株式会社



東芝電材㈱では，今度給油作業に必要な明るさを確保するだけでなく，ドライバーが運転中に注目するような，デザイン，配光重視のサービスステーション用照明器具4機種を新発売した．

特長

①全方向形配光，下方向形配光，ＴＡＬ配光とそれぞれ目的に応じた器具が揃っている．

②店舗のイメージアップに役立つばかりでなく，遠くからもよく目立つデザインなので，ドライバーの誘引性に優れている．

③平板天井用器具で，グローブ付化粧枠をはずしたままで取付けができる．

④都市感覚に合う角形状を基本にしたシンプルなデザインになっている．

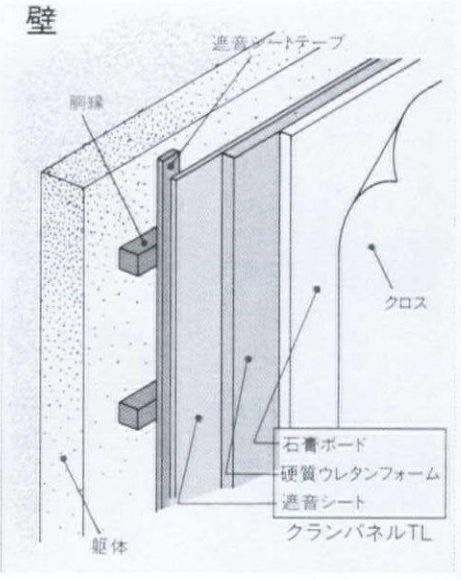
⑤全方向形配光とソフトな雰囲気をつくり出す間接光が同時に得られる．

⑥虫の入りにくい構造になっている．

●
サンドイッチ板

クラウンパネルＴＬ

●
倉敷紡績株式会社



倉敷紡績㈱では，今度住宅・建築用遮音・断熱材として，遮音シート付硬質ウレタンパネル，クラウンパネルＴＬを新発売した．

特長

①鉛繊維を配合した遮音シート（民防認定品）を配合したパネルなので，確かな遮音効果が得られる．

②硬質ウレタンフォームがサンドイッチされているので，共振現象は起きない．

③石膏ボード単位で生じるコインシデンス効果が緩和されたので，共鳴による音のつつ抜け現象を抑える事ができる．

④芯材として使われている硬質ウレタンフォームは，種々の材料の中で最も熱伝導率が低い材料である．

⑤遮音，断熱，内装下地張りの３つの工程をひとつにまとめ，工期短縮がはかれ，また現場での切断，貼り付け，釘打ちも容易にできる．

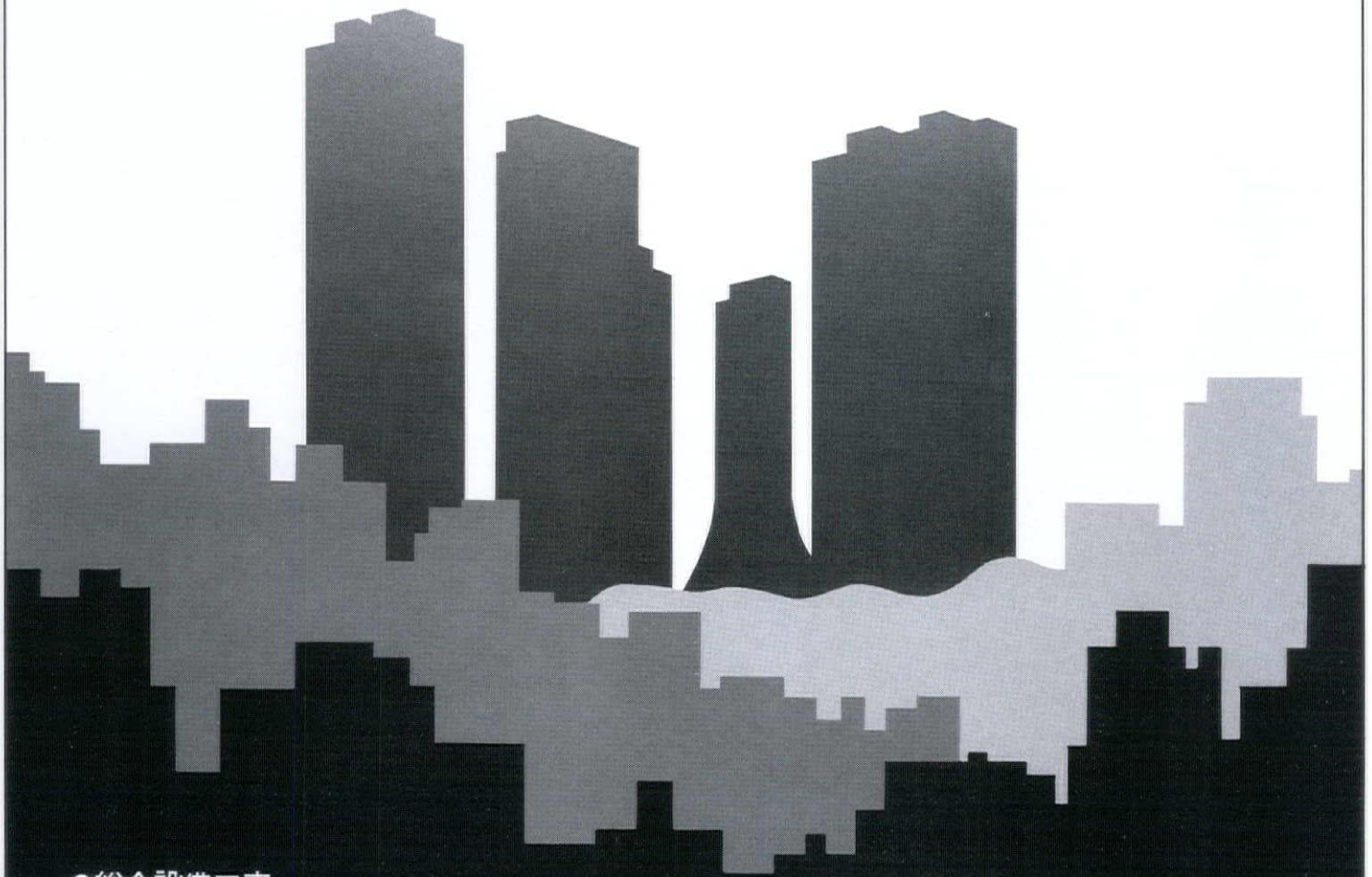
白水興産株式会社
東京都港区浜松町１丁目16番２号
〒105　Tel　03―431―9713（代）

東芝電材株式会社
東京都港区三田１丁目４番28号
〒108　Tel　03―457―6150～２

倉敷紡績株式会社　化成品営業課
東京都中央区日本橋大伝馬町１丁目７番地
〒103　Tel　03―639―7078

空気と熱と水
そして人間と

産業環境から都市環境まで



●総合設備工事
〈ビル設備 工場設備 プラント設備〉
空調・衛生・電気・防災・公害防除・諸配管

●環境整備工事
上水道・下水道・道路・舗装・宅造
その他一般土木

●建築工事

新時代の環境を創る
東横工業

本　社　横浜市西区平沼2-11-11 ☎(045)323-2531代
東京本社　千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル ☎(03)593-0671代
支　店　大阪、東北(仙台)
営業所　名古屋、静岡、千葉、埼玉、福島、岩手、栃木、福岡、宮崎、他

良心的な
電気工事

- ゆたかな経験
- すぐれた技術



大正海上火災本社ビル　設計㈱日建設計

東光電気工事株式会社

取締役会長　松本福男　　取締役社長　菅　保之

東京都千代田区西神田1－4－5　〒101　電話292－2111　大代表

C&Cオフィスシステム

たしかな技術で世界をむすぶ
NEC



高性能と経済性がうれしい「文豪5N」と「文豪5V」。
これなら、パーソナルユースから
本格的なビジネスでの利用まで、
どなたでも、気軽に文GOできます。

人気急騰。充実機能の本格ワープロ「文豪」
Let's文GO!

ここまで身近に、高性能。
人気の本格ワープロ
398,000円から。
(デスクトップ型・JIS配列キーボード)
機能アップで
さらに便利

●B4用紙への印字が可能。音の静かな熱転写プリンタ。
●演算、グラフ作成、データのソート・セレクト機能。
●印刷時のイメージをそのまま縮小レイアウト表示。
●5インチフロッピィに最大A4判約250ページの文書を保存。
●専用デスク不要のスタンドタイプ、デスクフリー型も便利。

NEC日本語ワードプロセッサ
文豪5N

きわだつ使いやすさと、高性能。
実力派ビジネスワープロ
568,000円から。
(熱転写シリアルプリンタ付)
新登場
身近な文豪第2弾

●5インチフロッピィディスク2台を装備した使いよさ。
●B4サイズの印字ができる2種類のプリンタを用意。
●10.5ポイントと12ポイントの2種類の印字サイズが可能。
●5インチフロッピィに最大A4判約250ページの文書を保存。
●5万語の単語辞書、ユーザー登録5千語、13種類の用語別辞書。

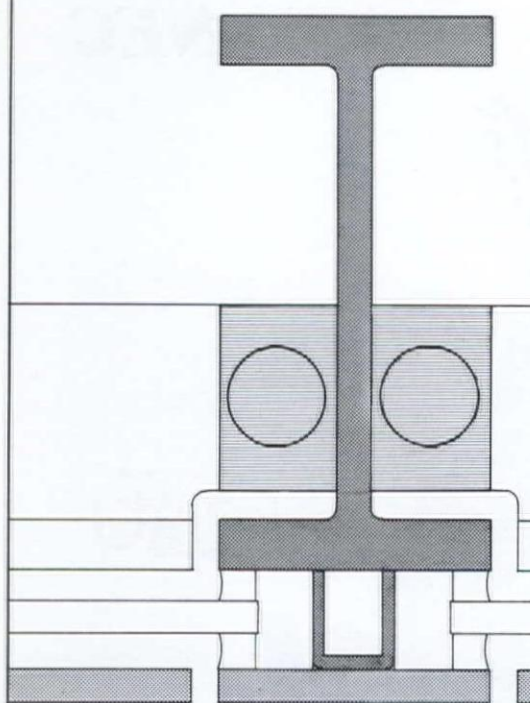


NEC日本語ワードプロセッサ
文豪5V

高橋英樹

日本電気株式会社 情報処理OAシステム事業部 TEL.(03)454-9111(大代表)
情報処理・宣伝 TEL.(03)454-1111(大代表)

文豪ファミリー　文豪5N　文豪5V　文豪15D　NWP-8N　NWP-13Nモデル2　NWP-20Nシリーズ　N6308-10　VWP-103Nモデル2　パーソナルワードプロセッサ　PWP-100



CURTAIN WALL
DOOR
SASH

TETSUYA KOGYO CO., LTD.
1-24-2 GINZA CHUO-KU TOKYO 104 JAPAN
PHONE : 03(567)8441

新工法！プレノテクト吹付工法

陸屋根防水には
奥山式 特許 絶縁工法

カッパー防水帯
コーパータイト

OKUYAMA KAKOGYO WATER・PROOF OAM

✣オクロン防水帯

特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

本　　社　東京都中央区銀座8－4－9　電話 03（571）2703
厚木出張所　厚木市金田字宮畑259　電話 0462(21)6092
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り2－3－1　電話 06（921）2497
名古屋出張所　名古屋市南区若草町3-3　電話 052(811)3660
九州出張所　佐賀県諸富町　電話 0952(47)2945

●お申込次第カタログ進呈

今日、都市環境における快適性への要望はますます切実なものとなり、法レベルの施策も積極的にすすめられている。ホーチキは、総合防災とCATVの保有技術をシステマチックに活用して、都市環境がもつ快適性＝urban amenityを息づかせるための努力を結実してきたが、それは豊かな経験（ノウハウ）・技術とともにたかく評価され、大きな期待をあつめる因となっている。

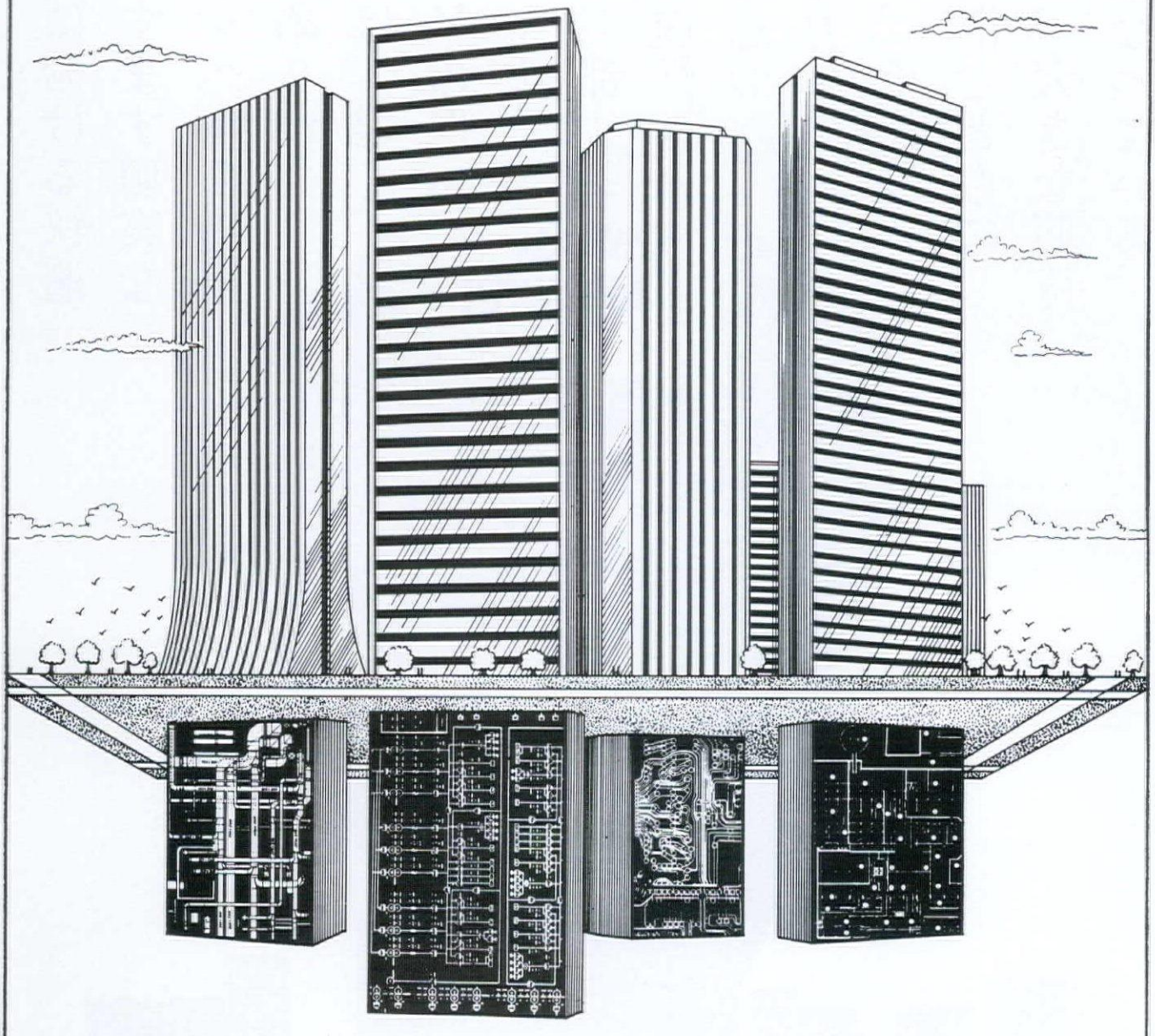


ホーチキ

ホーチキ株式会社／〒141 東京都品川区上大崎2-10-43 ☎03(444)4111(大代)／他国内37支店・支社・営業所

情報世紀を照準する……
近電工のシステムエンジニアリング

高度情報社会へと展開する都市……
新しい世紀へ　活動し制御する全機能をきびしく構成する
近電工の総合技術と総合施工体制——

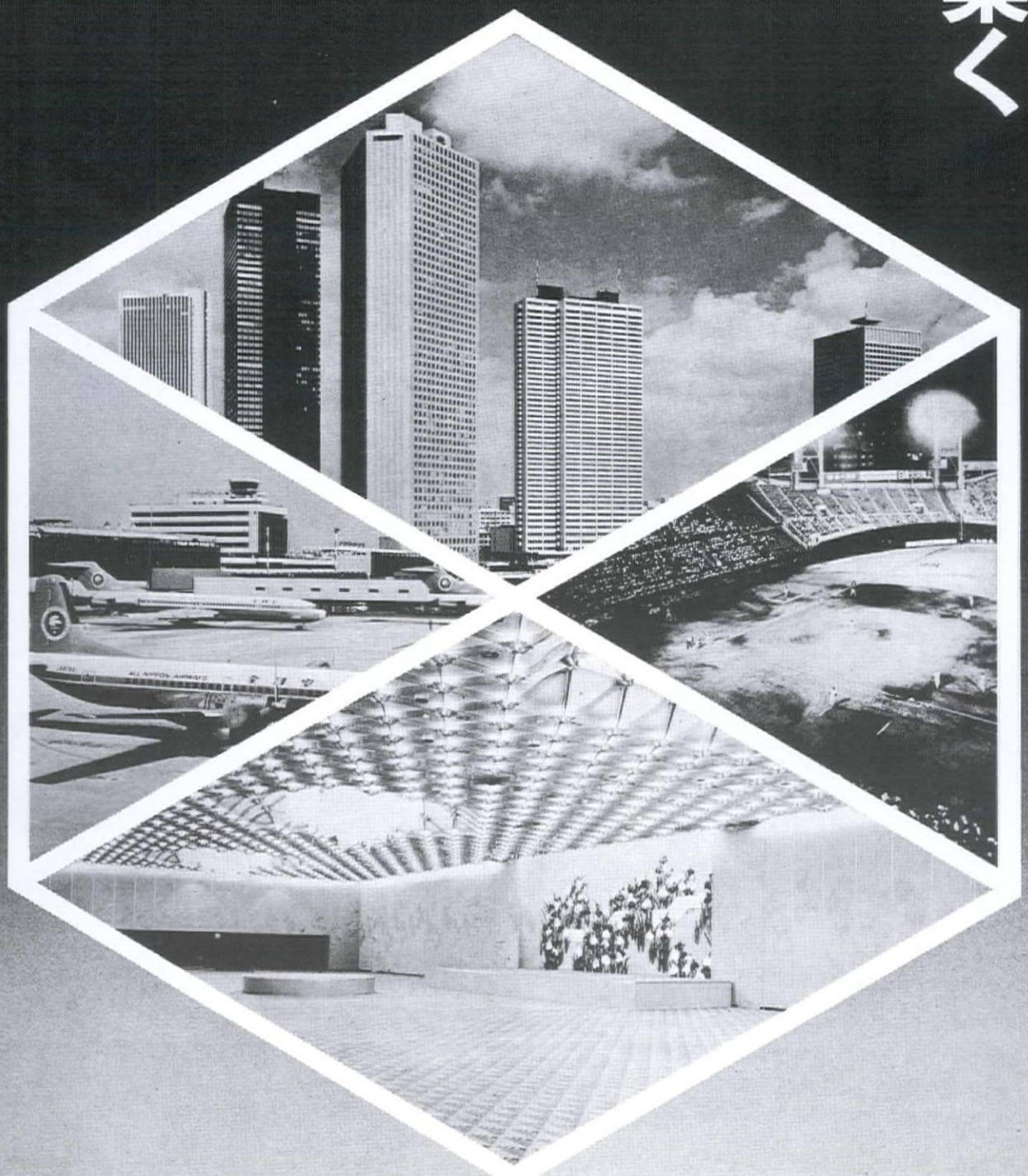


電気・計装・空調・管・防災・土木
システムの信頼を高める
近電工
近畿電氣工事株式會社
大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

豊かな生活環境を築く

重から質的な豊かさへの転換がせまられている'80年代——
人間がほんとうの人間らしさをとりもどすための環境づくりをめざして
私達は技術開発に新たな意欲をもやしております。
人間生活に真に価値ある革新をおしすすめてゆく企業
住友電設にご注文ください。

- 電気工事
  ビル電気設備／工場電気設備／防爆電気設備
- 空調・給排水衛生・特殊配管工事
- 消防施設設備工事
- 電力工事
  発変電設備／架空送配電線／地中送配電線
- プラント計装工事
- 情報システム工事
  光伝送システム／CATVシステム／各種アンテナ装置



誠実と技術でお応えする

住友電設株式会社

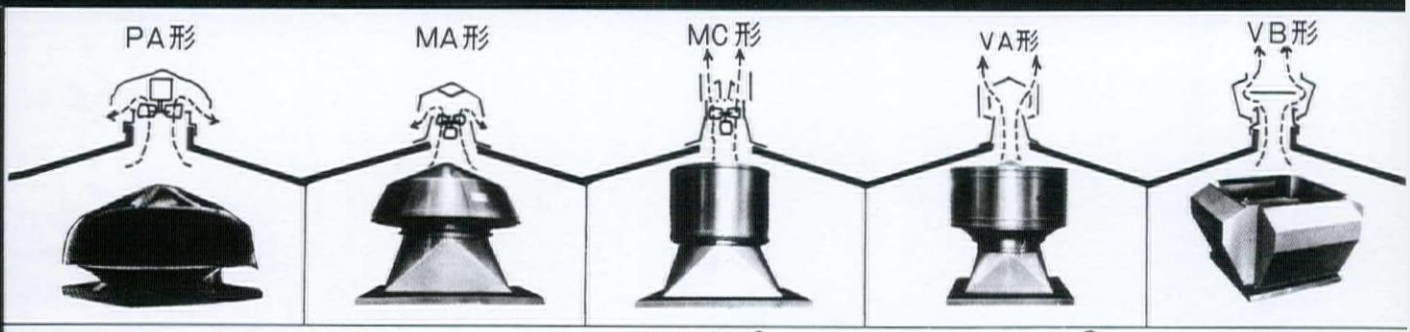
（旧太陽工藤工事株式会社）

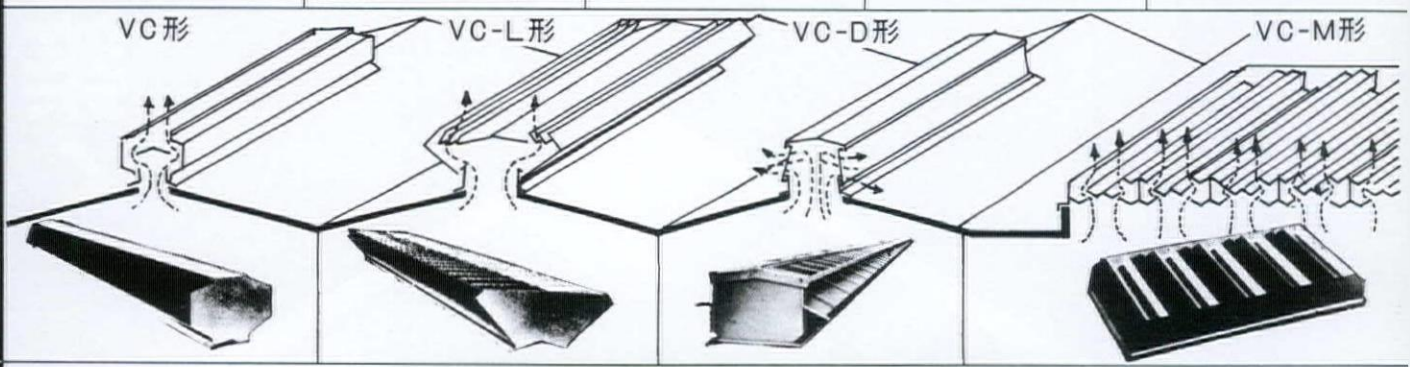
取締役社長　代谷正元
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号
☎06(452)1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2～2～17

坂本商会は創業68年 換気・排煙・採光の専門メーカーです

“自然の風”を効率よく招く坂本式ルーフベンチレータ群

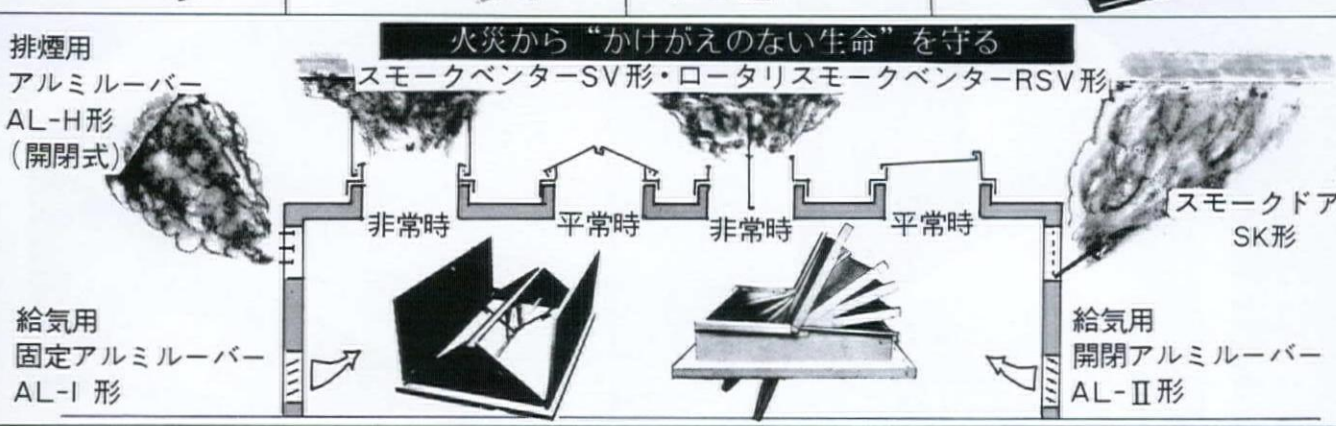
強制換気・自然換気装置





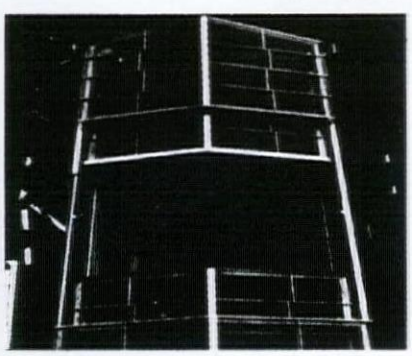
排煙・ルーバー装置

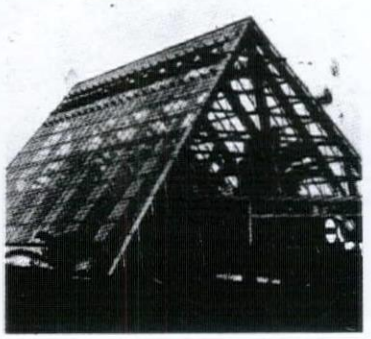
火災から“かけがえのない生命”を守る

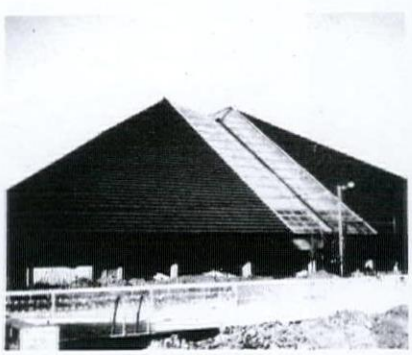


採光装置

“太陽の恩恵”を全身でウケとめる坂本式スカイライト







株式会社 坂本商会

本社	東京都中央区日本橋2－16－12(江戸ニビル)	〒103	電話 東京 (03) 271－5591(代)
松戸工場	千葉県松戸市松飛台420番地	〒270	電話 松戸 (0473) 87－6595(代)
技術研究所	千葉県松戸市松飛台217番地	〒270	電話 松戸 (0473) 87－3148
施工部	東京都墨田区東向島2丁目15番11号	〒131	電話 東京 (03) 619－2221(代)

広告目次

SD誌に広告をお申し込みの際は

下記広告代理店にご用命下さい（五十音順）

●共栄通信社

東京——東京都中央区銀座8-2-1
ニッタビル (572) 3381
FAX (572) 3590

大阪——大阪市北区西天満3-6-8
笹屋ビル (362) 6515
FAX (365) 6052

●建報社

東京——東京都文京区湯島2-30-8
(818) 1961

大阪——大阪市東区淡路町1-12
昭栄ビル (231) 4548

●新建社

東京都中央区日本橋3-5-12
守尾ビル (271) 3271

●中外広業社

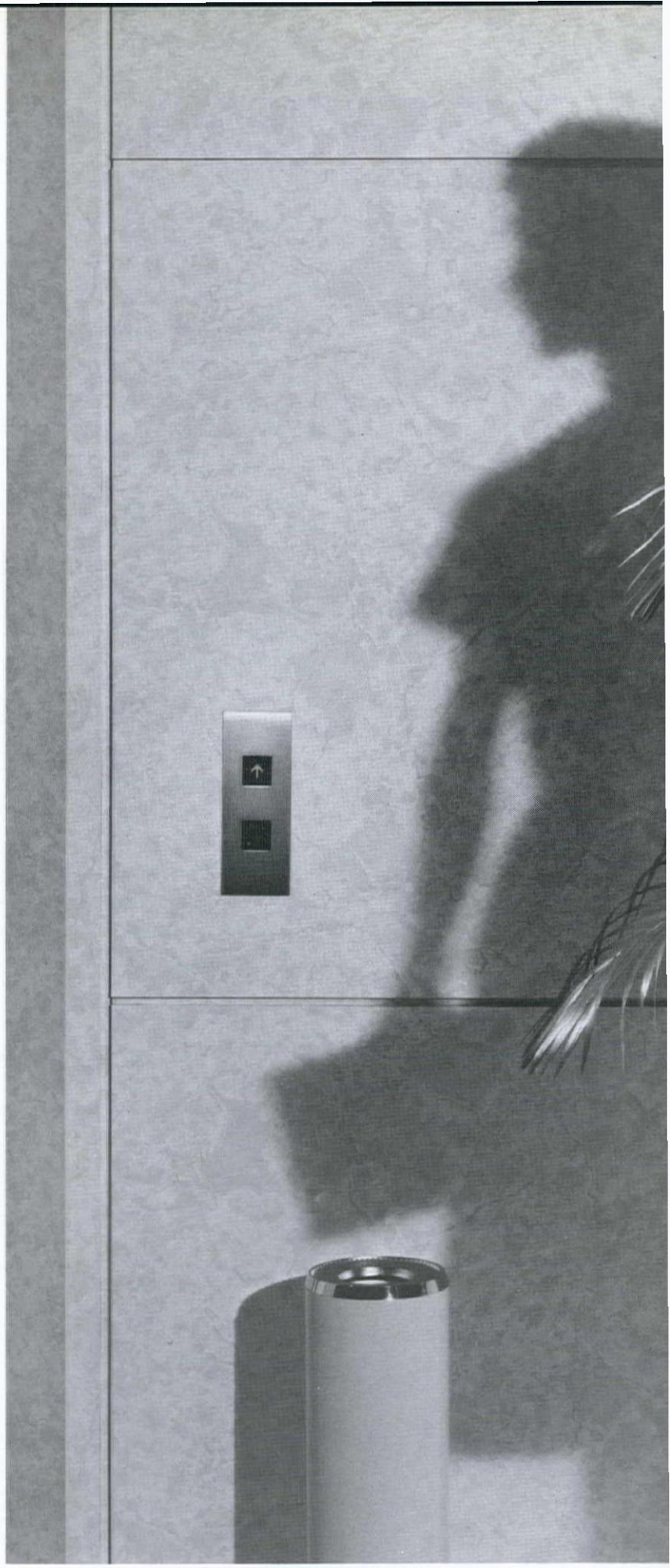
大阪——大阪市北区浪花町14-25
日本生命天六ビル (376) 1791

東京——東京都千代田区内神田1-11-1
酒井ビル (293) 0621

名古屋——名古屋市中区錦1-13-19
北辰名古屋ビル (221) 7641（代）

イ 岩城造園㈱——006
オ 奥山化工業㈱——020
大崎電気工業㈱——001
カ 軽井沢ホテル鹿島ノ森——009
㈱鎌倉製作所——003
鹿島建設㈱——004
川崎電気㈱——87
学研㈱——89
キ 近畿電気工事㈱——022
協和銀行——88
京和工芸——84
ク 空研工業㈱——91
コ 五建工業㈱——013
サ ㈱坂本商会——024
シ 新日本空調㈱——85
ス 住友電設㈱——023
タ ギャルリーためなが——表2
高砂熱学工業㈱——表3
大興物産㈱——008
㈱大気社——92
チ 中国電気工事㈱——012
テ 鉄矢工業㈱——020
ト ㈱東芝——026
東海電気工事㈱——013
東邦アート㈱——表2
東横工業㈱——017
東光電気工事㈱——018
東洋熱工業㈱——102
ナ 中立電気㈱——011
ニ 日本電気㈱——019
日本パルカー工業㈱——012
日新製鋼㈱——81
ニチアス㈱——94
ノ ㈱ノル・ジャパン——表4
ヒ ㈱日立製作所——002
フ フジテック㈱——101
ブリヂストン㈱——010
ホ ホーチキ㈱——021
ミ 三菱電機㈱——93
モ モビリア㈱——007
ヤ 矢崎総業㈱——014
リ 菱和調温工業㈱——90
ロ ロンシール工業㈱——005

TOSHIBA



「インバーター」が来た。

先端技術でなめらか走行。規格形エレベーターもインバーターの時代です。

かろやかに、なめらかに、新登場。
東芝インバーターエレベーター・セレブラムVF。
VVVFインバーターと
ベクトル制御の採用で
走行のすべてを緻密にコントロール。
かつてない、すばらしい乗り心地を実現しました。
そればかりか
省エネルギーでも飛躍的に前進。
エレベーター用電源設備容量が
従来の50%ですむうえ
消費電力も大幅に節減できます(当社ACVV方式比)。
制御マイコンの高級化
群管理情報の光ファイバー伝送など
すみずみまで東芝ならではの先端技術を駆使。
超音波ドアセーフティー、音声合成案内はじめ
オプションも多彩に用意。
充実の機能と装備で
エレベーターの新しい時代を拓きます。

東芝インバーターエレベーター(規格形)

●お問い合わせは
株式会社東芝 昇降機事業部 〒105 東京都港区芝浦1-1-1(東芝ビルディング) TEL(03)457-4619

先端技術をくらしの中に…E&E(エネルギーとエレクトロニクス)の東芝